

弘化四未年 御慰言贈帳

正月朔日

- 一 御熨斗御役所え出す
- 一 昨日出来候紅白御房は例年物に付
年々暮不申候とも拵差出候様 権太夫殿
御達 勇次郎え達す

正月二日

- 一 毛織御細工切れ四十壺巻 御文庫箔一台共
添 六時過鏡之間え寄候
- 一 御鞠之御熨斗小五 御役所え出す
- 一 御細工代御極めに相成 直之上え
出居候 御不用角牡丹え入置候
- 一 御鞠御極めに相成 上みえ出候
当年思召にて
小石川
神田橋
辰の口 五つゝ
一つ橋
右之通六日に被為進 御居台え
乗せ御役所に有之候

東唐

- 一 御筭直し方伺済 御細工所え
達済 日数十日掛出来之積
有之候
- 一 雪除筵百六十枚干方出来 文蔵より
請取角部屋へ入置候 又々文蔵へ預■
- 一 御清五葉松紅梅御鉢植
夕刻半太郎より織部殿え出す
- 一 御細工箱御詰物 御役所寄る

正月三日

- 一 御細工箱御詰物極候 権太夫殿也 後刻
明日被為進物 小膳次殿え出す

一 生花建式鉢 明日御門明き上げ 祐之
一 申聞御賄え達す
一 御まり明き箱 吹上え戻す
一 明日御庭早入之旨小膳次殿被申聞 市太郎え
一 達す
一 明日被為進 御役所え出す
一 キヤマン切子徳利■甲斐守殿断にて
一 弥右衛門殿長甫申聞 児嶋より上げ
一 同人え渡す 見本通りには無之に付相談中に候

正月四日

一 西丸御使御坊主え被下 俄に
一 純子羽織地御極め相廻候
一 水戸様御疱瘡明日御治定
一 之由小膳次殿被申聞 赤もの
一 上げ児じまえ達す

正月五日

一 赤物上り溜え出 権太夫殿え
一 申上置候
一 御居台六尺はき切不宜
一 杵村大急き呼出し遣置候
一 赤物御のし包 御賄え達置候
一 赤紙水引 児じまより上げ置候
一 たる磨の中のたる磨之事
一 水戸宰相様御疱瘡に付 明日被為進御台積
一 極る 今一度被為進可有之旨に候 勇次え
一 申付置候
一 赤大のし壺つ 又申付候
一 達磨え達磨菓子 耳つくえ耳つく菓子入
一 御菓部やにて上り 御役所にて詰候

正月六日

一 水戸様え被為進 御台積鯉節のし添出候
一 御鬮御用意反物御細工切 後刻御戻
一 可被下候 道具伴助え下け

一 御守殿御始御四方様之被為
進御鞠相廻し候

翌朝

一 知恩院宮近々御登
城奥御通り有之 直に上京
之由 右に付宜御品尤御土産も
可相成数々伺候様信濃守殿
被申聞■所之達す 且二月に相成候哉も難計由
一 不用反物御細工切れ下る 赤物角牡丹へ
入置候

正月七日

一 此間御膳番衆之出居候キヤマン
切子徳利御不用に付下り 兎じまえ
渡す
一 キヤマン切子徳利御本之通り
八右衛門殿御断 弥右衛門殿被申聞
長甫にて兎嶋之申付候
日積り御入用共御■申出候積り
一 知恩院之被為進書拔 小膳次殿之
出す 扣認め置
一 水戸様御願にて唐かけす明後日被為進候
御籠赤宜敷旨小膳次殿被申聞申
遣候処 所持無之 明日吟味之上申出候様に
達置候

正月八日

一 知恩院品少々御細工所より上る
一 内藤内蔵頭殿取扱献上物代御払
残金之内
一 金貳十兩
右去暮廿九日請取 夫々之相渡候様
今日伴助へ相渡申候
一 明日大奥御掃除早入之旨八右衛門殿
御達 源次郎之達す
一 御注文御筭三本 今日御日限之所 少々

心障有之 明後日迄御日延願左衛門
申聞 信濃守殿え申上 宜旨被申聞候

但蝶羽根之事

一 白地山入紋縮緬御地合宜敷品

為上可申様 山も紋も大形にて花やか

之品吟味可致様 信濃守殿

御達 翌朝清三郎え達 呉服師代之者／えも達す

精様え被進御用之由に候

一 御衝建菊御かな物十八真鍮金メツキに

仕直し相成候間 十一日御成跡職人本取

十八日御成跡にて打方出来候様信濃守殿

被申聞 伴助へ達す

一 明日御用籠家居台 杵村へ申付る

正月九日

一 御場掛衆より十一日上げと達有之候

平作方之替り文鳥今日早々

上げ候様 信濃守殿御達 平作方え

申遣候

一 水戸様御願唐かけす見当り不申

和のかけす一羽被為進候 御籠俄に赤く

塗立 昨夕太三郎へ達す 右御用立候

但籠家居台木地之俣

一 唐かけす猶又吟味 信濃守殿被申聞

越前屋へ達す

一 平作方より上り候

文鳥 めん 二羽

右御留めに相成候

一 水戸様え明後十二日被進赤物御台積極る

紅羽二重 二反

紅縮緬 一反 御有物出る

紅■張文こ之内 酒中花

文庫硯之内 朱墨墨敷 筆無之

双六之さい 二つ 紅奉書包

十六むさし之札 紅奉書包

一 来廿一日 御簾中様

同廿三日 峯寿院様御年始之旨小膳次殿
被申聞 御納戸／御細工所 伴助へ申遣候 十二日御覽之由
知恩院様被為進品 御細工所より又々上り
御扣所え入置候
御簾中様 峯寿院様御入己午書拔
置候

正月十日

一 桧板 厚二分半 三枚
一 同 五分角 二本
一 同 ア五分 四本

巾巻寸

*アは厚の略か

右数馬殿断 勘次郎殿被申聞 明日上げ宗蔵へ達
被為進帯地疋物真木綿五反 紅羽二重御納戸え
昨夜申遣候 今日上り候
一 筆台 多葉こ入台 後刻御申付可被成候
一 赤物御台積之内紅羽二重二反 小膳次殿
御極被成 直に反拵に御納戸え相渡申候
後刻相廻候積り 帳も遣置候
一 紅奉書二帖 児嶋へ戻す
一 帯地御多葉古入台申付る 十七日出来
一 鯉節のし一申付候
御多古入台は明夕上げ達す
一 御年始御帯地御反物上り
一 角牡丹え入置候
一 御縫帯出来 角牡丹え入置候
一 権太夫殿え申上置候 本請取済
一 御真木綿も上り 角牡丹■
一 有之候 本請取済
一 御台積紅羽二重御反拵出来
一 請取置候 本請取済
一 紅縮緬一反 信濃守殿御渡し
一 御台え積込候
一 酒中花并さい出来 両様共
一 入御覽 出下り御台え積み込候
但酒中花 中三百 小五百七十入る

さいは紅象牙 目白象牙にて入る

正月十一日

- 一 水戸様今日被為進御台積
- 一 御役所へ出す 御のしも添置候
- 一 山蚕入白紋縮 児じまも吟味
- 一 申付式疋上り 信濃守殿へ出置候 何分
- 一 御好之通御品無之 両所より申出申上置候
- 一 鼈甲御筭五本共出来
- 一 信濃守殿へ出し置候
- 一 赤御熨斗壺つ出来 仕廻置候
- 一 福嶋絹 一反分
- 一 右信濃守殿御断 左門殿被申聞
- 一 御細工所へ達置候
- 一 東御殿被為進べく御筭
- 一 又々不宜 燕のほふえ珊瑚珠
- 一 にても赤く絵書たる通りに入候様
- 一 被仰付 与三郎え達 信濃守殿也
- 一 来十六日出来之積り有之候
- 一 唐子之間御筭 御覽済
- 一 御住居三本は未御覽無之候
- 一 信濃守殿也
- 一 御衝建御かな物菊十八ヶ所本取済
- 一 御丁子風呂漏留 小膳次殿にて出来出す
- 一 紫旦御火鉢御手入 式面出来候
- 一 右衛門督様御酒湯之節被為進書拔 小膳次殿へ
- 一 出す 扣認め置
- 一 福嶋絹上り候
- 一 赤奉書■所脇引出え入置候

正月十二日

- 一 御年始口御覽物寄る
- 一 銀御簪 胴ゞ 文鎮 香箱 甲斐守殿
- 一 にて極り 寛藏え達 内左之通り
- 一 亀は絵形帳に無之候に付
- 一 亀御文鎮絵形伺可申様

繪形有之候得共御好故

一 岩に牡丹に蝶御文鎮 花を立候様にノ出来可申候

但牡丹の花の内え玉を入可申様

此式ケ条猶又繪形出し候間 甲斐守殿え

御伺可被下候

一 簪御極り之内 ふくら雀に茸に笹

繪形小くに付 例之大きに可致様

一 胴ノも繪形小くに付 同断

右何れも十七日中に出来可申様達す

一 東御殿御年始口被為進 不残御極め

右之節唐子之間も極る

縫ノ洞ノ縫直し御かな物 平蔵申付候

一 右之節御縫帶 御添帶御仕立

御真木綿も添 御役所え出す

一 枳迦掛之節帶地式筋御極めに

相成 二階有之候

一 替文鳥代金式両式分

御鳥見後 伊豆守殿円佐え渡す

一 蒼鷺のめん 一羽

右越前屋より上げ

西丸え被為進に相成候 権太夫殿也

一 小石川御年始口不残御極めに

相成候

一 水戸様来る十五日御酒湯済

被為進御極めに相成候

内御卓一つ不極吟味

一 知恩宮様え被為進御三品

之内式品御極めに相成 御太刀

御刀掛上之品吟味 信濃守殿

両所え達す 二階棚

御引出御詰物

上げ 兎しまえ達す

御極め式品二階有之候

一 神田橋

辰の口

- 一つ橋 御年始之節帯地
- 壺巻つゝも御極め 二階に有之
- 一 小石川浜御庭へ御入之節
 - 紫紋縮緬 山入山なし
 - 同縫取
- 右御地極宜方御模様こまかき御品吟味
- 信濃守殿被申聞 御納戸え達す

正月十三日

- 一 御道具御不用品 両所え下ける
- 一 白紋縮緬山蚕入御反物不残
- 一 不宜旨下り 角牡丹に有之候
- 一 十五日宰相様え被為進御置物の御卓伺 信濃守殿え出し置候
- 一 何れの卓に相成候ても元御直段之通
- 一 福嶋絹壺疋 左門殿え出す
- 一 被為進御手入に下げ
 - 十五日品 十四日上げ
 - 廿一日品 十八日上げ
 - 廿三日品 廿日上げ
- 一 右御箱類も同断 夫々え達す
- 一 御雛絵形装束地共小膳次殿え伺出す
- 一 紫反物出す 尚小模様吟味申上置候

正月十四日

- 一 岩に牡丹文鎮 亀香箱伺済 与三郎え達す
- 一 昨年御詰物御別金払之御金 昨日権太夫殿御渡し候金伴助え扨御細工所之分御立用衆え渡す
- 一 縫取
 - 紫紋縮緬 七宝にノ菊 壺疋
- 一 右計御役所え残し置 外は引候様信濃守殿被申聞 角牡丹え入置候
- 一 御雛御絵形 小膳次殿達之通直し方
- 一 左衛門え式枚共下る 装束地注文

之通り跡上達す

御雛装束地極り候分并御見合

之分 札付角牡丹に有之候 小膳次殿也

水戸様へ被為進品 御役所へ出す

御植木札 見本之通り五十枚つゝ三通り

栄之丞殿達 権太夫殿断にて文蔵え申付る

明後日上げ也

蘊鉄養此節時節宜哉 霜除八十八夜

前霜降不申候は、取払候て宜哉 栄次郎へ

承り候様八右衛門殿被申聞 問合候処 八十八夜

後霜除取払 其後養致し候方宜旨

申越 御同人へ申上る

御刀掛御詰物上り 伽羅吟味申付る

正月十五日

一 匏壺挺台取替 八右衛門殿断 熊太郎殿

被申聞明日出来 孫四郎殿え御差出し

可被成候

一 東御殿被進御筭出来直り 左左衛門より受取

御役所え出す 小膳次殿え申上候

一 松平筑前守殿瘡瘡治定之由にて

俄に赤物御台積五尺出来 直に奥え

相廻申候

一 鯉節大のし壺 御用意致候

一 来廿二日頃又々被進候由 品物上げ

小膳次殿被申聞 伴助え達

御用意台

六尺 古り板有之に付

五尺 壺

一 右十七八日之頃上げ 杵村え申遣候

於佐多之方 於美津之方老女衆六人

御筆拝領に付 右仕立左門殿え御頼に

相成候由 右に付表具地数々上げ置候様

甚左衛門殿被申聞

箱も御頼に相成候由

一 釈迦掛品用意小膳次殿被申聞 伴助え

申付候

正月十六日

一 御雛人形装束地上り 御極之分共小膳次殿え出す

一 鋸 二丁

右目立明日出候様勘次郎殿被申聞 平蔵之渡

一 十七日出来 御同人へ出す

一 ギヤマン切子徳利焼立出来 児嶋より

一 上り長甫え渡す 見本壺戻す

御住居

一 御年始口御鼈甲三本とも

御覽濟之旨信濃守殿被申聞候

一 御頼用御表具切 児嶋より上 信濃守殿え

出候所 左門殿え被相渡候 箱入之方

一 信濃守殿御達にて■一の切茶地

金入小模様天地の純子種々御細工所より

一 上げ 角牡丹に有之候 葛籠入之方

一 紫縫取縮緬 七宝に菊 壺疋 信濃守殿

御達にて御役所御引出しえ入る

一 峯寿院様浜之節被進と御札付候

一 盛姫君様御願にて御雛道具

御輿 御台共 是は御見本出壺廻り大く

御三棚

御長刀 覆御有物緋ふらた御紋付

御挟箱 同断

御簀箱 同断

御茶弁当 同断

御傘 袋不入

蒔絵御本は追て出候積り 后刻下り

一 杣左衛門え渡す

右甲斐守殿御注文之通杣左衛門え達す 見本

御輿渡し置候

一 御雛人形

住吉絹詣 内源氏着附無之に付尚伺

小膳次殿え申上る 角牡丹に有之

石橋

- 一 右装束地極り 絵形共左衛門え渡す
- 一 替り鶯をん志羽 明後十九日御門開き上げ候様
- 一 伝之助殿被申聞 越前屋え達す 上り候はゞ御鳥方にて仲殿え申上可然候 甲斐守殿え御懸合濟之由
- 一 峯寿院様御年始は廿二日之由
- 一 积迦懸御鳥伺書 越前屋差出受取置候

正月十八日

- 一 楓御庭卸門打掛かな物損修復 数馬殿
- 一 断 伝之助殿被申聞 文蔵え渡 明日出来
- 一 峯寿院様御召御縫御絵形出 御正寸
- 一 認め伺候様御注文書共 御納戸森孫三郎渡相達申候 甲斐守殿也
- 一 被進物御極めに相成候はゞ都度に御用掛衆御見分に入可申事
- 一 筑前守殿御酒湯之節
- 一 溶姫君様 加賀守殿 筑前守殿え被進被遣可有之旨甲斐守殿被申聞候 伴助え御達可被成候
- 一 橘折枝 壺
- 一 右還御前迄に磨き 小膳次殿被申聞 児嶋え為持遣候
- 一 後刻出来 八右衛門殿え申上 円齋え渡す
- 一 御雛人形源氏の着付地 又々
- 一 上げ小膳次殿御申付 信濃守殿え上り申上置候
- 一 御頼用表具切れ四つ極り 児嶋え裁切に下る 左門殿え可出候
- 一 但御不用之分不残勇次郎え戻す
- 一 御用之方表具切れ何も不宜 御細工所え戻す
- 一 赤物之口紅羽二重 緋ちりめん
- 一 上り 赤物品一所に角牡丹え入置候

正月十九日

- 一 東御殿御年始口不残揃 笹之間え御見分に出居候
- 御筭 銀物 胴へ縫共来
- 御覽無之
- 一 銀物は今日甲斐守殿え御差出し可被成候
- 一 縫胴へは信濃守殿え申上置候
- 一 廿二日御年始御入之義 新六え達す 宗蔵え
- 御添帯共
- 一 御縫帯御見分済 御仕立之義
- 御申上可被成候 真木綿 綿共御役所に
- 有之候 尤権太夫殿御承知に有之候
- 一 院様帯地御拵方之義如何哉之事
- 一 御年始帯地 たはこ入台扣共上り
- 一 角牡丹階子下入置候
- 一 智恩院宮様御太刀掛御詰物
- 一 上り 角牡丹え入置候 伊豆守殿え申上置候
- 一 蔦之間南天之網 御庭方より
- 一 受取 八右衛門殿にて御預 二階棚に差置候
- 一 雛源氏着附地其外御極めに相成居候分共 信濃守殿にて御役所え出居候
- 一 替鶯越前屋より出 仲殿え
- 一 御鳥方を以差出候処 御用に相成候旨権太夫殿被申聞候
- 一 銀物御絵形共 甲斐守殿え出す
- 一 廿一日品 御用掛衆御見分済 信州也
- 一 盛姫君様御願御雛道具木形出来
- 一 甲斐守殿え出す 御見本御輿共出す 日数廿五日にて出来
- 一 峯寿院様御召御縫御正寸紙形出 甲州え出す

但奥より出候御絵形 先つ此方え留置候様被申聞候

御沙汰有之候は、御差出可被成候

一 廿一日御帶式つ 御簞笥二番目御引出しえ
入置候

一 前条御雛道具木形通にて宜敷 甲州
被申聞 與三郎え達す

一 峯寿院様御召御模様柄御注文有之
翌朝主馬御達す 尚又明後廿一日
認出候様達す

一 御極品見分之事 甲斐守殿被申聞候

正月廿日

一 御楽御蓑入台積込之銀物 御覽濟
縫胴へ後刻御申上可被成候

一 此間平作より上り御用立候替り文鳥
式羽之代式両式分 甲斐守殿御達申送

一 御東御筭之箱 御細工掛衆にて出来
長 壹尺六分

外法

巾 三寸七分

右乗候台壹枚 後刻出来出候様枚邑え
申遣候 勘左衛門殿より承る

一 明日御饒り付 御地植 御鉢植 小間物硝子
麦藁細工 入御聴候旨甲斐守殿被申聞候

麦藁細工 能き品に無之共沢山出候様
右大将様御用に相成候由

一 明日被為進物不殘御役所え出す
精姫君様御反 御文こ箔三入 上千代包

孔雀

一 孔雀上千代紙 式枚外には
無之 大不出来に候

孔雀牡丹 五十枚

桜 つゝ

右之通御細工所え申付置候
信濃守殿也

但大急ぎ内上げ申付置候

明後廿二日正御門明孔雀之方四枚上げ畏り

- 一 大御居台 五枚はき切れ
手入し下け出来候
- 一 四尺御居台御用意 壺枚
出来候
- 一 御筭御居台出来 孫四郎殿え
御渡申置候 御同人より御箱と一所に
御差出し候積りに成る
- 一 御餉付御用赤毛氈拾枚
- 一 御召方より請取 文蔵え渡す
- 一 御対面所御泉水土橋之
脇に水より杭式三本出居候間
此後御庭入之節抜き取り候様
信濃守殿被申聞 金七郎え達す
子々救候泥之俣大寸切一杯つゝ
六半時出候様信濃守殿被申聞候
仲殿にて御鳥方え渡し候様被申聞
御賄子々方清三え達置候
但毎朝也
- 一 田螺十つゝ 毎朝六時御鳥方より
白鴛御用にて為出可申様伊豆守殿
御達 清三え談 御賄え達置候
- 一 棹かき鉄式本 坪計六つ 折釘
七本 赤太白糸五尺 信濃守殿断
鐸五郎殿え出す
- 一 頼用之方表具切裁切 児嶋より
上り左門殿え出す 引方致候直段書も
信濃守殿一覽之上左門殿え出す
- 一 右同断軸見本 直段書添御同人え
出置候
- 一 御用之方児嶋より上り候内にて

茶地 巾にて 壺尺

金鑷

玉模様 半巾にて壺尺七寸

右信濃守殿断 左門殿え出す

奥村様

一 御申送り之真鍮鋌千五十本 八右衛門殿之出す

一 差渡し五六分位之鉄槌壺本 長さ

一 六寸位之釘貫式本 信濃守殿断

一 孫四郎殿にて明後日上げ 文蔵之達す

金糸

一 縞天御帯地一筋御下げ 藤手綱

色取

一 燕之御縫被仰付候旨権太夫殿

一 渡し 明朝呉服師呼出し達す

翌朝御納戸之渡す

一 廿三日宝地院始上り候に付

一 萌黄色

紋縮緬数々

一 そら色

一 右早々上げ伺候様権太夫殿被申

一 聞 御納戸之達置候 上り次第

一 御伺可被成候

一 明後廿二日小石川御年始之節

一 被為進不残御箱共揃御銘書

一 出来 御葉札も出来 角牡丹に有之候

一 但御文庫は雲鶴と被

一 仰付候間 御包致し候様信濃守殿

一 被申聞候 御心得可被成候

一 右明朝御用掛衆御見分笹之間

一 出し候様 是又被申聞候

一 赤物今日御覧無之

一 角牡丹之入置候

一 象牙壺切れ 権太夫殿にて伴助之

一 下る

一 蠅頭砂利四斗樽に壺杯 信濃守殿

一 断 勇五郎殿にて平内之申付 今日中

一 上げ置候積りに候

一 正月廿一日

一 田安御簾中様

一 鏝姫君様

千恵姫様 え

鼈甲御筭

壺本つゝ

貞寿院え 御文庫之内

銀させる

二本

銀紙挟

壺

浜之節 於さたの方

於みつの方

銀鎖の胴ゞ

壺つゝ

右信濃守殿絵形御渡 左左衛門え達

鏡付に相成候珍ら敷切地伺候様信州

被申聞 両所へ達

松栄院様 末姫君様え御年始被為進

品 廿三日御覽 先例書拔置

貞寿院 鏝姫 千恵様被進物書拔置

明日被為進物 御用掛衆見分濟 小膳二殿

御細工所道具上げ候様達す

御鉢植七つ八半時過下り 植木や人足にて西丸へ

廻す 西丸被進品追々下り廻す

大黒煎餅並種 百枚に付十五匁之処

損毛に付 以来廿三匁之積りに願書出

右之通弘申候

赤物御台積夜に入御覽 極る

御饅付之内雀御手拭懸ゝつ御用に成候由

赤物又々上げ置候様小膳次殿被申聞

松之模様除き

萌黄／空色 紋ちり緋上り候段 小膳次殿え御達申候

御役所え翌朝寄る

正月廿二日

右大將様え昨日被為進候御机引出しに札有之

御沙汰有之候段 甲斐守殿被申聞候

御縫腰帯絵形 伴助差出甲斐守殿え

出す 伴助方より緋紋ちりめん式反出

御納戸の方と一所に致し置候

峯寿院様え浜之節被為進

御召 紫縫取七宝菊

御縫波船くづ家松さくら

右伺済 小笠原太郎左衛門へ渡達す

餌合子式つ 小膳次殿御渡 袋■減直し

伴助へ渡 明日仕様申上候積り

盛姫君様え大黒煎餅被為進 式尺五寸

式百三十出来 小膳次殿え出す

鷓目四つ 萌黄真田壺巻 勘次郎殿

出す 真田下り候は、御申送可被下候

孔雀牡丹上千代昏四枚上り 小膳次殿え

申上仕舞置候

萌黄紋ちりめん

花葵蝶 壺疋 極り一反つゝに截切

菊牡丹鞆 壺反 右に似寄吟味色合地合等

右小膳次殿被申聞御品 三輪へ引渡 後刻

迄吟味申付る 不用之分角牡丹え先御入置

今日被為進御のし共不残出す

赤物御台積出す

御紋付縫取 紫縮緬 御素縫

出来日限

二月五日

右書面 宮重作十郎より受取

御頼用杵原紙八帖下り 摺継

長谷川え申付候 左門殿え可出候

翌朝上り出す

宰相様御願に付

峯寿院様え俄に左之通り被進候

斑入駿河蘭 壺鉢

同 松葉蘭 壺鉢

右は彦兵衛より上り候

御三方御筭御絵形 信濃守殿にて

極り 與三郎え達す 赤き所朱漆

にて候

萌黄紋縮緬跡上げ御免願 作十郎

申聞 権太夫殿え申上下り居候 壺疋半

御同人え出す 角牡丹より紫紋縮緬

白同断 御役所え寄る

翌朝角牡丹え入る

一 御雛鶴の台掛地上る

昨日

一 御饅付之内福寿草一鉢 御用に被成旨
権太夫殿被申聞候

正月廿三日

一 鏡付御切色々上り 両所より

御役所え出 信濃守殿申上置候

一 昨日御用御地植之分 六十三人

持人にて御守殿え相廻り候

一 縞天御縫帯御絵形 権太夫殿
出し置候

一 中孫半土十 小孫半土式十 栄之丞殿え出す

一 萌黄紋縮緬相止 左之通に極る

紫紋縮緬 藤に蝶 壱疋

竹に菊／梅花 壱疋

右反に御拵出来 権太夫殿え出す

一 神田橋え御極之帯地壱巻 御役所え

権太夫殿にて寄る

一 神田橋霞ヶ関御年始口御蓑入共極る

田安御簾中様御年始口も極る 御蓑入も極る

一位様御蓑盆為研出し 芦毛無之事

鷹蒔絵御見合有之

貞寿院 鏝姫 千恵姫御蓑盆一つ極る 右

御極 好之品吟味 両所え達す 紙台も御用意に

壱つ御見合 不残杓村本取置候

安芸守え被遣文具饅下折切れ之事

一 紅羽二重之事

一 桧板壱枚 勘治郎殿注文之通り文蔵へ

達す 明日出来候は、御差出し可被成候

一 鏡付之裏地に相成候間 どふさ引絹地 御絵番

掛合出し候様甲斐守殿被申聞 桂節より御横物

請取出す

一 先日申付候鷺羽拾式枚 手入出来上り候間

明日豆州え御差出し可被成候

- 一 御納戸呉服師引払候節は 日々此方御用
有無承り候上にて引払候様 庚三郎之談
- 一 御不用反物類戻す 白紋ちりめん御伺
可被成候

一 御酒湯之節被為進品三引板 角牡丹之入
池上様

- 一 精姫君様御帯縫 東條にて極る
- 一 懐中鏡付之家地二切 一尺五百め ■／二匁六分 ■
- 一 奥え廻る 御不用下る
- 一 昨日申付候縫腰帶壱筋に付
縫手間 八両式歩式朱つゝ
二月十五日出来之旨伴助申出 甲斐守殿之
申上置候
- 一 こま々々組重御用立候

正月廿四日

- 一 鏡付裏地に相成候小切れ
山入紋ちりめん
ぬめ 赤／緋色 紋有杯
右品々上げ甲斐守殿被申聞 児嶋之申遣候
- 一 こま々々組重 奥え廻る
- 一 来月二日霞ヶ関御年始之旨
権太夫殿被申聞候
- 一 田安御年始は三月之由に候

神田橋 霞ヶ関

- 一 文具罨之外御極め御道具御手入に
下ける 出来之上御見分に出候積り
権太夫殿之申上置候
- 一 田安御たはこ盆 猶吟味申付置候
御極め之品二階に有之候
- 一 鏡付裏地 今日見当り不申
猶吟味申付置候
- 一 こま々々物組重下る 昨夜御極め之分之内
御引替に相成候

正月廿五日

- 一 六寸重菊蒔絵黒塗地 信濃守殿
- 御断済 備中守殿にて御見合に相成
- 居候 御用に候はゞ御膳番衆より御払金
- 出候積り
- 一 白山蚕入紋縮緬 其節之貲反物
- 類 御納戸え戻す
- 一 御役所に居台仕継候様甲斐守殿被申聞 七十
- 壹枚杓邑え申付る
- 一 石橋壹畳台掛之縁地三卷 御役所え
- 出す 小膳次殿承知
- 一 筑前守殿酒湯は来四日之由 被為進物
- 一 朔日二日之内伺候様被仰付旨甲斐守殿達
- 鏡付之裏地極る 紅紋綸子 鯨ノ巾にて壹尺
- 奥え廻る 甲斐守殿

正月廿六日

- 一 浜之節被下
- 銀鎖の胴ノ 桜繫 壹
- 五月口
- すきや橋 御印 壹反
- 右御用止 御納戸御細工所え達
- 一 御庭方過金 昨日小膳次殿御渡 支配え御渡可被下候
- 一 昨朝備中守殿にて御見合に相成居候
- 六寸重御不用に付 虎之助え戻す
- 御同寸位にて堅地に有之候を吟味
- 上げ可申様長甫申聞 同人え達す 尤
- 蒔絵は軽く候方よろしく 御入用も
- 格別張不申品宜旨達す
- 一 両刃小鋸壹挺 目立直し鉄槌柄付かへ
- 権太夫殿断 孫四郎殿にて宗藏達す
- 後刻出来出す
- 一 知恩院宮本月十五日出立に付
- 其以前奥御通り被仰進候間 被
- 進物御箱等も其心得にて出来可申様
- 伊豆守殿被申聞候
- 一 御極めに相成候御棚引出し御詰物

御覽有之 左之通り

御老ト引出し

御伽羅 極り 浅き御服紗に包／御引出しえ入れ候様

御引出し一杯に朱にて筋引

御老ト引出し 可伺様申付下る

御多葉粉入之積り 切地早々上げ／伺可申候

上より下る

御させる 老対 紫檀御らう葵蒔也

晦日迄に出来と申付る 式本共絵形之通左左え達

御硯引出し入 粉溜の筆 小刀 錐

勇次郎え上げ達す

いまた御式タ引出し不極

本国織か何そ式タ引出し共

御切地に相成候旨に付 両所え上げ達す

右之外御極之分御見合帳え記す

一 御太刀掛御老腰掛けを猶又吟味候様

両所え達す 上り居候分は何れも不宜候

一 御極之内鶏冠石御根付 紐直し

之義申上候様伊豆守殿にて勇次郎え
申付置候

正月廿七日

一 知恩院被進御伽羅朱引致し上り

信濃守殿え出し候処 挽為致候様被申

聞 児嶋え下る

一 御細工所より御切れ地上り角牡丹に有之

後刻御太刀掛之否とも御当番え

御申上可被下候

メノウ

一 桃花籠置物 御籠銀打替

卓黒塗 七宝鶴研出し

右御極め

精姫君様え被為進 夫より

知恩院宮様之被為進 翌朝箱本

取済 手入不下け■日申上げ

御有物朱塗御太刀掛 甲斐守殿

被渡 翌朝本取済 手入下ず

但御紋厚貝之所 黒柿にも可相直

伺候所 厚貝入御道具御所持之由

大奥より甲州え御懸合有之 其俣にて

宜旨被申聞候

御詰物之内え葺入 きせる筒三通り

御極め 銀御かな物裏地共伺済

奥より御本出 尚紙形にて伺済 御仕立

こしまへ申付る

餌合子式つ 小膳次殿御渡 袋御切れ

浅き／茶 御下け式つ出来候様被申聞 伴助へ渡

知恩院へ俄に晦日御有物御道具可被

為進御品下り候も難計 御箱心掛置

候様甲斐守殿被申聞候 翌朝幸蔵え達

知恩院口広敷登城之節 三の口内え

御庭方にて御植木段御取建為致 御鉢植は

御錠口より相廻候様甲斐守殿被申聞 翌朝

金七郎え達す

但御慰に相成候様之御鉢植飭付出候様

鉢杯も宜品九十匁揃にて可然旨

被申聞候

御紙入式つ御極 銀御かな物申付候

こじま也

七三日細工御手拭挟五つ 象牙二／紫旦三 右

式包に御帛紗包に致候様御詰物替

明日御用掛衆御見分後 睨と御書

直可被下候

正月廿八日

知恩院品不残笹の間え並べ 甲州え

申上置候

西丸より御鉢植七つ相廻り 十畳外御屏風付

有之候

- 一 知恩院被為進御重上げ候様弥右衛門殿被申聞 児嶋え達す 上げ次第御膳番衆え御差出し可被成候 甲州え御断濟
- 但此已前八寸五分に巾八寸之由凡右大きにて
- 一 来月二日 霞ヶ関御年始御延ひ
- 一 巾耆寸長二重廻り花色木綿紐
- 一 四筋 明日四時迄出来 甚左衛門殿にてこしまへ申付る
- 一 明日大奥御庭掃除之節 在郷家に福寿草出居候間 日当宜御見付も宜御場所え植付可申様 囲を致し候義は半太郎え可談様権太夫殿被申聞 同人え談達す 囲は三丸より御有物を見計 乱杭に可致旨申聞 東條え申上候又半太郎 平五郎之内にて植可申様達す
- 一 右同断之節 御植木段御同所に有之候を不残五十三間之御通に出し 跡御掃除入念可致様御同人被申聞 金七郎え達す 朔日にも大奥御掃除に入可申様是又達す
- 一 知恩院御用之切地 御不用之分不残両所え戻す
- 一 蒔絵御重 児嶋より上り備中守殿え申上貞二え渡す
- 一 来月朔日大奥御小座敷之御庭え七郎兵衛人足入れ 砂利洗并堀出し等仕不足に候はゞ足し 其外惣躰御掃除入念可申様人数積り共為致候様 明日支配出次第八右衛門殿にて達可申候
- 翌朝金七郎え達す
- 一 来月四日御掃除之所 三日に操上げ致候様信濃守殿被申聞 翌朝金七申達
- 一 知恩院え之御紙入え奉書裁切入れ可申様権太夫殿被申聞候

正月廿九日

- 一 唐銅鉾 見本之通三拾五本 権太夫殿被断
- 一 栄之允殿被申聞 平右衛門え達す 明日四時迄出来申付る 御同人え御差出可被成候
但御休息御橋かな物之鉾也 本より壱分長く
- 一 来月朔日 三の口え御庭方入御植木段御取建御鉢植は昼後御錠口より廻し候旨甲斐守殿被申聞候
- 一 鏡付家之切れ御用立残奥より出 伴助え一切
- 一 五左衛門え一切戻す
- 一 御菓部屋御用
御重 松竹梅蒔絵 壺組 十七〇二コ
- 一 右極る旨祐之申聞直に留る 不用明日
御下可被成候 児嶋代え渡す
- 一 来朔日奥御小座敷御茶屋前御砂利も
敷足候様甚左衛門殿被申聞 翌朝三平え達す

正月晦日

- 一 鏡付之切 奥にて裁着切候分にすれ有之候由
右に付又々上げ直し甲斐守殿被申聞候 後刻
児嶋え御達可被成候 明日御申達可被成候
又々奥え御戻に成 甲州へ出す
- 一 紫檀御らう蒔絵出来 左左衛門より
請取 信濃守殿一覽之上御すけ出来
御同人え出す
- 一 唐銅鉾三十五本上り 見本とも
栄之丞殿え出す
- 一 木地台 長三尺ノ横壺尺八寸 三つ
三本貫
- 一 右内壺面は明日正御門明 式面は
明日中出来 五郎左衛門殿にて八右衛門殿断
貞二申聞 幸藏達す
- 一 霞ヶ関来月四日御年始 明日被御出
候間心得之旨数馬殿被申聞 御箱杵村へ
達す 二日上げ
- 一 知恩院宮へ被為進御有物

一 紫旦御多葉古盆

牡丹孔雀彫象眼入

右信濃守殿にて御手入下り 児嶋へ達
御箱白削御服紗居台 杵村へ申付る
両様共明日九時頃出来上り候はゞ 御差出
可被成候

一 餌拵新組御手当金 当月分

清三え渡す

一 霞ヶ関被為進品 明日御用掛衆
退出掛見分可然 権太夫殿
被申聞 御見分済帯地御仕立に
御廻に相成候様御取計之事

御筭は御見分済に付宜候

一 知恩院宮様へ御多葉粉入

させる御服御用意拵候様

権太夫殿被申聞候

一 右御させる出来 御慰当用

引出し入置候 信濃守殿にて
宜しくと申下り候

一 知恩院へ被為進

瀬戸物染付

一 御櫓時計 一

真鍮おもり一つ足し

一 御机飴 一對

蓮花形唐くり 紫旦箱入

内張桃色統計取替

右信濃守殿にて相下り 御時計御手入
御細工所より嶋村へ申付候 御机飴御磨き
児嶋へ下る 御箱本取済 明夕刻上げ
但御時計は夜六時過上り候積り
御同人え申上置候

二月朔日

一 三本貫木地台三枚出来

正悦え渡す

一 霞ヶ関御筭御箱之義 信濃守殿え

- ― 申上置候 勘次郎殿之御寸法申上置候
- ― 相分次第御居台御申付可被成候
- ― 三月分御梅掛御庭方御手当 金七郎え渡す
- ― 今日御灸中御餽付に付可相成
- ― 御鉢物并御酒湯口御品を
- ― 御覽有之候旨 小膳次殿被申聞候
- ― 霞ヶ関被進品見分不濟
- ― 筑前守殿酒湯済に付 被為進被遣品極る
- ― 知恩院宮明日奥御登城に付 三の口内え御植木段御庭方にて取建候
- ― 御鉢植御覽有之 御用之分奥え直に廻り不用下り 御庭方へ渡
- ― 知恩院宮え明日被為進
- ― 御置物 御側棚 小詰物
- ― 御太刀掛 御有物 御蓑盆 御有物 昨日御下け
- ― 御時計 御手香炉
- ― 右御手入出来 御箱居台共取揃 甲斐守殿え出す
- ― 一橋外堀之氷砕正月分人足賃四両三步
- ― 式朱五匁七分五り 甲斐守殿え御渡申候

二月二日

- ― 懷紙 色紙 短冊数々 小膳次殿達にて御細工所より上り 御役所え出す
- ― 御時計師今朝御門明き呼出置候様 昨日小膳次殿被申聞 御細工所え達
- ― 霞ヶ関被為進品 為御見分笹之間え出置
- ― 今日御餽付に相成御鉢植 明朝五時頃植木屋出 下け方平内え達
- ― 貞寿院え被遣 銀帟挟 一
- ― 浜之節被下 銀鎖胴 一
- ― 右出来 與三郎より受取候 信濃守殿え御差出可被成候 きせる二本不出来に付直しに下る
- ― 筭之御台 伺候処未不極
- ― 鏡付之切れ裁落二切甲斐守殿え出す
- ― 御櫓時計入箱二つ服紗共 嘉順え渡す

- 一 桐板五枚削方致 御作事より上り次第 御細工懸り衆え御差出し可被成候 後刻上り出す
- 一 昨日御鉢植え懸り居候銅網蓋三つ共 上に小さく穴有之 不宜候間下け候旨甲斐守殿被申聞 源次郎へ渡す 已来右様之御品出し不申様 御同人にて同人え達す
- 一 明後日被為進物御のし包 明日廻し候様御賄え達置候
- 但御品は御箱類出来 角牡丹え入置候 かるた中包服紗之事

今西様

- 一 おみつの方胴ゞ 紙挟 信濃守殿え出候処 きせると一所出候様 夫迄御預に付二階え箱え入れ差置候
- 一 御筭之居台上る
- 一 孔雀と桜之上千代帟 明後日迄御日延 五左衛門申聞候
- 一 御饒付御鉢植御用立 残り明朝三の口より御檀共持出し候様 東條被申聞 三平へ達懷紙 五枚
- 一 右御用相成候旨信濃守殿被申聞候 但知恩院御広敷へ御登城に付

二月三日

- 一 ろ印之御縫帯可出様権太夫殿被申聞 御同人え出 御役所御引出しえ紙包に相成入り申候
- 一 甲斐守殿御取扱にて被仰付有之候被進御雛道具は御止に相成候に付差留可申様 尤取掛り候故少々の手間等掛り候義は無是非旨 信濃守殿御申聞 本左衛門え達す
- 一 三の丸之たんほ 知恩院様え被進可有之間 摘取候義は追て可申付 凡有高見積申聞候様 八右衛門殿にて熊蔵え達す 支配より直に

- 一 御同人之否申上候筈に候
- 一 数寄屋縮 日比谷被進留可申様信濃守殿
- 一 御達 は印三反差留可申様 牧野金助達す
- 一 御硯箱 鉄刀木菊蒔絵 壺
- 一 右御修復 嘉順より受取 伴助え渡す
- 一 筑前守殿酒湯 明日御延之旨小膳次殿御達
- 一 知恩院宮え

置物 銀岩万年茸玉付

卓紫旦葵形

右は近々御坊主御使に参り候節被為進候由
御極め甲斐守殿被申聞 勇次え申付候
但万年茸は吹上生し候 御預之分を用ひ
可申旨被仰付候 糺申付候
御箱本取不済

二月四日

- 一 知恩院え被為進置物為見分 笹之間へ出置
- 一 小膳次殿
- 一 霞ヶ関御縫帯 御添帯とも角牡丹え
- 一 下け置可様信濃守殿御達 札を付候て
- 一 入置申候 御年始被仰出候は、御仕立に可廻様
被申聞候
- 一 御雛石橋台掛四方の切れ極り 小膳次殿
- 一 御渡 辰之助え達渡 上敷の地は相下け
可申間 寸法申聞候様御同人被申聞達す

紺地綿 亀甲形唐花入

後刻寸法書出る 明日小膳次殿え御出可被下候 御不用之分

十四卷戻す

- 一 御筭之居台 角牡丹え入置候
- 一 釈迦掛御鳥伺書 信濃守殿え出す
- 一 智恩院被進は来る八日に相成
- 一 候旨信濃守殿御達被成候
- 一 御不用之卓 御細工所え戻す
- 一 上千代紙 孔雀／房桜 簪納 信濃守殿え
- 一 差出 御役所御引出しえ入る
- 一 精姫君様御願御縫帯出来

権太夫殿え出す

二月五日

一 御雛道具御用上に相成候処 下地も
出来候に付 御紋なし並の葉唐草
念入出来候様信濃守殿被申聞 与三郎え
達す

一 峯寿院様御召御素縫出来 甲斐守殿へ出
一 小居台三十枚上り 御同人え申上 箱え入る
一 霞ヶ関御筭之居台 勘次郎殿え出す
一 毛引之刃式枚 伊織殿え出す
一 当年は御慰之義に付 釈迦掛は
御延引に被遊候旨甲斐守殿御達 兼て
御極め帯地に御買置に致候様被申聞
御役所引出え入置候
一 銀物籠甲類帳三冊 甲斐守殿にて
書足被申聞 御細工所え達 下絵出来
之上新部やにて張候様達す 帳役所に有之
一 貞寿院被遣銀烟管二本出来 受取
一 信濃守殿え御差出可被成候

二月六日

一 鶉見分け被仰付候間 越前屋呼出候様
一 甲斐守殿被申聞 申遣候
一 知恩院宮え被進万年茸置物御箱共出来
一 甲斐守殿え出す
一 鋸式挺目立直し 十郎左衛門殿にて
一 数馬殿断 宗蔵え下る
一 御雛道具 来る十一日出来之義
一 甲斐守殿え申上置候
一 白鶉めん 越前屋所持有之
候哉 御尋には無之 承り候様甲州
被申聞 太三郎え承り候処 所持は無之
随分有之候品此節は下直にも相成
居候段申聞 御同人え申上置候
一 峯寿院様浜之節被進之

御紋付 御縫模様 御表

紫縮緬 七宝縫取

右呉服所へ御預に致し 入念御手入
致置可申様 且来年迄差置候ても
御色変等は無之哉糺候様甲斐守殿にて
天野左内へ渡達す 御絵形 御丈数書
等は御役所御引出しえ入る

後刻来年迄は御色変不申様御手入行届不申旨

書面出る 明日甲斐守殿へ可出候

越前屋出 八右衛門殿へ申上 御用済

替之鶉二疋共おんの趣申上候

御多葉古盆御引出し裏座銀かな物四つ

権太夫殿断 孫四郎殿被申聞 児嶋へ達 明後日
出来

紅水引御用立残り御のし包 箱へ入置候

御雛道具覆

一 緋ふらた

一切

石橋台掛上敷

一 猩々緋

一切

右円齋より請取 御細工所へ渡 少々余分に
有之候間 残り切れ戻し候様同人申聞達す

品川筋御成之節

替り鶉 番 西の久保八幡前

山本屋万吉

右之所にて御買上に相成候処 式疋共おん
にて鳴出候に付 めんを早々上げ候様支配より
達し遣上り式羽御覧に出候処 越前屋
大急き呼出し 拝見 何れか宜為極め候様
被仰付 伊豆守殿にて拝見之上極め おんと
一羽御引替り相成下り 部屋番金次郎え
達し戻す 御直段加不足無之候

二月七日

一 貞寿院銀きせる式本

信濃守殿へ出候処 又々御預け

紙挟并おみつの方胴ベと一所に致し

箱入札付 二階に有之候

別段出来

吹上当春御鞞御代金 権太夫殿え

御渡申候

御慰御道具類御覧に出候節 御細工所より差出候

品御用立少に付 已前御小納戸御用相勤候者

一 兩人御細工所小買物方え加へ 御品為差出候様

御用掛衆え伺済 御細工所頭え談済之旨甲斐守殿

被申聞候 右は 神村藤兵衛／中村伊之助 兩人之名前

被達候由心得被申聞候

■■■■有之伺品は 御細工所よりは迄之通

上げ置可申事

御素縫御預書面 甲斐守殿え差出候処 猶又

掛合候様被申聞候所 御色物之義に付少之

変し可有之 御召に不相成程之義は無之旨

書面出 御同人え上る

角牡丹御道具 反物共戻す

御用残吹上万年茸五本 甲斐守殿にて

御細工掛勘次郎殿え出す

二月八日

御多葉古盆御引出し之銀裏鉄四つ出来

孫四郎殿へ差出候

半土白鏝 大／中 十つゝ 中孫十 小孫弐十 栄之丞殿え出す

二月九日

鋸目立直し出来上る 十郎左衛門殿え

御出可被下候 卯三郎を以 清弥え出す

縫針太細五本つゝ 左門殿にて権太夫殿

断上る 御同人え御出可被下候

二月十日

猩々緋ふらた残り切れ二切れ 円斎へ戻す

桐板壹枚 孫四郎殿にて文蔵え

達す 上り次第御細工掛衆え御出可被下候

見本渡置候 翌朝上り出す

二月十一日

- 一 盛姫君様之被為進御雛道具出来 御細
- 一 工頭より請取 甲斐守殿出す 御用掛衆御見分
- 一 濟 尚又御役所へ出す
- 一 御表具之口頼用

- 鉛 長壹尺／角二分 三本
 - 軸木 一寸／八角削り 二本
 - 同 九分／同 六本
 - 表木 四分／五分半之角 八本
- 長何れも壹尺九寸つゝ

- 一 右左門殿被申聞 児島へ達す
- 一 在郷屋土手に檜木有候間 枯候処計を此後
- 一 御庭入之節伐候様信州被申聞 金兵衛へ達す
- 一 鐙姫 純様 筆様へ被遣御筭三本
- 一 木形共御細工所より受取 信濃守殿へ御出
- 一 可被成候

- 一 青苧綱 壹丈壹筋
- 一 右楓之間御篋筒御用 勘次郎殿被申聞
- 一 文蔵へ達 明後日出来
- 一 前条御雛道具 一式

ろ印

- 一 御縫帶紫天鳥■ 一
- 一 右大奥へ廻候旨甲斐守殿被申聞候
- 一 此後奥御掃除之前日に魚溜之蓋
- 一 取り候哉を伺候様甲斐守殿被申聞 翌朝
- 一 ■え達す 金兵衛へも達す
- 一 銀鋌三拾本 明日信州へ御差出し可被成候

* ■は空白

二月十二日

- 一 魚溜蓋之儀 新六へ達す
- 一 銀鋌三十本出来 信濃守殿へ差出候
- 一 御休息北の御庭霜除下り 権右衛門殿御預
- 一 半太郎へ渡
- 一 檜 二分板 二枚
- 一 同 三分板 壹枚

- 一 椽 二分板 三枚
- 一 同 二寸角 一間三本
- 一 式寸釘 百本
- 一 一寸釘 同
- 一 右権太夫殿御断 孫四郎殿被申聞出す
- 一 田安三姫様御筭 信濃守殿え出す

二月十三日

二月十四日

- 一 精姫君様え御灸之節 緋山蚕入紋縮緬
被為進候間上げ候様 昨夜甲斐守殿被申聞
今朝上り 御同人え出す
- 一 黒部式分板壹枚 数馬殿断 鉄之進殿え出す
- 一 信濃守殿御断 孫四郎殿にて左之通
文蔵え申付

- 椽 厚式分板 三枚
- 同 壹寸角 五本
- 同 目板 式本
- 檜 本之通 三本

- 一 精姫君様御灸之節之紅山入紋縮緬
壹疋 信濃守殿にて極る 此俣被進候間
御役所御引出しえ入置可申様被申聞入る 残り
角牡丹に入置候
- 一 御新座敷魚溜御用諸式 金四郎殿より
御預け 文蔵へ渡
- 一 大奥御新座敷と東御庭魚溜之蓋
三つ 半太郎申聞 平右衛門え御預に致候

二月十五日

- 一 柚の木御多門前之柚の木 霜除取払
可申様昨夜信濃守殿御達 平内え
達取払 御同人え申上候
- 一 七郎兵衛人足の内出次第 十郎左衛門殿 伝之助殿
之内え可申上様 仲殿被申聞 平内え達す
- 一 田安御多葉古盆 信濃守殿にて極る 後刻

- 一 杵村出次第本取御申付可被成候
- 一 右御同断之節之被進物揃候は、
- 一 為御知可申様 信濃守殿被申聞候
- 一 三つ揃御蓑盆 杵邑本取済 御細工所之下る
- 一 廿二日上り候積り
- 一 稻穂え懸り候目籠 本之通にて足無之出来候様
- 一 甚左衛門殿被申聞 文蔵渡す

二月十六日

- 一 出来合雛人形 例年之通来廿一日頃廻候様
- 一 御細工所之達す 廿三日頃入御覽度旨小膳次殿被申聞候
- 一 廿七日被為進御筭は 御文庫入にて被為進候旨 昨夜甲斐守殿被申聞 右御文庫三つ御台五つ 後刻杵村之御申付可被下候 十九日上げ

御文庫御台申付候

- 一 西丸四日之口雛道具類 廿一日迄に上候様
- 一 児嶋へ達す
- 一 連玉と蘓鉄之御霜除取払 八十八夜
- 一 過と申上有之所 一兩日暖氣に候間 猶又糺可申甚左衛門殿御達 七郎兵衛之糺遣候所 当月下旬御取払にて宜と申来 信濃守殿之申上候
- 一 御休息御鳥籠之銅網戸壹枚
- 一 銅ひご素蓋壹つ損 直し方権太夫殿
- 一 断 藤七郎殿にて文蔵之申付 明日出来候は、 鉄太郎殿ノ十郎左衛門殿ノ伝之助殿 之内え御出可被成候
- 一 但銅網戸之方計出来 出す
- 一 四本戸芥出し 明日可致様八右衛門殿
- 一 断 栄之丞殿にて平右衛門之達す
- 一 篩土五樽分 右御同人断 御同人被申聞 明日四本戸之可廻様鉄蔵之達す
- 一 御筭文庫 今式つ出来候様甲斐守殿御達 杵村代之申付候

但下すひ板之事

二月十七日

- 一 桧植木札 本之通五十枚
- 一 右権太夫殿御断 七郎右衛門殿にて七三郎え申付置出来 御申送り可被成候 明日出すへく
翌日出す

- 一 御継穂御用桃之台木十壺本
- 一 可申付様平内え達す 今日上り候はゞ
- 一 御当番え御申上可被下候 信濃守殿也
- 一 嶋巡り御馬毛植雛形出来 御細工所より
請取 甲斐守殿え出す
- 一 被仰送之素蓋 万蔵を以出す
- 一 一昨日申付候稻穂之籠出来 甚左衛門殿え出す
- 一 接穂台十壺本上り 数馬殿え出候処 明日迄
御預け 角牡丹え入置候
- 一 雨天に付四本戸芥出し難出来旨■右衛門申出
与十郎殿え御達申 天気次第致候様達す
- 一 御注文御ひるな 廿三日上げ候旨御細工所より
申出候 小膳次殿え申上候

二月十八日

- 一 例年三月之小魚小貝三日に候所
- 一 二日に相成候間 其心得にて御台等可申付様
権太夫殿御達被成候
- 一 貞寿院え被進御文庫入に可相成

金銀胴ゞ真田
七つ道具

御時計 但御根付時計は宜無之 御枕

時計か何そにて御直段かるき品

- 一 右廿一日に御覧有之間 其心得にて上げ
可申様甲斐守殿御達 寛蔵 児嶋
嶋村え達す 外に吹上御飾付に不出
品にて御文庫入にも可相成物をも可出様
勇次郎え達す
- 一 接穂台十一本 権太夫殿へ差出申候
- 一 御枕時計 七柄
- 一 右嶋村より上り 二階奥之間に有之

猶小形吟味申付置候 廿一日御門明き
伺なから出候様達置候

二月十九日

- 一 枕時計十柄 御細工所より請取 二階奥之
- 一 間え入置候 金銀真田七つ道具も上り同所に有之候
- 一 菊寿染付餌猪口壺つ焼継 祐三申聞
- 一 伴助え渡す
- 一 御膳上げ被為進品伺所より上り 御扣所に有之
- 一 銀小物類絵形帳張足出来 甲斐守殿え出す
- 一 右衛門督様御簾中様え被為進置物花
- 一 活御手入出来上り 二階に有之候

二月廿日

- 一 御筭と 銀喜瀬る 二
- 一 同 昏挾 一
- 一 金真田胴ズ 一
- 一 銀真田胴ズ 一
- 一 銀七道具 一通
- 一 右代銀凡にて宜敷 見競承度旨甲斐守殿
被申聞 御細工所え糺申達候
- 一 貞寿院え被遣御文庫之内御詰物品之伺
- 一 明朝御役所え寄置候様 甲斐守殿被申聞候事
- 一 吹上御庭御鳥籠御修復諸式 書面
- 一 之通相廻候様権太夫殿被申聞 文蔵へ達す
- 一 上巳之御台 廿六日上り利三郎え申付候
大六枚 中九枚 小十枚 但内式枚つゝ御扣
楓
- 一 来る廿五日 上御火鉢の網蓋五
煮洗に藤卷直相下り 九時迄
- 一 に出来候様 八右衛門殿被申聞 勇次え
達置候
- 一 御文庫詰之御品御御入用書
- 一 凡御細工所■出 認め置候

二月廿一日

一 一つ橋外飼付御用人足賃

吹上御鷹 奥御鷹捉飼 正月四日十九日

両日分 舟賃拵置候

一 貞寿院之被遣金銀真田胴ズニ 銀七つ道具一組
極り 寛藏え達す

一 同断之節 小形枕時計極る 右和銘直し方糺候処

廿六日朝迄に出来出候段申聞 甲斐守殿之御達申候

御服紗包に可相成哉

一 白地摺箔露芝損し 手入方頭え渡す

一 出来合御人形并被下六つ揃 御細工所より上り 御扣所え

入置候 伴助方六つ揃も上り候

一 金銀真田御時計 七道具不用 御細工所之下る

貞三様

一 時計七つ嶋村え戻す ヲルコール二つ同人より上る
序之節可戻候

一 御申送二口之御金 甲斐守殿之御渡申候

一 御筭文庫 天氣相に付明日迄御日延

御細工所より申出 甲州之申上候処 廿三日

御覽に付 右にて宜旨被申聞 良之助え達す

二月廿二日

一 透膠 三十本 出す

麩せうふ 耆枚

右数馬殿断 明日出候様伊織殿被申聞 平右衛門之達

一 替鳥伺 越前屋より差出候

御一覽可被下候

一 生花建之板五枚 本之通明日夕刻迄

無相違出来候様信濃守殿御断

貞二申聞 文藏え達す

一 明日植木屋両所呼出し申遣し

置候間 廿七日之義御達可被下候

一 またゝびの粉耆合 九八郎殿三合

吉之丞殿え出す 仕継致し置候

一 生花弐尺弐鉢 廿四日夕刻上げ信濃守殿

御断 正悦申聞達す

一 廿七日口御たはこ盆三 銀打替

出来 御筭文庫五つ上る

二月廿三日

- 一 重て大奥御庭入之節 御梅に掛り居候鳴子
- 一 取払候様八右衛門被申聞 金^{兵衛}へ達す
- 一 御雛御箱申付候は、被進之方は並
- 一 にて宜 被下之方は極取■に可致様権太夫殿
- 一 御達被成候
- 一 西丸へ廿五日御膳上之口 御品極る 本取済
- 一 御雛被為進被下極る 大八寸内裏四対程
- 一 吟味御細工所へ達す
- 一 加州御酒湯廿七日に相成候由 小膳次殿御達
- 一 御筭文庫 甲斐守殿え伺候処 三つ程申付
- 一 候様被申聞 居台共五左衛門え申付候
- 一 廿五日西丸東御殿え被為進御品伺済 本取
- 一 申付 手入下る 御用掛衆御見分済
- 一 貞寿院 鏝姫 千恵姫え被遣物 不残
- 一 御見分済
- 一 御簾中様 精姫君様え被進御詠御雛人形
- 一 上り 御覧済 角牡丹え入置候
- 一 但石橋台懸皺有之 手入翌朝左衛門へ下る 福村也
- 一 不用道具 雛道具 雛共不残御細工所え下る
- 一 四引板は角牡丹え入
- 一 御極り雛 角牡丹え入
- 一 来廿七日吹上奥締御内沙汰 御饅付御鉢植
- 一 地植共 例之通出候様彦兵衛 七郎兵衛え達す
- 一 御鉢植計りにて有之へく哉 内膳正殿え
- 一 伺候処 例之通と被申聞候
- 一 大奥御頼用御筆 御掛物入 式重桐箱
- 一 八つ 壺つに付何程直段積り左門殿被申
- 一 聞 杵村え達す 仕様書渡置候
- 一 衣紋稽古装束出来 三輪より受取
- 一 貞三様
- 一 節句前御払調品々出候様 小膳次殿被申聞候
- 一 替り鳥書面 甲斐守殿え出候処 替り小鴨廿三〇
- 一 右を十五〇位に押合候様被申聞 太三郎呼出し

談候処 三百疋引方致候旨申聞 御同人之申
上候所 尚又押合 明後廿五日御門明き御鳥
入御覽候様被申聞達す
大八寸四対上り式対極り候 不用下る
七郎兵衛方に有之候寒竹 明日四時比迄に
上げ候様十郎左衛門殿御達 平内え達す 上げ候は、
仲殿え■可被成候
岩井殿庭しからみ竹之由 甲斐守殿被申聞
金兵衛え達す
生花建板見本共廿六枚上り 内式枚翌朝
御賄え渡す 外宗筑え達す

二月廿四日

- 一 梅田殿御庭え今日御植付物入候間 姉ヶ小路殿
庭之方も致候様甲斐守殿被申聞 源治郎え
達す
一 明日二丸御中貳階明き 宝地院始出候に付
御同所御馬見所之小き雛 三寸前後 雛道具
御饒付致候様甲斐守殿被申聞 今日中取揃
児嶋へ達す 青張段 壱■／■由 文藏え申付る
一 栄次郎明日五半時呼出し 甲斐守殿被申聞
源次郎え達す
一 梅御伺之事
一 大奥塩衣梅御■鳴子并建竹
一 甲斐守殿御預之■金兵衛持参
一 文藏え御預に致す
一 栄次郎明朝御呼出し御達有之候所
同人初め手之宜者十人呼出可申様
一 権太夫殿被申聞 新六え達す
一 明日西丸御二方様御品御役所出す
一 去十月廿三日御預之御錦魚船諸式
一 御新座敷金四郎殿被申聞 御庭方
一 多三郎え渡す
一 田土 五樽分
一 右権太夫殿御断 植木屋より上げ 栄之丞殿
被申聞 源次郎へ達す 明日四時過上り候は、御植木掛衆へ

御差出可被成候
寒竹 仲殿え出る
廿七日吹上御庭御飭付之内 極め込人形は
止め 五寸位迄之雛人形雛道具
数多に可出様 其外可廻品々廿六日
一覽被致度旨権太夫殿被申聞候 御居
台十八九枚も可廻様被申聞候
右同断之節 御飭付地植 例より三十品程も
石取交上増候様権太夫殿被申聞 明日栄次郎
出次第御達可被成候 同人へ翌朝達す

二月廿五日

二丸御飭付品少々御覧有之 六時過
貞三附添相廻候
御預之内銅網壺枚 仲殿え出す
替り小鴨 権太夫殿にて笹之間え出置候
替り小鴨壺羽 二三〇之処 三百疋引方 右
御用に相成 鮮たい金より御払出候旨権太夫殿
被申聞候
銀御火入七宝ほや 鐸五郎殿御渡 此度七宝透
出来直りに可相成に付 絵形伺候様被申聞
伴助え達す
楓之間網ふた五つ御磨き 藤卷直し出来申候
内式つ網損し有之 け成御手入甲斐守殿え申上る
衣紋稽古装束皆出来 信濃守殿御見分之義
御申上可被成候
貞寿院え被遣金銀真田胴 銀七道具出来
御時計出来 翌朝小膳次殿え出す
御細工所より小雛并小道具 別紙書付二通
添廻御扣所え入置候 印付之事

二月廿六日

後刻御作事より板四枚上り候間 御細懸り衆え
御差出し可被成候 上り出す
二丸御鳥見所え昨日御飭付に相成候小間物
為引取 今朝六時 小膳次殿御廻可被成候

宗賀被越候

御雛長持段共 後刻出し可申事

加州え明日被進 五時頃奥え廻候旨甲斐守殿
被申聞候

上巳之御台出来上り 二階に有之候

御雛長持御段 幕包箱とも別帳

之通り七曲り 御風呂屋口迄出し置候

右御長持 明後朝早く奥え可廻様八右衛門殿
御達被成候

田安本郷被為進品 御役所へ寄る

明日雨天に候はゞ 小間物大奥御座之間へ御饅

付相成候旨 青張檀小間物三の口より入候間

心得 信濃守殿被申聞候

御雛御箱上り 御扣所御用場前に有之 居台

明日上り候積り

二月廿七日

吹上小間物御饅付 貞三六時罷越候

御駕籠台へ御植檀取建候様 信濃守殿

被申聞 文蔵へ達す

尺五寸

生花建

二鉢

右明朝御門明き上 祐之申聞 御賄へ断

下水板四枚同断 宗蔵へ達 出来渡す

紅羽二重壺疋之代之事 小膳次殿え上候

過勤金 数馬殿御渡 明日御渡可被下候

二月廿八日

御住居向并被下御雛 今朝五時前不残廻る

老女衆被下 例三日之処 今朝出る

東御殿唐子之間は後刻廻す由

青苧細引

壺丈壺尺

右御細工御用 小膳次殿断 勘次郎殿被申聞 文蔵え達

東御殿唐子間雛 鏡之間より廻 小膳次殿也

御のし不残出す

御雛長持三棹共并赤にて包候御段壺つ

甚左衛門殿にて廻る 青張段之分御舞台後に有之

一 荷籠 一 荷 鉄鍋 二

ひら焼皿 二 飯櫃 一

右下り 吹上え戻す

曲もの 是より三品翌朝

一 蒸籠 一 飯櫃 一 杓子 一 小皿 一

右下り 吹上え戻す

一 御休息御庭乾盤下たえ御植付可相成

高さ二間より三間位迄

一重

一 匂ひ桜 無之候は、一重桜

右近々吹上奥より有之候節 五六本

御飭付差出候様権太夫殿被申聞 半太郎へ達

一 御絵番より立用御絵刷毛

三枚 御細工所より請取戻す

一 来二日頃 吹上奥より之由 権太夫殿にて心得

植木屋へ達候様半太郎へ達す

一 御雛御用之椀箱包候御幕式張 二階え

差置候

一 御雛段下り候は、不残御細工掛衆御用済

迄仕舞不申様 孫四郎殿被申聞候

一 檜板 中巻尺老寸／長巻間／厚四分 式枚

右数馬殿断 孫四郎殿え出す

一 日々廻り之鯨 兎角数少なに候旨 半太郎

先日申聞 御賄え談置候所 今日又数少なに付

御庭方にて改受取候積 金五郎え談置候

一 御飭付雛并道具 御不用也

御細工所え戻す

一 同兎嶋の品々も為下け候

一 西丸御雛中御成被為進 御鳥

伺書も越前屋より為出置候

御沙汰は無之用意也

一 昨日吹上御飭付御用立 右御印打

植木帳奥より出 権太夫殿より請取候

二月廿九日

- 竹楼 吸物碗 一／同 膳 三／菓子盆 一 損御繕 八右衛門殿
断 清右衛門殿
- 一 罍三本付かへ 信濃守殿御申付 勝蔵え
達置 出来次第御出可被下候 出来 小膳次殿へ／出す
- 一 御新座敷糸網罍三本 緞子罍壹本
掾取かへ張直し 信濃守殿断 三右衛門殿
達 御釘屋呼出し申遣候 一蔵えも達置候
- 一 申付
- 一 四日大奥御掃除 三日早入 甚左衛門殿
被申聞 熊蔵え達す
- 一 来二日吹上奥締 諏訪御見合所え小間物
并雛雛道具共御飭付に相成候に付 早々
上げ甲斐守殿被申聞 御細工所伴助より上り
御夜詰前御覧に出 御見分け有之 極る
- 一 能人形尚又上げ 御細工所え達
- 一 右綴之事 不用下け之事
- 一 廿七日吹上御植木御用立書 内膳正殿御渡
紅羽二重之事

三月朔日

- 一 能人形 四五六寸 位之処上げ候様被仰付 御細工所え
達候処無之 大振上り候に付御用無之 来年より
到着致次第不残入御覧候様 甲斐守殿被申聞
御細工所え達 上り候処 大振に付御用無之 下る
- 一 大奥御庭之内枯木痛候分も有之 右を今
九時迄に 吹上御飭付に明日出候植木屋四人之内
式人罷出 御場所入拝見之上 似寄之品明日
御飭付之内え印付出候様 甲斐守殿被申聞候に付
- 一 七郎兵衛 彦兵衛／仁右衛門／平作 之内申合出候様 手紙にて申遣候
七郎兵衛 彦兵衛え申遣候
- 一 出し候は、信濃守殿えも申上可被成候
於美津の方え来申三月被下は膳椀可然
旨甲斐守殿被申付候
- 一 両条張出置候
- 一 両条大奥植木拝見之義 植木屋棟梁共入は
止め 栄次郎外に心得候者式人程入候様 甲斐守殿達

源次え申付置候

但栄次郎始今日例刻長局掃除にて出候に付
別段不申遣候

一 知恩院宮様先日御入之節出候懷紙壺枚

上げ候様甲州被申聞 上中下壺枚宛上げ候様御細

工所え達す 上り次第御差出可被成候

一 大奥御庭御植木 栄次郎外に壺人見極め

入候処 五十三間に有之候御梅壺本松■植替

相成候 外に御梅壺本明日吹上御飭付に差出

候様 信濃守殿御達し 栄次郎申聞候

一 右御飭付御梅式本差出候様 御同人被申聞 同人へ
達す

一 懷紙上り 信濃守殿へ出候事

一 緦子罝出来 一蔵より受取 三右衛門殿え出す

一 桜枯木 式本

六尺八寸五分 三寸

内 長 太さ

六尺壺寸五分 三寸八分

右にて御印籠御根付幾か程出来候哉

伴助に数積り可致様 信濃守殿

御渡 伴助え達渡す 伺候所 直に千方之

手当に致し 調之上員数申上候様被申聞候

一 小魚小貝之御居台

大 四つ

中 七つ

小 八つ

右権太夫殿え出す

外式つ宛御扣二階に有之候

中は壺つに相成候

一 右同断為御用意寄候様 御同人

被申聞 御役所え出す

中 壺つ

一 吹上御茶屋御用

一 網代組御燭台 一本

損し繕

一 火笠

二

紋天狗紙張張替 二葉葵

桜

右申越 東條へ申上 児嶋へ申付 出来
吹上へ相廻す

一 明日吹上御飭付

一 句桜 三本

一 一重桜 三本

右之通有之旨栄次郎申出 東條申上候処
句桜今一本吟味 都合七本出候様被申聞
同人へ達す

一 御払金昨年残り 当御鬩并当春
分三月御定金共信濃守殿御渡候
夫々え相渡し候

三月二日

一 吹上小間物御飭付 六時過貞三罷越候

一 今日吹上諏訪御腰掛御飭付

出来 明き長持式棹錠鎰共
役所え引渡戻り候

一 田安一位様 来る六日御登城に付
被進候品御間合に御覧有之候間

寄候様権太夫殿御達 昨日より御役所え
出し置候

一 こま々々物 両所より上置候

六日御登城

一 田安一位様え被進物極る 本取済 見分済
手入下る 五日朝■

一 御払金 新六并小野栄之丞え渡 朱書不入

一 来る六日 西丸御老若御側衆吹上拝見之由
其節被下

大小

硝子コツフ 四十五

右伺 弥右衛門殿え出す

一 縫腰帶胴へ 信濃守殿え御差出可被成候

一 四日西丸御成無之由 九日御雛御花見
之御廉西丸御成有之由 甲州也

一 懷紙三拾壹枚 甲州にて辰之助え戻す

三月三日

一 表御座の間御庭松 明日御退出済 植替

一 甲斐守殿被申聞 九つ時揃出候様金七郎達

一 熊笹も植替 同人え達す

一 浜口縫腰帯七筋 銀鎖り

一 胴〆壺■箱入札付 信濃守殿え

一 申上 御役所え差置候

一 御衣紋稽古装束 信濃守殿

一 御見分相済候

一 吹上より御饗付品御用残り戻り

一 御細工所兎じま引渡候

一 但式尺位之御居台三枚

一 御用立候に付仕■申付置候

一 御新座敷御錦魚御用網罟 大式本／小壺本

一 出来 御釣屋より上り 三右衛門殿え出す

一 葭簀垂 絵図之通り式枚 信濃守殿

一 断 七郎右衛門殿にて文蔵え申付置候

一 替り小鴨代

一 金式十式両壺分

一 右権太夫殿御渡し 請取置候 越前屋明日

一 呼出し達す

一 昨日吹上御饗付御用立帳面式冊

一 書付五通 権太夫殿御渡被成候 調

一 濟候は、名前認め有之候分は戻し可申様

一 被申聞候

一 上巳之中御台壺つ 御不用にて下る

一 木香出し中岡持十二三 吹上え

一 五日迄に可廻様権太夫殿御達被成候

三月四日

一 キヤマンコツラ 見本之通十五揃上げ 若無之 *コツラはコツフの誤か

一 候は、少しは小振にても宜 左候は、十六上げ 尤切子に

一 無之候ては不宜 備中守殿にて貞二申聞 勇次え達す

一 西丸御雛御賑々敷 御花見之御廉御品

御極め相成候 後刻本取御手入御下可被成候

四方盆 一 元掛衆御金より

御印石 三 鮮たい金より

右御用相成候 伊豆守殿被申聞 御多葉古盆 銀

打替下る 御印石権太夫殿にて留る

替小鴨代金 太三郎え渡 受取書申送り候

一位様え被進琥珀御棚飭手入出来 上る

今朝極り候御たはこ盆 伴助え下る

錫かな物之事

印石も元掛衆御取扱に成

今朝極り候品々本取済 両所え下る 七日上げ

コツフ上り 久珉を以出す

金蘊鉄霜除取候て宜哉 松葉蘭御室

出し宜哉 栄治郎承候様数馬殿被申聞 何も

宜旨申聞 御同人え申上る

大

蘇鉄葉 三枚

右楓之間小膳次殿御渡 伴助え干方御預達す

三月五日

吹上便殿桜有之 二本之内壺本は少々

痛み有之 右継穂三本程致候様 若時節

後れ候は、呼継に三本程致候様 長左衛門呼出談

候様甲斐守殿被申聞 七郎兵衛方え申遣候事

硝子コツフ上り候処不宜 又々上げ直 廿七揃

出候様弥右衛門殿被申聞候段祐之申聞 勇次え達

見本渡す 切子は不宜

雲鶴御火入蓋共下り 御磨き様し付堅め

左門殿御渡 勇次え申付候 還御前出来之積り

御火入手入出来 左京殿へ出す

御細工掛衆御預之内

アウ、キ板 三枚

檜 小割 二わ

右御作事より取寄 鐸五郎殿え出す

檜三分板 壺枚

右信濃守殿御断 鐸五郎殿え出す

- 一 硝子コツフ御見本之大きさ
- 所々吟味致し候処無之 余程大きめ
- 三十に弐十九上り 長甫え渡す
- 一 葎簀式枚出来 七郎右衛門殿え出す
- 一 明日田安一位様被為進物 御役所え出す 翌朝御のし包出す
- 一 昨日御達有之 長左衛門出居候旨八右衛門殿へ申上候

- 一 べにどの桜御継穂之義 長左衛門
- 罷出候に付承り候処 切穂最早
- 御時節後れに相成 呼継は未宜旨
- 申聞候間 其段信濃守殿え申上候処
- 左候は、呼継にて宜 昨日とは員数
- 多く相成拾三本継候様 尤一本
- 痛無之 弐本痛切詰有之 右痛
- 弐本之内にて継候様十三本継け
- 候哉 吹上え相廻拝見致し申上候様
- 権太夫殿被申聞 長左衛門拝見 継け
- 候旨申聞 御同人え申上 明朝御門明き
- 吹上え直に罷出 継相濟候は、吹上
- にて内膳正殿 権太夫殿之内申上 引
- 取候様被申聞 長左衛門え達す
- 諸式
- 一 壺寸板 長壺間 四枚／枚丸太 弐拾本
- 右吹上より出し候積り 役所え掛合濟
- 一 半土 中五／小四
- 一 染棕欄縄 七わ
- 一 四寸釘 三十本
- 右吹上役所え為持遣置候

三月六日

- 一 丸香合 一 卵香合
- 右御手入出来 玉子香合之箱御細工掛衆本取
- 濟 居台一所乗に付 杵村えも為知置候
- 二分真田鷄目出す 服紗 玉子之方 申付候
- 一 長左衛門吹上御用濟相廻 御鑑番より為届候

一 練土耆樽 にか塩式升 明朝五半時上け
信濃守殿断 八十八殿被申聞 半太郎え達す
小手之事 翌朝上り卯三郎を以出す

両丸

一 御老若方御側衆 吹上御庭拝見有之

三月七日

一 昨日コツフ用立式十七外損し壺つ
一 祐之申聞候 不用之分戻る
一 竹長柄鋏壺つ損し 柄付替文蔵え渡す
出来次第御差出し可被成候 数馬殿也
一 伊豆守殿にて御極め相成候御多葉古盆
銀打替明日出来之積り之処 明後朝迄
日延児嶋申出 御同人え申上る 明後朝上り
候は、 甲斐守殿え御差出可被成候事
一 去る二日奥締御植木御用立書
内膳正殿え御伺可被成候
一 御申送之小の小手二本 八十八殿え出す
一 長柄鋏出来 信濃守殿え出す
一 石台植孔雀石玉ク損 御手入
信濃守殿御申付 勇次郎え達渡す
但御箱は二階有之候

三月八日

一 植木御茶屋桜草之御雨障子
一式 左内え出す
一 竹楼吸物碗雀蒔絵損繕
新五郎殿え相渡 へ下る
一 明日被為進御見分に笹之間え
出 信濃守殿え申上置候

*
は空白

貞三様

一 御松鮎類御入用受取書 栄之丞より受取
一 明日御成跡 大奥東御庭樋さぶた拵
岩組直し 数馬殿注文之通 平五郎并
小普請方へ達す 三川嶋人足式人は又達す

三月九日

- 今日被為進物 御のし共御役所に有之
- 桜艸鉢植後刻下り候間 西丸へ廻候様
- 小善次殿被申聞候
- 御用御たはこ盆上り 甲斐守殿え出す
- 去る二日吹上にて御用立御植木類
- 御入用書 権太夫殿御渡被成候
- 御申送之桜草下り 西丸え廻る
- コンハツ壱本 権太夫殿御断 鐸五郎殿にて上出す
- 八分講鉞式挺同断 明後日上げ 文蔵え達
- 御預之内あらゝぎ板厚め之分三枚
- 半 鐸五郎殿え出す

三月十日

- 西丸より廻り候伽羅朴壱本 五十二間之御道え
- 痛不申様入念植付 伊豆守殿御申付
- 平内え達す 切抜前御堀の方え植候段
- 同人申聞 御同人え申上候
- 浜之口縫腰带七筋 御用迄為手当伴助え
- 御預 信濃守殿被申聞 伴助え渡置候

此段張出置候

- 竹楼膳壱つ手入 数馬殿断 鍔藏殿被申聞
- 勇次え渡す
- 小魚小貝代金書付 伊豆守殿御渡被成候
- 在郷屋御流れえ猿猴草ふとゐ重て御掃
- 除之節御植付致し候様 ふとゐえ計黒朴土置候様
- 八右衛門殿被申聞 新六え達す
- 葭簾式枚 数馬殿断 庄右衛門殿注文通
- 平右衛門達す 明日出来 半太郎え渡候様達す
- 台積品ヶ甲斐守殿被申聞上り 御扣所に有之
- 全用意也 御用人部やえ入置候

三月十一日

- 浜之節おみつの方被下銀鎖り胴ヶ壱
- 御役所御絵形入 御引出内え入置候
- 先日下り候桜木にて御印籠幾つ程出来候哉

承札 信濃守殿之申上候様甲斐守殿被申聞候
伴助呼出申遣候

一 去十月十九日御預木榧枯木にて御印籠拵え
伺候様甲斐守殿被申聞候

御根付絵形別昏に可伺事

一 天保八酉三月 文姫君様

文政寅七月 和姫君様

右之節 右大将様之被進無之旨小膳次殿之
申上候

一 牡丹雨除諸式出候様 帯刀殿被申聞 平右衛門之
達す 鏡之間之御寄可被成候

一 講鉞式挺上り 鐸五郎殿之出す

一 小手三挺 内匠殿より下り 半太郎之戻す

一 牡丹雨除諸式 御掛り之差出候

一 桜木にて御印籠 御根付出来員数并絵形

信濃守殿へ出 木形も申付候

御印籠 御根付共八つ程つゝ出来之由申出候

一 盛姫君様御逝去に付

西丸之被為進御台積 積立にて

入御覽候様被仰付 積立差出候

御覽相濟 明日被為進候旨伊豆守殿
被申聞候

一 公方様之両御丸御老中方御用掛衆

格式衆御組合献上 御台積二台

出来候様伊豆守殿被申聞 積立

御同人御見分濟 明日御老中方

始御見分に差出候様被申聞 御扣所に
有之候

西丸之も献上有之候旨被申聞

一 文姫君様之節は御組合献上無之

一 御預木榧にて御印籠出来之義 伴助糺し
候処 挽割木からし之上出来員数申上度旨

申聞 信濃守殿之申上候処 其通りにて宜旨被申聞

三本共同人へ渡す事

三月十二日

- 一 西丸え被為進御台積 御見分に
- 一 笹之間に出 信濃守殿申上置候
- 一 御印籠絵形下る 木形上り明日出候積り
- 一 去る九日山里御飴付出候替り巴鴨 未た
- 一 有之候は、手放候義見合可申伊豆守殿
- 一 被申聞 越前屋へ達す

一行 五本

- 一 右九八郎殿注文之通り宗藏へ申付候 上り候は、
- 一 御差出可被成候 出す
- 一 献上台つみ御各順 樗翁殿 丹波守殿と相成候
- 一 献上御台つみ 於御扣所御見分濟 上げ出る
- 一 二月分御納戸御用帳 九八郎より請取
- 一 巴鴨いまた所持致候旨越前やより申越
- 一 伊豆守殿え申上候処 いつ頃より番合候哉
- 一 序に承り候様被申聞 糺置候
- 一 三月六日大坂より番にて参り 未若鳥
- 一 雌雄共壹羽二十三〇二つゝ
- 一 右之段明日御同人え御申上可被成候
- 一 但御直段之儀は此方心得迄に候
- 一 孔雀藻御用意上げ置 折々損引替候様
- 一 甲斐守殿被申聞 三把四日目引替候 賄え
- 一 達す 上り居候

三月十三日

- 一 巴鴨番之義 伊豆守殿へ申上候
- 一 桜の木御印籠 御根付 絵形木形共
- 一 信濃守殿え出す
- 一 御申送之牡丹 御雨障子より下り 張替出来
- 一 吉之丞殿え出す
- 一 御盃口形之通吹立は出来
- 一 候得共 赤硝子蝶白透し候義にて蝶之形は
- 一 出来不申 惣白硝子にて蝶之形は
- 一 出来候 右にても日数十五日位無之
- 一 候ては出来不申旨兎嶋申出
- 一 信濃守殿え申上候処 左候は、木の

盃え硝子にて蝶をほり込透し并
白硝子に吹立朱塗に致し蝶を透
候義出来候哉 権太夫殿被申聞 相糺候処
両様共出来候旨 木の方は宜候得共 朱塗
の方は御見付如何有之哉 何れにも
下地拵出し可申旨申上候処 盃木の方を
早く下地にて伺候様被申聞 勇次え達す
硝子を朱塗の方も 出来次第下地出候積り達置候
木の方明日出来次第早々御差出可被成候

三月十四日

貞三様

- 一 御雛師近々上京に付 御用代願度申出候
- 一 南蛮鋏四つ鋸一目立 権太夫殿にて平右衛門え渡す
研付目立出来 数馬殿え出す
- 一 木の盃え硝子にて蝶彫込透し壺つ出来 入
御覽候所至極宜敷 日数十五日程掛り候ては
御間に合不申候得共 七つ拵させ候様被仰付候旨
甲斐守殿被申聞 兎嶋え達す
但蝶二羽三羽形ち違ひ付候様
- 一 檜壺寸角十 同目板二十 細苗竹五十 釘百
右小膳次殿断 伊織殿被申聞 宗蔵へ達
幕引針銅八尺 不残翌朝出す

三月十五日

- 一 瓦小形唐竹付十枚 小普請より取寄 甲州え出す
大奥御鳥籠 在郷家之分瓦御用意致置候様
清五郎え達す 御表御鳥籠御用小形瓦之分
も御用意致置候様宗蔵え達す 甲州也
- 一 硝子猪口朱塗蝶透し両様出来 甲州へ出す
こて 壺
- 一 右損引替上り 小膳次殿被申聞 宗蔵え達 上り候は、
是迄之柄添御差出可被成候 桜花焼印也
- 一 硝子猪口両面塗之方宜敷 形ち御注文
通り吹立に不及 有合猪口にて宜敷 色々
上げ候様甲斐守殿被申聞 兎嶋え達す

一 紫旦小切れ三つ下り

御軸 十幅 八分半 四／九分 六

一 右挽立 左門殿被申聞 児嶋之申付候

一 御雛御払金百八拾兩三分六匁

一 与三郎渡候 小膳次殿之申上候

一 帳面御同人へ留り居候

一 小魚小貝御代金 伊豆守殿之出す

一 くて古柄とも上り 八右衛門殿之出す

一 石台植玉ク御繕出来上り 信濃守殿之出す

一 明日長左衛門呼出し 大奥東御庭之

一 松緑不宜え御養十分に可為致様 外に

一 御植替に可相成松植替候ても 御時節宜

一 候は、直に可被仰付 御座間之桜痛有之間

一 拝見之上御養之御時節宜候は、直可致様

一 八右衛門殿御達 半太郎を以達

一 去る晦日申付候御繕出来 平八郎殿之出す

一 竹楼 吸物

膳 三 菓子盆 壺

碗 壺

一 硝子盃上り居候

一 藻五巴 織部殿之出 臨時仕継置申候

三月十六日

一 御手試掛損御繕 権太夫殿御申付

一 勇次郎之達渡す 但銅之松

一 鳥おとし百枚拵置候

一 藻式把 孫三郎殿之出る

一 当時御不用之葭簀杓有之候は、

一 可出様鐸五郎殿被申聞 文蔵之談候所有之

一 御同人之出す

一 硝子朱塗盃猪口十揃にて極り并最初之壺つ

一 都合拾壺出来候様甲斐守殿被申聞 伴助へ

一 申付候

一 芍薬御花見 西丸御式方様之被為進 御忌明にて

一 御覧可有之間 心掛候様甲斐守殿被申聞

一 両所之達す

*御手試(拭の誤記か)

- 一 替鶉之事 仲殿被申聞 太三郎之談置候
- 一 山城守殿 和泉守殿献上物代金来る
- 一 大奥御鳥籠懸り候幕付簾 十九日
- 一 懸り候間 夫迄御手入致候様 信濃守殿被申聞
文蔵之達す
- 一 御印籠木形 伺之通にて宜敷 何れ員数
相知次第可被仰付旨甲斐守殿被申聞
- 一 木形勇次之渡 木櫛/桜 取交数々出来候由
御根付も右同断
- 一 粉抹香一袋 御鳥掛衆之出す
- 一 宜敷替り鳥有之候は、 明後十八日
- 一 朝 書面持参候様甲斐守殿被申聞
越前屋へ申遣候
- 一 紫旦軸 八分半 四/九分 四 右伴助之可達事
- 一 何となく御慰品入御覽候様被仰付 少々
出候処 御用無之
- 一 水銀引鏡杯は宜無之
- 一 前条銅物松之御手拭懸け 御手入出来
甲斐守殿之出す

三月十七日

- 一 御片取御絵形出し候様甲斐守殿被申聞 児嶋之
御達可被成候
- 一 一昨日御手入繕石台植玉ク置物
信濃守殿御一覽被成候処 最早
元之通損し居候間 早々繕ひ
候様相下り 勇次之渡候
- 一 御細工所より御慰品上り 御用人部屋へ入置
 - 一 縵子さて 二本
 - 一 銅網張曲物蓋 二
 - 一 石菖鉢 二
- 一 右注文之通り明後日差出候様河内守殿
被申聞

三月十八日

- 一 銅網三枚 内匠殿へ差出候 御作事御預

之内也

- 一 細苗竹磨き十五本 見本之通上げ昨夜
- 一 宗蔵へ申付候 後刻上り次第 御細工掛衆へ
- 一 御差出可被成候 孫四郎殿也 上り出す
- 一 替り鶉 おん／めん 明日昼頃出候様仲殿被申聞
- 一 越前屋え達候事 但内々
- 一 珍敷替り鳥伺候様甲斐守殿被申聞候処 越前屋
- 一 替り山から 十八〇二
- 一 右書面にて申出 甲斐守殿え出す
- 一 新御殿御庭え白蒲公英有之 其近所え
- 一 実蒔付に相成候間 手を付間敷 甲州
- 一 被申聞 熊蔵を以支配え達
- 一 子々小寸切杓杯 隔日廻りと札付 明朝四時より
- 一 出し候様数馬殿被申聞 長由え達す
- 一 御片取絵形少々出来請取置候 明後日不残
- 一 出来之旨勇治郎申聞候

三月十九日

- 一 十六日信州にて申付候大奥御鳥籠幕付
- 一 簾 数馬殿にて源治郎え渡す
- 一 大奥御掃除
- 一 御障子建付御時節は 五半時入
- 一 御障子明付御時節は 早入
- 一 右之通心得候様甲斐守殿被申付候 何時揃と
- 一 被仰付候節 早め刻限申遣候ては宜敷無之
- 一 被仰付通り刻限に相達可申旨 是又支配え達
- 一 糠子小寸切に杓杯 日々四時楓之間え
- 一 可出様甚左衛門殿断 帯刀殿被申聞
- 一 祐貞并掛り新組え達 入物渡す
- 一 大奥御鳥籠之さぶた一つ 甚左衛門殿
- 一 御断 伝之助殿被申聞 小普請方銚蔵へ
- 一 達 明後日出来
- 一 一昨日河内守殿被申聞候さて石菖鉢銅網
- 一 蓋 御同人へ出す
- 一 替り鶉式番 越前屋代之者持参
- 一 仲殿一覽済戻す 昨日多三郎え

御同人より御直談之通 猶又心得可
申様達す 御代金書受取置候

- 一 以前吹上奥締之節 小間物類
御餽付致し候植木屋長兵衛拵置き
之品御買上之義に付書面 権太夫殿
御渡之事

- 一 孫四郎より達 きり上り居候処
今日延ひに付 明日御差出可被成候

三月廿日

網蓋付

- 一 御錦魚 去年八月朔日ノ御預に相成候品 壱
右織部殿え出す

巳年出来

- 一 同断 去年六月廿八日木香出し被ノ仰付候品
右御覽済 コクソ塗例之通りに致し
出来候は、五十三間え遣 水張置候様
織部殿御達 平右衛門え渡達す

- 一 御錦魚舟は不残御植木掛り御預りと
被仰付候間 以後奥杯より下り候節は
為知くれ候様織部殿被申聞候 尤
信濃守殿御承知にて御植木掛り名前にて
御作事え御預けに致置 御小道具役にて
心得可申様被申聞候

- 一 海老蔓虫 先日御掛合有之候所 暖氣
故敷変生に付 見本佐兵衛持参
伊豆守殿入一覽伺候所 是にても宜間
上げ可申様被申聞 同人え達す

- 一 御錦魚船御預け有之候哉 信濃守殿
被申聞 御作事相糺候処 今朝御手入に
壱つ下り候外無之旨平右衛門申聞候
御同人え申上候

- 一 在郷家御鳥籠掛札之釘 此後
御庭入之節折釘と打かへ可申 半太郎
六之助杯可然と権太夫殿にて平内え達
折釘渡し置候

栄弥様

- 一 椀目板五枚 鐸五郎殿被申聞 出す
- 一 格好より深き錦魚船可有之 若哉西丸にても
残置有之候哉 小細工相廻承り候様信の守殿
被申聞 栄之丞相廻 西丸にて内々奥向迄も尋
候処無之旨清知申聞候旨栄之丞申聞 委細
小膳次殿え申上候

但巳預帳操候所 深き錦魚船式つ 寸法
同様楓懸衆え出居候 巳三月六月

- 一 替り鶉めん計 明朝入御覧候様被仰付申遣
池上様

- 一 被仰送之錐大小九本 壺錐六本 孫四郎殿に極り
不用 文蔵え上る
- 一 御錦魚船葭簾一枚 米之丞殿注文之通り
惣蔵え達す
- 一 西丸牡丹花見之節被為進品御覧 極品申付候
藻五把 御役所え出す 臨時三把断上り候

三月廿一日

- 一 今日被為進御式品 御役所え出す 御のし共
- 一 鶉上り 壹羽御極り 三〇鮮鯛金より出候由
甲斐守殿也
- 一 牡丹花見に付御投物組重 御役所え寄る
如意柄杓上り候
- 一 さふた 小普請方より差出 請取
- 一 西丸え先日御飭付に差出候替巴鴨 今日
御飭付に出候様甲斐守殿被申聞 太三郎え達
- 一 今日西丸より躑躅相廻り候間 右持人にて在郷家
路次井戸近辺御印有之候所え為植候様
小膳次殿被申聞 源次郎え達す
- 一 精姫君様御灸之節之御見合緋
山入紋縮緬伺候所 いまた被進無之
候得共 御残りは戻候ても宜旨信濃守殿
被申聞 左内え戻す
- 一 さふた伝之助殿へ出す

三月廿二日

- 一 氣吹龜花活二通り上げ 明日御覽
- 一 有之候旨東條被申聞 児嶋へ達す
- 一 御預之内黒部板 厚／六分 壺枚 鐸五郎殿へ出す
- 一 万年草負龜置物手入 小膳次殿御渡 伴
- 一 助え渡す 明後日出来

- 一 御片取絵形 御挑灯絵形 甲斐守殿へ出す
- 一 氣吹龜花活上り候段 小膳次殿へ御達申上

三月廿三日

- 一 巴鴨之事 番 四十七〇之処

追々引方にて

三十九〇一

長左衛門え

- 一 先達て御預に相成居候

葡桃 御実生 三鉢

- 一 右早々差上可申様九助殿被申聞 達

遣候処 長左衛門他行致不居合候に付 助三郎差添

差出候間 与十郎殿出候処 長左衛門に是非に出候様被申聞

同人へ達 七半時過出候得共 最早遅候に付 明朝五時前不遅様

御植付之心得にて出候様九助殿被申聞 達

- 一 右大将様御誕生日之節被為進品 御極相成

蒔へ卓吟味 児嶋へ申付る 小膳次殿也

- 一 来る廿七日吹上奥締之御様子に付

植木類御饅付心掛達置候様 権太夫殿

被申聞 七郎兵衛 彦兵衛え達す 尤

廿六日に弥之義伺に出候様達し置候

- 一 御絵挑灯御片取伺相済

勇次え達す 小膳次殿也

- 一 十五夜 御みつの方え被下

棚饅 猩々ヲルコール御極め

二階に有之候

- 一 氣吹龜花活 御覽有之候之処不宜 尚又

吟味児嶋へ申付候事

- 一 御新座敷御用

一 孔雀藻 六把程

右土置候様龍太郎殿被申聞 拵置候
竹楼吸物碗雀蒔絵御繕出来
新五郎殿え出す
替り巴鴨 番共御用に相成候間
越前屋え引取置 持主出立候は、
幾日に相納可申候哉と伺に出候様 甲斐守殿
被申聞 太三郎え達す

三月廿四日

植木屋長左衛門菊桃御植付に
五時罷出 九助殿え御達申置候
卓上り居候 小膳次殿え御申上可被成候
七郎兵衛早々罷出候様信濃守殿
被申聞 呼出し達置候
罷出 甚左衛門殿にて還御済 入御聴相済
塗蒔絵卓三つ 小膳次殿え置物共出す

三月廿五日

御手入万年草亀置物 小膳次殿え出す
巴鴨所持之旅人今朝出立候旨太三郎申出
甲斐守殿御申上候処 廿七日五時迄に持参候
様被申聞 達す
御植木御飭付之節 兔玉類花活道具
差出し申間敷兼て御達し 如露 小手 根切
杯は植木に附候品故御飭付に差出候て宜旨
心得 甲斐守殿被申聞 新六えも心得達置候
前条之通には候得共 廿七日吹上
御飭付は御植木類之外 如露 高八寸位 計
にて宜旨内膳正殿御達被成候并御地植
之義に付御同人御達之通 七郎兵衛悴并彦兵衛代辰五郎え
相達申候 御地植之事
御台積献上御代金請取書
左近将監殿 樗翁殿御分を除き
御跡之分 伊豆守殿え出す
明後七日吹上奥締 植木屋共

明朝弥之義伺出候様達置候 初前条之
義に付出候間 弥之積達遣候 若相止
候は、御達可被下候

一 先日替鶉めん式羽

御覽出候節 一羽玉子式 一羽は

玉子一つ産有之 式つ方御用に玉子共

相残 一羽之方壺つ子計御留に可

相残候処相下り 右之玉子之積

にて替鶉の玉子壺つかへり候を

明後廿七日差出候様甲斐守殿被申聞

尤御入用出候ても宜 越前屋代え達遣置候

御門明き上げと達す 上り次第御差出可被成候

一 一つ橋御年始御入被為進品

上げ 三ヶ所え達置候

一 孔雀藻八わ 御植木掛衆え出す

一 御庭方始御手当 新六え渡す

一 棚拵 新組御手当 清三え渡す

三月廿六日

一 一つ橋御年始書拔置候

一 右御品々三ヶ所より上り 御用人部やえ

入置候 後刻御申上可被成候

一 鉄ひごさ蓋損手入 権太夫殿

御断 斧太郎殿にて宗藏え申付

置候 出来次第御鳥掛衆之内え出し

可被成候 万藏を以出す

一 紫旦御軸幾日出来候哉と吉十郎殿

尋に付相糺 明後日出来之旨申上置候

一 小膳次殿え出居塗蒔絵卓 今少々小さき処

吟味 児嶋え達す 御品は二階之上置候

一 去年年壺ヶ年御入用帳十四冊 小膳次殿え出す

三月廿七日

一 巴鴨番 替り鶉玉子壺つ上り 甲州え出す

一 御表具切れ数々明日上げ 甲斐守殿被申聞

御細工所え申付候

- 一 巴鴨御用に成 鮮鯛金より御払出候由 甲州達
- 一 大四つ輪籠式 信濃守殿御断にて越前屋より
上げ候旨清三申聞候
- 一 替り鶉之御代金鮮鯛金より出候に付
- 一 御代金書別に可出候様甲斐守殿被申聞候
- 一 孔雀藻七把 御新座敷勝太郎殿え出す
- 一 来月二日一つ橋御年始被為
- 一 進品 小膳次殿にて御極め 御手入御箱
申付 廿九日上げ達す
- 一 来月十一日一つ橋御屋形え
- 一 御立寄被仰出被為進品 甲斐守殿
にて御極め済候 御手入御箱銀物類
申付 来月七日上げ達す
- 但
- 一 御能装束 明日何と申義極る由
夫より上げ可達事
- 一 右御覧に出候節 御文庫入之
箱瀬子式つ可被伺候事
- 二階に有之
- 一 二日之御餽付之義 支配え達し置候
- 一 御不用御道具類戻す
- 一 但右之内竹彫置物三つは留め置候
少々御心掛おり候よし 留め置候様小膳次殿
被申聞
- 一 実生之御鉢物鑑定 権太夫殿より
下り 七郎兵衛惇彦蔵召連 睨と難申上
候得共 唐楓に可有之旨御同人え
申上候

三月廿八日

- 一 先日織部殿にて申付候 水舟コクソ
出来 九助殿え御渡申候 平内え達
五十三間え参り候
- 一 御新座敷御鳥籠之戸三枚 仲殿
注文之通七時頃迄に出来候様信濃守殿
断 文蔵え申付候 御出し可被下候

一 椽板六枚 金四郎殿被申付 文蔵え達
上り次第御新座敷掛衆え御出可被下候
上り出す

一 一つ橋え御立寄之節被為進御能装束
紅紋大口 狩衣 厚板

一 右早々上げ甲斐守殿被申聞 寛蔵え
申付る 御納戸児嶋へも達す

一 箱瀬子 朔日御覧有之候旨福村達

一 栗焼 児嶋より上り候処 失張同様に付 鶉殿え

*失張は矢張か

一 申上候所 湿り付出候様被申聞 蒸出候処

一 宜敷様には候得共 無程堅く相成候に付焼候
節加減候様被申聞 伴助へ談 明日和らか出
来上げ候様達す

一 御表具裂十九卷上り 甲斐守殿え出す

一 大奥東御庭木戸損所 明日御庭入之節

一 拝見 此後入候節御繕 小膳二殿にて金七郎へ達

一 御表具切四卷御留不用 良之助へ戻す

一 茶地 中模様／小模様 白地 中模様／小模様 上げ候様甲斐守殿
被申聞 同人え達す

一 翌朝少し上り 角牡丹え入 尚後刻上り候積り

一 嶋村え下り候御時計之事

一 左門殿取扱紫巨軸 八分半 四／九分 四 出来 挽粉

一 小切目方差引書添 御同人え出す

一 右小切一つ又々下り 巻物軸一卷分挽方

一 左門殿被申聞 児嶋え申付候

一 替り巴鴨番 替り鶉一代金 甲斐守殿御渡

一 越前屋太三郎へ払申候 請取書御同人え上る

一 狩衣地五 厚板一上る 尚吟味申付候

一 右装束代 御納戸えも達候処吟味行届

一 兼 明日迄御日延申出候

一 前条東御庭木戸 明朝拝見之上 直し方

一 出来候は、直に拵候様被申聞 翌朝三平え達す

三月廿九日

一 ■金筒遠眼鏡 壱つ

一 右損御手入甲斐守殿御渡 児嶋え申付候

- 一 鋸一挺目立 小膳次殿被申聞 惣蔵之達す
- 出来次第御差出し可被成候
- 一 御表具切七卷上り 信州え
- 申上 角牡丹有之候
- 一 御能装束 御細工所より上り
- 角牡丹え入置候
- 一 緋紋大口 御納戸御細工所より
- 御断申出候
- 一 御新座鋪 御鳥籠蓋羽
- ノ四枚 壺寸小割五本 信州
- 断 仲殿にて出来 出す
- 一 栗焼三百上り有之候
- 跡申付置候
- 一 巢鶏三羽 竹之伏籠七 権太夫殿
- 御断 仲殿にて越前屋より上げ候旨清三申聞候
- 一 鋸壺挺目立出来 信濃守殿え出す
- 御表具御用鉛三分角長八寸
- 一 三本 良輔殿え出す
- 湯煮玉子壺 臨時鷹之間え出る

三月晦日

- 一 栗焼又々今朝千五十上り
- 御役所箱に入置候 残り下し
- 奥之間棚に有之候
- 一 但児じま次第 又々御申付可被成候
- 御鳥籠御用
- 一 椀板 十三枚
- 椀壺寸角 五本
- 式間
- 一 釘 三百本
- 右八右衛門殿御断 鐸五郎殿え出す
- 一 一つ橋御年始口不残揃ひ
- 笹之間え御見分に出 信濃守殿え
- 申上置候
- 一 先日御用意に上げ置候こふぜひ紙五枚
- 儀左衛門え戻す

- 一 前条御品見分済 角牡丹え入置候
- 一 御休息植木御茶屋え御鳥籠出来に相成候由
- 一 右本取御場所拝見 御作事方入可申処
- 一 今日御差支有之 延引に成 甲斐守殿
- 一 御立寄口銀紙挟御用止之 小膳次殿被申聞
- 一 御細工所え達す
- 一 同断口御能装束 箱瀬こ御役所え寄る
- 一 絹縮上げ十八反 小膳次殿え出す 紅地四反
- 一 角牡丹に扣有之
- 一 二日御休息御庭蒲公英御摘艸に相成候に付
- 一 手附へ世間に有之焼物籠入御覧候処
- 一 宜敷手を藤に附替候様甲斐守殿被申聞
- 一 九つ明日出来次第出候様伴助え達す

四月朔日

- 一 栗焼千 こじまより上る
- 一 当月十三日筑前守殿婚礼に付
- 一 溶姫君様加賀守夫婦え当 被為進物上げ候様
- 一 昨夜甲斐守殿被申聞 両所え達す
- 一 丸藤壱本 小膳次殿断 嘉順え渡す
- 一 十一日御筭箱甲州え伺候所 何れ御細工掛迄
- 一 被申聞 熊太郎殿へ申上候処 桐板式枚上げ被申聞
- 一 宗藏え達す
- 一 箱瀬こ式つ御極め 梅苔共銀かな物にて
- 一 縫之上え取付 蝶の方羽根ぼつ々々え銀取
- 一 付
- 一 御能装束は明日弥五郎え為見られ候
- 一 絹ちぢみは三反奥え廻り 跡は角牡丹
- 一 文こに入有之 被為進済迄留置候様
- 一 御表具切れ金襴
- 一 白茶地 小室牡丹から艸小模様 三尺五寸
- 一 同 鶴松小模様 同
- 一 同 牡丹中模様 七尺
- 一 先入用書為出候上立切候様 甲斐守殿
- 一 被申聞 五左衛門え渡す 御手目録より御払出候由
- 一 先日下り居玉夕置物 後刻御差出し可被成候

*玉夕は玉クの誤記か

一 明日は植木屋道具出し候に不及旨 五日吹上之節は

如露出し候様甲州被申聞 委細金七郎え達す

一 玉ク石台植御手入出来 信濃守殿え出す

一 来る四日大奥御庭入之節 長左衛門と

外に功者なる者二三人出 大奥

御座間之桜痛相見え候壺本を

拝見之上 御同所にて切詰候方宜候はゞ直に

可致 又三の丸杯え御下け願候方宜候はゞ

其旨可申上様権太夫殿御達 文通にて

七郎兵衛え達す 翌朝此一件信濃守殿にて直に

掘立被仰付 七郎兵衛外三人奥え相

廻り申候

一 大奥三の口内稻荷社裏の方椎来る

四日御植付之義半太郎承知 信濃守殿

御達之事

一 鋸壺挺■印目建直 明後日上げ

九助殿にて平右衛門え渡達す

一 誠順院様え御立寄之節被為進

絹縮一反 信濃守殿にて御極め相成 二階有之

御文庫之事

一 瑪瑙砂利有之候哉と伊豆守殿より

御糺に付 御庭方承り候処 先年四本戸に

有之 御焼失に相成 宜分を五拾三間に

仕廻有之 右之内綱策八分目程

御同人御差出被成候 跡元々え仕廻

置候様被申聞 新六え達す

一 来る五日 吹上奥べり之旨 御植木御飭付例之

通 持込小手 如露差出候様権太夫殿被申聞

植木屋へ達 如露は小さき方也

牡丹鉢乗候

一 台 壺

右孫三郎殿より御預之旨 平右衛門へ渡候

御表具切れ入用書請取置 申送候

一 栗焼千七百上り 箱へ入置候

一 御細工所児嶋えも十三日口の御道具上る

一 御表具切入用書 甲州え出す

* ■は檜田内に木の篆書

四月二日

- 一 目高之御水船の台と竹簾 鉄之進殿
- 御預 宗蔵え達渡す
- 一 梅に鶴御置物御手入 八右衛門殿にて
- 勇次郎え下る 明日出来に候
- 一 狩衣地極る 卷直申付候
- 明日糸飴児嶋え御下け可被成候 不用
- 御納戸 御細工所え戻す

四月三日

- 一 カナアリヤの卵 式つ
- 右小膳次殿御渡 香箱に出来候様被申付候 児嶋
- 出次第可談事
- 一 一橋え花植類七品持運濟 人足御暇達す
- 一 楓之間蘓鉄之葉壺枚 甲斐守殿
- 御渡 勇次郎え御預に下る
- 一 カナアリヤの卵 伴助え申付候処
- 是迄度々出来候間 右之通拵候旨
- 申聞候 猶又蒔絵杯と之処 御伺ひ
- 可被成候
- 一 楓之間御用
- 一 牡丹雨除諸式
- 一 桜草同断
- 右七五郎殿より御預 文蔵へ渡す
- 一 鋸目建出来 与十郎殿え出す

加茂葵献上之

- 一 鬻物式つ御下け 是にて加茂之水桶出来
- 之上 御次能道具に可致様信濃守殿
- 御申付 辰之助え下け申付候
- 一 梅に鶴御置物御手入出来 八右衛門殿へ差出候
- 一 気吹亀御花活見当り 児嶋より上り東條へ出す
- 一 昨日御臨時御植木御用立帳面請取候

四月四日

一 金粉溜筆三対 児嶋より上 権太夫殿へ出す

内壺対御用立 式対下る

一 前条花活御覧有之候処不宜 又々吟味
申付候事

一 小提餌箱十仕継 万蔵へ申付候

一 白中鏝半土十五 伝七郎殿へ出す

一 角帽子

六つ

一 右忍紐付 児嶋之下る 見本壺つ添遣

一 御多葉こ盆 紫旦獅々牡丹 壺

一 右御修復 小膳次殿御渡 児嶋へ申付候

八つ出来之旨申出候

一 植木御茶屋桜草諸式 兵三郎殿より御預け
惣蔵へ渡す

四月五日

一 小嶁式拾疋半之上げにて 今日より増候様甲州

一 断 伝之助殿被申聞 金太郎 俊碩へ達す

一 植木御茶屋構へ白鴛鴦御鳥籠五間統

一 外に壺間絵図之通り伺済 甲斐守殿

一 被申聞 宗蔵へ達

一 御同所 後刻口伝にて御作事拝見之事

一 扣杭之事 大披を引戸に直し候事

一 花くぼり中小三拾本つゝ上げ達す

一 狩衣地化粧飴出来上る 箱本取申付候

一 絹通し壺張替 明日迄に出来可

一 申様左門殿被申付 勇次郎へ申付候

一 植木御茶屋御鳥籠本取御作事 御成

一 廊下二枚襖より入 信濃守殿御附添

四月六日

一 花配り上る

一 御作事御用意之瓦

巴

丸 三十枚つゝ

唐

平 式十五枚

右信濃守殿にて御次之寄置候

但仕継三十枚つゝ上げ 平右衛門之
達置候

一 小普請方よりも御用意之瓦

上げ達置候 上り次第御伺候事

一 ぬか子 天氣相に付御断申出

道嘉を以御届申候

一 前条瓦 兼て御用意達置処

御作事 小普請方共詰所之上り居

不申恐入両所より申出 八右衛門殿之申上

置候 奥之番衆 御小道具役も恐入申上相済

一 木地台 一

右来る九日上げ

一 生花改敷 二鉢分

右来る十日晩上げ

何れも備中守殿にて信濃守殿御断

正悦申聞 御賄杵村之達し置候

一 生花改敷御用無之旨宗藏申聞 御賄之
達す

一 かな物附箱瀬こ 式つ

一 蝶透盃 七つ

一 硝子同断 十

右出来 伴助差出 甲斐守殿之出す

一 御台積品用意致候 並塗物ノ赤物

一 浜織物御立用金 伊豆守殿被申聞候事

明日差出可被成候

一 一橋様御庖瘡御治定之由 御間合次第

被進台積品御覧有之候旨小膳次殿

被申聞候 上り御扣所に有之

一 鯉節のし出来候

一 精姫君様御灸之節被進

一 紫板入紹 疋物

右上げ候様小膳次殿被申聞 翌朝御納戸之達

一 御同人様之被進山入紋下り 兼て極り居候は三月

- 一 廿一日被進濟候旨小膳次殿被申聞 御帳之書入置候
- 一 朔日ヶ条に有之候御表具切 曲尺にて裁切候様甲斐守殿被申聞 三切共御同人之出す御手目録より御払出候旨被申聞候
- 一 極小螻 今日より四拾疋宛増候様甲州被申聞御賄榮寿え達す

四月七日

- 一 五尺台無之 今日中上げ杵村之申遣す
五尺五寸 四尺 角牡丹え出し置候
- 一 四尺五寸台壺申付候 今日中上げ
- 一 達磨耳つく 今一通り拵置様伴助え申付候
- 一 霞か関被進品式箱拵直し 杵村呼出し申遣候 服紗皺伸可申付
- 一 緋縮緬 紅羽二重疋物上げ 児嶋之申付候
- 一 廿日後外山屋敷御通拔有之由 被進品心掛甲斐守殿被申聞 伴助えは達御細工所は少々見合可達事
- 一 卯年三の九御たはこ盆 紫旦鷹道具
- 一 瓦 丸巴丸三十つゝ 唐草五枚 右下り 文蔵え渡す

九日被為進

- 一 一橋え為上御台つみ赤物極る 見分濟
紅絵 上り次第可伺
盃蒔へ 十五申付
見分も済
 - 一 功者なる植木屋出候はゝ 楓之間に御用有之間留置候て可申聞様 八右衛門殿御達 金七 半太郎え達す
 - 一 御組合献上代金 伊豆守殿御渡し
不残揃 伴助 杵村代幸蔵え渡候
精姫君様之御灸之節
 - 一 紫紹板へ 壺反
- 右御極め御居台え乗せ 御役所御たんす

- 御引出え入置候 権太夫殿也
御台積紅絵上り 信濃守殿え
出す 式十四枚也 右之外絵様替り
候は無之旨勇次申聞 申上置候
一つ橋御立寄被為進御箱御居台
共留め候所 最早出来上り 致手当
二階え上げ置候
四尺五寸 五尺御居台出来上り
四尺五寸角牡丹 五尺は御扣所え出し置候
赤物双六にさい杯ぞも拵候様
権太夫殿被申聞 勇次郎え達す
赤絵十一枚相極めに成 勇次え渡候
壺枚大きく候に付 立切候積り
但以来紅絵出候節は よく々々
疱瘡に縁の有歌計り出候様
権太夫殿被申聞候 勇次郎達置候
桧植木札三十枚つゝ式通り
右八右衛門殿御断 鉄之進殿え出す
来る十一日御駕籠台御飭心得 金七郎え
達し置候
紅葉拔取候様被仰付 尤何ぞに
可相成間念入取り可申旨 信濃守殿
被申聞 金七郎え達す
御不用緋板ハ類 紫板紹 御納戸え
戻す
藻五把大岡持え入 孫三郎殿え出す

四月八日

- 加州え被為進品 唐子之間
御疱瘡濟之御簾 被為進品多
上みえ出居候 帯地御好上り御役所え出す
唐子之間御縫帯 権太夫殿え出す
加州え被進品本取濟 夫々手入下る 十一日上げ
砂鉢植珊瑚樹棚飭 御細工掛衆え出居
御箱出来に付
霞か関被進御箱白削出来 角牡丹え入

- 一 蝶透し盃御覽濟 飯箱に入御役所御たんとすえ入
- 一 不用道具下る 帶地戻す
- 一 御簾中様え十五日被為進御棚飭之御卓極る御手入児嶋へ下る
- 一 大奥東御庭御砂利間之松緑払候ては不宜來春時節に至払申間敷 格別景氣
- 一 宜候は、伺之上払候様甲斐守殿被申聞 部や番熊藏え委敷申達候
- 一 鯉節のし壺つ用意致候
- 一 大置物 両所より上る
- 一 帶地二筋上る 外三筋少々紫入に候得共受取置 尚吟味申付る 伴助方無之

四月九日

- 一 一橋え被進赤物御台積 御役所え寄る
- 一 手遊蒔絵之盃十五枚程用意 小膳次殿被申聞 児嶋え達す
- 一 右台積之内紅絵十壺枚
 - 赤こふせ昏二枚繼にて二枚合 たどふに包む
- 一 霞か関 御縫帶／御添帶 御役所え出す
- 一 一つ橋御立寄に
 - 銀 香箱 御台 ■■
 - 銀 文鎮 金銀胴 〆
 - 御筭下り付け
- 右出来 御細工所より請取置候 御間合次第
- 一 甲斐守殿入御一覽可被成候 二階に有り
- 一 三本貫御居台壺 三尺／壺尺八寸 出来上り正悦え渡す
- 一 蜘蛛 明日より三十疋つゝ日々上げ 伊豆守殿御断 仲殿達 友和を以御賄え達
- 一 御鳥方日々帳え出候様談置候
- 一 御居台壺枚 寸法芋繩之通り
- 一 権太夫殿御申付 明後日上げ御達可被下候 但大奥御用之旨被申聞候

帶地紫少々有之方も上る

四月十日

一 帶地尚又吟味東條被申聞 御納戸之達
榮弥様

一 居台申付候

一 右衛門督様御庖瘡之節被為進一件書拔
小膳次殿之出す

一 桜艸諸式下り 御預要人殿被申聞 文蔵へ渡

一 一橋之十五日敷十八日被為進物有之候旨小膳次殿
被申聞候

一 去る七日 八右衛門殿達 植木や人足之内功者之者
出次第之達 今日長左衛門外御用にて罷出

一 甚左衛門殿之御達申候処 御用無之旨被申聞候

一 十三日口御見合砂鉢箱之居台明日上け

一 杵村へ申付候 砂鉢 拭立伴助へ申付候／箱受取

一 一橋御酒湯之節被為進品心掛候様甲斐守殿
被申聞候

四月十一日

一 御摘艸入 先は通之籠手藤にて出来 九つ

出候様 其已前竹手之通例焼物入籠

一 九つ上げ候様甲斐守殿被申聞 伴助方へ申遣候
上り次第早速可出候

一 霞か関被進品 御のし添御役所之出す

一 御錦魚舟之簾 寸法本之通り壺枚

一 甚左衛門殿断 卯之助殿にて明日上け 文蔵之
申付候

一 加州御縁女之被遣帶地極る

一 精姫君様 来廿二日御縁組被仰出候 御賑

敷有之 右之節被進

大置物 岩に銀鷄番

雛三羽付

此ひよこ形不宜

探淵御下絵認め御下け

之由

- 御箱はけんどん蕨手二つ折
- 桐板荒柱一枚五分厚上げ 勘次郎殿被申聞
- 明日上げ 文蔵え達す
- 前条御極め之大置物 小膳次殿にて角牡丹え入る
- 直段引方之義 寛蔵へ達 甲州也
- 帯地不用 御下け可被成候
- 狂言面不足品
- 泣尼 通円 楽阿弥 祖父 宇曾吹
- 犬 猿二
- 右追々新調 甚左衛門殿被申聞 仁右衛門之談置候
- 不用置物帯地下る
- 一橋民部卿様え来る十五日赤物
- 被為進候旨信濃守殿被申聞候
- 大奥御用
 - 棧唐草瓦 十八枚
 - 平瓦 二十八枚
- 右小形之分明日差出候様信濃守殿被申聞 翌朝出す 兼て用意之分也 跡仕継小普請方達す
- 先日御預目高船の台竹すたれ 鉄之進殿へ出す

四月十二日

- 一 明日加州え被為進 御見分に
 - 一 笹之間え出 信濃守殿え申上置候
 - 一 吹上匣馬之代 権太夫殿え出す
 - 一 昨日御用立御地植物類四品 今朝御住居え相廻り候
 - 一 目高船の台竹すたれ引替にて下り 御預
 - 一 平右衛門へ渡す 内匠殿也
 - 一 小形巴瓦用意致置候様 権太夫殿被申聞
 - 一 小普請方徳次郎え達す
 - 一 前条小形瓦下り居候事
 - 一 一橋え十五日被進赤物御台積極る 四尺五寸
- 木にて賽二つ拵候様申付候

一 同断御酒湯之節被進品極る

民部卿様へ被進は御表より廻り 御守殿并御簾中様

御品は御錠口廻り 甲斐守殿被申聞候

一 一橋之被為進御重箱伺候様 甲斐守殿被申聞
伴助へ申達候

一 十五日被進品上り 二階有之

一 精姫君様へ被進大置物鶏之雛御下絵

一 相下り 與三郎へ渡 仕直し手入共申達候

一 廿日出来之積り 本取済

一 気吹亀花活 御細工所より上り候分御伺御下け可被成候

一 五日吹上にて御用立書付 権太夫殿へ御伺可被成候

一 けんほ梨子 最初出候方にて御軸壺組

一 壺寸三分に挽方左門殿被申付 式木とも

一 伴助へ渡達す

一 天花粉壺升 児嶋より上 左門殿へ出す

一 今朝小普請方より上り候小形瓦 左之

一 通り御用立 御不用之分不残勘兵衛へ

一 戻す

小形

一 棧瓦 十九枚

一 棧留草瓦 三十四枚

一 平瓦 十八枚

一 本葺唐草瓦 十枚

一 小形瓦御仕継壺品五十枚つゝも申付

一 候様 尤入念焼には不及旨信濃守殿

一 御達 清五郎へ申達候

一 式間床へ御用立可申大置物銀気

一 無之御手輕之品 御女中様向にて早々

一 上げ 小膳次殿御達 両所へ達す

一 目砥合砥壺挺つゝ 数馬殿断 伊織殿

一 へ出す

四月十三日

一 御休息植木御茶屋構へ今度鴛鴦御鳥籠

一 五間続外に壺間新き出来 絵凶面之通諸事

一 伺済 甲斐守殿にて文蔵へ達す

- 一 橋之被進御重伺濟 杵村之本取御申付
- 可被成候 廿一日也 御膳番衆御品詰候由
- 一 兼て申付有之候鶯之めん吟味之否
- 申聞候様 伝之助殿ノ十郎左衛門殿 被申聞 申遣候処 日々
吟味致居候得共 于今見当不申段越前や之
- 一 御請 御同人之申上候
- 一 大置物上り次第御覽
- 一 明日大奥御庭御掃除伺濟 五半時
- 一 入之旨権太夫殿被申聞 金次郎之達す
- 一 右之節志賀山御庭之昨日之通り
- 一 瓦組致し候様 権太夫殿被申聞
- 一 半太郎之達す 尤瓦は庭に有之
候旨申聞候
- 一 末姫君様御願大置物卓
- 御極め 御手入伴助之被仰付 御箱
- 一 小細工に被仰付 明日中出来候様
- 一 権太夫殿被申聞 夫々之申付候
御箱計御居台に不及旨被申聞候
- 一 二た箱けんどん強取手
- 一 民部卿様之被為進御重箱
- 御用上之旨権太夫殿被申聞 兎じま
杵村之達す
- 一 扣銘シンシウ入小御根付時計
- 一 損 嶋村之拝見被仰付候処 鎖り
- 一 はつれ居 御直方致し差出し候
- 一 八右衛門殿也 地之御用 御細工所呼出し也
- 一 吹上奥締御用立書面 権太夫殿
より請取置候
- 一 浜系代立用金請取書一通
- 一 伊豆守殿御渡申送り候
- 一 鶯之めん職分に無之方に
- 一 三年程飼込持居候を よふ々々
- 一 談し取出し候処 右故法外之高直
- 一 故 持参は致候得共如何可有之哉
- 一 差出兼候旨越前屋代申聞候 右之段
- 一 清三郎より仲殿之為申上 明日越前屋

方え留め置候様被申聞候段 同人申聞候

壺両三分也

一 氣吹亀花活 御細工所へ下る

一 真鍮掛針三本 権太夫殿にて児嶋より上げ出す

一 またゝひ壺升上る

四月十四日

一 霞ヶ関え被為進具候大置物

御手入是非々々今日中出来候様権太夫殿

被申聞 猶又申遣候処 出来候旨

一 伴助より申越 御同人■御請申上候

手違 十本 草箒 十本

一 右白鴛鴦掛衆え出候

一 一つ橋御立寄之節

御簾中様え被為進御筭 信濃守殿にて

御役所御たんすへ入 委細は甲斐守殿より御達し

一 可有之旨被申聞候 胴の銀物出来候儀も甲州え御申上可被成候

一 生花建壺鉢 信濃守殿断 今夕刻上げ

一 長甫申聞 御賄へ達す

一 霞ヶ関大置物御箱小細工早く

呼出 早々出来 甲斐守殿御銘書

被致候様被仰付候段 権太夫殿被申聞

御箱出来次第甲斐守殿へ御差出可被成候

一 明日西丸え被為進品 笹之間え

出し御見分之義 権太夫殿え申上置

一 御役所栗焼御仕継致す

一 赤物御台積 御用人部やえ入置

一 お誕生日口 縞本添

一 数寄屋縮 三十式反

一 右至着上り 御納戸より請取 角牡丹え入

一 小膳次殿え申上候

一 巾西印三反之内 壺反縞濃出来に付

一 織直申付 跡より参着次第可廻旨申込候

一 銀物 甲斐守殿え申上候処 先づ扣置候様被申聞候

一 御立寄之節御筭之事

一 追て御鬮にも可御用立旨甲斐守殿

御咄被成候

— 先日御用立候小普請方瓦御入用之事并

揚け方人足賃之事

— 九半時前大置物御手入出来上り 御用掛衆

御見分済

— 御納戸反物之事

— 大奥御小座敷之御芝刈 明日

御留守中に御庭方にて可致 たんぼ之

葉も苅候て出し可申様 根は決て取申

— 間敷数馬殿御達 半太郎え達す

— 鶯のめん明朝上げ候様 伝之助殿被申聞

翌朝上り伝之助殿え出す 御用に成

四月十五日

— こまか物組重 小膳次殿え出し御用立

— 甲斐守殿被申聞 御不用下る

— 西丸御式方様え被進品 御文通添廻す

四月十六日

— 大奥三保山庭え瓦敷 一昨日之通

— 半太郎 平五郎にて出来候様八右衛門殿

被申聞 半太郎殿に達す

— 但瓦は庭に有之候旨御同人被申聞候

— 一橋え御立寄之節并御酒湯之節被為進品

— 之義 伊豆守殿被申聞 御見合帳え朱書入

申候

— 民部卿様え可被進翁鶴置物 与三郎え戻し

談置候 狩衣地伴助え戻す

— 右諸失脚申出候事

— 絹縮之事 伊豆守殿え明日御伺可被成候

— 替尾長鴨 明日御申上可被成候事

廿二日

— 精姫君様御賑敷は卅十申也 御箱之事

— 近々御年始御登城有之候由 被為進品

— 上げ候様小膳次殿被申聞候 翌朝御細工所え申／遣候

— 新御殿北之御庭紅葉之下に 斑入にてどくたみ

- 一 様成草有之 御掃除之節 抜取申間敷旨
- 一 数馬殿被申聞 新六え金兵衛え達す
- 一 左門殿之軸木出来候間 明日御差出し可被成候

四月十七日

- 一 明日御用御鉢植台申付候
- 一 精様被進御箱 廿日上 杵村え申付候
- 一 御年始被為進伺品上げ 児嶋出次第御達可被成候
- 一 替尾長鴨書面 明後十九日
- 一 出候様被申聞 信濃守殿也
- 一 紀州覬姫様御逝去之由
- 一 右に付何ぞ御先格被為進物にても
- 一 有之候哉と伊豆守殿被申聞 操候処

天保十三寅年六月

清水延姫様御逝去之節 被為

進物無之 当紀州様御子也

同十五辰年三月より弘化二巳の四月之内

紀州伊曾姫様御逝去之節

被為進物無之 先紀州様御子也

- 一 右之通伊豆守殿 権太夫殿え申上候
- 一 けんほ梨子御軸 左門殿え出候所
- 一 壺分詰方被申付 勇次郎え達
- 一 渡す 御残り木は御用無之旨被申聞
- 一 同人え戻す
- 一 誠順院様絹縮之義 伊豆守殿
- 一 伺候処 矢張留め置候様被申聞候

四月十八日

- 一 明十九日大奥御庭御掃除
- 一 五半時入候様信濃守殿被申聞
- 一 熊藏え達す

四月十九日

- 一 来廿二日精姫君様御賑敷に付
- 一 右大将様え
- 一 御丁字風爐 壺 細

右極る 西丸え御問合来候 右次第にて御刀掛
可然可伺事

一 来廿三日越前守殿え

一 御花活 一 細

右極る

一 御場先にて御用立候青石壺つ 今朝相廻り

御入済 三之口内え持込候様甲斐守殿被申聞

半太郎へ達

一 前条御丁字風呂御止め 何か西丸より申来へく

御品上げ候事

一 神田橋帯地 御文庫え入置候

御帯一筋乗御台 杵村え申付候

中岡持は畏り居候

一 越前守花活御箱申付 御手入

打替御細工所え下る 此御箱も明日上げ

一 神田橋御式品御箱 明日申上げ 杵村え

達す

一 替尾長鴨 おん 一羽

式十八〇二

右書面 信濃守殿え出す

一 神田橋え被為進置物少々不宜

手に兎しまえ下る 明日上げ也

一 精姫君様え廿二日被進之御縫帯

御仕立出来 小膳次殿にて御役所御引出しえ入る

一 二丸本理院庭鉢前 真行院庭から堀

損 直方いつにても宜間 植木屋に致可申様

信濃守殿にて新六え達す

一 擬宝珠形小半銅漏留 八右衛門殿にて

勇次郎え申付 明後日出来に候

一 明日長房え植木屋入候に付

誰庭に候哉 難相知候得共 井桁

有之候を取候て掾之下えよろしく

○跡宜様に扱

入れ井桁之跡埋方致し○可申 泉水に

橋無之間 追ては石橋掛り候間 夫迄

檜板削にて格好宜敷橋を掛可

- 一 申様信濃守殿御達 翌朝金兵衛達
- 一 右同断 惣躰之庭ざつに致候ては
- 一 不相成 至て入念出来可申様被
- 一 仰付候段 八右衛門殿御達 翌朝同人之達
- 一 楓之間蘓鉄御養御時節長左衛門え
- 一 糺可申上 御同所之御苅込御時節
- 一 可申上様八右衛門殿御達 七郎兵衛え申
- 一 遣 返書 一御苅込御時節 五月上旬より中旬迄宜
- 一 一蘓鉄養 此節より当月中之内宜
- 一 右信濃守殿へ申上る
- 一 けんほ梨子御軸出来 左門殿え出す
- 一 辰の口 来る廿七日御年始御品極る
- 一 本郷御年始御品極る 御日限不知 御添帯共
- 一 両様杵村本取済
- 一 西丸様へ廿二日品極る 手入下る 廿一日出来
- 一 本取済
- 一 精姫君様御附女中へ廿二日被下絹縮
- 一 三反極り 御役所に有之
- 一 絹縮十一反御極め相成 御役所に有之事
- 一 本郷御縫帯 御役所へ出居候

四月廿日

- 一 芝鉄五丁劔付 吉之丞殿被申聞 半右衛門へ渡
- 一 文具飭下水板之事
- 一 御細工所道具 後刻御下け可被成候
- 一 貞三様
- 一 御鳥餌之内
 - 一 割麦 荏胡麻 麻之実
- 一 右市中直段高直に付 下直に相成候迄直段
- 一 増之義御賄所より申込 小膳次殿え御達申置候
- 一 聞済に候得は三月分御帳下け直し候事
- 一 御下け之カナアリア卵にて香合出来に付
- 一 小膳次殿え出す
- 一 不用道具類 御細工所え下る
- 一 本郷御添帯本請取に致し 御縫帯と一所に

御役所え差置

- 一 廿三日御駕籠台御餽付之義 金七郎へ達す
- 一 長局植小屋人足 明日は十人出候様甚左衛門殿被申聞 熊藏え達す
- 一 八半時過 何ぞ入御覽候様被仰付 目鏡御覽有之候
- 一 吹上錦魚 明朝奥向衆え被下に相成候間
- 一 小孫半土百拾を内膳正殿にて翌朝溜外え
- 一 寄せ申上る 四拾御用立 残御用人部やえ入置候
- 一 明後日御用生花建 数馬殿断 宗筑申聞達す

四月廿一日

- 一 カナアリア卵御覽済 唐竹蒔絵被仰付児嶋え達す 小膳次殿也
- 一 明日被為進分并越前守被遣品 笹の間へ見分に出居候 小膳次殿也
- 一 御重箱 並八十 本八寸／九本 尺 上げ候様被申聞 上り出し候処 盃黒塗■家之付き候方早々上げ 甲州被申聞 早々上げ」 次方御差出し可被成候
- 一 精姫君様え明日被為進御重上り極る
- 一 黒塗外家付御重台 信濃守殿より御膳番衆へ御掛合済 御菓方より請取 手入児嶋へ下る 右
- 一 権太夫殿御渡し 伴助へ渡す 請取書御同人え上る
- 一 萌き真田御重台手入代金は御慰金へ組込候様権太夫殿被申聞候
- 一 御服紗浅きかゝ 奥にて御仕立
- 一 御同人様へ明日御筭被為進之御様子に付 御箱之義信濃守殿伺候処 御文庫之旨被申聞出す
- 一 仕継申付候御筭は兼て御文庫入と極り居候旨御同人被申聞候
- 一 御能御用白頭之義 八右衛門申聞候事
- 一 帯地一筋絹縮十四反 本請取致候
- 一 明日被為進品 御役所へ寄る
- 一 狂言袴一 湯伸児嶋へ下げ候事 明日出来
- 一 先日御預目高御用之簾と台 内匠殿え出す
- 一 鶏之伏籠壺 伊豆守殿御断にて

一

越前屋より上げ 半太郎え渡す

四月廿二日

- 一 替り尾長鴨 信濃守殿にて越前屋より取寄 御覽済 直に御戻し相成る 代式十〇より内に候はゞ御用にも可相成談候様被申聞 多三郎え達す 否申出候筈に候
- 一 鶉之育籠壺 権太夫殿御断
- 一 仲殿にて清三申聞 越前屋え上げ達す
- 一 今日被下絹縮三反 紫不宜早々上達
- 一 嶋天箱せ子出す 跡早々上達
- 一 加賀守へ被遣書棚宜吟味 児嶋へ達事
- 一 まゆみの木 長三尺にて差渡六七分位の丸にて可相成を式本 左門殿にて被申付 勇次郎え達す
- 一 今日被下絹縮 紫代り白地浅黄輪三反に極り直り候
- 一 御誕生日被下御添物 甲州／信州 にて極り 寛藏え御注文之通達す
- 一 晴光院様廿七日御年始之旨甚左衛門殿被申聞 御餽付之義新六郎へ達す
- 一 御摘草御用手提籠九つ 明日用意
- 一 小膳次殿被申聞 伴助え申付候
- 一 菊千代様 紀伊大納言様御養被
- 一 仰出候由 被進物心掛候様甲斐守殿被申聞
- 一 絹縮不用之分 角牡丹に有之

四月二十三日

- 一 今日被為進物 御のし添御役所え出す
- 一 御摘草御用手提籠 此後も
- 一 拵可申様小膳次殿御達被成候
- 一 越前屋出替り尾長鴨御直段
- 一 引方談候所 何分引方難出来候に付 多三郎右之内一割請候を何程にても引方に可仕旨申聞 信濃守殿え申上

候所 兩三日之内沙汰可致と被申聞 同人え
達す

一 狂言御装束子方へんてつ

角頭巾之代 甚左衛門え申上

八右衛門え払遣候

一 千太郎え被下銀一枚買上

鉄之丞え渡す 甚左衛門殿え申上

信濃守殿通詞也

一 明日大奥御庭五半時入之旨信濃守殿

御達 半太郎え達す

一 長房庭皆出来之旨半太郎より

申聞 信濃守殿え御達申候所 又々

其部屋続にて二軒有之間 明日も

出可申様御申聞 同人え達す

一 御中藤九人 岩井 瀧尾被下

絹縮御用掛衆於見分済 今日直に

被下候 小膳次殿也

一 精姫君様御灸之節之被為

進べく紹板ゞ 去る十八日被為

進候旨権太夫殿被申聞候

四月廿四日

一 昨日御用立候御地植類拾品

神田橋え相廻候

一 小普請方より瓦取寄置候様

信濃守殿被申聞 御玄関に有之

右之内御用に可相成三品を引板え

乗せ 台御沙汰次第御差出可被成候

有合員数

栈唐草 二十七枚

平 四十枚

平唐草 式十三枚

右之外に廻り居候分は御用無之由

一 書棚上り御扣所に有之 信濃守殿え申上

候事

一 松栄院様御願之由

絹地 金／銀 箔押 一枚

- 一 右出来候様小膳次殿被申聞 御細工所之達
精姫君様御座所に竹の御衝建有之 右を
松栄院様御預之由 明日四時頃伴助職人
連出居拜見可為致旨甲斐守殿被申聞 勇次え
申付候

- 一 明日吹上御飭付之内え石之橋三つ程出候様
内膳正殿被申聞 七郎兵衛之申遣候
- 一 瓦之事

四月廿五日

- 一 晴光院様廿七日御入之節 御座間御庭にて
楽焼出来候由 右諸式
釜 三つ 道具諸式 楽作薬品々

香合 丁字風呂

小皿 猪口 之小物数々

茶碗

右上げ候様甲斐守殿被申聞候

然る処御菓園より不残御取寄に相成候に付
上に不及と被申聞候

- 一 明日吹上御植付物有之候間 例刻長左衛門
呼出し候様信濃守殿被申聞 半太郎へ達す
- 一 松栄院様御願御衝建御見本出 児嶋
本取済 御本之通り取掛 小膳次殿被申聞
達す 後刻御衝建 衝建信濃守殿之返上す
- 一 今日吹上之御飭付に出候御植木石類

とも明後日御年始之御飭付之壺品なり
とも決して出申間敷談可申様信濃守殿
御達 金七郎え達す

- 一 本郷御年始之節 加賀守之被遣
書棚御用止 御棚飭に御極替に
相成 本取済 児じまえ下る 廿七日迄
又々替り同断 信濃守殿也

- 一 外山屋鋪御通拔之節
尾州様之被為進御小置物御極め
本取済 御手入児じまえ下る 甲州也

一 昨朝小普請方より廻り居候小形
瓦之内 左之通り信濃守殿より
伊豆守殿へ御渡に相成る

一 棧唐草瓦 式十式枚

一 平瓦 四十式枚

一 平唐草瓦 十四枚

一 右は頭取衆御文通にて神田橋

御住居へ相廻り申候 御用残之分

一 不殘助次郎え戻す

一 明朝神田橋御出入植木屋卯平次と申者

出候積に付 瓦組方伝達為致可申様

一 伊豆守殿御達 半太郎例刻呼出し遣候

四月廿六日

一 明日辰之口被為進物不殘

一 揃 御見分笹之間え出置 信濃守殿え
申上置候

一 金泥 式匁

一 右御絵番より立用 長伯手附被渡 右仕繼

式匁御慰にて御細工所え断 上り宗順

え戻す

一 大奥惣躰御刈込 近々高田筋御成御留

守之節刈込候様小膳次殿被申聞 平内え

達す

一 綴織下絵 箱瀬こ 五枚／ふくさ 式枚 半右衛門殿注文之通

一 児嶋え申付る

一 雛道具燭台之火笠式つ 伊織殿にて黒

一 花塗と被申聞 勇次へ達す

一 御衝建 壺脚

一 新き 十一兩三步 五月廿一日出来

一 右申出 小膳次殿へ御達申候 取掛り達す

一 来月二日 西丸様御成先より松島丸物

参り候に付 御休息御庭へ御植付人足出候様

一 朔日出候内 功者之者御休息何れ之辺宜候

哉物見之上印竹立候様甲斐守殿被申

一 聞 翌朝金七郎え達す

但御掾先之通にて

一 樂焼釜始 諸式別昏之通御扣所に有之
一 同断釜之上え若雨天に候は、雨除用意
御作事に出来有之
一 金銀箔押出来 小膳次殿え出す
一 銀物貝桶 尚又甲州え伺候処 蓋も不入
紐銀にて宜く 御細工所え達す
一 樂焼瀬戸物 先御不用之分三広蓋 角
牡丹に有之候事

四月廿七日

一 甲斐守殿にて半太郎明日例刻出候様達す
一 孔雀藻短く不宜候に付 御買上げにても
長き方出候様小膳次殿 要人殿被申聞候
に付 勘五郎へ申遣す 西丸上り合有之候は、
御立用候様被申聞申遣上り合無之 要人殿え申上る
以来長き分上げ御賄え達す
一 鉄火箸二膳直買申付候 上り候は、八右衛門殿え
一 十能直買致し出す
一 天城炭 炭斗に忒つ
一 白木台大小九つ 御掾え寄
一 御中藤壺人下り候に付極り居候 籠甲簪吹寄
御不用拵に不及 甲斐守殿にて庄五郎え達す
一 来月二日 吹上御べり御跡にて 楓之間御刈込
例刻人足出し候様 蕪鉄喰持参致候様
小膳次殿被申聞 金七郎え出す
但御休息低処御刈込致候様 是は
御植木懸り衆え人数問合候様
被申聞 金七え達す
一 来る朔日御休息御庭え御植付物御場所
一 拝見植木屋入可申処 最早御場所極り候
に付 朔日入に不及旨信濃守殿被申聞 半太郎へ達
一 勘五郎より根付藻六手上り十五把に
出来 内五把九助殿え出す 信濃守殿え
一 申上候

一 絹縮紫紋紹山入山なし御用意 明日

上達事

- 一 昨日神田橋御住居へ相廻り候小形瓦
棧唐草八枚不足に付 相廻候様頭取衆へ
御文通 植木屋相廻り候旨半太郎申聞 伊豆守殿へ
申上取調候処 有合五枚有之 新組にて相廻候
跡三枚は焼立出来之上相廻し候積り 尤
不入御聴 御内々にて御廻し之旨伊豆守殿
被申聞候

四月廿八日

- 一 御用立御植木 石灯籠 御住居へ相廻す
 - 一 孔雀藻之義 御賄より申出候事
 - 一 御買上の藻四把九助殿 五把桐之間え出す
絹縮板へ紹上り居候
 - 一 御縫帯御仕立之義信濃守殿へ申上置候
 - 一 絹縮袴反 本受取致候 昨日辰の口へ被遣也
一 椴壺寸二分角 八本
 - 一 右甚左衛門殿断 勘次郎殿被申聞 文蔵へ達
出来次第差出可被成候
 - 一 御誕生日被為進被下品書拔置 両所え達
明日上げ
 - 一 御庭者并餌拵 御手当渡す
 - 一 孔雀藻 勘五郎より為上げ候 此後申遣は
三手つゝ上げ候様勘五郎え申付る 出方に寄
御申遣可被成候
 - 一 同御賄上げ之分もケ成に付 日々三把つゝ上げ
に致し候間には出候ても可然 小膳次殿也
 - 一 綴織絵形 半右衛門殿え出す
- 御同■様
- 一 三丸用小鯨三十疋之所 已来大鯨三十疋
廻候様甲斐守殿断 栄之允殿被申聞断直す
 - 一 明後日手提籠九つ出候様小膳次殿達
昨日御不用にて下候分え仕足可出 已来
姫君様御年始之節定式と心得候様
被申聞候 早春は如何に候哉尚又可伺
 - 一 筑前守殿御室え被遣は格別 廉立候節

計り被遣有之旨甲斐守殿被申聞候

御出産杯之節

一 明後日御帶二 敷紙包 御簞笥御引出し
入置候

一 来二日御休息御刈込人足 栄次郎始

静か成者出候様小膳次殿被申聞候 明日
支配え可達候 金七郎へ達す

四月廿九日

一 藻五把 栄之允殿え出す

一 明日被為進不残見分濟 角牡丹に有之

一 椀四分角 八本

一 同 目板 六枚

一 一寸釘 百本

右甚左衛門殿断 鐸五郎殿へ差出候

一 大鯰今七十疋相増 日々都合式百疋

廻りに相成候様伊豆守殿御断 与十郎殿
被申聞 御賄え達す

一 孔雀藻十把 御植木掛衆え 尤短も

取交申候 右に付勘五郎より三手
上申候

一 両所より御道具上る 御用人部屋に
有之候

一 筑前守殿御室え被遣絹縮極居

御様子次第之旨信濃守殿被申聞候
忝反也 文庫寄せ有之候

御新座敷 小寸切之方止／大寸切太ふり

一 糠子 壺杯

右龍太郎殿被申聞 御賄へ達 貞叔へも達

一 まゆみの木上り 左門殿見分之上
注文之通削り方 虎之助え渡達す

五月朔日

一 替羽白鴨

壺羽

三両式分

惣躰薄柿

右伺書面 越前屋より代を以差出し
信濃守殿へ出置候

後刻御用無之 御同人被申聞 同人え達 又見当次第伺可申様達す

被為進不残御役所え出 御のしも

出候 御筭御文庫入上みて出来

節句前御払金取調 小膳次殿え

出し置候

筑前守殿御室え被遣の積 絹縮一式

小膳次殿御承知 角牡丹え入置候

御摘草御用提籠九つ 小膳次殿え出す

明二日吹上奥締有之候間 御飭付

持廻候様 七郎兵衛 彦兵衛え達し置候

若相止候は、御達可被成候

明日右大将様御成先より五葉松廻り候に付

右持人にておみつの方庭え植付為致候様甲州

御申聞 半太郎呼出置 差添御広敷え廻候様

被申聞 平内え達す

先達て御積立出来御覽済之赤物御台つみ

下け候様小膳次殿被申聞 虎之助え達

孔雀藻三手 勘五郎より上る

御摘草提籠七つ下り申候

五月二日

已来昨日杯之様之節 御駕籠台御植木

御飾り付 植木屋人足にて段共取建 御作

事人足入不申様小膳次殿御達 御心得可被成候

昨日御用立地植石にて三品本郷え廻す

昨日御飾付に出候御植木類 今日吹上え差出し

候ても宜旨小膳次殿被申聞 半太郎え達す

孔雀藻 御茶や懸り／御植木懸り 五把つゝ出る

三丸より大根五把相廻り吹上え廻す 吹上掛衆え伺

取扱候様申遣す

御庭方木掛り日勤相済候旨支配え

可達様八右衛門殿被申聞 金七郎え達す

筑前守殿御室え極り居候絹縮 信濃守殿え
伺候所 御用止之旨被申聞 一式元々え致し候

五月三日

吹上御表具切之代 箴之代 権太夫殿
にて円佐え渡候

楓之間御丁字風御手入 明日
御成跡にて相下り候間 職人呼出し
置候様八右衛門殿被申聞 児じまえ達す
昨日吹上にて下され御植木類 今日

二の頬植付候に付 信濃守殿にて一の御門え
相廻し居候 四時入候積り 若雨天

にて出来候は、庄太郎申出候積り 御文通持廻る
瀬戸物燈籠 與三郎 児嶋 植木屋え
吟味申付置候

おみつ方庭え昨日松植り候所 根通り
土こけ不宜間 半太郎え申付 礪石か
黒ぼくにて土留為致可申様権太夫殿
御達 平内を以達す

精姫君様御住居御泉水より錦魚三つ流れ出
次之御間御泉水に居候に付 明日御庭方にて救ひ
元え入 さぶた損し居候は、為直候様甲州
被申聞 金兵衛え達す

明日長局え御掃除に植木屋人足入候節
石野殿庭之石橋直し方数馬殿被申聞
金七郎へ達す

御菘盆火家 鐸五郎殿より勇次え直談有之
明日木形出候は、御同人え御差出可被成候
明日大奥御刈込早く相済候は、一の頬二の頬
刈込為致候様甚左衛門殿御達 平内え達 遅く
相成候は、刈込候に不及候

瀬戸物釣燈籠 尚又吟味 小膳次殿被申聞 彦兵衛方え
達候処 手元に無之 明日迄吟味日延申出
伴助御細工所七郎兵衛共再忒御断申出候

彦兵衛明日否申出候筈

五月四日

一 尾張様之被進御置物 御先長持之為人相廻す
貞三様

一 三月分御細工所別払 四月御定金之内より
立用にて御渡可被成候

一 葵彫丁子風呂

右火燈口かな物附堅め甚左衛門殿被申聞

出来 八右衛門殿へ出す

一 御休息舩式艘分薄縁干方 要人殿にて

平内持参 佐七へ渡す 五日出来 御庭方へ為渡候

貞三様

一 二日御飾付御用立帳 奥より出候分 内膳正殿御渡
申送候

一 御払金 権太夫殿御渡 夫々へ相払候

一 四月分五月分御定金 権太夫殿

御渡し 四月分申送り候 御細工所

御別金払八両三分 五月分より立用

致し相払置候

一 角牡丹の御文庫台共改 不足

之分仕継申付置候

一 彦兵衛釣燈籠 御成へ出候処

不宜 御用無之旨届申出候

五月五日

一 張笊五十申付置候

一 黒塗宝生雲御粉箱様之御品下り 新規

袋出来候様御切れ下り 裏紫琥珀は御買上げ

銀牡丹掛 小膳次殿注文有之 翌朝兎島

へ渡達す 御切れ立残たんす引出え入置

但九日出来申上置候

一 瀬戸物釣燈籠 御成先にて御用立候由

小膳次殿達 御役所に出し有之候方下け候様

甲州被申聞 下る

五月六日

- 一 西糸織直し 数寄屋縮巻反請取 小膳次殿 見分濟 文庫之口え一所に入置 不用下る
- 一 十五日老女衆被下極る 杉村 中村呼出し 御細工所え申付る 手入に下る 十二日上げ 御箱も申付る

- 一 御不用縮帯とも下る
- 一 御不用御道具類 両所え下る
- 一 信濃守殿御達にて仕継申付候

小形瓦

棧唐草瓦 平唐草瓦 五十枚つゝ

棧瓦 平瓦 京瓦巴瓦

右出来之旨清五郎申聞 御同人え御届 申上候 御入用立方之義伺候所 是迄之通りと被申聞 同人え達す

根来様

- 一 御達被成候瓦出来候旨清五郎 申聞候

五月七日

- 一 金十両 御成先御買上瀬戸物／燈籠代 右沙汰次第請取候旨伊豆守殿被申聞 奥之間引出え入置候 御心得可被成候 御表具切拾七卷 正五郎え戻す
- 一 民部卿様御逝去に付被進物先格調 小膳次殿え 出す 扣有之
- 一 十五日被下銀物簪類上り 式階に有之 いまた 四つ上り不足 三つは九日 花葵簪は十一日迄日延申出候
- 一 カナアリア玉子蒔絵出来 式階に有之
- 一 御立寄并御酒湯口被進品不残下け候様 被仰付旨甲斐守殿被申聞候

失脚取調之事

御能装束之事 銀物類 箱せこ

真田胴ノ

- 一 塩衣梅枝高き処有之 実取に候はゝ
- 一 丸く致候様小膳次殿被申聞 平内え達す
- 一 金為御用意 御台積品御用人部やえ出し置候

五月八日

植木類

- 一 覆籠式つ 信濃守殿にて
御作事之申付候 明夕刻出来之積り
出来次第御差出可被成候
- 一 まゆみの木 職方より御注文通りには難出来
申出 伴助持参 左門殿之申候所 工風可
致間 猶又渡置旨被申聞 同人之達す

五月九日

- 一 七分鑿壱本 八右衛門殿断 左門殿にて
宗藏之申付置候
- 一 御買上藻出払に付 仕継申遣置候
- 一 御不用胴べ 香箱 文鎮
不残与三郎之渡候 失脚
書面取置候
- 一 同断箱瀬子下け 式階に差
置候
- 一 十五日御誕生日に付 御次之被下
銀文鎮 作り物 五つ
- 一 右十三日迄に出来候様信濃守殿被申聞 絵形
御渡に付 左衛門之相達申候
但已来年々出来に付 相心得 御心附可申様
信濃守殿被申聞候
- 一 絵形御帳と張置可申候
- 一 二日吹上御植木御用立書付 内膳正殿御渡
誠順院様之可被進絹縮ちぢ反 御納戸之戻
為致消印候
- 一 孔雀藻 勘五郎より上る
- 一 十五日被下銀物籠甲類 御役所之出す 簪一本
上り不足 明後日出来申上置候
- 一 御小箱様之袋出来 残り切共小膳次殿之出す
- 一 十五日口銀貝桶之蓋出来候様甲斐守殿
被申聞 左衛門之達 十一日朝迄也
- 一 覆籠出来 小膳次殿之出す

- 一 浜之節腰帶上げ 明日御達可被成候
- 一 一橋御不用口書付式通 甲斐守殿へ出す
- 一 同断口箱せこ式つ 甲斐守殿へ出居候
下る

五月十日

- 一 御誕生日数寄屋縮不残并被下簪銀物類 為
御見分笹之間へ出置 葛籠十畳に入置
右御見分済 権太夫殿被申聞
仕廻 御役所へ出す
- 一 覬姫様御逝去に付 被為進物之義
西丸同役内々問合申越候 先つ
無之旨申遣置候 若又有之候は、
御申遣可被成候
- 一 楓之間蘓鉄之葉七枚 信濃守殿
例之通伴助へ可渡様御下け
被成候 翌朝勇次郎へ渡す
- 一 まゆみ二枚 左門殿被相渡 兼て
注文之通出来可申様被申聞 伴助へ
達渡す
- 一 七分鑿上り 左門殿へ出す

五月十一日

- 一 日除蒲焼葎簀にて信濃守殿注文
之通り文蔵へ申付出来 御同人へ出す
銅網張粹 壺
- 一 右損し粹絵にて新規出来 古網
用ひ出来候様孫四郎殿被申聞 文蔵へ
申付置候 今日急ぎ出来次第 白鴛鴦
掛衆之内へ御差出可被成候
九時過出来 出す
- 一 赤髭御鳥籠之戸出来候様仲殿
権太夫殿御伺済 文蔵 仲殿より
御直段畏り居候
- 一 カナアリア卯唐草蒔絵出来 小膳二殿へ出す
十五日一位様 右衛門督様へ被進品極る

御文具飾 下水紅更紗 御下け張立候様

信濃守殿被申聞 杵村え渡 十三日上げ 手入下る

一 十五日梅之間御飾付 御鉢植例年之通

伺候様金七郎え達す

一 数寄屋縮三反 乗合二 八寸文庫壺つ

十三日上げ 杵村え達

一 銀貝桶蓋并鼈甲壺本出来 福村へ出

一 吉野漆一曲 刷毛一 弁柄共

一 右数馬殿断 伊織殿被申聞 上り出す

一 鮑三挺 数馬殿断 熊太郎殿にて台拵 明

後日出来 宗藏え申付候

五月十二日

一 大奥東御庭鯉之餌 今日より五拾筋つゝ増

出し候様小膳次殿被申聞 秀益御賄え達す

但昨日三拾五疋鯉御放し相成候に付 餌

見計極る

一 楓之間蚯蚓子々 今日より日々左之通に

相成可出様権太夫殿断 七五郎殿達

是迄百筋之所

中蚯蚓 式百筋

是迄壺杯之所

子々 式杯

右四時八時とも御賄并祐貞掛り

新組えも達 入物渡す

一 植木御茶屋御鳥籠 御模様

替 甲斐守殿御渡 宗藏え談し置候

先つ十八日頃縄張御場所御見分有之

候積りに候

楓之間

一 如雨露 三つ 御修復

内 常形一 御細工所え申付る

形替り二 児嶋え申付る

右八右衛門殿断 吉之丞殿被申付候

御同所

一 藤づる煮黒め銅物付桶新きに

式つ出来 古之方式つ下り 御修復致し

三つに直し可申様 右御同人御断

吉之丞殿にて虎之助え談達す

但都合五つ出来也

一 精姫君様御灸之節被進御用

ぬめ 赤 白 黒

紫 うこん

ひら金糸 極細は不宜候

右大奥え御相談之上極り候間 数々上げ可

申様信濃守殿御達 庄五郎え達す

一 大奥在郷家に有之候稻の内

斑入有之 右は日向宜候哉 日蔭

宜候哉 明後十四日大奥御庭入之節

拝見為致候様権太夫殿被申聞

新六え達す

一 十四日には五十三間御苜込 七郎兵衛人足

出候に付 功者之者に為拝見可申候段

新六申聞候 其段御同人え申上置候

一 大奥塩衣梅実 明日御取

と極候に付

並桐油 壺枚

中なよ竹 鯨六尺に切 壺本

右八右衛門殿にて御納戸え出す

打替

一 十五日老女衆被下小置物 御手入

御箱出来 御用人部やえ入置候

被為進品上り候は、一所に御見分

御出可被成候

一 大奥御対面所御泉水に有之候

菱藻 明後十四日御庭入之節

程宜く取 御縁え差置候様

信濃守殿被申聞候 明日支配出次第

御達可被成候 新六え達す

五月十三日

- 一 在郷家の南蛮鉢三挺研 八右衛門殿
御下け 平右衛門え渡達す
- 一 ぬめ上り居候平金不揃に付 両所え
吟味申付置候 上り次第御当番え御差出
可被成様信濃守殿被申聞候
- 一 御買上藻出し 跡上げ申遣置候
- 一 十五日に御休息御泉水え
- 一 船頭五人形出来候様 尤
胴は御庭方え被仰付候由 諸式
手当権太夫殿被申聞 勇次え
早々達置候
- 一 但十五六位若衆形宜
- 一 西丸山里御趣向人形衣裳之
義 権太夫殿御尋に付 損し切之
旨申上置候
- 一 藁五十把用意申付置候
- 一 張箆五十出来 上る
- 一 焼物御用皿類代金 渋江渡り甲斐守殿え
出す
- 一 西丸にて御趣向人形衣裳無之哉 宗賀
罷越問合候処無之 其段小膳次殿へ御達申候
御次被下銀物五つ出来 小膳次殿え出す
- 一 縮三反乗台二 八寸文庫台共上り 角牡丹え
入 御役所え寄る
- 一 孔雀藻 錦魚やより上る
- 一 精姫君様御灸之節
曲尺五尺つゝ
- 一 続五色御細工切 五切
平金帟 三把
- 一 右小膳次殿にて極り 裁御台にのせ御役所え
出す 不用下る 御たんす引出え入
- 一 明朝御膳中 梅間御植木段御取建
- 一 鉢植 九時頃上り次第御茶所前え可寄
- 一 御次被下銀物之内 亀に三葉葵玉付 右葵
不宜 万年茸に仕直甲斐守殿被申聞 明朝
四時頃迄に出来廻り候様寛蔵へ達渡す

*続IIぬめ

翌朝出来出す

- 一 来十七日御比丘尼上り候由 被下大紋羽二重
上り候様甲斐守殿被申聞候処 御有物絹縮に
相成 断返致候 又々替る
- 一 先達て木枯之桜木最早枯候に付 挽方
之義甲斐守殿之伺候処 取掛候様被申聞
虎之助へ達
- 一 御趣向物人形之事
鬘 面
- 一 御比丘尼被下紋紹 萌き／そら色／白 之内
八反揃 明日上り御納戸之達
十六日御覽之由
- 一 十五日被進被下品 御用掛衆見分濟
角牡丹之入
- 一 こま々々物 明日奥へ廻り候由

五月十四日

- 一 葉鏝付火鉢大急ぎ上げ 小膳次殿被申
聞 伴助方へ申遣候
- 一 常の藁百五十把 鯉節繩五十把
右用意申付候
- 一 紋紹上り角牡丹之入 白は揃／外色不揃
尚又明日迄吟味申付候
- 一 御成先御買上瀬戸物燈籠
御代金十両 伊豆守殿にて福円へ
渡す
- 一 箔絵尺御文庫拵置候様
信濃守殿 権太夫殿被申聞 与三郎達
式つ早々 跡は外御文庫類同様
御用意致し置 御用次第差支
無之様 是又同人へ談し置候
但出来日限 来る十九日
- 一 明日御趣向人形六つヶ敷趣
甲斐守殿より入御聴相止候
梅之間 四時 八時
小寸切

一 糠子

壺杯つゝ

右御次え明朝より差出候様右近将監殿達
祐貞御賄達

一 下水板張 更紗切之事

一 被為進被下御品 御役所え

出す 御のしも出す

被為進数寄屋縮被下共

上みて ■■■出来 綴糸計取る

並八寸文庫え唐子銅入る

一 御誕生日被下数寄縮一反

ほ印之分下り居候に付 追て

被下御預之由 御役所御たんすえ
入置候

一 菓罐付火鉢 兎じまより

弐つ上り 小膳次殿え差出候処

先つ御用無之旨下り渡し

為扣置候

一 御鉢植伺 御用済にて

御覧に出 三十七鉢御留め

残り相下り候 明後朝下け方

達し置候

一 鋸六挺目立直し 伊織殿被申

付 平右衛門え渡す

楓之間

一 如露 常形 御修復出来 俊三郎殿え出す

一 神田橋御住居へ先日廻り 不足小形棧唐草

瓦三枚 伊豆守殿にて御内々御廻し相成候

五月十五日

一 田安御二方え被進品 四時過出 御館え廻す

一 来十八日松嶋躑躅廻り候に付 半太郎出居

候様甲斐守殿被申聞 御庭方市太郎へ達

一 白紋紹 御納戸より又々上る

一 更紗残り切れ 一昨日甲斐守殿え申上

御役所御たんす引出え入置候旨信の守殿え
申上候

五月十六日

- 一 暑中品御心掛候様甲斐守殿被申聞
 - 一 両所之達す 鳥伺書越前やえ申遣す
 - 一 松手拭懸手入 勘次郎殿にて児島え申付る 明日出来 甲州断
 - 一 梅之間御鉢段 昨夜下る 御鉢物式十八翌朝御庭方え渡す
 - 一 紋紹 御役所え出す
 - 一 御新座敷金魚御用竹簾 新規
 - 一 五枚 見本より三寸長 数馬殿御断にて
 - 一 三右衛門殿被申付 平右衛門え達す
 - 一 一つ橋一件 御不用品取崩し
 - 一 候様寛蔵 庄五郎え達す 失脚
 - 一 四月分出候様 是又達し置候
 - 一 鋸六挺目立出来 伊織殿え出す
 - 一 来る十八日吹上奥締之御様子に付
 - 一 植木屋之例之通可達様権太夫殿御達
 - 一 栄次郎え達 彦兵衛は文通致す
 - 一 但無之候は、御触可被遣候
 - 一 植木御茶屋御用葎簾壹枚 寸法
 - 一 本之通り横長に候 権太夫殿断 左内殿にて明日中に出来候様文蔵え達 上り
 - 一 候は、御出可被下候 万蔵を以出す
 - 一 白紋紹八反被下極る 権太夫殿也 本請取致候
 - 一 暑中御鳥伺書 越前屋より出し候 珍敷替り鳥此節何も無之 見当次第早々可申上旨申出候
- 五月十七日
- 一 檜壹寸角十三本 有合銅網式枚
 - 一 八右衛門殿断 伊織殿え出す 厚式分巾壹寸目板五枚 檜にて文蔵え達す 上り次第
 - 一 早々御細工掛衆え御出可被下候 目板上り出す
 - 一 大奥東御庭御泉水にちやん々々々藻と云もの有之候 以来御場所え入候者 決て取り不

申様権太夫殿御達し 平内え達す
大奥東印 四時廻り

小寸切

一 子々 壺杯

一 右日々相廻候様権太夫殿御達し 貞叔へ達
暑中御品 御細工より上り 不残角牡丹え
揃置候 甲斐守殿え申上候

五月十八日

一 檜削立 見付八分／見込壺寸 拾五本

一 同 同壺寸三分／同壺寸 八本

一 同 同壺寸／同壺寸壺分 拾五本

一 晒竹 見本之通り 三百本

一 幕引 六丈

一 右数馬殿断 早々出来候様熊太郎殿

被申聞 今日上り次第御細工懸り衆え御差出し
可被成候 御細工掛衆へ出す

一 鐸五郎殿先達て伴助え御直談之

一 七宝透銀御穗屋打直し出来 信濃守殿え

一 入見分 鐸五郎殿え木形灰とも御渡申候

一 御買上之藻損候に付 上げ申遣 上り候

一 紫旦菊透し彫御多葉古盆御磨き 夕刻

一 迄出来候様信濃守殿被申聞 職人呼出し候処

一 落灰吹銀メツキ出来兼 宅下致度児嶋

一 御同人へ申上 下る 出来 出す

一 一昨日申付候御新座敷御用竹すたれ五枚

一 出来 三右衛門殿へ差出候

一 白紋紹 御納戸え戻す

一 植木御茶屋御鳥籠繩張

一 之事 甲斐守殿え

一 孔雀藻 三手 錦魚屋より

一 上る

一 暑中口透家縮三十五反 御納戸より請取

一 小膳次殿え申上 角牡丹え入置候

一 一 ふくら雀御手拭挟繕い 児嶋え渡す 福村也

伊藤様

- 一 箔絵尺文庫式つ出来 台共請取置候
- 一 燭台壺本火笠三つ損し 吹上より参り
- 一 手入児嶋え渡す
- 一 御新座敷竹簀五枚不宜 あみ直し 三右衛門殿被申聞 文蔵え渡す
- 一 楓之間桶之事 如雨露之事
- 一 御庭之者支配預 五十三間御櫓入
- 一 瑪腦砂利 有丈
- 一 半樽程
- 一 右上え出候様伊豆守殿被申聞 出候処 少々御用立残り 又々御預之旨下り半太郎え渡
- 一 三つ組小植木鉢之事
- 一 明朝可申出 甲州

「五月十九日は無し」

五月廿日

- 一 御筭文庫二つ引替 御細工所へ下る 権太夫殿へ申上置候 廿六日頃出来 浅き方也
- 一 同 深き方一つ仕継申付候
- 一 三つ組小植木鉢三通り 栄次郎持参致し候
- 一 先年御用立之御鉢は相分り兼候旨申聞候
- 一 楓之間如雨露形替式つ 桶式つ五の内 出来八十八殿え出す
- 一 ふくら雀御手拭挟出来 八右衛門殿え出す
- 一 尺文庫 権太夫殿え差出候所 明後日
- 一 可受取旨被申聞 角牡丹え入置候
- 一 十八日奥べり吹上御用立書面 東條より請取

五月廿一日

- 一 御新座敷竹簾網直し出来 龍太郎殿え出す
- 一 御同所御鳥籠御用之石 半太郎 平五郎
- 一 より注文申聞次第御作事え可申付様仲殿にて御断 信濃守殿に候 後刻否相分候筈に候
- 一 御注文御衝建出来 上り候処不宜 小膳次殿見分之上直し方伴助え下る

- 一 三つ組御植木鉢之事吟味
- 一 七郎兵衛代助三郎え申付候
- 一 植木御茶屋御鳥籠繩張水盛
- 一 御作事入致出来候
- 一 楓之間蘓鉄葉四拾式枚 甚左衛門殿にて
- 一 御預け 伴助え渡す
- 一 珍ら敷品入御覧候様被仰付 少し出候処
- 一 御用無之
- 一 昨日之吹上燭台火笠 御手入出来廻す

五月廿二日

- 一 峯寿院様 来る廿七日西丸へ御年始之旨
- 一 東條被申聞 道具両所より上り 御扣所に有之
- 一 楓之罷
- 一 蘓鉄葉 二十六枚
- 一 右信濃守殿にて御預 児嶋へ渡
- 一 右御同所藤づる提桶 新き式つ
- 一 御修復壺出来 八十八殿え出す
- 一 尺文庫 権太夫殿え出す

五月廿三日

- 一 例年御用相成候花火 最早出来居候哉
- 一 東條被申聞 児嶋承り候処 未た出来不申
- 一 大 十本 小 二十五本
- 一 右心掛置可申旨伴助申聞候
- 一 幕引針銅 三丈二尺
- 一 右本之通り早々上 鐸五郎殿被申聞 宗蔵へ達
- 一 上り次第御差出可被成候
- 一 花火十壺本 御寸法之葎より大きく
- 一 同品無之 玉は決して出不申 其外御注文
- 一 之通り廿六日上げ 伴助え達す 全廿八日
- 一 御用 信濃守殿御申付之事
- 一 小石川西丸え御年始之節被為進御提重極り候処
- 一 御直段余り高く 廿四五位に談候様甲斐守殿
- 一 被申聞 児島糺候処六ヶ敷 其段申上 別の上候様
- 一 被申聞 両所え達す

西丸御式方様え被為進極る 本取済 手入下る
廿五日上げ

五月廿四日

- 一 御提重 両所より上る 御細工所分盃五つ無之
後刻上候は、上り揃 御申上可被成候
- 一 栗焼 横井え取に遣置候
- 一 竹蒔絵之御らう三対 信濃守殿
- 一 御断にて御細工所え申付候旨長意より届
申聞候に付 出来受取候は、申聞候様
談置候
- 一 栗焼上る
- 一 御提重上り揃候旨信濃守殿へ申上 御覧
有之 御細工所之方御極め相成 御手入下候処 手入
出来兼候旨申出 又々御覧替相成 児嶋
之方極る 本取済 手入下る 明日出来。

五月廿五日

- 一 来る二日 西丸え
溶姫君様御年始に付被為進物
御覧有之極る 明日御箱御申付 御手入
御下け可被成候
- 一 来月四日 大奥御掃除之節 長局
沓の頼明き部や庭掃除行届不申間
入念為致候様甲斐守殿被申聞 翌
半太郎え達す 其外明き部やも同様

五月廿六日

- 一 七郎兵衛より差出候三つ揃小鉢二通り 甲斐守殿え
出す
- 一 廿八日御用花火何々上り候哉 書付入御覧候様
甲斐守殿被申聞 勇次え達す 後刻御差出
可被成候
- 一 来る四日 大奥御小座敷御芝苺 小膳二殿
被申聞 半太郎へ達す
- 一 廿八日 吹上奥、七郎兵衛■心得居候 弥に候得は

彦兵衛初之可伺御達可被成候

御沙汰止み候得は 七郎兵衛へ御達可被成候

花火銘書 伴助差出 信濃守殿え

上る 廿八日朝上げ候様被仰付 三国一と

花角力は一躰玉有之品故 決て

玉無之様猶又可達旨御申付 伴助え

達候事

一 廿八日 吹上弥に付 植木屋え達可申様

松嶋も出候方宜旨権太夫殿御達 彦兵衛初めえ

達 松嶋之義七郎兵衛え申遣候

一 御買上孔雀藻大損 引替申候

一 暑中口御道具五引 角牡へ入る 御年始口

道具御用人部屋に有之 不用品御細工所へ下る

一 楓之間

蕪鉄葉

六枚

右八右衛門殿御預 伴助殿へ渡す

一 被進御用竹に雀蒔へ御衝建いつ

出来申候哉 権太夫殿にて伴助え承り候所

朔日上げ之旨申上候 左候は、朔日被進

一 に付 朝上げ可申様御同人被申聞 伴助え達す

一 明日被為進二日品共 御用掛衆御見分濟

一 大奥東御庭御植込之内 透所有之 右へ

要もち壺本 高さ壺丈程 明日御成跡

御庭方にて御植附いたし候様権太夫殿被申聞

新六へ達 もち三丸に有之由

一 精姫君様御願

一 縫御しこき 一筋

藤たすきつはめ

御地緋山入紋縮緬

右御好有之 下絵児嶋へ申付候 権太夫殿也

五月廿七日

一 花火入候箱之事

一 右え掛け候苦紺幕相廻候様 東條被申聞候

一 日除敷紙 半右衛門殿え出す

一 明日 吹上御飾付之内え寒水石 三つ龍出候様

一 内膳正殿被申聞 彦兵衛方之申遣候
先達て御下け之桜木にて

御印籠 八つ

御根付 八つ

右見積り通り出来 伴助持参 甲斐守殿之出す

緒ズ 八つ

右出来候は、出候様御同人被申聞 伴助之達す

貞三様

一 御庭者御手当高帳 支配より受取 御渡可被成候

五月廿八日

一 花火十壱本共御覽済 櫂箱 二箱に入／此品花火や通品之積り

権太夫殿御渡候 火繩壺把入相廻す

苦 十五

紺幕 二張

右添廻す 栄弥罷越候

一 峯寿院様之縫箱瀬古式つ被為進候

八寸文こ入

一 長左衛門 今朝五半時迄に罷出候様伝之助殿

昨日被申聞 罷出候に付 御鑑番より届候

一 御しこき地両所より上り 角牡丹へ入置候

東條へ申上る

一 鉞 壺丁

右権太夫殿断 伊織殿被申聞 宗蔵へ達

上り 出候

五月廿九日

一 上り合印籠入御覽候様 甲斐守殿被申

聞 出候処 御用無之

一 小振おもと鉢 三通り 三つつゝ

右御覽済 右之内小振之方にて上品之方

吟味持参致候様 夫迄右三通り七郎兵衛方

手放不申様甲斐守殿被申聞 代松次郎之

渡 其段申付候

一 五月分御手当 金七 俊碩之渡す

一 御印籠根付共八通り絵出来 甲州

- 御渡 摺漆為致候様被申聞 虎之助へ渡
- 一 花火入明き箱式つ御預 文蔵へ渡置候
- 一 繪提灯片取 小膳次殿一覽濟 角
- 一 牡丹え入置候 提灯居台申付候
- 片取之内紹七宝梅御障有之 仕直し
- 申付候
- 一 御注文御衝建箱居台共出来 御役
- 所え出す

六月朔日

- 一 二丸四部屋庭入用 七郎兵衛方にて
- 百三十両之由 右は
- 上之御入用に被仰付 御慰金より出候
- 心得甲斐守殿被申聞候
- 一 暑中品不残極る
- 番松丸 当年は鳥 来年は十五才
- 相成候に付 御品鳥伺不濟
- 昌丸様は
- 右衛門督様御同様御植木之处 当年は
- 御籠入鳥啼候品吟味 若無之候は、
- 新規出来可申候 兎嶋え達す
- 右甲斐守殿達
- 一 片取 御役所え出す
- 一 松栄院様 来る五日西丸へ御年始之旨
- 東條被申聞候
- 一 明日被為進物下 役所え出す
- 一 暑中被為進候極め品 今日
- 御見分相濟不申候
- 御箱本取相濟候
- 一 御片取文庫二通り 杵村え
- 申付置候
- 一 御筭文庫引替之分二つ仕継一上り
- 東條へ差出候
- 一 来る五日
- 松栄院様御年始被為進極る

右之節

- 一 天氣に候得は吹上奥締 小間物
- 一 諏訪御見合所之御飾付 例之通り
- 一 御植木は無之 権太夫殿被申聞候
- 一 右奥締 雨天にて御延引に候得は西丸え
- 一 御小置物 竹彫寿老人
- 一 但奥締に相成候得は被為進無之
- 一 追て西丸御成之節被為進
- 一 東御殿
- 一 御片取
- 一 奥締に相成候得は被為進無之
- 一 右権太夫殿被申聞候 御箱申付候
- 一 御品御手入に下る
- 一 右御飾付小間物差出候様
- 一 勇次郎え達す
- 一 精様御願御しこき 御絵形之通何済
- 一 御地明後日御役所へ寄候様東條被申聞候
- 一 翌朝児嶋へ達
- 一 楓蘓鉄葉十九枚下り 児嶋へ渡す
- 一 東條也

六月二日

- 一 今日被為進御のし包 御役所え出す
- 一 御見分物 笹之間え出 権太夫殿え申上置候 暑中品なり
- 一 来四日大奥御庭入之節 伽羅朴
- 一 苺込いたし候様信濃守殿被申聞 平内へ達
- 一 被為進品 西丸へ相廻し候
- 一 御絵桃灯台三つ出来 角牡丹え入
- 一 不用道具 御細工所え戻す 尚又上げ達す
- 一 暑中数寄屋居台
- 一 三反乗六 弐反乗七 壹反乗三
- 一 右杵村え申付る
- 一 暑中御極道具類 両所え手入下る
- 一 去月廿八日吹上奥締御用立帳 内膳殿
- 一 御渡申送候 吹上書上げは未

一 五月御納戸御入用帳受取
貞三様

一 五月十八日吹上奥締 役所より書上げ書付申送候

六月三日

一 溶姫君様御願にて浜織御附帯壱筋
被為進 八寸文こえ入御包も宜敷 御のしも

出す 文こ仕継御申付可被下候

一 植木御茶屋御鳥籠 下拵宜旨甲斐守殿へ
申上る

一 唐子之間御願御しこき地

伺済裁切 伴助え渡す

一 右御不用之分 夫々え戻す

一 御年始口御品々 両様上り

御用部屋え入置候

一 吹上奥締十八日御用立帳 明日

内膳正殿え御伺可被成候

横井様

一 八寸文庫 幸蔵え申付候 上る

一 明後五日 吹上奥締り之節 御植木は

無之と達置候所 御鉢植物計三十鉢

差出可申 但黒鏝白鏝は不出 染付御手

軽之御鉢を出し 中には大振なるも交候ても

宜と可達様権太夫殿被申聞 七郎兵衛

彦兵衛文通にて達す

一 暑中被為進数寄屋縮 御見分に

出候様小膳次殿被申聞 差出し

相済 角牡丹え入置候

一 孔雀藻 八右衛門殿 右近将監殿 九八郎殿え

伺候事

六月四日

一 松栄院様え明日被為進品

西丸同断

御片取 御二方様分

御絵挑灯 御三方様分

御台積 小札印は其俣差出

右御見分出候様小膳次殿被申聞

笹之間え並へ置 権太夫殿え申上置候

御見分濟

六尺物

檜五分角

五本出す

葭簾

巾三尺ノ長六尺壹枚出す

右八右衛門殿断 伊織殿にて宗藏え申付る

上り次第早々御出し可被成候

御印籠上り合之分可出様被申聞

四重 権太夫殿え出す

御印籠 一 御緒ゞ 一

右御用に相成 御代金甲斐守殿御取扱之方

臥龍梅之代金壹歩

右伊豆守殿被申聞 御同人え御渡候

暑中

御有物

喬松丸 かる鴨

右衛門督様 御有物五葉松 石置植二通り

昌丸様

右甲斐守殿被申聞 並管籠台 廿壹通り

上げ達す

西三日中

石台居台共新き 杵村え申付

昌丸様暑中 伏籠入鶏雛啼候様

糸唐操にて伺済 兎嶋え達す

但此御品は御養少に付 別段之被為進也

御印籠胡粉書之所 銀泥書に書直伺済

桂節へ渡達 甲州也

六月五日

吹上諏訪前御見合所え小間物為御飾付

六半時過宗賀罷越候

松栄院様え被為進御のし共出す

西丸様え被為進御のし不出

御東片取 文庫寄置 御のし不出

吹上小間物長持戻り 又々

錠鑑共相廻し置候

一 孔雀藻御買上之方は御断返之旨 一昨日
与十郎殿被申聞 郡代上之方御植木掛衆と
大奥御用は少々つゝ有之候得は宜 八右衛門殿ノ右近将監殿
被申聞 楓之間御用は無之旨吉之丞殿
被申聞候に付 以後隔日に三把上けと
御賄え達す
一 去月十八日吹上御飾付御用立帳面 東條
御渡被成候

六月六日

一 替り鶉めん 御手輕之所式羽 早々上け
権太夫殿被申聞 申遣上り 出す
一 楓之間ぬかこ 四時八時大寸切に壺杯つゝ今日
より上げ候様吉之丞殿被申聞 貞叔新組へ達す
後刻嗽茶碗にて出候様七五郎殿被申聞 秀益へ達
一 前条鶉小形にて不宜に付 尚又吟味 来九日
朝五時前迄に持参候様甲斐守殿被申聞
越前屋代え申付候
一 二丸宝地院庭之橋 石橋に願濟 甲斐守殿
被申聞 且二丸四部屋庭入用積り書 番之頭え
差出候 写書面出候様御同人被申聞 七郎兵衛え
達す

六月七日

一 暑中喬松丸え被遣かる鴨入管籠 楽餌入
台共 角牡丹え入置候
一 鋸 式丁
右目立直 勘次郎殿被申聞 宗藏え渡す 明日出来
被為進候由
一 御筆御箱之代 三分五匁
信濃守殿え出す
一 植木御茶屋と札付 糠子小寸切
壺杯日々四時相廻り候様 八右衛門殿
断 左内殿達 祐貞并掛り新組え
達 入物渡す
一 大船之木形御修復為致置可申様

被仰付 伴助え申付 御急ぎには無之
御入用積出来日限を承り置度旨
伊豆守殿御達 勇次郎え申達 明日
職方召連出相下け候旨申聞候
花嶋殿庭之さぶた損し候に付 拵候様
信濃守殿被申聞 小普請方勘兵衛へ達
西丸様え可被為進竹根彫小置物 敷紙へ
包 角牡丹へ入置候様東條被申聞 入る

六月八日

一 大船木形為御修復 勇次郎え渡す
一 大奥御座之間脇稻荷之所に百日紅
有之 切詰候処より壺尺程下たより芽差
上痛居 右芽差之所より切詰 此節時節
宜哉 二丸へ出居候人足承り候様 八右衛門殿被申聞
熊藏へ達
一 暑中被為進御細工所之分手入出来 二階に有之
すきや台不残上り 角牡丹に入置候
一 十八日尾州暑中 甲斐守殿達
昌丸様は一つ橋之方附候旨被申聞候
一 御巻物小口切に相成候間 紺地金入丈数
沢山有之候方 沢山に上げ候様信州御達
御細工所達す 上り候は、左内殿え出し候様被申聞候
事口達 上り居候
一 伏籠壺つ 数馬殿注文之通文蔵え達す
明後日出来之旨申上候

六月九日

一 鶉めん三羽 越前や持参 御覽済壺羽四〇三
御用御手目録より御払出候由 甲斐守殿被申聞
一 白焼六七寸程之丁子風呂上げ候様 昨夕佐渡守殿
被申聞 児嶋え達候処 無之旨 薩摩焼に候は、有之
候趣児嶋申聞 御間合申上候処 御用無之旨申聞候
但右は去月廿七日楽焼有之候 白焼丁子
風呂有之候は、今日可有之処 止む
一 桂舟書直御印籠其外根付共絵出来 甲州え

- 一 申上 児嶋え摺漆に不残下る
- 一 新座敷八時廻りぬかこ 是迄三杯之処
- 一 四杯に相成 祐貞へ達
- 一 明後十一日 暑中
 - 田安 清水恭真院様
- 一 右八右衛門殿御達し 半太郎 杵村へ達す 明日
上げ 植木持人平内え達
- 一 御作事に御預け有之候植木檀 不残絵図
にて右近殿へ差出候

- 一 糸網さで 三本
- 一 右権太夫殿御断 仲殿被申聞 網御針屋へ申付る
杵 勝蔵へ達
- 一 紺地表具切れ 曲七丈二尺余無之候ては間に
合不申 左門殿被申聞 御細工所吟味申付候

六月十日

- 一 一昨日数馬注文之籠 今日御差出し可被下候
- 一 白おし掛札二十枚 卯之助殿にて宗蔵へ
申付候 五枚白削同断
- 一 よしすたれ一枚 一学殿にて出来 出す

根来様

- 一 初午御絵馬 明日中上納 杉村理三郎申聞候
- 一 籠 数馬え出す
- 一 御細工所より御細工切れ三巻にて九丈四尺
壱通り受取候 内壱巻少々色替りに候
尚又明日申出候積 藤右衛門え談置候
- 一 来月四日 長局え人足為掃除入候節
- 一 二の側瀧尾殿庭之袖垣の杭ゆるき候間
直し方致候様小膳次殿被申聞 翌朝三平え
達す

六月十一日

- 一 暑中被進
 - 田安 恭真院様
- 一 右御のし添出す 御植木は御広敷え廻 右え附候

御のし御端札 已来御役所廻

小膳次殿達

一 数寄屋縮覬姫様御分 小膳次殿之上

御役所御たんすえ札付入置候

一 二丸四部屋庭 此度増御入用に成候間 右書面

出候様甲斐守殿被申聞 七郎兵衛へ達

一 植木御茶屋構御鳥籠新き出来 右御入用之内

金貳拾五両也

一 右内渡申出 甲斐守殿之申上 平右衛門之渡す

六月分別金渡り候

一 糸網さて三本出来 仲殿へ差出候 来る

一 十四日御針屋罷出 御釣竿改候積り

一 船雛御手入御入用書 出来日限

書 児じまより出 伊豆守殿之差出候

扣張置候

一 中岡持 今朝吹上え相廻り候

一 式つは内匠殿より下り 二階え

上げ置候

一 吹上水車損し 新き出来 木品之事

六月十二日

一 極小岡持六つ共不宜 手入出来兼 新き

申付候 十六日上げ

一 紺地金入三卷上り候 左内殿之懸御目

可被成候

一 昌丸様之被進伏籠 十四日迄御日延願之由

申出候

六月十三日

一 明日奥御掃除 御庭方入候節 御鉢植台

之切株持込候様甲斐守殿被申聞 委細

半太郎心得居候

一 明日西丸之御成有之 被為進は先日之

竹根彫御片取之旨甲斐守殿被申聞候

一 但竹根彫手入 勇次之渡置候

一 楓之間きり嶋 此節御養

御時節宜旨先達申上有之候
右養を功者之者 明十四日八半時
致持参候様権太夫殿被申聞 金七郎え
達す 承知申上候様被申聞 是又達す
長左衛門之旨も被申聞 是又達す
明後十五日

小石川 本郷 辰の口
右之通暑中被為進有之候段

八右衛門殿被申聞候 御箱杵村え達し
明日四時上げ達す

一 明朝在郷家御流えあんへら
植付候様信濃守殿被申聞 翌朝
金七郎え達す

一 明日被為進 御役所え出す
御片取詰置候様被仰付候旨

一 権太夫殿被申聞 御文庫え入置候
唐子之間え被為進御片取も

明日可被為進哉之由 御文庫え
詰置候様権太夫殿被申聞 入御役所へ
有之候

一 御片取文庫御居台共二た通り
上り 角牡丹え仕遣置候

一 御船雛形御手入に兎じまえ下り
居候は 先年伴助方にて出来候哉
伊豆守殿尋に付相糺候処 一向
相分兼候旨 虎之助申聞 御同人え
申上置候

六月十四日

一 今日被為進御のし包 御役所え出す
御文古御包も出来候

一 御新座敷子々 ぬかこ 是迄之分不残
断返し改
四時八時

大寸切

一 子々 二杯つゝ

同

一 ぬかこ 四杯つゝ

右金四郎殿被申聞 貞叔へ達

一 御丁子風呂の鶴の足損し

取れ候に付 今日御成跡にて御手入

附堅め候様信濃守殿足を御渡しに付

職人召連大急ぎ出候様児じまえ達す

但万一今日御成跡にては本附堅め

出来兼候は先つ養ひ置 此後

御成跡にて御手入可然旨被申聞候

伴助出候に付 足は渡し置候

一 唐子之間御片取 今日被為

進に相成下旨信濃守殿被申聞候

御包出来 御のしも添置候

一 楓とんほ印如露二手入 九八郎殿被申聞

児嶋出次第御申付 出来候は、御差出可被成候

申付候出来 万歳を以出す

一 明日暑中被為進

小石川 本郷 辰の口

於喜曾の方壺反

尺文こ紅奉書四枚

水引二わ 上千代

右御役所え出す 孔雀牡丹に相成

一 尺文庫式通り御申付可被成候

一 伏籠入鶏雛 鳴候様出来 甲斐守殿え入

一 一覽 式階に有之

一 男向女中向白扇 上げ置可然甲斐守殿

一 被申聞 児島より上げ有之

一 御細工所より上り候金蘭 不残戻す

一 飛龍杓上り御薬方え渡す

六月十五日

一 今日被為進之分 御熨斗共出す

一 御印籠八通り摺漆出来 小膳次殿え出す

一 本郷管籠御不用之旨小膳次殿被申聞

一 越前屋出次第可戻 餌入御用立

一 御しこき 御縫波立杵に

いかり かもめ

右

御簾中様御願 此節出来候通

御賑やかに出来候様権太夫殿被申聞

大急ぎ御絵形出候様伴助へ達す

御地緋紫両様上げ候様被申聞 御納戸え
達す

一 尺文庫式通り明日上げ達

一 うなき針

五本

一 右九八郎殿へ出候仕継十五本上 又々三本出す

一 表御座之間御庭松下枝痛

一 居候間 七郎兵衛人足御作事え

一 引渡 明朝御門明き呼上拝見致し

一 痛切候はゞ追て切取り候様権太夫殿

一 被申聞 向々え達す 切取りは十八日杯そ宜候

六月十六日

一 前条松拝見 庄太郎罷出 東條へ申上候

一 処御間合不宜 後刻二丸より戻り相廻候様御同人

一 被申聞達 後刻出候はゞ甚左衛門殿へ御申上可被成候

止む

一 神田橋 霞か関 一橋

一 右明後十八日暑中被為進 御刻限四時

一 之旨小膳次殿被申聞候

御石台 熊蔵え渡す 持人五人十八日五時揃

同人え達す 右断返 平五郎へ達

一 十八日御成跡にて表御座之間御苅込

一 致候様小膳次殿被申聞 尤御鳥籠之方え足

一 場杯出候ては不宜旨長珉老え御咄申 御庭

一 方金兵衛え達す

一 一橋暑中被進 来十八日は御延に相成候

一 丁子風爐 白焼

*「止む」は一橋について

一 右吟味備後守殿被申聞候
御座間松 庄太郎入切取 十八日養い致度
申出 甚左衛門殿御承知 十八日六半時出

六月十七日

一 近々箱崎有之候に付 被為進物上げ候様
甲州被申聞 両所え達す
一 緋に紫山入紋ちりめん 御納戸より請取
暑中被為進 御役所え出す
一 すきや中奉書紙 水引式わ包
一 一反は尺文庫え入 白奉書紙
包 水引式わ

一 明日浜織御袴地被為進
有之候由 御文庫五通り

御居台共十一の内三つ白奉書

包 水引式わ詰御拵出来 明日

御品参り次第中え入候よし 信州也

包不申御文古式台共角牡丹え

有之候 入有之候

一 御火鉢 十式面

鉄刀木猫足 四面

紫旦 同 壺対

掛盤形 同

紫旦なて角 同

葵形 同

右御磨き御手入落しえ不残わらび手付け

其外御好有之 長意申聞 同人より児嶋へ直談

初午御投物用意致置候様 東條被申聞

児嶋へ達置候

六月十八日

一 今日被為進御品々 御鈴廊下

並へ有之 御袴文庫も同所に有之

不残御のし包添置

一 御しこき御地 御注文有之

吟味今日より御納戸え申付置候得は

何分無之 猶又明日迄吟味申付置候
右に付児じまえも吟味申付置候

御絵形は伺相濟候

一 植木御茶や練土 御作事拝見候所 明日より御水
懸り候て宜旨申出 甲斐守殿之申上候

一 御鈴廊下に出居候御袴入文庫式つ御用立

一 壺つは角牡丹え入置候

一 いよめ餌小鮒式拾五疋宛明朝より日々

一 入込 八時と両度出候様甲斐守殿断 栄之丞殿え

一 被申聞 俊碩御賄え達す

一 御投物組重 御扣所に有之

六月十九日

一 篩土 十樽

一 右半太郎え渡候様清兵衛殿昨夜被申聞

一 小普請方え達

一 西丸様え初午に付御趣向品御台つみにて

一 還御前迄に出来 被為進候様被仰付候段 甲斐守殿

一 被申聞 品々極大急き伴助え申遣候

一 今戸焼達磨火鉢

一 猫鼠箱出入

一 右之類にて品々取集め

一 昨日浜より廻り候織殿之 箱二つ／風呂敷二つ

一 右後刻序有之に付其節可戻候

一 不残戻し候

一 替り鳥 目白／よし切 右書面 越前屋申出 甲斐守殿え

一 出す 後刻御用無之旨 珍敷品又々

一 有之候は、申上候様御同人被申聞 達す

一 甲州にて多三郎呼出し 文通遣候事

一 染附帯代 伊豆守殿え出す

一 替鶉 めん壺羽

一 右越前屋より早々上 信濃守殿断 仲殿

一 被申聞上り 御用に相成候 鮮たい金より御払

一 女中献上頼用置物棚飭差出候様東條

一 被申聞 十五〇内之品相廻候処 今少し宜品二十〇内

一 にて宜棚飭計吟味児嶋へ申付候 明日相廻り

- 候は、四時より八時迄之内宜旨御同人被申聞候
- 上り次第差出可被成候 小膳次殿杯ぞもと被申聞候
- 一 いよめ餌小鮒 伊豆守殿にて断返し
- 一 孫三郎殿被申聞 友和御賄へ達
- 一 西丸様へ初午御賑敷に付 来る廿一日被為進御台つき極る 角牡丹積立有之候
四尺五寸
- 一 寿孝皮馬たらい御手入 甚太夫殿被申聞 児嶋へ下る
- 一 日々廻り茄子御断返し 鉄之進殿被申聞
- 一 貞叔御賄へ達
- 一 水打柄杓式本 御作事より上げ
御次え出す

六月廿日

- 一 初午被為進御台積 御見分に
笹之間え出居候 信濃守殿也
- 一 尺文庫御居台共式通り上り
角牡丹え仕遣置候
- 一 御袴文庫五つ上り候内式つ
御用立 残り三つ御細工所庄五郎え
戻す 御居台は不残留め置候
- 一 明後廿二日 吹上並之奥締
有之候御内沙汰之旨 尤植木屋え
心得達置候様権太夫殿被申聞候
- 一 七郎兵衛方は松五郎 彦兵衛向えも
御遣持込候様達切候 若相止候は、
留めて遣可申候事
- 一 小普請方助次郎え心得達す
- 一 田安箱崎被為進極る 御式方様共并
御簾中様え殊に寄被為進極り居候
- 一 御用人部やに有之候御道具類 御細工所児嶋え
下け申候

貞三

- 一 五日分御賄帳 請取
- 一 女中献上極る 二丸宝地院始四人にて 右は

二丸庭え水掛り候 二日程前に奥え廻候様に
小膳次殿被申聞 児島手入下る 本取御申付可被下候
小普請方え五日程前に申出候様達す

杵村本取済 下る

― 明後廿二日紀州様暑中被為進候旨
小膳次殿被申聞候 御箱明日上げ達す

六月廿一日

― 右大将様え初午御延に付被為進御台積
御のし共御役所え出す

― 従大奥御衝建出 新規出来に付 為本取

御細工所職方呼出候様甲斐守殿被申聞 出居候

右御入用は鮮たい金より御払に相成候

御衝建式脚出 色々御注文有之 寛藏え

談候

― 右御衝建二脚本取済 甲斐守殿奥へ御戻し
被成候

― 去十一日出来候糸網罟三つ出来不宜 又々

三つ小膳次殿断 孫四郎殿にて御針屋え申付候

明日中に上り次第

― 明後廿三日御門主様暑中

被為進之旨信濃守殿被申聞

明早朝御箱上げ達す

― 鳥除け糸網 御庭方にて

拵度旨申出候事

― 明日吹上御用花火被仰付候処 御止め相成
候事

但大之方当朝被仰付候ては出来不申

旨伴助申聞 御断権太夫殿え申上候 以後

右之通御一統御心得可被成事

六月廿二日

― 明日御門主様暑中被為

進品 御役所え出 信濃守殿え上候

― 初午田楽行燈御止之処 早々出来

候様信濃守殿被申聞 御多門より為出置候 絵具

- 一 早々上 児嶋へ達遣候
- 一 右に付建竹例年通宗藏え申付置候
- 一 真鍮水指手入 鉄之進殿被申聞 児嶋へ申付候
- 一 吹上錦魚 例年被為進御用中岡持十御賄へ達 居台後刻御申付可被下候
- 一 中岡持台 拾 四尺五寸台 壺
- 一 右杵村え申付候
- 一 初午田楽行燈 明日は奥之不廻候旨岡松被申聞候処 又々出候様左門殿被申聞 張香致し左門殿え出す 煎蘇扮 藍昏 紫昏 出す
- 一 木柄網罟 三本
- 一 取放網添
- 一 右出来 孫四郎え出す
- 一 衝建新規御修復凡御入用積式通
- 一 御細工所より請取 甲斐守殿え出す

六月廿三日

- 一 今日初午御延有之
- 一 明日大奥御掃除之節 御小座敷御庭に棕呂御鉢植出居候間 御同所御茶屋脇え地おろし致候様甚左衛門殿御達 三平え達す
- 一 昨日吹上御用立帳書面共奥より下り 権太夫殿より請取置候
- 一 東御殿御しこき御地伺済
- 一 権太夫殿也 翌朝裁切児嶋え下る 絵形共
- 一 左門殿注文まゆみ二本 穴操明け手間入用之事
- 一 来る廿七日二丸水掛り候旨小普請方申出 尤雨天は日送り 児嶋手入 廿五日上箱未た不申付

六月廿四日

- 一 一昨日 吹上廻り糸網罟老本御用立之旨
- 一 申越 権太夫殿へ申上候処 仕継候様被申聞 御針屋

- 一 出候は、御申付可被下候 申付候
- 一 御預之内あら、木板一枚
- 一 権太夫殿断 出候様鈴五郎殿
- 一 被申聞取寄置 後刻孫四郎殿へ
- 一 御出可被成候
- 一 御地御不用 御反物類御納戸え
- 一 戻す
- 一 箱崎之節被為進 見分済 小膳二殿也
- 一 まゆみ穴操明け之方に甲斐守殿え
- 一 御相談済 左門殿被申聞 こじまえ達す

六月廿五日

- 一 鴨替り有之候は、差出し可申旨 小鴨に
- 一 候は、別て宜旨甲州被申聞 越前やえ達す
- 一 上り候は、御差出し可被成候 口達
- 一 廿八日西丸え御成有之候間 御品上げ候様
- 一 昨夜甲斐守殿被申聞 両所え達す
- 一 但御絵挑灯にも可相成哉之旨被申聞候

二丸

- 一 女中御頼用献上御棚飭御箱出来 御のし添
- 一 小膳次殿え出す
- 一 唐子之間より鶯の籠御預候
- 一 に付 外箱出来候様八右衛門殿御断り 仲殿
- 一 にて出来 御鳥方清三え渡候
- 一 精姫君様御願縫御しこき出来 権太夫殿へ
- 一 差出候
- 一 植木御茶屋御鳥籠 銅網張方手入四枚
- 一 下る 出来 出す
- 一 馬だらい手入出来 明日甚左衛門殿へ差出
- 一 可被成候
- 一 真鍮水指手入出来 鉄之進殿へ出す
- 一 廿八日品 両所より上り 権太夫殿え
- 一 申上置 御用人部や入置候
- 一 明日田安被為進品御箱共出来
- 一 二階有之候

右小膳次殿断 七五郎殿手入宗藏へ達
出来出す 翌朝

六月廿六日

- 一 餌拵新組御手当 御鳥方清三え渡す
- 一 御庭方始当月分御手当金拵置候
- 一 申送り候 後刻御渡可被成候 金七郎え渡す
- 一 大奥御用衝建新規出来候様甲州被申聞 寛藏え達す 正寸紙形出候様達す
- 一 馬手洗 甚左衛門殿え出す
- 一 七夕御用色奉書 左之通御召方より受取
白 桃色 蒲 黄 鼠
右一色二十四枚つゝ、百式十枚受取
色昏短冊にて六百十五枚 諸事昨年
六月廿八日ヶ条に記有之候通り取扱 経師え申付候
- 一 一 此より上みの廿五枚渡す
- 一 一 昨年七日に増出候分も申付候
- 一 一 来る廿九日 大奥御掃除之節 御庭方にて御小座敷 梅はしり芽切詰
御対面所 御芝苜 菱も残らすかり取
伽羅木痛み所切詰て宜哉 梅はしり芽切
- 一 一 右甲斐守殿被申聞 金七郎へ達す
- 一 一 廿八日西丸え御成之節被為進御挑灯之旨甲州被申聞候
- 一 一 御縫しごき御仕立出来 台に乗せ
- 一 一 御のし添 御たんす引出しえ入置候
- 一 一 昨朝之替り鴨 見当り不申旨越前屋申出 見当り次第可申出様達す

六月廿七日

- 一 御花檀通り桃枝 御通り之障りに相成候間
- 一 釣方致候様 昨夜栄之丞殿被申聞 半太郎へ達す

- 一 御成先より大和守殿御承知之由にて
- 一 花火 五尺 十壺本
- 一 右御風呂口え鍵屋持参 請取置候
- 一 唐子之間御しこき御縫之事
- 一 権太夫殿尋 児じま可承事
- 一 前条御花火十壺本
- 一 西丸様え被進に相成申候
- 一 栗焼上る

六月廿八日

- 一 今日被為進御挑灯二台
- 一 御のし添 御役所え出す
- 一 唐子之間も可被為進哉に付 同様出す
- 一 唐子之間御絵挑灯は明日進られ候よし
- 一 昨日御成先より廻り候花火御代金之事
- 一 口長銚子壺つ漏留 甚左衛門殿断 内匠殿被申聞
- 一 児嶋へ下る 明日出来 御差出し可被成候

六月廿九日

- 一 御絵挑灯 御役所え出す
- 一 来二日二丸奥之節被下四つ揃
- 一 置物 棚飴 花活
- 一 反物 紋絹 すきや 絹ちゝみ
- 一 右大急ぎ上げ甲斐守殿被申聞 三ヶ所え達
- 一 上り次第奥え廻り候よし
- 一 右被下小置物御極め相成 本取済 明後
- 一 朝上げ 不用品不残下る 東條也
- 一 御申送之罝式本 権太夫殿え出す
- 一 一つ橋明後朔日暑中 信濃守殿御達
- 一 杵村へ達す 植木持人翌朝平内え達

六月晦日

- 一 御新座敷錦魚御用樋竹 見本之通り
- 一 出来候様金四郎殿被申聞 後刻御作事へ
- 一 渡候様平内へ達 文蔵へも達置候
- 一 大奥御用

- 御衝建絵 表 風に牡丹／裏 杜若蝶 探原画
- 右御下絵伺済之旨 甲斐守殿被申聞 与三郎之達
- 柿柘榴之網代金壺両 半太郎之渡す
- 一 涼品入御覽候様甲州被申聞 キヤマン箸
- 一 少し出し候処 御細工所上リキヤマン銘酒器一対
- 右先留置 角牡丹え入置候様御達し 入置候
- 何ぞ御慰に相成候御品上げ置候様被申聞 両所え達す 被為進品御細工所え戻す
- 一 長口銚子出来候間 明日内匠殿え御差出し可被成候
- 一 御巻物之切二巻 児嶋より上り 明日御沙汰次第御差出事

七月朔日

硝子

- 一 水からくり入御覽候様被仰付候処無之
- 銅細工箱庭水吹入入御覽候処 硝子水
- からくり并廻り燈籠早々上げ 甲斐守殿被申聞 伴助へ申遣候 六半時前
- 一 右品暑之内上げ置候事
- 買切之事 甲斐守殿御承知
- 一 過日吹上奥之節 御飭付に出候水からくり快節役所え越持参 内め■二本 御役所え御留め不用部やに有之 肴籠状箱之身添御用済可戻
- 一 二階奥之間之事 上げ置品置候事
- 棚釣之事献之間二階え遣し物之事
- 一 一橋様暑中 不残御役所え寄る
- 昌丸様え被為進松 奥番衆より御文通 御広敷え廻す 但御端礼御のし奥廻り
- 一 廻り燈籠二 祭礼／茶や 硝子水からくり 一吹玉
- 右御用に相成候
- 一 四分一御火入色揚直し 信濃守殿御申付 勇次郎え達渡す 明後日出来之積り 但穂屋は不下候

- 一 口長銚子 林与を以出す
- 一 御細工所御道具請取 角牡丹え入る
- 一 御巻物切れ 志摩守殿より沙汰有之
出候所 三巻揃之方極り 敷昏え包
- 一 二階に有之候事 外壺巻勇次え下る
- 一 明日二丸被下四品 御役所え出す

七月二日

七尺五寸

- 一 大花火 拾五本
- 一 右今日七時迄に是非に出来候様
権太夫殿被申聞 かきやえ直に
申遣候 畏り申越 名書も出 御同人え
上げる 尤玉なし
- 一 但刻限無之 甚六つヶ敷 職人増
候間少し勘弁致し呉候様使新組申越■
右之段権太夫殿え申上置候

貞三郎

- 一 五月分御箱御入用有之候事
- 一 仕直し桐箱式つ出来 勘次郎殿え出す
- 一 精姫君様え被為進御縫御しこき 昨日被為
進候旨小膳次殿被申聞候
- 一 七夕御用
- 一 色紙 三百枚 短冊 三百十五枚
一所に仮台にのせ
- 一 右小膳次殿え出す
昨年より別段御用意之こより穴なし之分
十枚つゝは扣置候
- 一 田安箱崎活鰯并長繩之代金〆三両
- 一 甲斐守殿え御渡し申候
- 一 花火拾五本式箱に入 御錠口より廻る
- 一 御巻物之切 左門殿注文之通り出雲え達 明
後日裁切候積り 同人申聞候

七月三日

- 一 花火明き箱 御広敷え取戻に遣 戻り

- 御作事え御預いたし候
- こま々々の組重 御役所え出居候
- 神田橋御立寄之節被進物
- 上げ置可申様権太夫殿御達 与三郎
- 伴助え達す 御先格書抜御同人え上る
- 御釣燈籠蟬付老御繕 信濃守殿
- 御申付 翌朝勇次郎え申付候
- 小間々々物十一品 御用立
- 跡詰替二階え上げ置候 信州也
- 極細太白糸黄老丈 児嶋より上 鐸五郎殿え
- 出す 八右衛門殿御断也

七月四日

- 吹上巢鶏代金書 御賄え断
- 書面御■役鉄三郎え渡す 権太夫殿也
- 二丸四部屋庭掃除 毎月九日人足六人
- 例刻入小膳次殿支配え達に成候段申聞候
- 替日不極
- 御巻物四拾八巻 出雲え御仕立被仰付 明日
- 御絵下げ候間 四時頃罷出候様左門殿被申聞 同人え
- 達す 御入用御慰に立候様被申聞候 御軸紫旦
- 御下けに相成旨被申聞候
- 御月見御造り台伺 唐くり 九枚ノ並 十七枚
- 右弥右衛門殿え出置候
- 神田橋御立寄之口 両所より上り小膳次殿え
- 申上候 御用人部屋に入置候

七月五日

- 栗焼上げに遣置候
- 御巻物四拾八巻之紺地金切一卷裁切
- 出雲え渡す 御絵裏打御注文等 左門殿より
- 三治郎殿御直談 今日五巻御絵番より請
- 取候旨出雲申聞候
- 四分一御火入色付直し出来 信濃守殿え出す
- 御灰とも
- 九日大奥御庭入之節 芝苺可致様

一 信濃守殿にて金七え達す

一 替りこま病鳥に付 壱羽藤一郎殿にて
越前屋え御預之旨清三申聞候

七月六日

一 別段短冊小縷穴なし之分 円清を以
出す

一 大奥より色奉書紙五色にて五枚出 短冊
計出来候様数馬殿被申聞 壱枚八つ切
都合四十枚 権太夫殿え出す

但 巾壱寸八分 長紙丈け

一 御月見口

越後縮 并桔梗柿共 紫緋紋紹板の類

黒紋紹

一 右上げ 御納戸へ達す

一 右反物類上り 葛籠に有之

一 角牡丹に入

七月七日

一 田安一位様え久々為進無之に付 急度なき

品にて御慰に成候様成品 九日御覧に付 上げ
候様被申聞 両所へ達 甲斐守

一 盆前御払金調 信濃守殿え出す 十日頃御下げ
相成候様申上候

一 田安一位様え被為進御品類

御極め無之 御好有之

御覧有之 右之内

■獅子 棚飴 コ印

イキリス焼唐人形瓶子付 細印

一 右之御品 此後一切御覧出申

一 間鋪旨伊豆守殿被申聞候

一 鉄御釣燈籠御繕出来 信濃守殿え出す

七月八日

一 田安一位様え被為進品 ヲルコール
付之御品出候様被仰付 両所より上り

御役所へ出置候 信濃守殿也

但内壺つ翁の方御注文有之

致し方無之旨申上置候 兎しま申聞

一 新錢座 御通拔之節

紀州様

御時計 唐操有之／並之方も

壺尺余

外に

御壺品

同御簾中様

出来合

御縫帯

御筭にても

右之通上げ候様信濃守殿被申聞

三か所へ達置候

一 御月見品上げ候様信濃守殿

被申聞 両所へ達置候

一 浜之品々は宜候哉 取調置候様

信濃守殿被申聞候

一 染付御香爐壺対御下け 是え銀にて

網火家出来可申様 木形絵形

明日差出可申様信濃守殿にて勇次郎え

申付候

一 上品御筭 壺本

冠に花葵御差込

右信濃守殿御申付 左衛門へ達す

当月中に出来可申様御申付候

御入用凡積り申聞候様同人へ達す

一 殿伐透し 御時節宜申出候様

兼て御達置にて候得は最早宜候哉

承候様信濃守殿被申聞 七郎兵衛

昨日於問合 此節より追々宜旨申出

御同人へ申上候

十四夜之節

一 小形机 お花

一 寄小たんす 中 拾二人

一 扇掛

中印

一 小たんす

一 絹縮

御錠口

一 縞ちりみ

同介 御次頭

一 縞紹

御前詰二人

一 紋紗

御坊主四人

右品上げ信濃守殿被申聞 三か所え達 反物上る

御慰金より出候御褒美御手当口は夫々え渡

一 浜之節 紀の御簾中様え被為進御縫帯御止め

一 积迦懸之節御買置之帯地被為進候旨御役所

御たんすに入有之

一 御東え十五夜御造り台之内御積込銀けし物

五つ 絵形之通出来 信濃守殿被申聞 寛蔵へ達

一 在郷屋御流れ泥溜居候間 明朝浚方致し

候様甚左衛門殿被申聞 金七郎え達す

一 十五夜御添物銀けし物極る 当年

御中藤別御添物 半右衛門殿染帛紗

之由甲斐守殿被申聞 銀物寛蔵へ達

御注文有之 尚又絵形明後日伺候積り

一 盆前御払金貳千五百四十兩并七月

御定金八十兩小膳次殿御渡 夫々相払申候

御定金申送候

吹上御植木類御払金之事

六月分小細工方前借之事

六月分小細工方別渡残金之事

越前や分不遣 呼出翌朝申遣候

一 芝鈿

三丁

右碓付九八郎殿被申聞 平右衛門え渡 明日

楓之間掛衆え御差出可被成候

一 二丸女中御頼献上之御棚飭代金書

小膳次殿え出す

一 御簾中様え浜之節被進紫紋紹上げ候様

小膳次殿被申聞 山入疋／山無疋 一つゝ御納戸より上り

御同人え出す 伴助えも吟味申付候

吹上御花段方始被下金 福円え渡

老尼面 泣尼に用ゆ 老面

右新き出来 元休打 仁右衛門差出 甚左衛門殿え

入見分 代金弍両弍分 即刻同人え払候

紀州様え御時計先つ極る 弍階に有之

御箱取詰拵候様甲斐守殿被申聞候

銀物絵形張足候様甲斐守殿被申聞 達す

御覽物出候内

四方盆 紫旦印籠形蒔絵 コ

竹透彫多葉こ盆 コ

右両品出間敷旨権太夫殿被申聞 伴助へ達

竹透之方は追て出候ても可宜旨

被申聞候

十五夜御造り台 弥右衛門殿にて何済

児島え達す

七月九日

田安一位様被為進御棚飭 御のし添出す

染御服紗 半右衛門殿え被仰付候に付 御同人より

御伺絵形

はな車 松に干網

籬に朝貞 きく

切形類 葛の葉鶉

秋の野 桜昏ひゐな

まり尽し 富士

とくさに兎

右みの昏に認め早々出候様被申聞 勇次え申付候

御式方様え十一日進候様御台つみ 勇次え申付候

十五夜御注文反物類弍 つゝらに入

角牡丹に有之

芝鋏 三丁

右研付出来上り 鐸五郎殿え出す

冠葵の御差込雛形并御筭木形

與三郎より受取 信濃守殿え出す

但御筭木形大之方 此度御不用
之分壺本 御同人え返上 御役所

御引出しえ入る

一 十五夜道具 両所より上り 角牡丹へ入置候
一 神田橋御立寄之節被為進品極り

手入下け本取済 内銀芥子九つ 御文鎮にも

相成候様あん入にて出来可申 右は御東銀

芥子出来之上可申付旨信濃守殿被申聞

御絵形張出置候

今西様

一 御作事御入様式口

杵村御払金

越前屋御払金 被下金共

右夫々え相渡候

吹上御払金も出来居候

一 十一日被為進品御台積 伺済

唐子之間御反物紫紋紹一疋

御見合 萌黄紋紹御好吟味

翌朝信濃守殿え出置候

一 小石川浜口取調 信濃守殿え

申上置候 腰带胴ゞ御役所に

出居候

御重御箱 御薬方貞仁え

渡し置候

一 御縫に可相織紫紋紹は山蚕入

之方宜旨小膳次殿より栄弥被申聞

御染地白吟味申付候処 疋物無之

二反揃反物二通り上り 角牡丹え

入置 猶疋物吟味申付置候

但最初伺に出候山入山なし紋紹

御膳次殿御預り 角牡丹に有之候

*御膳次は小膳次の誤記か

一 御金請取帳 信濃守殿入一覽

御役所御引出し入置候

一 老尼面 信濃守殿一覽済

一 御月見御造台板断 信濃守殿え

差出相済 文蔵 虎之助へ達す

一 田安一位様被為進有之候哉
撰津守殿にて西丸同役より内々
問合越 答遣候

七月十日

一 十一日御反物台出来居候
一 椿御植替御時節并仕様巨細に
一 栄次郎 長左衛門之内出候節承り
一 申聞候様支配え達へく旨信州
一 被申聞 後刻御達可被成候
一 萌黄紋紹何丈に御伐切に
一 相成候ても宜 三輪扣居

■分

三尺に付 拾三匁つゝ

三丈に付 三百九十目

四丈に付 五百弍十目

右之通信濃守殿 権太夫殿え申上置候

一 生花建壺鉢 明日正御門明き上げ 左門殿断

一 久珉申聞 好有之 御花屋呼出為談候

一 葵冠差廻笄共木形之通宜旨信州

一 被申聞 左左衛門え渡達す 出来日限書張置候

一 染帛紗地白巾横ちりめん上げ 甲斐守殿断

一 半右衛門殿被申聞 児島え達す

一 儀同様御剃髪之節被為進書面有之候哉

一 甲斐守殿被申聞 無之旨申上 乍併伴介糺し

一 申上へく旨申上置候

一 但被為進書留見せられ 写し置候

一 紀州様え被為進時計箱 本取済 手入下る コ

一 田安一位様支干御相当に付 被為進有無

一 西丸より問合申参り 右之御沙汰無之旨答遣候

一 御簾中様浜之節

紋紹 藤立粹蝶 対物

山蚕入 式反

右紫糸染被仰付 当月中出来申出

御素縫八月七日出来 日限書出申上る

但竹に藤蝶紫紋呂染色よろしく

右之御色に出来候様小膳次殿被申聞

御納戸え渡達す 御染出来之節添

出候様被申聞候

一 紀州御簾中様え可被為進御筭御入用

凡四十三両三步余と御細工所より申出

甲斐守殿え申上宜旨被申聞候 右に付

紀州様え被為進御時計弥御極と被申聞候

一 十五夜御添物銀けし御注文通伺候

処 尚又御好有之 左衛門え達す

一 萌黄紋呂 明朝迄吟味被申聞達す

椿之儀 新六え相達申候処 書面致し

一 小膳次殿え申上候旨申聞候

一 六角御花台損し 御手入左内殿被申聞 児嶋へ

渡す 数馬殿断

七月十一日

一 萌黄紋紹無之旨申出 昨日之にて極り

四丈三尺立切 御台えのせ出す

一 西丸御東え被為進御台積出す 御のし三つ出

御簾中様え被為進御召 御素縫下絵

御注文書共奥より出 御召丈け正寸紙形

一 出候様昨夜甲斐守殿被申聞 御納戸え達す

鮮鯛金より御払可出十八両式歩 当時御都合

不宜に付 御慰金より立用 明日御渡申候様に

甲斐守殿被申聞候

一 銀けし物 今朝にて不残伺済達す

一 十五夜御中臈え別御添物染帛紗地合

上り 半右衛門殿え懸御目極り 甲斐守殿え入一覽

八つ振立切御同人え御渡申候 右之職人明日

屋敷え 参候様 こじまえ達す

但耆つに付長式尺八寸之裁切

一 峯寿院様え可被為進 御納戸え御預け御召

御仕立も有之候間 当月下旬頃為上げ候様甲州

被申聞候

一 日々廻り大鯨百疋 伊豆守殿にて明日より

御断返し之旨半太郎申聞 御賄へ達

一 御香爐之御爐家 信濃守殿之雛形にて
伺候所 御好有之 又々雛形籠目にて
申付置候

一 替鶉代式兩壺分御別金御払出 信濃守殿
御渡し 明日越前屋出次第御渡可被成候

七月十二日

一 玉負龜御文鎮 甲付堅め減金
仕直し 権太夫殿にて勇次郎之申付候
一 当四日より六月迄吹上奥締之節 御植木類
御買上代金

七口

一 金三百七十九兩貳分式朱

銀四匁五分

右書面 権太夫殿御渡し 御金清朴之相渡候

一 四月十八日御成先御小鳥御買上物代金十八兩
貳歩 甲斐守殿之御渡申候

一 鶉代金式兩壺歩 太三郎之渡 受取書申送候

貞三様

一 御手目録より御払に可相成分口々御慰に入
候様甲斐守殿被申聞 当月分之組込候事

右払方之事

一 銀物帳面張足し 小膳次殿之出す

七月十三日

一 玉負龜御文鎮御繕出来 権太夫殿之出す

一 二丸宝地院始組合献上御棚篋

代金 御箱共二十兩貳分 権太夫殿

御渡 児しま 杵村之渡す 請取書出す

一 神田橋御立寄口御細工所之分

貳品御 手入打替出来 請取

二階に有之候

一 吹上提帯之代 拾壺兩貳分

三匁九分五り 権太夫殿にて円佐之

渡す

一 御注文銀小置物其外品々出来

- 日限書 御細工所より出る
- 一 東御殿御縫御しこき出来
- 御用掛衆御見分相済 二階に有之
- 十五日絵上みえ出候様権太夫殿
- 被申聞候
- 一 御香爐御穗屋雛形 盆後伺可
- 申様信濃守殿御申聞被成候

七月十四日

貞三様

- 一 二丸四部屋庭模様替惣入用ノ百九十
- 一 壱両老歩式朱三匁五分 明日昼後七郎兵衛え
- 御払可渡事 同人呼出申遣候
- 一 式百両信濃守殿より御下けに可相成事
- 大奥御用新規御衝建御絵入用 探原申立
- 一 金箔八百枚 金泥五分
- 右甲斐守殿え御断申 御細工所え達す 十八日上げ

七月十五日

- 一 御用人部屋不用道具 両所へ戻す
- 一 七郎兵衛罷出候に付 御払金
- 一 之義信濃守殿え申上候処 被仰送
- 無之 乍併呼出候殊有例 御払金と
- 心得式百両御渡請取 七郎兵衛え前條
- 一 之通り相渡候 残八両式分申送り候
- 去る十一日御台積之御居台二枚
- 一 仕遣置候

七月十六日

- 一 大奥御対面西御掾より御高台之はし子
- 一 見へ何れ之御苜込苜過候哉 此後御庭入之
- 一 節直し候様東條被申聞 熊藏へ達
- 一 活海老代金老歩 伊豆守殿え御渡申候
- 一 御簾中様御召御素縫御絵形出来
- 一 甲斐守殿え出す

切本之通

一 葭簀垂

壹枚

右小膳次殿断 植木御茶屋御鉢植日除用

清兵衛殿被申聞 明日出来出候様平右衛門之達

一 七郎兵衛出 請取いたし 甲斐守殿之差出候処

此方之仕舞置候様被申聞候

一 御造り台上げ目録書 児島より出 弥右衛門殿之出

扣張置候

一 かな網蓋見本下り一と廻り大きく

右見本中へ入 式分程猶予有之候様

にて明日昼頃迄に出来 庄五郎殿

内匠殿之内へ出候様 鉄之進殿被申聞

平右衛門之達す 八右衛門殿断

一 浜之御召可被為仕懸け御手釣共

三通りつゝ御用意廻候様 甲斐守殿被

申聞 御針屋之申遣候

翌朝

可被為仕懸け二通 御手釣同一通

右にて宜敷旨御同人被申聞 利助之達す

七月十七日

一 御簾中様御召御素縫伺済 御納戸之達す 奥より

全く御仕立上り御寸法出 三輪之為写仕舞

置候

一 十九日 二丸之御成之節 宝地院初め被下

候間 中嶋小嶋すき縮上げ 今日奥之御廻し

極り候旨昨夜甲斐守殿被申聞 三輪之達す

上り次第御差出し可被成候

一 御休息御多葉粉盆之御かな物磨

明日御成跡にて可致様左門殿にて

職方呼出し 虎之助之達す

一 銅網蓋出来 見本共庄五郎殿之出す

奥村様

一 風月亭より下居候御卓御繕之事

一 植木御茶屋よしすたれ出来 左内殿へ

差出候

- 一 数寄屋縮上り 信濃守殿へ出す
- 一 来月浜之節 御釣竿
 - 一 浜廻り 壺通り
 - 一 新錢座廻り 同
 - 一 紀州様御分 同
- 一 右之通相廻り候間 心得居候様伊豆守殿被申聞候
- 一 前条すきや 来る廿日に奥へ御廻し相成候間
- 一 御預之旨東條被申聞 角牡丹へ入置候
- 一 御茶屋御火鉢十二面御磨き御手入出来
- 一 長意へ相渡候
- 一 御香爐之御穗家伺 信濃守殿え出す
- 一 翌朝伺相済 御好有之 勇次郎え申付候
 - 一 但雛形より壺分程高く御香爐宅下け伺済 御用之節は直に出し候様達す
- 一 卯年吹上にて椿実生 来年御植替相成
- 一 候て宜哉 当年根廻し置候方宜哉 栄次郎
- 一 出候節承り可申旨東條被申聞候

七月十八日

- 一 明日大奥御庭御掃除早入 信濃守殿にて
- 一 支配出次第御達可被下候
- 一 前条椿御植替 来年三月末より四月迄
- 一 御時節宜 根廻しに不及旨栄次郎申聞
- 一 明日東條へ申上候積り
- 一 御休息紫旦竹透御多葉粉盆
- 一 煮黒目色付直し銀御磨 貞之丞殿
- 一 より下り 勇次郎え渡達候事
- 一 孔雀藻 断返し 俊三郎殿／孫三郎殿
- 一 神田橋御香道具之事
- 一 金箔 八百枚 一 金泥 五分
- 一 右御細工所より受取 探原方え為持遣候
- 一 前条御多葉こ盆御磨出来 勇三郎殿え出す
- 一 東御殿え御月見之節被為進銀物五つ
- 一 絵形共与三郎より請取置候 信濃守殿也
- 一 口達

七月十九日

- 一 昨日御成先よりいよめ相廻り 並四つ輪に入
- 一 西丸へ被為進候 仕継之事
- 一 同断鶉おん壱羽相廻り候事 支配え
- 一 可達事
- 一 来廿三日二丸奥締御内沙汰止む 吹上奥之御様子
- 一 数寄屋奥え廻に不及 併留置候様甲斐守殿被申聞候
- 一 中四輪台仕継御申付可被下候 小膳次殿断
- 一 並四輪籠之事
- 一 黒柿六角花台 児嶋より上り 箱一蔵え申付置候 出来次第御差出し可被成候
- 一 奥御庭御芝刈被仰付候間 人足早々呼上げ候様小膳次殿被申聞 金七郎え達す
- 一 神田橋御立寄口銀芥子九つ 御細工所へ申付候与三郎也 来る廿五日出来之積り
- 一 東御殿御縫しこき 権太夫殿にて御役所え出す
- 一 東御殿十五夜銀物 信州え出す 仮箱入札付張置候
- 一 並管籠居台式枚
- 一 並中四つ輪籠家居台一枚つゝ申付置候
- 一 鋸式挺目建直し 左門殿断 孫四郎殿にて文蔵え申付候
- 一 黒柿御花台 御箱とも庄右衛門殿え出す
- 一 大奥御庭諸木之枯枝
- 一 御抱折枯枝 御芝苺 諸事
- 一 心付伺上仕事之義 支配達候様
- 一 左門殿被申聞 明日可達事
- 一 口達委細金七郎え達す
- 一 御別金払扣帳 権太夫殿に出居候 下る
- 一 明後廿一日 来る廿三日兩日
- 一 吹上奥締御様子に付 七郎兵衛
- 一 彦兵衛明朝伺に出候様達置候

- 一 権太夫殿也
- 一 並四つ輪籠壺対 越前屋より上る
- 一 中四つ輪籠の籠家 鼠喰
- 一 并よこれ居候に付 手入杵村え下る

七月廿日

- 一 明廿一日吹上奥締 天氣に候はゞ 弥有之 並之奥締御植木類計
- 一 御饒付権太夫殿申付 七郎兵衛方定吉 彦兵衛向 へ達す
- 一 若御延引に候はゞ御達可被成候
- 一 並四輪籠二 右台二
- 一 中四輪之籠家一 右台二
- 一 並管籠之台二
- 一 右元々え仕敷候 御困場所之事
- 一 明日吹上奥へり 此間之通花火大
- 一 十壺本上げ甲斐守殿被申聞 伊介え達

* へ空白

七月廿一日

- 一 花火之事 御覽無之
- 一 火繩竹式本添
- 一 うそふき面 壺
- 一 右出来 仁右衛門差出候 信濃守殿え懸御目可被成候
- 一 琉球彫御衝建御手入 信濃守殿
- 一 被申聞 兎じまえ下る
- 一 前条うそふき面 信濃守殿え懸御目に候
- 一 吹上廻り花火用
- 一 苦 十五枚
- 一 敷紙 壺枚
- 一 右相廻申候 紺幕二張右へ添可廻処 不残
- 一 同所へ廻り切に付不相廻候
- 一 吹上にて御用立硝子水車損し 御手入
- 一 役人目付相廻り居候間 申達候様権太夫殿

被申聞達す 明後朝迄に出来之積り 上り候はゞ
内膳正殿へ御差出可被成候

七月廿二日

一 昨日吹上にて御用立山茶花一本 御駕籠台へ
相廻り居 御庭方にて御手当致置 明日御成
跡大奥御小座敷御庭棕櫚之脇へ御植付致
候様東條被申聞 平内へ達

一 檜

角物 中 壺寸貳分

厚 壺寸 四本

長 六尺

貳枚板 壺枚

右左門殿御断 孫四郎殿にて大急ぎ

宗蔵へ申付置候 出来次第御細工掛衆

御差可被成候 右出来

一 十五夜御添物銀芥子不残出来 甲州え出す

一 柚の木御多門脇榎 来月十一日伐候様八右衛門殿

被申聞 平内え達す 乍併痛み切に候哉 能々

見届け伐候様被仰付候

一 峯寿院様浜之節御錠口始被下

二徳 対物

匂ひ入扇

右甲州被申聞 二徳対物出す 匂ひ扇

十本児島え申付る

一 前条榎は枯枝計り伐取候義にて 御庭方之

方断返し 小普請方持に付申達候

七月廿三日

一 廿一日吹上御用立帳奥より出候分 内膳殿御渡

一 峯寿院様浜之節被下凡極 御見合帳に記す

一 梅の間梅御植替時節 七郎兵衛糺候処 十月より

来二月頃迄宜敷候得共 別て正月より二月中

迄之内宜旨書面にて申聞 小膳次殿え書付出す

一 長繩之代金貳分 伊豆守殿え

御渡申候

一 二葉葵御丁子風呂釜御手入 左門殿にて
下り 還御迄出来候様被申聞 児嶋へ達
職方拝見之処 御手入出来兼申出 御同人へ
申上る事
一 御釣道具御仕継出来上る 未
かひす仕掛式通り不足 利助畏り候

七月廿四日

一 切もち一切 鐸五郎殿にて早々上 御賄へ達
上り次第御細工衆へ差出可被下候 上り出す
一 葵彫御丁子風呂釜共
右釜五六日中に漏留御磨き 風呂御磨き
甚左衛門殿被申聞 児嶋え申付候
一 白焼餌猪口 十
右新き上げ祐三申聞 児嶋え申付候

七月廿五日

一 紀州様御出生有之 御手遊物台積
極る 鯉節熨斗添御役所え出す
先格書拔置
一 壺つ物手遊品 角牡丹に一引板有之
一 縵子罽 中十本
一 右仕継一藏え申付候
一 蒔絵餌合子御急には無之 上げ候様甲州
被申聞 両所え達す
一 前条紀州様え被為進御手遊品 色不宜 尚又
吟味 奥にても上げ被仰付候由
其俣御役所に有之 御のし出置
一 栗焼上げに遣し候
一 東御殿御しこき御覧済 御敷紙に
包 御引出しに入有之 東條也
一 栗焼上る
一 梅之間 四時 八時 小寸切壺杯つゝ之処
一 ぬかこ 大寸切壺杯つゝ
一 右勘四郎殿達 久俊へ達
一 御台つみ御手遊品三つ 小膳次殿にて極り候

一 提餌箱大十 栄之丞殿へ申付候

七月廿六日

一 小形御多葉粉盆三面 御役所に

出居候 口達有り

一 無色帯地上げ候様権太夫殿

被申聞 御納戸大急ぎ上げ達置候

一 上り次第早々御出可被成候

一 神田橋銀芥子九つ出来 信濃守殿一覽済

明日頃差出候積り

一 近江守殿御取扱御買上相成居候紙台一

御小道具役へ御預 御覽物之節 児嶋道具

之積りにて差出可申 信濃守殿被申聞候

一 楓之間芝御用 明日半太郎へ渡

干鰯 一俵半 赤土 二樽

熱湯 玄蕃四杯

一 右八右衛門殿断 伝之助殿被申聞 夫々え達

一 無色帯地拾式本上り 小膳次殿え出す

一 御簾中様御召紫山入紋紹御染出来

一 小膳次殿え出す 又々角牡丹に有之

一 木櫛木枯宜段 御印籠 根附緒ゞ五十

一 壺組程も出来可致旨甲斐守殿え申上候

板壺枚御見分被成候旨七三郎にも

考させ可申旨御同人被申聞達す

一 白焼餌猪口十う新き 児嶋より上げ 栄寿え
渡す

一 黒わな天沈金菊蝶模様帯地

一 峯寿院様え浜之節被為進御仕立 御文

一 庫入と被仰付 御たんす引出え入る 甲州也

一 不用角牡丹に有之

一 小形菘盆下げ候様甲斐守殿被申聞 下る

七月廿七日

一 東御殿少し御様子之由 大黒煎餅

一 被為進昨夕甲斐守殿被申聞 中形二百三十
出来 今朝出す

右台後刻被申付可被下候 二枚

二尺三寸にて可然

一 御作り台絵形三枚程為書候様

小膳次殿被申聞 兎島え御申付可被下候

申付候

一 峯寿院様御召 明朝甲州御沙汰

次第出候様被申聞 今日中上け達す

一 御対面所御掾前伽羅木枯枝相見え

御植替可被仰付間 廿九日御庭入之節寸法

取り 三の丸杯に有之哉糺可申様小膳次殿

御達 新六え達す

一 大黒煮餅御台積 時に寄覆紙有之

旨小膳次殿御達被成候

* 「大黒煮餅」は「大黒煎餅」の誤記

一 右居台二尺五寸 二枚申付候

一 御細工場張出しに有之候御品々之内

長 壹丈

黒柿

巾 四寸五分

壹

厚 貳寸六分

長 壹間

黒部板

巾 壹尺五寸

壹枚

厚 六分

長 壹間

同

巾 六寸より五寸迄

十六枚

厚 四分より六分迄

右宗藏え達 受取 孫四郎殿え出す

是は以前丹波守殿承知之品之由被

申聞候

一 兼て被仰付之御卷物仮継皆出来を

左門殿え御届可申様被申聞 栄甫え達す

貞三様

一 小石川浜之節 御重之外箱貞仁より

請取置候

一 小石川御召上り 角牡丹に入置

一 蒔絵餌合子 早々取寄候様信濃守殿

- 一にて与三郎より受取 出す
- 一廿一日吹上御用立御植木書付 権太夫殿御渡被成候

七月廿八日

- 一 神田橋銀芥子 信濃守殿へ出る 又々下る
- 一 匂扇十本出来 見本共御同人へ出
- 一 大唐茄子にて御手焙出来に付 干方心得候職人へ拝見為致 否申聞候様備中守殿被申聞 勇次郎之呼出達す
- 一 御品は御賄に有之間 出次第御膳番衆へ申上候様被申聞候
- 一 鐸五郎殿注文之紐打方見本 児嶋より出候は、御詰合 御細工掛衆へ御出可被下候

一 浜之節被下品極る

- 一 二徳 一
- 一 胴ヱ 一
- 一 腰帶 一筋
- 一 上みより御下け
- 一 鼈甲箸 三膳

内壺膳上み有之

桜蒔へ 一

波千鳥蒔へ 二 御細工所へ申付候

- 一 白骨匂扇 三本

一 御坊主三人之象牙箸早々上 児嶋へ達

一 綴堅糸 金さし壺丈壺尺

七百本

一 黒糸 翌朝出す 十管

一 右上げ半右衛門殿被申聞 伴助之申付候

一 御謡本 六冊

一 同 壺冊

右表題御手入 小膳次殿被申聞 長谷川代へ渡す御慰入用

一 不用無色帯地下り

一 峯寿院様御召 甲斐守殿へ出す

- 一 御作り台絵形并印籠緒ノ根付出候様
- 一 甲斐守殿被申聞 出す 御作り台御用無之 生花建に成る
- 一 大とふなす千方之義 弥右衛門殿御申上候
- 一 紀州御簾中様被為進御筭出来 甲州え出す
- 一 餌合子四つ御見合 御役所に有之 袋之御切れ
- 一 御下にて出来之由 甲州也 不用左衛門之下る
- 一 象牙箸銀逆輪にて三膳極る 紋金粉蒔絵
- 一 翌朝極り児島え達す 三日出来
- 一 二丸被下用意 小縞越後縮 明日御下け可被下候
- 一 田安一位様え被為進御印籠式通り極る 御役所に
有之

一 新錢座御成之節

- 一 紀州様 御置時計
- 一 浜織御絵地 ○
- 一 御簾中様 御筭
- 一 浜織御附帯 ○
- 一 御一位様 浜織物 ○
- 一 菊千代様 浜織数寄や縮 ○
- 一 ○印乗御台并御文こ台共両様 前日
- 一 浜え可廻事 奉書水引等添のし共

七月廿九日

- 一 峯寿院様 来十一日浜に付ての被下品
- 一 来る五日被下候旨 甲斐守殿被申聞候
- 一 御印籠并筭 笹之間え出居候
- 一 紀伊一位様え浜織龍門式 朔日御取寄に
- 一 相成候間 右箱居台拵候様甲斐守殿被申聞候
- 一 御香爐御穂家出来 信濃守殿
- 一 一覽済 八朔に可出様被申聞 二階に差置候
- 一 峯寿院様浜之節之御極 黒わな
- 一 天御帯地 丈短く候に付返 無帶上げ
- 一 信濃守殿御達上り 御役所に出し置候
- 一 然る所御極と御同品にて尺長を吟味
- 一 候様被申聞 御納戸え達す

但老丈五寸位有之候得は宜候

- 一 大船雛形御修復出来 伊豆守殿え

— 申上 御覽濟 銘書木札に直し
— 候上 是迄之通り御預之旨御同人御達
— 被成候 木札之儀伴助え達 御用人部屋に
— 有之候
— 大唐茄子之義 備中守殿にて伺濟
— 明日職方呼出し御菓方より談有之旨
— 御同人被申聞 伴助え達す
— 御印籠御筭御見分濟 御役所出す
— 甲斐守殿也
— 打紐見本 鐸五郎殿え出す
— 御不用絹縮 不残戻す

七月晦日

— 大唐茄子 祐三より伴助え談極り下る
— 肉御用に相成候旨に候
— 御印籠式通り入箱 居台申付る 手入下る 七日
— 上げ達す 甲斐守殿也
— 御簾中様御召山入紋紹御染出来
— 御覽濟 御縫取懸り候様小膳二殿被申聞
— 御納戸河嶋鎌三郎え渡す 十日出来之積
— 手桶新規式つ出来 鋏之進殿え出す
— 猿面 壺
— 右代金貳両 仁右衛門え為得遣す
— 面袋 当て共 十通
— 右伴助え申付候
— 八月份御定金 小膳次殿え申上 請取候
— 御庭之者并餌拵御手当 新六 俊碩え渡す
— 無色帯 御納戸にて吟味届兼候

八月朔日

— 峯寿院様え浜之節被為進御召物 今日
— 被為進に相成候由 御台に載御熨斗添
— 御役所に有之
— 浜織 龍門二 附帯一 透や縮一 甲斐守殿
— 御渡 箱居台申付候様被申聞 明日申付候
— 御品式階に有之

一 浜之口

一 銀喜勢る

一

一 鼈甲箸 二膳 蒔へ出来

右出来 請取置候 明日甲斐守殿へ御差出し
可被下候 胴へ出来之处不宜 縫新き仕直し
明後朝出来之積り

一 籠目銀御穂屋 御香爐とも

信濃守殿へ出す

一 来る四日大奥御掃除入之節

一 惣躰芝不宜所植付

一 葡桃囲竹損し仕直し

右左門殿被申聞 金七郎へ達

一 大奥御小座敷春日形御燈籠の上

御荀込に穴有之間 四日御庭入之節

拝見 九日入之節御植付 要■三の丸より

持参候様半太郎え可達旨左門殿

御達同人え達す

一 御簾中様浜御入は来春に

可相成に付 被為進御用御縫御召為止
候様 且何程に取掛り候哉書面可出様

信濃守殿御達 左内え達し 別紙

之通り申出 書面御同人え出す 御残り

切れ何程有之哉可糺様被申聞 明朝

申出候積りに候

一 右御召之儀入御聴候所 其俣呉服師え

御預け 諸事此間御取寄に相成候御品

之振に心得入念可申様御残り切れも御預け

之旨信濃守殿御達 孫助え達す

一 唐茄子之肉上り正悦え渡す 千方

日数五十日と申上候段長甫申聞 千方

出来候は、入御覧候上取掛可申様

右日数書面を可出様同人申聞 翌日

勇次郎え達す

一 御植木札 見本之通り三十枚つゝ二通り

信濃守殿断 吉之丞殿にて平右衛門え達す

一 浜奥締め御用

* ■は木偏に离

被為進口

一 小形御多葉古盆 一 コ

梅に鶴蒔へ

一 小形銀きせる 二本

被下口

一 銀きせる 五本

一 同紙挟 二

一 同胴べかな物 三組

一 同平打簪 五本

一 縫対物 一 コ

波に千鳥

右千鳥を銀にて伏出来候様

右信濃守殿にて伺済 児嶋御細工所へ達

縫対物 浜らしき模様品早々上 御同人

被申聞 児嶋へ達

同胴べ早々上 両所へ達

四方え開文庫之事

御造台三面上り 伊兵衛殿へ申上る

八月二日

前条小形銀きせる 木形にて伺 信濃守殿

出居候

縫対物胴べ両所より上り候処不宜 又々吟味

申付候 御同人え申上る

紀州御七夜来る六日之旨信濃守殿被申聞候

昨日上り候御作り台三つ 御覧相済

備中守殿也 御扣所に有之候

鐸五郎殿え出置候打紐伺済 霜降之

方二筋 嶋之方壱筋被仰付 銀鉞とも

御同人注文之通勇次郎え申付候

昨日御納戸え御預申達候御縫御召物

本請取之調印致し候 御預り書付出る

匂扇先日出来之分并小形上げ候様

信濃守殿被申聞候 小形出来合無之候はく宜候

小形蓑盆并きせる伺済 寛蔵 半介へ

達す 箱本取宜敷候

- 一 二徳二 対物一 胴^ヰ二極る 猶吟味両所へ
申付候 信の守殿也
- 一 田安一位様御剃髪九日之処 十六日に
相成候旨甲斐守殿被申聞候 印籠箱十四日上げ達
御作り台三面上り 弥右衛門殿え申上候
- 一 十一日浜に付被下品 縫胴^ヰ之外不残
甲斐守殿え出す
- 一 置物 柏葉に銀鳩二
梅に翁鶴
- 一 右御修復 八右衛門殿御渡 伴助え相渡す
御簾中様え可被為進御召物御縫 早々出来候様
甲斐守殿被申聞 辰次郎え達す
- 一 紅羽二重 三丈五尺
- 一 右御服紗裏地受取度半右衛門殿被申聞 伴助え
申付候
- 一 去月十八日浜御成 釣道具仕立代金
壺両式歩五匁 利介え弘
- 一 龜之餌入小皿二枚 伴助より上げ 鉄之進殿え出す
葵彫御丁子風呂釜
- 一 右御磨き出来 甚左衛門殿え出す
来四日奥御小座敷御掃除之節 芝刈候様小膳次殿
被申聞 平内え達す 御庭方にて
- 一 置物式 飯箱に入西丸より相廻り 甲州
御承知 角牡丹に入有之 請取に参候は、 戻候て宜敷
御簾中様御召 四日中出来畏り申出
- 一 小膳次殿え申上候 五日被為進之由
用意居台御申付可被下候 御しごきも被為
進候由 居台都合四枚申付候

八月三日

- 一 木櫛にて
御印籠 御根付 緒^ヰ 式十通程
右出来候様被仰付 児島え木形出候様達す
甲斐守殿也
- 一 木櫛にて七三郎細工御刀掛被仰付 甲州也
御染服紗諸式入用 壺両三步式朱式匁六分

- 一 七厘 甲斐守殿御承知 半右衛門殿之御渡申候
- 一 西丸様之五日御成にて御野羽織寄進候旨 外
- 一 式つ品有之候趣 未た不極
- 一 御作り台 御覽無之
- 一 西丸様五日被為進外二品之処 御野羽織
- 一 三つに相成候旨甲斐守殿被申聞候
- 一 昨日西丸より相廻候御置物二箱 撰津守殿
- 一 にて戻し候様同掛りより申越戻す 甲斐守殿へ
- 一 明日御申上可被成候
- 一 御植木札三十枚つゝ式通り出来 吉之丞殿へ出す
- 一 紀州一位様へ為御答礼
- 一 一 御棚飴 一
- 一 右伊豆守殿にて御極め相成 本取済 御国許へ
- 一 御差立之由 御箱之事
- 一 小石川帯地見当り不申旨信濃守殿へ申上る
- 一 縫胴へ絵形共白扇七本 御同人へ出す 小形
- 一 扇無之旨申上る
- 一 御作台二面上り 備中守殿へ申上る

八月四日

- 一 御作台一昨日上り之分三面 御覽済
- 一 蹴鞠三十極 内々にて権太夫殿断
- 一 大和守殿達 明日昼頃上げ 児嶋へ達す
- 一 長谷川 五半時呼出し候 御巻物御用
- 一 御絵番より掛合候
- 一 十五夜口象牙骨金銀扇 早々上 児嶋へ
- 一 東條也
- 一 紀州様御七夜六日之処御延 信濃守殿
- 一 被申聞候
- 一 紀伊一位様之被為進御棚飴 御箱共出来 出す
- 一 上千代昏仕継
- 一 雲鴻 三十 鷹の羽 籬菊 ■歩 二十つゝ
- 一 右御細工所へ申付る 東條へ御申上可被成候
- 一 不用道具御細工所へ下る キヤマン物共
- 一 紅羽二重裏地ク三丈五尺 半右衛門殿極る 明後日
- 一 上げ

- 一 綴御服紗巾■にて二尺 裏書并御昏入雲龍
- 一 裏書出候様半右衛門殿被申聞 伴助之申付候
- 一 今朝極り候反物御拵宜 本受取に致候
- 一 御簾中様御召御素縫 八半時前出来
出す

八月五日

- 一 西丸御式方様之今日被為進御台之積
- 一 御のし共出す
- 一 印籠根付木形 甲州之出す
- 一 御作り台四面共御覽濟 角牡丹之入置候
- 一 釣針三拾本 白革紐六本 内膳正殿達 出す
- 一 御鈴番所吹井戸脇水溜り有之候間 此後御庭入
之節為直候様小膳次殿被申聞 半太郎之達す
- 一 笹之間之御見分物出置候
- 一 右御見分濟 御役所へ出す
- 一 西丸御二方様へ今日被為進品 御召方にて
附添御廻しに相成 此方取扱不申候
- 一 御召物に付也
- 一 紀伊一位様へ被為進御棚飭 来る十八日
之由 敷紙包角牡丹之入置 信濃守殿也
- 一 十八日前御箱可改也
- 一 廿七日頃 浜奥締り之節被下品 早々
上候様信濃守殿被申聞 左之通り達
- 一 金銀真田胴ヱ 一 帯地
- 一 縫二徳対物袂落 一 附帯
- 一 紅山入紋縮緬腰帶地 一 白扇
- 一 白紋縮緬同断 一 遠眼鏡
- 一 象牙箸 一 縫胴ヱ
- 一 箱瀬子
- 一 鏡付出来候に付 本国織数々上げ 御同人
被申聞 児嶋へ達
- 一 蹴鞠三十上り大和守殿之出す
- 一 内 松印と有之方 式十卷 一ツ四十八匁
竹印 九つ 一ツ四十三匁
- 一 鱧針五本 御次へ出す 御針屋出次第仕繼

候積り

象牙骨扇 明日上り候は、御差出可被下候

八月六日

一 峯寿院様え浜之節被為進御重之箱台共

仕直 来八日上げ 杵村え申付候 御服紗無之

一 精姫君様浜之節被下

おみつの方 緋天縫二徳 手入与三郎へ下る

御鈴口

胴二つ 手入同人へ下る

壺つ 地色明日御伺之事

むめ

銀きせる二本 与三郎申付る

対物二つ 伊介へ申付る

右信の守殿也

一 同断之節 御中臈被下黒骨匂ひ入扇三本

御有物之内一本見本に下り 四本拵候様 御同人

被申聞 児島え達す 九日出来候様信の守殿え

御申上可被成候

一 帯地附帯共御用無之 御納戸え下る

一 右同断御用半右衛門殿 染帛紗始被仰付候に付

白縮緬鯨沓丈六尺裁切 御同人え出す

一 象牙骨扇三本上り 小膳次殿え出す

右御下絵差送 桂節にて美敷認め伺候様

被申聞 桂節へ達す

一 廿七日浜一件

本国織鏡付切れ 裏紅紋りんす

真田胴へ はし

右上り 小膳次殿え出す

八月七日

一 御月見飛出し御用

鯨 四本 鉛 六匁 植田／はり 銅一丈

天狗帖 十枚 晒芋 少々

右勘次郎殿被申聞 御作事児島え申付候

一 蹴鞠八つ御用立之分 内膳正殿え出す 廿式

- 不用 伴介へ可渡事
- 一 御月見御用金銀箔押出来候様 小膳次殿
被申聞 儀左衛門え達す
- 一 長繩式艘被下金式百疋出可申様書面
伊豆守殿被相渡候

横井様

- 一 縫胴へ一黒天に申付候 左左衛門也
 - 一 替小鴨有之候は、申出候様伊豆守殿被申聞
越前屋達 後刻罷出 此節所持無之
 - 一 心当りも無之 一兩日吟味申出 御同人え申上る
 - 一 振出し箸 又々吟味 五膳上り信濃守殿へ
差出候 児嶋也
 - 一 染服紗之事
 - 一 同入用之事
 - 一 栗焼 御役所え出す
 - 一 ほ羅針三十本 大和守殿より下る
- * 「ほ羅針」はボラ針か

八月八日

- 一 儀同様殿中御杖御免被仰進
候節 御杖被進候義有之哉 糺可
申様伊豆守殿被申聞 伴助相糺候処
左之通り

文政元寅年五月廿日出来

蓬来御造台 大き七尺

右之内に鳩桑にて彫立杖共
仕立身木板に付立出来

右之通書留有之候得共 御杖御免之
節に候哉 其儀は難相知申聞 御同人え
申上る 御細工所は左左衛門え糺置 いまた
答無之候

- 一 小石川浜之節被為進帯地 又々吟味 外に
色なし 帯地数々上 御納戸え達
- 一 廿七日浜之口被下
- 一 銀メツキ振出し箸 六膳

藻にこい 二

藻に亀 一

一 鳶にあし
二 波に千鳥

御坊主

一 紙入 四

紫黄紋天

かな物銀紋付

一 真田胴ヱ 四

波千鳥 印籠同彫

外に小形

一 鼈甲逆輪箸 一膳

塩家帆掛船蒔へ

右信濃守殿御極め相成

但鼈甲箸小形 紙入かな物伺候積り

一 金銀真田 早々上御同人被申聞 御細工所へ達

栄弥様

一 御杖出来之書留 御細工所より出る

何方様に候哉 不相知

一 鑿七挺研付 八右衛門殿断 熊太郎殿被申聞

宗蔵え達す 明後日出来

一 底金黒天帯地式巻上り 小膳次殿え出す

壺巻御極め

竹菱に蝶

不用之分不残下る 十一日迄御納戸え留置候様

達す 兼て御極め短き方も庚三郎え戻す

一 鏡付之裏絵絹 早々出候様甲斐守殿

被申聞 御絵番より中横物一立用にて出す

仕継御細工所え達す

一 田安一位様え被為進御印籠御箱共出来

式階に有之

一 前条帯地吟味にて出候に付 御沙汰之事

一 小石川浜之節被為進御重之家台 新き

仕直出来 二階に昏包に致置候

一 小形箸 長さ極る

一 金真田胴ヱかな物皮／印籠千鳥形 壺

右極る 寛蔵へ達 十二日朝出来

一 木櫛にて

- 御印籠 五通りにて 二十
- 御根付緒 同断 二十つゝ
- 右出来候様甲斐守殿木形御下け 勇次え申付候
- 御坊主昏入四つ かな物極る 勇次え申付候
 - 丸に笹りんとう 諏訪梶の葉
 - 丸に劔一 源氏車
- 小石川え被為進御帯 御仕立出来 御役所に出居
 - 十日御文庫え御詰に相成候よし

八月九日

- 一 鋸式挺目立 八右衛門殿断 熊太郎被申聞
 - 文蔵え渡す
 - 一 小石川御重之御箱居台銘書
 - 出来 御菓方え渡 御止めに相成候由
 - 一 御細工所二徳対物類戻す
 - 明後日十一日風月亭芝附足苧込共
 - 人足 五人 御門明出
 - 芝 十五坪
 - 壺樽 芝たし
 - 一 右左門殿断 庄右衛門殿達 半太郎へ達
 - 鐸五郎殿注文之白紫打交紐三筋
 - 一 銀鉞式十五 児嶋上り 御同人え出す
 - 一 替り小鴨見当り不申旨越前屋申出
 - 一 伊豆守殿 信濃守殿へ申上る
 - 一 替り尾長鴨 おん一羽 十九〇二
 - 一 だんどく 番 十三〇二
- めん之方替■
- 右有之候旨伺書差出 信濃守殿え出し
 - 尾長鴨御用無之 だんどく来る十二日
 - 御覧に差出候様被申聞 達し遣候
 - 一 替小鴨猶又吟味 御同人被申聞達
 - 一 精様浜之口銀物出来之分 御細工所より上る 銀簪一本手下る 明日中に出来

栄伴様

- 一 染服紗員数之義 信濃守殿へ申上置候

- 一 鑿 四分一／五分一 新規上り 伊織殿へ出す
- 一 昨日児嶋より調差出候御造台 文政元に出来之由 右は文政二卯年に出来にては無之哉問合候様伊豆守殿被申聞 左之通り申出る 文政元寅年五月廿日出来
 - 一 蓬来御造台 一 御用立不申由
- 文政二卯年九月二日被仰付
 - 一 同亀 一 同断
- 文政三辰年五月十五日被進
 - 一つ橋一位様え
 - 一 同鶴巢子籠 一
- 右之通り書面差出 御同人え出す
- 一 御細工所より書出候御杖出来 書面伊豆守殿へ出す 但文政四巳年三月廿一日也 御袋御箱も出来候

八月十日

- 一 箔二文庫一 御役所へ寄
- 一 金ちよろ御切 左之通り裁切 信州寸法取可廻様被申聞 出す 御残り切御用 濟迄留置候様被申聞候
 - 黄地唐花 四切
 - 地紋金立粹小紋 弍切
- 一 金弍歩 四日長繩弍艘之代 御鳥見渡
- 一 右伊豆守殿へ御渡申候
 - 鉄炮 壱十五分四方 星七分五り
- 一 金の 串共 弍百三十枚
 - 右信濃守殿断 十四日迄に出来候様一学殿被申聞 委細伴助え申達候
- 一 明日表使壱人増参り候に付
 - 白紋縮緬腰帯 一
 - 紗綾形 白骨匂ひ入扇 一
 - 右俄に仕立申付 出す
- 一 小石川被進御帯 明日御供附
 - 箔二台共仕継申付候

一 黒骨扇

四本

一 銀簪下り付 御細工所より受取

一 右明日信濃守殿へ御差出可被成候

一 楓之間蒞込 十五人 伝之助殿達

一 御休息同 十五人 多膳殿達

一 右明十一日五時入 金七郎え達す

一 十五夜被下寄木簞筒式つ 扇子掛け二つ

一 銀打替出来 御細工所より上り御用入部やに有之候

一 右同断御宮え付候こま々々切類 金銀箔押

一 式枚 小膳次殿え出し候処 織部殿え渡し候様

一 被申聞 御宮共不残翌朝御同人え御渡申候

一 又々明日請取候旨被申聞 角牡丹に有之候

一 綴糸式百三十管 半右衛門殿被申聞

一 翌朝児島え達す 十四日上げ

一 風月亭蘓鉄葉廿三枚 八右衛門殿

一 御預り 翌朝児嶋へ渡す

八月十一日

一 昨日御申付金的木薄之好有之 児嶋へ

一 達 田宮殿也

一 十五夜被下品手入 箱共出来 御扣所に入

一 有之 おみつの方棚飴又々手入下る 明日

一 出来之積り 箱二階に有之

宗賀様

一 吹上毬御入用前借七両相渡候様東條

一 被申聞候 并吹上人足代五両 当暮迄

一 立用致度旨被申聞候

八月十二日

黒骨

一 句扇御見本共五本 信濃守殿へ申上

一 三次郎殿へ御渡申候

一 吹上錦魚御用中岡持十 今日上り候積り 上る

一 角牡丹え入置候

一 だんどく上り 信濃守殿え申上 御召方詰所に有之

一 たんとく御覽済 越前屋ためしえ上にて

- 一 申出候様信濃守殿被申聞 代之者之達渡
- 一 遠州透御棚 明日出候様勘次郎殿被申聞
- 一 御作事之達す
- 一 被仰送候御金 明日権太夫殿之御渡可被成候 申送候
- 一 御謡本 七冊
- 一 右表題御手入出来 小膳次殿之出す
- 一 金真田胴ヱ 壺 鼈甲箸
- 一 右御細工所より請取 甲斐守殿之出す
- 一 織部殿御預け御月見御用品々 御同人之出す
- 一 十三夜御造台伺絵形 弥右衛門殿之出す

八月十三日

- 一 十五夜被下品 老女被下品共不残御役処之出す
- 一 田安一位様十六日被進有之節 右衛門督様 御簾中様之も
- 一 被進可有之哉に付 伺品用意 甲斐守殿被申聞
- 一 十八日紀州様被進浜織物 今日奉書水引御熨斗添 御居台共
- 一 浜之御廻し成候由 書役より申来次第御渡可被成候
- 一 御前日為御用意 右入候御文庫浜之廻置候様甲州被申聞候
- 一 御袴地 二 御袴地入文庫台共
- 一 スキヤ 一 八寸文庫共 一宛
- 一 附帯 一
- 一 右二階之差置
- 一 吹上御用御金二口 権太夫殿へ御渡申候
- 一 十五夜被下品 御用掛衆御見分済
- 一 御役所へ出す
- 一 十八日紀州様へ被為進織物居台御のし
- 一 外に
 - 一 大奉書 三十枚
 - 一 中同 同
 - 一 尺長水引 二十把
 - 一 中同 同
- 一 右甲斐守殿にて御召方より請取 御同人御文通
- 一 添 浜奉行へ御廻し相成候
- 一 遠州透し御棚 鐸五郎殿之出す
- 一 但表無地金／裏唐紙形 御屏風片々添る
- 一 精姫君様浜之節 被為進被下

不残 御役所へ出す

内銀きせる 五本

蒔へ

菊彫 一本

鼈甲らう蝶蒔へ 紫且／らう之処

蝶秋草 二本

紫且らう蝶蒔へ

同

同断 二本

鈴虫蒔

右之通信濃守殿被申聞 十五日夕刻出来

蹴鞠御入用書 大和守殿へ出す

精姫君様浜之節 小形御多葉古盆之

御箱来る十七日出来 杵村へ達

八月十四日

御月見被下品 御包分に付

一 押のり 小寸切二枚

一 御次硯 二面

右入込 御役所へ出す

同断棚飴品 箱より出し引板へのせ出す

明箱中之間に有之

同断御造台不残 備中守殿へ出す

十五夜被下之節 大奥へ隠居兩人

上り 此度は御召嶋縮緬老反つゝ

御極めに相成候 以後見合に御入用帳へ

認置度権太夫殿御達被成候

吹上錦魚 例年之通御住居向え被為進

来る十八日西丸様へは其内御成之節

御東へは御場所無御座候に付 当年は御止め

被遊候旨権太夫殿被申聞候

十五夜被下小たんす之事

御新座敷掛御庭方御酒代金百五十疋 金七郎へ

渡す

一 鉄炮的 串共 貳百三十

右出来 伴助差出 織部殿へ御渡申候

- 一 田安一位様え来十六日
鳩の杖 壺本
右被進候旨小膳次殿被申聞 伴助え申聞候 明日夕刻
迄に出来 御箱服紗 明日昼前杵村
伴助方え越 本取 夕刻迄に出来上げ候様達

八月十五日

- 一 銀物絵形不足之所え張足し 小膳次殿被申聞
御細工所え達す
- 一 大奥御道具翁鶴置物 明日迄御日延申出
- 一 八右衛門殿え申上候
- 一 十三夜御品上げ候様 昨夜甲州被申聞 三か所え達す
- 一 十一日浜御成之節 御幕包
廻し方人足賃壺分式朱
- 一 伊豆守殿え御渡申候
- 一 銀物絵形 御細工所より請取

八月十六日

- 一 精姫君様え被進御多葉粉盆
之御箱居台 明朝上げ之所 早く相成
今夕差出可申様信濃守殿御達 杵村
文通出す
- 一 紀伊様え被進之御時計 十七日之
夕上げ可申様信濃守殿御達被成候
- 一 右御時計は陸通り 御小道具役
付添浜え持参り候心得に可居様御同人
被申聞候
- 一 新錢座廻りひく三 新き申付候 伊豆守殿也
- 一 吹上錦魚御用中岡持十 手入下る 明日
出来之積り
- 一 梅銀翁鶴御置物銀打替出来 伴助差出
八右衛門殿え出す 古かな物御同人え出す 又々下り
居候
- 一 十八日浜え被為進品廻候節 貞三附添遣候様
且御下乗口より内は御長持浜役人相手に
致し 海手御茶屋え貞三持込候様被仰付候段

一 権太夫殿御達被成候

一 神田橋御立寄之節

一 松栄院様より

一 御舞扇子 五本

但御中啓 桐御箱台共

一 右御頼之旨甲斐守殿被申聞 児嶋え申付候

一 十八日御用御文庫御用意 前日廻り之積り之処

一 廻に不及旨甲斐守殿被申聞候

一 鞠袴四つ御手入 児嶋え下る

一 御棚饔珊瑚附御箱仕直し出来 廿七日の方 御たはこ盆

一 箱台帛紗共出来 小膳次殿え出す

一 十五両壹歩四匁四分

一 右浜海手え奥向衆釣并揚火見物都合十度分

一 諸式入用 浜奉行渡 甲斐守殿え御渡申候

一 濡子地帯地上げ候様甲斐守殿被申聞 上り出す

一 十三夜御反物上り角牡丹に有候 帯地反物

一 又々上り候積り

一 しよふゑんじの葉せい々々致居幾頃取候て

一 絵之具に製候て宜哉 甲斐守殿被申聞 児嶋

一 御細工所糺候処 製方一向に不心得旨両所より

一 申来 御同人え申上る

八月十七日

一 新錢座え

居台三枚 御熨斗包 大壺／中忝／小忝

外大中忝つゝ扣

一 右御廻可被成候 小膳次殿也

一 壺形畚式 信濃守殿断 仲殿にて上げ

一 候旨清三申聞候

一 精姫君様浜之節 表使

過人壺人え被下

白紋ちりめん腰帯 一筋

匂ひ扇 上みて御絵出来 一本

一 右之通権太夫殿え出 上みえ出る

一 精姫君様明日御灸に付

紫縞■絹縮

一反

右御極めに相成 御居台え三つ折り

乗 御役所え出置候 権太夫殿也

毛植狎 早々上候様伊豆守殿
被申聞

大 尺三寸一 小 式つ

右児じまより上り 御居台式枚

御のし包式つ添 浜え相廻り候

内壺通り被為進に相成候よし

但浜より出候積も難計候

匂ひ扇は伴助品置所え扣

置候様権太夫殿被申聞 御達し

可被成候 翌朝勇次郎え達す

御月見御道具 御細工所より

上り 児しまより出 御用人部やえ

入置候

絹縮之事

八月十八日

明日大奥御掃除早入 左門殿被申聞 半太郎へ
達

八寸文庫一孔雀上千代包御供附にて浜へ

相廻る 御附帯入候由 杵村出次第仕継御申付

可被下候 居台共

吹上錦魚御住居向へ被為進 中岡持居台

権太夫殿え出

繻子地帯地数少に付 七巻程も上 御納戸え達
東條也

御預之内かな網壺枚 鐸五郎殿え出す

十三夜御用 不用反物類戻す 絹縮本請取
いたし候

八寸文庫仕継申付候

十三夜御用 不用反物帯地上り 角牡丹え入置候

八月十九日

半右衛門殿 御染服紗諸式入用書付一通

甲斐守殿え掛御目候処 御渡申候様被申聞

御金半右衛門殿へ渡す

一 八千代文庫の台一仕継申付候

一 昨日還御掛 替四十雀一羽

代十七両三分

内籠下り引方一両壹歩

数寄屋町 室屋徳兵衛

右御風呂屋口に扣居候 甲斐守殿御承知

一 十三夜御坊主被下反物 早々上げ御納戸へ達す

一 綴織箱瀬古地三通り甲斐守殿御渡 早々

箱瀬古に致出来候様被申聞 児嶋え申付候

一 十三夜御東銀芥子并被下銀物伺済

内被下銀けし

一 匂玉入まりかざり糸色替かざり様替

極けし

一 猫

一 蟹

同

同

一 ひよ子

右絵形伺差出候様小膳次殿被申聞 御細工所へ

達 出来次第御同人え御差出可被成候

一 右同断被下道具反物

一 書棚

おみつ

大きさ程宜方

一 扇掛

格

一 小置物

御錠口

一 広蓋

御次頭

一 小形花活花台

御錠口介

一 紅大紋綸子

花

之内

一 同大紋羽二重

御中臈

一 空色大紋綸子

之内

御坊主

一 空色純子

右来る廿七日迄に上置候様 小膳次殿被申聞

一 三か所へ達 早々に申付候

一 十三夜御造台拾台御絵形

伺相済 弥右衛門殿 貞仁申聞

虎之助え達す

内三台御好有之 達す

一 浜より相廻候替四十雀御籠

御戻に相成 拾六両式分にて弥

御買上に相成 御入用浜奉行え

申立候様甲斐守殿被申聞 室屋

徳兵衛え達す 戻す

一 神田橋え御立寄口不残揃

御用掛衆御見分相済候 信州也

追て御箱上げ日限可達候

一 昨日浜え相廻候毛植狎 大之方

九十匁 右壱つ御用候旨 御残り二つ

戻り 勇次郎え渡す

御出生様え被為進候

一 十三夜御前詰被下鼈甲差込簪 一本にて

十両以下にて出来可申哉承り候様甲斐守殿被申聞

左左衛門殿へ達 分り次第御同人へ御申上可被成候事

一 前条匂玉入銀けしまり之事

一 昨日御請取之帯地 十三夜之口にては無之

昨朝申達候口有之旨 御納戸申出 内八巻

御役所へ差出候

一 先日御覧有之たんとく見極之義

来月末にも相成候へは 見極相成へく旨

越前屋申出 信濃守殿え申上置候

一 八千代文庫台上り 角牡丹え

仕遣 其外共改め揃置候

横井様

一 箔絵長御文庫御居台 仕遣上り

請取置候

一 前条鼈甲簪凡入用書

御細工所より出 請取候 明日甲斐守殿

御差出可被成候 御同人へ出す

- 一 来る廿七日奥廻り御用帯地一筋
- 一 御極めに相成 札付上御たんす御引出え入置候 信濃守殿也
- 一 但末弥と申には無之由
- 一 楽焼文具揃相下り 御箱
- 一 棚にて御細工にて出来候様左門殿被申
- 一 鉄三郎拵 御同人え出す

八月廿日

- 一 紅大紋愉子空色純子上る 大紋羽式重
- 一 空色愉子吟味中之旨 鎌次郎申聞候
- 一 絹縮九反戻す
- 一 御錦魚舟御預 大振之方有之様に
- 一 御沙汰被為在候間 糺可申様九助殿被申聞 平右衛門え達す 後刻迄に御植木掛衆之否御申上可被下候
- 一 両御月見御造台惣御用
- 一 百四十三両老歩
- 一 右御扨伴助申出 書付小膳次殿え出す
- 一 十三夜品 御細工所より上り 角牡丹え入置候
- 一 上千代昏上る 権太夫殿え御申上之事
- 一 紅大紋羽二重 空色紋りんす
- 一 右見当不申旨御納戸より申込 尚念入吟味申達候
- 一 御錦魚舩御預之書面 平右衛門出候 多膳殿え申上候
- 一 御巻物金砂子 明日左門殿え御一覽可被下候事

八月廿一日

- 一 銀けし 猫 蟹 ひよ まり
- 一 右絵形出 小膳次殿え掛御目 尚書直 五左衛門え達
- 一 砂子御見本 左門殿一覽済 宜旨被申聞候
- 一 空色大紋愉子四反上る 猶又吟味中に候 大紋羽式重市中吟味詰候所無之 御詠被仰付候は、日数七十日

*「愉子」は「綸子」か

- にて出来候旨呉服師申出候段半十郎
申聞候 小膳次殿之御申上可被下候
一 上千代昏委細申上差出候所
雲鶴と福寿は可請取 菊と
鷹之羽は以後之義も有之間 戻し
入念出来之上請取可申様被申聞候
一 御錦魚舩御用立候分 御手入致し改め
御小道具役之御預 左近将監殿被申聞 宗蔵之
達す 御手入出来之上は御作事■に有之候 大損
御用立不申分三つ 取捨候様被申聞 宗蔵之
達す

八月廿二日

- 一 九月份御定金御渡被成度旨信州
被申聞 請取候
一 神田祭礼被為進被下取調
心掛候様信濃守殿被申聞 書拔
同人え出す
一 金百五十両 小膳次殿御渡
右両御月見御造台御入用百四十三両老歩
伴助え渡
一 笹菊 鷹の羽鈴上千代昏 左左衛門之下る
一 廿七日浜御用 老尺老寸四方居台三枚 枚邑へ
申付る
一 御巻物口紙奥紙 昨日左門殿にて極り 長谷川へ
申付る
一 十三夜御台上納日割 宗筑を以出す

八月廿三日

- 一 廿七日奥廻り 紅地帯地弥御極めに
相成 たとふ包にて御役所に有之 甲州也
被下之廉にては不宜 御用と計可心得候
一 在郷屋に白髪松芽生有之候間 明日半太郎
入候て 孫半土五つ程持参 御時節宜候は御植付
致候様 昨夜小膳次殿被申聞 源治郎之達す
但御植付候時節此節より追々宜旨七郎兵衛より申越

小膳次殿え申上る

右白髪松之外松え手を付不申様小膳二殿達 同人え達す

- 一 葵形御火鉢御修復 八右衛門殿にて伴助え下る
- 一 前條白髪松芽生 改て御達 明日半太郎
- 一 入拝見之上 御時節宜候は、御植付致し候旨申上可致
- 一 御時節不宜候は、其段申上候様小膳二殿御達
- 一 源治郎え達 孫半土六つ源治郎へ渡す
- 一 御砂鉢壺 溜塗波蒔へ／蠟石板へ 漏留御繕
- 一 八右衛門殿御申付 虎之助え申付候
- 一 蔦之間 南天之網 半太郎え渡す

八月廿四日

- 一 縵子壺卷 七郎右衛門殿え出す 下る
- 一 廿七日浜表使嶋田増参り候に付

与三郎へ談 明日夜分

銀させる 一本 迄に出来申聞候

浪鶴千鳥 廿六日御門明き上げにて宜

対物 一つ 御役所状箱に入有之

右甲斐守殿也

- 一 御下け之綴織にて御箱瀬こ三つ出来 伴助
- 一 差出 甲斐守殿え出す

八月廿五日

- 一 神田祭礼に付被進被下極る 絵形与三郎へ
- 一 談 尚書直し出候積り 来十一日納め
- 一 右唐子之間■替 御模様替り
- 一 持出し御紋付 並より少々大きく
- 一 出来候様 何れ御木形にて伺候様左衛門え
- 一 達す 甲斐守殿也
- 一 御巻物之御軸四十八幅分出来 兎嶋より
- 一 上る

紫檀 元目壺貫百四十目の内

御軸 百式拾八匁 小切六十壺匁壺袋

挽粉三百十式目式袋

減目八十七匁

差引御残り

五百五十式匁 壱切

右左門殿へ差出候所 御軸は直に可渡様
被申聞詰 栄吉を以出雲へ渡す

当月分御庭方始 新組餌拵

御手当金 金七郎 清三へ渡す

来月二日吹上奥へ有之間

例之通心得 植木屋へ可渡様并

石橋に可相成品三つ四つも差出可申

寸法は半太郎承知に付 談可

申様権太夫殿御達被成候 明日

植木屋へ出候旨に付 御達可被下候 若し

不出候はへ呼出し 御申遣し可被下候

八月廿六日

表使へ被下銀きせる出来

信濃守殿へ出す 御覽濟御見分に

笹之間へ出居候

紀伊殿芝御屋鋪御泉水入

活ほら活いな并簀引被下金共

伊豆守殿へ御渡申候

琉球御衝建御手入出来

児じまより上り 信濃守殿へ申上候処

廿八日出来可出旨被申聞 御用人部やに

有之候

十三夜口に気吹花活見え候 出し申

間敷様権太夫殿被申聞候

御月見口銀鞠壺 同絵形八つ 明日中

御細工所より差出候間御受取置 廿八日小膳次殿

より沙汰有之候はへ 御差出可被成候

空色大紋綸子 市中吟味詰候処 最早

無之旨染木弥右衛門申出 小膳次殿へ申上候

紀州御出生御七夜延 明後廿八日に付 被為進極る

御箱明日七時上げ 杵邑へ達す 明日御用掛衆へ

御見分御差出可被成候 甲斐守殿也

一 小細工方往返帳

一 御納戸

一 御細工所

右月々御入用帳 当年分は差置 其外は
壹ヶ年つゝ集め箱に入 二階戸棚え入候

一 七郎兵衛今日不出 明朝五半時過呼出し

御庭方より申遣候 彦兵衛初えも不達

一 昨朝伺済之銀鎖胴ゞ 認直し并

一 鼈甲御簪御木形 左衛門より請取

一 甲斐守殿え出す 伺済同人え達す

一 廿八日紀州様え被為進 五半時に相廻り候旨

一 甲斐守殿被申聞候

八月廿七日

一 明日紀州様え被為進 笹之間へ札置候 信州也

一 二日吹上御締り御飭付之義 栄次郎え

一 達 御石之義とも彦兵衛其外も同人より

一 達す 但御石御入用之事

一 土木 貳尺五寸 貳十本／貳尺 十本

一 右 八太郎殿達 左門殿断 宗藏え申付る

一 明後日上げ

一 紀州え被為進 御見相済

一 御役所え出す 翌朝御のしも出す

八月廿八日

一 琉球御衝建御手入出来

一 信濃守殿え出す

一 昨日御用立候御居台御のし包

一 仕遣申付置候 御のしは上る

一 来月二日可出御石橋御入用書 絵図とも

一 栄次郎持参 権太夫殿え出す 猶又

一 吟味申付 彦兵衛えも文通致候

一 御女中様方浜御庭被為入候節 俄に浜織物

一 被進可有之節之為御用意 布地反物台廻置

候様小膳次殿被申聞 廻り物帳表昏之裏え
認め置候

一 銀鞠下拵一絵形添 小膳次殿え出す
一 御釣竿 御櫓え不残為仕廻候

八月廿九日

一 先達て御役所え御留に相成居候餌合子
四つ 右之根付

式つは 煤竹にて艾蒔絵
式つは 象牙入縞竹

右 信濃守殿昨日被申聞 虎之助え申付候 明日
御形伺候積り

一 餌合子 二つは 金唐草／二つは 更紗
右 御地御下け裁切兎嶋え渡 御残り小膳次殿え
返上

一 桐之間松御手入之義 伝之助殿被申聞 七郎兵衛え
申遣候処 黒松 赤松 五葉松共来月四日頃
御時節宜敷 惣躰御手入人足十五人願候旨
玉造諸式も持参致候段答申越 御同人え御達
申候

一 十三夜品不残 甲斐守殿にて
極る 御用掛衆御見分相済
内

御錠口 小屋物ふくら雀之打替

并玉之事

兎負の波之事

御坊主 純子式丈之事

代り有直す

隠居 重箱一極 一つ吟味

上り居 信濃守殿御承知

扇掛扇の骨は伴助え渡置 地紙

御役所有之 御下絵伺不相済由

一 御棚飴有合箱 一つも御用立

不申 申付候

一 御錠口竹花活箱大小之事

右銀芥子鞠八つ伺済 漆は

不入 毛彫計に下を御形之通

平にて宜旨甲斐守殿被申聞 寛藏え
達す

一 扇掛壺対 総角に葵形

透し塗蒔へ

右御買置銀に御かな打替置

西丸え御成杯そ之節に

東御殿え被為進にも可相成由

甲斐守殿被申聞 打替御細工所え
下る

但扇之義如何有之哉

伺可申候事

一 吹上奥締之節 橋の石出候に付

伺権太夫殿え出居候 何れ御沙汰
有之候積り

伺之内 下直式品は持込候様栄次郎

最早達置候 若違候は、御達

直し可被成候

一 大奥御庭え極り候伽羅外之

丸物も吹上奥締之節出し候様

支配より達有之 出候旨栄次郎

心得申聞候

一 十三夜御反物類 本請取に

致し 御綴直し請取 二階に

有之候

一 神田橋御立寄口銀もの

上み出候様信濃守殿被申聞 上みて

御筭文庫入下り 御詰綿入候様

被申聞 入れ 御役所に有之候

御包御前日に可致候事

菊之ませ垣 蝶の方計越候ては

不宜 ませ垣之方にて越候様被申聞候

一 右御文庫仕遣申付置候

- 一 三河守殿 阿波守殿御登城有之
候に付 御品上げ 尤珊瑚珠御置物
御棚罨杯そ宜 其外も上げ候様に
権太夫殿被申聞 近き差合除き
上げ 両所え達す
- 一 上の方四十以下三十五六〇位
御月見口御道具不用之分
不残両所え下ける
- 一 廿七日八太郎殿被申付土木三十本 御庭方へ渡候様
被申聞 請取候様翌朝平内え達す

九月朔日

- 一 御石橋之石 吹上え出候は 又々
違ひ可申よし 後刻内膳正殿より
御沙汰有之由 若無之候は、御伺之上
七郎兵衛 彦兵衛え御達可被成候 権太夫殿被申聞候
七郎兵衛より四つ 彦兵衛方より式つ
右絵形御入用共伺出居候
- 一 松栄院様御頼御中啓九本御箱共出来
甲斐守殿え出す 後刻神田橋へ廻す 御文通済
御石橋五印御影石 右にて極り候間 明日出候様

彦兵衛

- 一 外出に不及旨内膳正殿被申聞 栄次郎え達す
楓之間赤松 黒松 五葉松御手入人足十五人
来四日五半時揃 小膳次殿被申聞 新六え達
伝之助殿委細被申聞候
- 一 御月見口
花活箱大小有之候て宜敷
ふくら雀は銀打替 水晶玉に引替
御見合扇掛は扇用意に不及
- 一 右甲斐守殿被申聞 ふくら雀御細工所え達
餌合子之根附 信濃守殿え明日御伺可被成候
- 一 右衛門督様浜御入有之候間被為進品御拵候
様甲斐守殿被申聞 角牡丹に有之

小鷹之由

引板え田印と札付置候

一 嶋台形御盃台

壺

右八右衛門殿御渡 其俣にて花松の色上げ
被申聞 虎之助え達渡す

一 三州 阿州一件道具 両所より上る 角北ノコ御用人部や
貞三様

一 御針や書出え御払可被遣候

一 御簾中様御願にて大黒煎餅被為進候間

例より御数少にて宜候間 早々出来候様甲斐守殿
被申聞 早速申遣候処 夜四時出来申越候
数百五十 六時過出来 甲斐守殿え出す

尺九寸居台壺枚御申付可被下候 幸蔵へ達す

一 来る四日御庭入之節 おみつの方庭に桜
有之 景氣不宜候間 引板三丸へ遣候様

一 小膳次殿被申聞 翌朝源次郎え達す

一 来る四日御庭入之節 大奥御小座敷竹御庭
建樋水支候間 小普請方入為見候様福村
被申聞 翌朝敬助達す

一 来る五日西丸御成可有之

西丸 御錦魚

御東 昨日御極め総角葵扇懸一對

象牙透骨扇金錦押 二本添

右甲斐守殿被申聞 三日朝迄銀打替廻候
様義左衛門え達す 御箱三日四時上げ 杵村へ達す

一 七三郎御細工御刀掛木櫛にて竹彫雀

象牙にて拵候様甲斐守殿被申聞候

九月二日

一 十三夜用鯨一 針銅一丈五尺 天狗帖白縮緬五寸程

右勘次郎殿被申聞 明日上げ達す

一 御刀掛壺御修復 甚左衛門殿被申聞 伴介

呼出し遣候 明日出来候様御立寄御用申付候

一 象牙透骨扇二本 十三夜口被為進に御立用
に付 跡仕継上げ児嶋え達す

一 式尺御鉢一鉢珍敷花 明夕刻上げ 甚左衛門殿

断 貞二申聞 御賄え達す

一 神田橋御立寄被為進

御箱出来入 角牡丹え入置候 出候様

信濃守殿被申聞 出し銀物も上千代にて包置候

御針屋四口へ拾七両三分壹匁と五り

利助呼出 相渡候

餌合子御根付御蒔絵 象牙

象眼ごまたけ節付之方

伺信濃守殿え出す さび竹に

以前之御形下り 勇次郎え渡し置

大岡持居台壹枚 杵村え申付候

御手拭御手入 明日昼迄是非に

出来甚左衛門殿被申聞 伴助え申談

出来候旨御同人え申上置候

九月三日

御嶋台直し方 御好通 弥出来候哉

日限も被致承知度旨八右衛門殿

被申聞 相糺候処 弥出来 来十七日

之旨申聞 後刻御同人え御申上可被成候

御扇掛御絵出来下り候処 一本に付

信濃守殿申上候処 式本は間違

壹つ之被為進之旨被申聞 箱直

杵村え申遣候 地紙は伴助え達 今日中出来

小膳次殿え出候様 又々御絵之御手入有之候

但跡壹つ唐子之間えても被為

進し候由 木箱は不申付候

長局之瀧尾之隣之部屋之庭

又隣部屋之庭 両所之泉水え

掛り候様なる橋石を五十三間奥より

之節丸印か輪違か印を付 御飭付に

出候様 尤明日大奥御庭入人足に見せ

見せ(衍か) 可宜品を可出候様信濃守殿被申

聞候 後刻支配え御通達可被成候

紫且式葉葵角形多葉粉盆

御かな物取れ候に付 明日御成済 即刻

相下り 還御前に出来候様信濃守殿

被申聞 伴助え拝見させ置候 明日職人

- 呼出し置 達す
- 十三夜重箱極り 御覽無之
- 御手入に下け宜旨信濃守殿被申聞 伴助え渡す
- 肴籠類数々弥右衛門殿にて
- 長甫申聞 御注文之品無之 似寄にて出 同人え渡す
- 杓板目板 中杓尺五寸／厚削上り七分 一枚 権太夫殿御段鐸五郎殿にて早々上げ 平右衛門殿え達す 上り候はゞ
- 御差出し可被下候 出す
- 葵形御扇子掛壺対 御細工所より受取
- 金銀地昏式枚 御役所え出す 象牙透扇用
- あふ頭砂利
- 蠅頭砂利
- 右御囲払底に付仕繼 明後日上げ支配え達
- 御鳥飼之割麦 壺升六分式厘之処 六分に直下御賄より申出候
- 粃米壺升稗四合 二丸にて鴨御飼付御用
- 日々御庭方え渡候様八右衛門殿断 孫三郎殿被申聞 明日分上り 御庭方へ渡す
- 御造台三面御上処 唐操不上並式面上り
- 大隅守殿え御達申候
- 御嶋台御手入之義 八右衛門え申上候
- 被為進御扇子掛御箱共出来 角牡丹え入
- 御扇子折方出来 小膳次殿え出す 御服紗は扇掛之御箱之内え入置候
- 右扇掛之片々は箱に入 二階奥之間に有之
- 象牙御紋附御刀掛御修復出来 甚左衛門殿え出す

九月四日

- 先達て出来之
- 御盃 蝶透し
- 硝子盃 同断
- 右盃台見立物 御好御注文甲斐守殿被申聞 伴助え達 明日絵形出候積り

- 一 二日奥締御用立帳 内膳正殿御渡申送候
- 一 御多葉粉盆一つ外御引出し
- 一 壺つ御手入出来 数馬殿え
出す
- 一 長局え入候植木屋人足
- 一 入引之事
- 一 節句前御入用之義 信州え御■
- 一 明日
- 一 東御殿え大黒煎餅 式百三十
- 一 権太夫殿被申聞 申付置候
- 一 被仰付は九半時迄に出来 其心得にて
早々手心

九月五日

- 一 植木札見本之通三十枚 権太夫殿
- 一 断 九八郎殿にて宗蔵え申付候 出来出す
- 一 今日西丸え被為進候品 今朝
- 一 御極め 御箱御細工掛衆 鷗目
- 一 真田出置候 鐸五郎殿也 御居台申付置候
- 一 竹彫香合 五つ
- 一 幕引針銅長弍尺位にて四十五六本ほどの
長さに相成候 丈数権太夫殿断 鐸五郎殿にて
宗蔵え達す 御詰合御細工掛衆え御出可被下候
上り 出す
- 一 餌合子根付四つ伺済 勇次え
達す
- 一 御造台 御覽無之
- 一 都合七台上り居候
- 一 御月見御用桧板 三分三枚 式分壺枚
- 一 小膳次殿断 勘次郎殿被申聞 宗蔵へ達
上り 翌朝出す
- 一 硝子塗御盃 壺 菊折枝■銀
精様
- 一 於みつの方
- 一 壺 同断 花銀
- 一 外金めつき

一 老女六人 隠居二人

八 同断

一 塗盃

御用掛衆

五

右甲斐守殿被申聞 伺絵形共御同人之出す
御入用凡積り申上候

残り 硝子 壺

木 式

御役所へ出す

一 御鳥見渡御金 明日御支度置御申送

可被成候 二通也 甲斐守殿

一 紀州様に近々御誕生可有之由 小膳次殿

御咄に付 御手遊品上げ 児嶋え達

一 あふ頭／蠅頭砂利二樽つゝ御用意上り 御舞台後

掾側え先つ差置申候

一 十三夜銀物出来 鼈甲簪共請取 重て

小膳二殿え可出候

九月六日

一 紅之絞り方糺候様 昨夜甲斐守殿被申聞

児島え達す しゃうゑんし糸之義 彦兵衛へ

文通出し置候

一 餌合子袋四つ出来 小膳次殿え出す

御造り台五面御覧 壺面御好有之

一 児島え下る 四面角牡丹え入る ■唐操も直し方申付る

一 花呉座甲斐守殿一覽済 佐七え渡す

一 今日御灸中御投物御覧可有之

早々上げ甲斐守殿被申聞 児島え達 初午

之心得にて候

但此方心得にて五十二間御投物も用意達

一 遠御眼鏡御修復被仰付候間

明日職方可呼出様 甚左衛門殿御達

勇次郎え達す

一 獵師被下金八両式分 こかい代

壺分式朱四匁五分御拵出来申送候

明日甲斐守殿え御出可被成候

一 八両式朱 六郷筋御場見分之節

漬物干海苔之代 伊豆守殿御渡申候

一 しよふゑんじ草 持方之義

彦兵衛より返事参り居候

一 今日初午御賑やかし御延有之

御投物 昨年之通にて場所を計揃ひ

出候様信濃守殿被申聞 取揃出す

外に御■計之分不出候

一 硝子塗盃

精姫君様

盃形にて盃たけの大きに壺輪の菊花

蒔へ糸底の所うてなに相成候様

一 菊折枝は御棚饅の折枝位にて可然

荅の上え右之盃載 盃共花数

五輪に出来可申様

おみつの方

猪口方にて右同断

一 菊折枝大き右同断 花数三輪に

出来可申候

老女衆 六人

外 老人

盃形にて右同断 但新規に盃／壺枚仕足し

御用掛衆 五人

猪口形右同断

一 菊折枝大き 花数とも右同断

右何れも正寸之絵形差出候様 蝶は

大く出来之方宜との事 甲斐守殿

御達 勇次郎え申付候 外猪口形

菊蒔へ致可申様被申聞 是又達す

一 蓬萊御月見之御台 舟に代り

龜に可仕旨虎之助申聞 備中守殿え申上

候所 可然旨被申聞 九日朝御覽■

八日上げと勇次郎え達す

横井様

- 一 御衝立今日出来之所 明日迄御延願 良之助申出候
- 一 煎餅台仕遣上り 角牡丹え入置
- 一 御月見金銀地紙式枚 三次郎殿に御渡に相成候旨権太夫殿被申聞候
- 一 二日吹上奥締御飴付 御植木御金■
権太夫殿御渡し被成候

九月七日

- 一 御造台四面御覽相済 伊兵衛殿被申聞 角牡丹え入る
- 一 御遠眼鏡大中小三本 甚左衛門殿にて御手入下り児嶋渡す 出来日限左之通申上る
- 一 小之方 九月十五日出来
- 一 中之方 同月廿三日出来
- 一 大之方 同月廿七日出来
- 一 明日大奥御掃除 御対面所共御成済入候様八右衛門殿被申聞 新六え達す
- 一 御衝建壺脚 牡丹／杜若 新規出来 甲斐守殿え申上 紙形共角牡丹え入置候
- 一 漁師被下并ごかゐ代 甲斐守殿え出候
- 一 正円子製之義 甲斐守殿え申上候処 御鳥見之方え御下け被成へく被申聞候
- 一 十三夜銀物鼈簪共 小膳次殿え出す
- 一 綴織糸 茶計十管 明朝迄上げ半右衛門殿被申聞 児嶋え達す 上り 出す
- 一 犬面 壺
- 一 右 仁右衛門持参 請取置候

九月八日

- 一 御小盃絵形 昨日甲斐守殿え出す 尚又大振にて盃乗候所 懸紙にて認出居候
- 一 御対面所と東之御庭御泉水堺に板にて当時魚留有之 右を此後御庭方入之節さぶたに可致様被仰付に付 此後入候節 寸法を取 小普請方に

* 「正円子」は「生臙脂」か

為拵 其次入之節御庭方にて取付
可申様権太夫殿被申聞 金七郎え
達 半太郎え為心得申候

一 来十二日鷹之間御庭松之御手入
人足五人 五半時入之心得にて出候様
数馬殿被申聞 明日支配出次第御達

可被成候 尤手の宜しき者 翌朝金七郎え達す

一 昨午年 鷹之間え松之御手入に人足

入候哉 入候は、数人等取調申聞候様 数馬殿
達 支配明日出来 是又御達可被成候

此方扣并御鑑番之方にも鷹之間

松御手入之義留無之 御同人え申上候

前又金七郎え翌朝達済

一 御払金千貳百両 信濃守殿御渡し

夫々え相払 未た当分申出ず

向も有 出次第相払候間 御申送可被成候

御納戸御縫模様御入用八月分 未吟味届兼不出

一 御衝建御絵粉上料

六両壹分五匁一分貳り

右御拵出来申送り候 御渡し

可被成候

一 栗焼之代申送り候 御遣可被成候

貳両貳分也

一 吹上七月分御植木入用

翌朝権太夫殿にて清朴え渡候

九月九日

一 紫旦那桐に鳳凰蒔絵御多葉粉盆

御きせる掛相手坪 壹つ銀にて

出来 権太夫殿へ出す

但跡四本出来 扣置候様御同人

被申聞 銀鈴之内え入置候

一 蠟石板へ御砂鉢壹 漏留出来 昨日上る

八右衛門殿え申上置候 御詰之節御出し可被下候 出す

一 左之通御表具出雲え被仰付 左内殿御軸

御絵御切れとも御渡 鈚仕足し同人え申付候

霧降瀧 内記筆

上下 柿茶純子

中 紺地 金にて／七宝に桐

■一 白地 金にて／唐草

御月見御台式面 御覽濟 蓬来

御台御好有之 勇次郎え早々出来と達す

清水御立寄に付被進上げ置候様権太夫殿

被申聞候 達す

一 匏耄挺 伊織殿にて明日昼頃迄に研

出来候様権太夫殿断にて平右衛門え申付候

一 大奥南天之鳥滅 俄半之助 六之助へ * 「鳥滅」は「鳥威」(とりおどし)か

被仰付 出来致し候

染棕欄繩 細棕呂繩 五把つゝ

太苗竹 三十本

針耄寸五分 百五十本

一 御衝建御絵料 甲斐守殿え出す

一 御小盃并盃猪口共蒔絵 御同人にて伺

相濟 児嶋え達す

一 南天御用

桐之間 苗竹六 たが竹五 水繩 伝之助殿へ出す

御休息 苗竹二 白水繩五 栄之允殿御庭方渡

御新坐敷 苗竹十 がら竹一 水繩十五房 藤馬殿御庭方渡

右何れも甲斐守殿断也

一 狂言面 祖父／犬 二

右信濃守殿え明日御見分に御入可被成候

一 御造台 蓬菜亀

右御手入 明後十一日御門明ならては御手入出来

兼可申段 虎之助申聞 尚又談は置候

一 御月見被下品箱共上り 御扣所に有之

扇掛之箱 高さ詰可申事 杵村え

明日御申付可被成候 翌朝文通にて申遣

一 金銀箔押 十五夜之通出来候様小膳二殿被申聞

早々出来 五左衛門え達す

一 杵割蓋式つ 明朝迄焼候て出し候様 熊太郎殿

被申聞 文蔵へ達す

九月十日

- 一 鯉節中のし包 壺
- 一 右御用意御賄え申付候 帳えは出候由 出来候
- 一 狂言面 信濃守殿一覽済
- 一 銀物が最早上みえ出候 御見分も
- 一 濟候事
- 一 昨日申付候御表具切れ裁切 純子と
- 一 白地式切返上 左門殿え出す 紺地之方は
- 一 追て返上之旨出雲申聞 御同人え申上候
- 一 焼板割蓋 伊織殿え出す
- 一 匏研出来上り 御同人え出す
- 一 蓬来御造台出来上り 備中守殿
- 一 一覽相済 翌朝御覽相済
- 一 角牡丹え入置候

九月十一日

- 一 三河守様 阿波守様 近々御登
- 一 城之節
- 一 吹上御庭御饅付
- 一 御花檀御勝手御中庭之所え
- 一 小間物類
- 一 植木屋之御茶屋内に
- 一 御鳥類
- 一 御同所前御植木段え
- 一 御鉢植物類
- 一 右之通権太夫殿被申聞 御鳥伺書
- 一 早々差出候様被申聞 越前屋え申遣候
- 一 小間物心得 [] え達す 植木屋序
- 一 之節心得可達候
- 一 三河守様 阿波守様え御品御極めに
- 一 相成候 伊豆守殿也
- 一 御置物御好波台之方宜く
- 一 罍壺本 蜘蛛之巢取壺本 付かへ
- 一 外壺本新き
- 一 右権太夫殿御申付 勝蔵え申付 出来次第
- 一 御出可被成候 八右衛門殿え出す

* [] は空白

- 一 明日 鷹之間松御手入人足五時前に揃候様
- 一 八右衛門殿被申聞 金七郎え達す
- 一 十三夜御用金銀箔押式枚 遠州透板
- 一 勘次郎殿え出す 御棚は御舞台後ろに有之候

九月十二日

- 一 御作り台不残 弥右衛門殿え出す
- 一 十三夜被下品 御棚飭共小膳次殿え出す
- 一 神田祭礼に付被進候簪胴被下 胴被箸共
- 一 不残出来 昨日甲斐守殿え出す
- 一 菊伐花筒台 式十壹本立扣共 十八台

式十八本立 三台

行燈籠付

- 一 右織部殿被申聞 后刻杵邑え御申付可被下候
- 一 通ひ筒三拾本 平右衛門え申付る
- 一 鼈甲簪之差込 菊折枝
- 一 右付堅め大急ぎ出候様 小膳次殿被申聞
- 一 昼頃迄に上り候様藤右衛門え達渡す
- 一 祭礼口被為進被下品御見分 笹之間え出す
- 一 御造り物組重下り 勇次え渡す
- 一 三河守様 阿波守様 吹上之節
- 一 御花檀御勝手御中庭え小間物段
- 一 御取建は 吹上にて様子不存に付 五十三間
- 一 御取建之通り式間式尺五寸之方
- 一 其俣御作事にて持参取建候様 御跡は
- 一 よし簀 其外建物は吹上え置付
- 一 板之間段は引取候様 権太夫殿被申聞
- 一 御用意致し置可申段 文蔵え達す
- 一 御植木建札 大／中／小／極小 式十五枚つゝ 見本之通り
- 一 脚建 壺 是は御修復
- 一 右三丸御菊御用 数馬殿断 半太郎申聞 文蔵え達
- 一 御同所御室并小屋雨漏直し方 右同断
- 一 御断 同人え達す
- 一 簪差込出来 権太夫殿え出す
- 一 一つ橋御引移一件 被為進

大きめ

置物卓

- 一 右上げ候様 其外も心掛候様 信州
被申聞 御細工所虎之助え達置候
- 一 女帯丈之面之代 三両式分式朱
拵置申送り候 御渡可被成候
- 一 菊御伐花 御筒台とも幸藏え
申付候

九月十三日

- 一 餌合子之根付四つ出来 受取置候 御差出
可被成候
- 一 昨日被下之竹研出し重家共損し 今日中に
出来候様 昨夜甲州被申聞 児嶋 杵村之下る
明朝五時出来 御請取置可被下候
- 一 清水御立寄口反物帯地上げ 甲州にて御納戸え
達す 道具類二引 角牡丹に有之候
- 一 猿面 壺
右出来上り候 信濃守殿え御見分に入可被成候
昨日之代金仁右衛門え渡す
- 一 餌合子御根付四つ 信濃守殿え出す
御根付附方に下り 伴助付け出す
- 一 猿面 信濃守殿御一覽相済申候
- 一 三河守様 阿波守様吹上之節
御飭付小間類は殿向計に致し候様
尤御品々上げ入御覧可申旨権太夫殿
被申聞 早々上げ達す
但御飭付之御場式間之間に付
御作事文藏之下 拵心掛達置候

☒ (小間物棚 御中庭 式間)

- 一 右同断之節 吹上御飭付御鳥伺書
越前屋差出 受取置候
- 一 御細工所より道具上り 角牡丹御用人部屋へ
入置
- 一 色なし帯地紫縮緬上り 角牡丹え

- 一 入 数少又々上達 紅縮緬色入帯地
早々上達す
- 一 鋸耆挺目立直し 伊織殿被申付
文蔵え達渡す
- 一 御東え明日何そ被為進品 只今御覽
之旨信濃守殿被申聞 反物棚飭差出
候処 御用無之下る

〔九月十四日は原文に無し〕

九月十五日

- 一 来る十八日浜御成之節
- 一 御袴地二反乗居台 一枚
- 一 同 三反乗 同
- 一 同 式巻乗 同
- 一 御花筒之居台 一尺耆寸四方
- 一 白奉書 十枚
- 一 中水引 十把
- 一 右之通相廻候様 甲斐守殿被申聞 杵村へ達
桐板矧立 左門殿断 熊太郎殿にて文蔵へ達
明後日出来
- 一 反物帯地御納戸より上り 角牡丹に入置候
- 一 右衛門督様え十八日被為進は積之御品にて
相濟候旨甲斐守殿被申聞

九月十六日

- 一 御手入に下り候遠眼鏡小之方 昨日出来 鶉殿申上処
- 一 明日出し候様被申聞 二階に有之候
- 一 色なし帯地六卷上る
- 一 出雲御仕建之四十八巻物 廿八日納に相
願度申聞 左門殿え申上 御承知に候
- 一 十八日浜廻り甲斐守殿御達し 居台四枚
水引奉書二階に有之 明日廻し場所
- 一 御同人へ御伺之上 御廻し可被下候
- 一 鋸目立出来 伊織殿え出す

一 七郎丸殿之被為進

一 御置物卓

一 唐硯之類文具飭

一 替り鳥之内

右之通之旨信濃守殿被申聞 硯文具

兩所之達し 御鳥伺書越前屋之達す

一 吹上御飭付小間物類上り 御扣所に

有之候 権太夫殿之申上げ候

但女中向袋物類も用意

致候様被申聞 伴助之達す 権太夫殿也

右之節御鳥書面 権太夫殿へ出す

一 清水より御頼用御召御鷹鞆

五指出来候様左門殿被申聞 御細工所之

達す 御箱御居台出来に不及

御立寄御用之由

申年

一 御鬮信濃守殿御取扱之旨

被申聞候

一 御休息稻荷御社之杵切詰御時節

七郎兵衛之糺候様八太郎殿被申聞

糺候所 此節より十月中旬迄宜旨

申来 御同人之申上候

九月十七日

一 越前屋より御鳥伺書面出候 至て

少々に付 猶又吟味致し色々

書出候様 尤早々之旨 代之申付置候

一 三河守様 阿波守様置物

并御棚飭鼻紙台御手入出来

角牡丹之入置候 何れ明日取扱可申候

一 硯類文具飭 御細工所より上り

御扣所之入置候

一 吹上御飭付小間物類御覧済 御撰分

有之 別昏之通御好権太夫殿被申

聞 伴助之達す

但御飭付之節 綴付無之様被

仰付候

葭簀御掛候品は其俣にて宜敷

青張段之事 薄縁之事

赤毛せん無之方

御嶋台御修復出来 八右衛門殿え出す

明日御休息杓刈込 七郎兵衛人足壱人例刻

出 栄之允殿被申聞 金七郎え達す

狂言 長袴 一行

右手入 児嶋え下る

御東え被進御素縫之御入用書 幾之助より

請取 小膳次殿え出す

御頼用之御鷹鞆は御召方取扱に致候様

甲斐守殿被申聞 御細工所え断返致候

小之方遠眼鏡 鶉殿え出す

九月十八日

右大将様えいよめ御東唐子之間瀬戸物類

右被為進御台心懸け甲州被申聞 見計角牡丹へ出置候

但いよめは殊に寄候得は落に候

越前屋より御鳥伺書出候 二通に成

彦兵衛方松造人足五人 明十九日例刻

罷出候様庄右衛門殿被申聞 半太郎へ達

九月十九日

三河守様 阿波守様御置物 豆州

信州見分済 御入用之義も宜 其外も

打替見分済 仮箱に入角牡丹に

有之候 追て御用掛衆御見分え可出候

箱出来之上御覧に可出旨被申聞候

箔絵長御文庫上り 御役所御戸棚

入置候

御饒付之内御好品上げ候段 権太夫殿え申上候処

明日見分可致段被申聞候 虎之助え達

御対面所さぶた壺 権太夫殿にて小普請方へ

御預 平内持参 音太郎え渡す 御預帳え為記候

御新座敷御手水鉢載候板 半太郎注文之通り

- 一 文蔵へ達す 明日出来次第御新座敷懸りえ御差出し可被成候 小膳次殿断
- 一 松栄院様より御頼御中啓箱共御入用書 過日出来 新規御衝建御入用書 右式通認め 甲斐守殿え出す
- 一 大川和作細工 四方盆の火入灰吹御かな物 絵形伺候様甲斐守殿被申聞 与三郎へ達 明後日出候積り
- 一 御比丘尼明日上り候に付被下重箱 八組御極め 椀箱共翌朝出来に付 小膳次殿え出す

九月廿日

御庭方にて

- 一 御座之間松枯葉取 明後日御成跡にて 為致候様甲斐守殿被申聞 三平え達す 但養い遣し兼候はゞ致し様被申聞 是亦達す
 - 一 椀板三分六枚 式分四枚 甚左衛門殿御断 勘次郎殿 被申聞 明日四時上げ 宗蔵え達す
 - 一 上千代昏仕直し上り候 権太夫殿え御差出可被下候
 - 一 御新座敷御手水鉢之台十口共宗蔵より 請取 藤馬殿え出す
 - 一 並管籠之居台一 箔一 居台一 仕継申付る
 - 一 清水え御立寄品御極め 銀物 四月中に出来候様左衛門え達す
 - 一 御道具御手入に下げ 御箱四日迄達す 田安え御立寄品御極め御道具 御手入に下げ 御箱本取宜しく
- 内

反物三丈に裁切物一つ有之

帯地対の品吟味 御納戸え達す

老筋御極 一階に有之

右両様共先二階え差置候

箱瀬子御文庫え入 二階に有之

餌合子袋一つ 革御下けに相成候積り

信濃守殿也 一つ出来合繕方被仰付

左衛門え達す

根付先日出来候通り式つ玉少々

御模様替伺候様 信濃守殿被申聞

伴助え達し置候

一 上千代 菊／鷹之羽 権太夫殿え出す

一 長谷川御仕立中之巻物 大巻に可

相成寸法糺候様 左門殿被申聞 左之通

申出御同人え申上候

軸先より取詰寸法

長壺尺壺寸壺分

丸之太さ式寸四分

一 植木御茶屋松御手入人足 明日も

五人例刻出候様 兵三郎殿被申聞

半太郎え達す

一 吹上御饗付品仕足之分 権太夫殿一覽済

内多葉古盆壺 百二十五匁組込

一 昨日御用立並管籠一 仕継上仕舞申候

九月廿一日

一 巢箱御用わらひ縄十二把 九助殿

被申聞 平内え渡 左門殿断

一 一つ橋御引移之節被為進品極る 御見

合品も有之

右御見合之処 弥御極め小膳次殿被申聞候

一 餌合子之袋金唐草 壺枚

右にて出来候様小膳次殿被申聞 寛藏え渡

裁切 残り返上之義達す

一 帯地吟味 明日七時頃迄日延申出候

一 老女衆壺人新き被仰付候に付 菊之節

被下候盃并台共増候様甲斐守殿被

申聞 虎之助え達す

一 五十三間御置台 来廿七日頃より取掛にて可然

尚其已前伺候様甲斐守殿被申聞 重左衛門殿

達置候

一 菊伐花 来廿五日より始り候旨孫三郎殿

被申聞 杵邑え廿四日上げ達す

- 一 不用道具 御細工所児嶋え下る
- 一 とんほ印桶式つ 鞆負佐殿にて御預け決す
- 一 外え出し不申様 御同人沙汰次第出し候様御達 二階に有之
- 一 前条御置台 来る廿三日より取掛 廿七日迄に
出来候様 大張出は成丈け遅く出来候様
- 一 甲斐守殿被申聞 宗蔵へ達

九月廿二日

- 一 五十三間御置台 大張出共廿七日迄には
急度出来候様
- 一 廿七日清水御立寄
- 一 廿八日此御方限 五十三間奥締
被進被下小盃台并昨日壺通り増之分共
- 一 廿七日御門明き迄に出来候様

未発には候得共

- 一 十月朔日西丸様御入欵 西丸え御成欵
御両卿様菊御花見欵
 - 一位様は御入有之間敷哉 右衛門督様
 - 御一方に付 七郎磨様其内御忌解に被為
 - 成候得は 表向に無之 御風呂屋口通り
 - 御登城可有之哉
- 一 朔日紀州様奥御通り 五十三間え為入
へく哉
- 一 二日田安御立寄之思召
- 一 四日御鷹御成
- 一 此御方限之節 二之側二ヶ所に石橋
御餉付に出候様
- 一 右極御内御沙汰甲斐守殿被申聞 被為進
品心掛候様被申聞候 御銅御申付可被成候
- 一 菊あんとう類
- 一 藤の花 謡寄
- 一 右改置可申候
- 一 鷹之間錦魚舩之糸建包蓋出候様 鉄太郎殿
被申聞 御作事穿鑿候処無之 御鳥方に有之
為出候
- 一 五十三間奥べり之義 支配兩人共御供

- ― に付達し不申 明日御達し可被成候 新六へ達
- ― 右衛門督様え被為進餌合子 御根付
- ― 御蒔絵并象牙象眼仕様 別段
- ― 御伺に不相成 先達て出来と違ひ
- ― 賑やかに出来候様 信濃守殿被申聞
- ― 委細虎之助え達す
- ― 吟味帯地無之旨 似寄対帯地上り
- ― 権太夫殿へ申上る
- ― 菊行燈類 藤の花出し 調児嶋へ申付候
- ― 田楽棚御作事へ預置 銅壺献之間二階に有之

九月廿三日

- ― 来る四日 三河守様 阿波守様吹上
- ― 御締り之旨 明日にも小間物檀取建候様
- ― 文蔵へ達す 権太夫殿也
- ― 五十三間明日昼より御馬有之 左候
- ― ても兼て御達之通 廿七日御置台
- ― 皆出来に相成候様手廻し可致旨
- ― 信濃守殿にて文蔵え達す
- ― 御東え大黒せんへい 例之通被為進二百三十
- ― 申付候 四半時迄に出来之積り
- ― 今日西丸御二方様品 御次へ寄有之 杵村
- ― 之事 御品極る
- ― 箔三 御文庫仕継達す
- ― 田安御立寄口 兼て御極め之内
- ― 右衛門督様御料昏硯ヨ右御不用御料昏硯廿極
- ― 御手入廿八日上げ 与三郎え達渡す
- ― 右一件廿八日上げ 児島 杉邑え達す
- ― 紀州様奥御通り之節被為進物極る 箱申付候
- ― 秋姫様御手遊 伏籠物吟味 児島え達
- ― 六角掛行燈十四 かほちや四本 棒五本
- ― 右御手入児島え申付る 廿六日上げ
- ― 六角掛行燈宜敷分十六 壺長持に入 御作事え
- ― 預置候
- ― 藤の花 紫 三十／白 三十
- ― 右児島え申付る

*「秋」の左に「トキ」

一 菊伐花行燈 紺料昏四十八枚
一 御召方より請取 杵村え申付る 是は廿五日上げ
一 十八日浜御成之節 御釣道具仕足代 利介え払
一 御投物御役所え寄る
一 三河州置物本取 今一応為致候
一 来月四日吹上奥へ 御植木類廿七八日之頃
一 植木やえ可達候
一 紀州様朔日御入之義 宗藏へ心得達候
一 五十三間奥へ 敬助え心得申達候
一 餌合子之袋革裁落 小膳次殿え返上

九月廿四日

一 五十三間御花壇通り之御手入 直に取掛
一 候て宜 支配え可達様小膳次殿にて金七郎え達す
一 紀州秋姫様え被為進免伏籠
一 御極め 伏籠三コマ四コマ程詰候様被
一 仰付候旨甲斐守殿被申聞 虎之助へ達す
一 和作細工御多葉粉盆 御かな物
一 類伺済 御注文有之 寛藏え
一 相達候 猶又為念御絵形認め直し
一 出し候積り有之候
一 御餌合子之御箱 信濃守殿え伺候処
一 式つ入堅之仕切計 御根付共々
一 御服紗包入可然旨被申聞 杵村え
一 申付候 右衛門督様え之方
一 御鳥御饒付品書 吹上之分下け
一 朔日之御饒付之書面に直し出 右御用
一 済て吹上御饒付取調 二日にて差出度旨
一 権太夫殿え申上 右之通り相成 太三郎え
一 達す
一 三本貫木地台老面 長三尺／横老尺八寸
一 右左門殿断 貞二申聞 廿六日上げ
一 幸藏え達す
一 廿六日上げ改敷花 右同人申聞候通り
一 御賄え達す
一 清水え御立寄之節被為

進御品不残揃ひ 御用掛衆御見分
相濟候 権太夫殿也 御置物御多は粉
盆御箱出来 角牡丹え入置候

御文庫之内

きせる 雲鶴上千代御たとふ

胴へ紙挟 孔雀牡丹同断

右之通御拵出来 御役所に有之

御文庫之外福寿上千代包と

被仰付候間 申送り置候様権太夫殿

被申聞候 未御包に相成居不申候

一 三阿州餌合子下け 杵村本取

宜しく前之通り御箱申付置候

一 箔三御文庫上り 仕継申候

九月廿五日

一 御用掛衆御菊之節被下品

御極め相成候 後刻御下御申付可被成候

信濃守殿也

一 廿八日五十三間奥締之節

一 匂ひ桜 一重にて輪の大き方

匂ひ桜銘付台計にて宜

一 石橋二 是は印を付候ては不宜

桧にて植木通り札拵

植木屋にて認め建置候様

桧之所御印也

一 梅花宜を 瀧尾に同人となり

両人之庭植候て宜

品を可出 印無之方

右之通権太夫殿被申聞 後刻

支配え御達可被成候

一 吹上三阿州御飭付 水鳥類は

小鳥多 鶏之類水鳥は除き

御飭付に出候様権太夫殿被申聞

後刻越前屋出次第御達可被成候

一 精姫君様老女衆盃台

今日中にも一つ上り入御覧候様

一 権太夫殿被申聞 勇次郎之達置候

一 吹上四日御植木御飭付之義 序之

一 節植木屋之可達候様権太夫殿

一 被申聞候

一 来月上旬

一 七郎磨様奥御通之節 御鳥可被為進処

一 御止め御印籠に相成 式通り極る 晦日上げ

一 箱本取済 御見分も相済候

一 但 御引移も五十二間御菊も来月上旬に候

一 御用掛衆之被下品箱本取済 御手下下る

一 餌合子袋共出来 御細工所より受取

一 明日信濃守殿之入御見分可申候

根付取付候節 職方呼出可申候

一 猿之面 一つ代金式両

一 右仁右衛門方之為持遣候

一 廿八日五十三間廻り台大小二十五枚 廿七日

一 上げ 杵村之申付候

一 被進被下盃台之箱可申付候

一 障子屏風手入致 七曲之入置候 五十三間

一 廻り之積り御心附可被成候

一 鼈甲御簪 式本

かきつはたに蝶

一 右出来御細工所より受取 今一通りは出来方不宜

一 仕直候に付 廿八日迄御日延申出候

一 雪白鴛鴦巢箱新規四つ 甚左衛門殿

一 断 明日迄出来 惣蔵へ達す 出来候は、御鳥方へ

一 渡し候様達す

一 田安右衛門督様より御上げ御頼

一 餌合子五つ

一 浪に鶴蒔絵 源氏蒔絵

一 沈金雪輪雀 沈金羽寄

一 小形紫旦無地

一 覆

一 茶色革 丸紋更紗 本国天

一 縫紋切れ 羽様

一 根付

紫竹無地三 紫竹縞竹式

右伊豆守殿にて注文有之 甲斐守殿え
御聞合申 児島え達す 箱杵邑え申付る
明日中上けに候

一 凡御入用十式三両程 何れ吟味之上／可申上事
中堅物 式幅対

梅に■ 雪梅に鴛鴦 探淵書

右晦日中御仕立出来候様 伊豆守殿
被申聞 長谷川え渡 畏り候 御切れ明日
御伺之上早々御渡可被成候

但御軸象牙 壹寸五り御下けにて／可然哉御伺御申付可被成候
右御箱居台御帛紗杵邑え申付候
田安え被為進に相成候由

一 菊伐花 来月朔日

西丸 御東 御三家様

二日

御住居向不残 御両卿様
右之通栄之允殿被申聞候
雨天に付子取れ不申旨申出 三可を以向々へ
御断致す

一 明日御献備菊伐花 六通り出す

一 先日御手入に下り候遠眼鏡三箱 甚左衛門殿え
出す

九月廿六日

一 此御方限奥べり之節

精姫君様御盃台は御棚筋に
相成 御猪口は御三方乗 御袋戸え入
被下之分おみつの方を少し放し置
不残候様袋戸の内へ入置可申 盃
は乗候俣 右甲斐守殿被申聞候

但箱跡廻し

一 恭真院様え被為進品 御役所え出す

一 御用掛衆被下コツフ四つ々四通り

一 弥右衛門殿え伺差出候

一 来る廿九日御用掛衆御菊之由

伊豆守殿被申聞 向々え達置候

小普請方 音太郎 佐七

御作事 宗蔵

支配部屋番 金次郎

虎之助

杵村え御箱上げ達す

一 田安二姫様え被為進御簪

杜若之方

印付過候に付 信濃守殿え入一覽

直し方御細工所え下け置候 四本共

少も早く上げ候様左衛門え達す

一 九月分支配申立御手当人足賃

并餌拵新組御手当相渡候

一 明後廿八日 此方限り五十三間御菊
之節

ザク口下御用場御取建に
不及

西丸様御入 御手水之節

御同所御用場御取建致し候処

右之通被仰付候段権太夫殿被申

聞 清五郎え達す

一 サク口下脇御馬場出口四つ雨垣
之辺え一切諸式残木等差置

不申候様可達旨権太夫殿被申聞候

明日支配の次第御達可被成候

一 今日五十三間御手当人足居残

支配より相願候得共 居候義は廉立

不宜 居残相止 右にて御手当出来

兼候は、 明日御成御留守にて

右丈人足増 御手当御拵致候様

支配退出に付 左門殿より被申聞

役人源次郎 部屋番金七郎え達す

一 御餌合子御頼用之方出来兼

明正御門明迄御刻限延 兎しま申聞

伊豆守殿え申上候■ 御箱出来上る

一 被仰送之御表具切 十右衛門え

渡し 御軸其外共不残出し
出来候様達す

但右御掛物 朔日早朝迄に被入
御覽度 左様無之候ては御間合
無之旨伊豆守殿被申聞 猶又申出候

承知申越 御同人え申上候

御鉢植台上り 御掛衆え差出候

引替下り台 部屋え被廻候

被為進御菊行燈籠三台

上り 御扣所え入置候

廿八日御饅付小間物之内 鹿鼈甲

差込等大之方を出候様 尤少々

御入用高く相成龜旨権太夫殿え申上

御承知 虎之助え達す

大川細工御多葉粉盆御火入

御かな物類御絵形 猶又認め直

出候処不宜 認め直し 又々遣し置候

明日差出次第甲斐守殿え入御一覽

可被成候

五十三間竹楼御腰掛之紋紗御障子

信濃守殿え御断申 児嶋より上げ張替候様

宗蔵へ達す

九月廿七日

一日五十三間御置台 楽寿

御衝建并薩州献上堆錦

御■屏 御召方より絵取出し候様数馬殿

被申聞候

一日御植木御饅付前 書面御庭方

役より出し 御門明き出候様被申聞候処 支配

未出候に付 出呉候様申聞候旨権太夫殿へ

出し候

一日田安御頼餌合子出来上り

伊豆守殿に出候処 御文添御館え

御廻しに相成候 御鞆も一箱御渡候 一所に

廻る 内少々心障有之 小之方

一 清水え小間々々物内

人形 十

水晶玉 十

毛植物 十

右之通今朝俄に御極め相廻る 信州也

但箔絵七寸文庫入れる

一 田安二姫様え被為進帯地御極め

之通 対物無之御断申出 外二本

揃ひ并一本物御役所え寄せる 東條也

御極め之方出居候 札付

一 右御帯地 先式卷御極めに相成

外に朔日迄吟味壺卷 信濃守殿

被申聞 御納戸え達す

一 明日御投物御極めに相成候

一 赤毛せん八十枚 御召方より受取

一 田安御立寄口被為進御箱出来 角牡

丹え入置 伏籠御箱明日出来

一 明日五十三間此方限奥締に付

金屏風 一双

障子屏風 一双

てんかく棚

藤の花

銅壺へつつい

燭台笠付 二十

小道具十 箱入

楽寿衝立

堆錦衝立

謡寄行燈 五つ

縮緬御幕 二通り箱共

六角行燈

建行燈

手桶ひさく 手掛付

白木台 二十五

右御庭方え相渡

九月廿八日

- 御用掛衆被下硝子コツフ五つ極る 上げ児島へ達す
- 一 明日四時五十三間御べり御用掛衆菊拝見
- サクロ下御用場 取建
- 小間物 今日御用立残／塗物籠 硝子錫の類可置
- 但袋物人形■切れ都て女中物除き
- そはみせ取払
- 右甲斐守殿被申聞 助次郎 伴助え達す
- 一 清水御館え御植木請取取持人相廻申候 廻り
- 候は、御成御門外迄持込伺候様内膳正殿
- 被申聞 三平え達す 才領六之助へ状箱渡す
- 一 四拾目式拾挺 生拾五匁七十二挺
- 右甚左衛門殿え出す
- 一 来月四日吹上御飭付御鉢植 仁右衛門／七郎兵衛え
- 達候
- 一 吹上小間物檀之青張段は吹上より
- 出 御作事方にては不為廻 権太夫殿
- 被申聞 文蔵え達す
- 一 田安御立寄口 餌合子御止め
- 御印石色々上げ候様甲斐守殿
- 被申聞 児しまへ達す 上り 信州え
- 申上置候 御用人部やに有之候
- 一 御巻物四十八巻出来 出雲差出し
- 左門殿にて角牡丹え入置 長持は出雲の
- 品に候 表題は被仰付次第呼出し為張
- 可申様御同人御達被成候
- 一 田安口 鼈甲簪四本共出来
- 信濃守殿え出す
- 但 御箱之義信濃守殿伺置 極り次第可達候
- 一 前条餌合子袋御根付共
- 式通り 御役所え御預箱入有之候
- 但御餌合子式つ御不用 御細工所
- 戻候様被仰付 ■え翌朝渡す
- 一 明日御用掛衆五十三間菊拝見に付
- 一 銅火鉢 四面

火箸共

格式衆

* ■ は空白

- 一 椀同 壺面
- 一 多葉古盆 四面
- 一 切炭 貳貫目
- 一 御香爐炭 五百目
- 一 天城炭 壺俵
- 一 上染付茶碗 十
- 一 土瓶 貳つ
- 一 中布 五筋
- 一 足打 貳膳
- 一 手桶 蓋付 壺
- 一 上紙緒草り 貳十足
- 一 唐銅半銅 壺
- 一 黒塗炭斗 貳つ
- 一 障子屏風 片々

御用掛衆腰の物置所 御茶屋御勝手え廻す

右明朝五十三間へ相廻候様支配部屋番へ

渡置候

- 一 桐板 四枚

- 一 同 三尺四方 三枚

右権太夫殿断 鐸五郎殿被申聞 出す

- 一 今日被下に相成候御地植二類

明朝切抜より持込 御植木居付部屋え

致候様権太夫殿被申聞 半太郎え

達す 但重立候者附添出候様 是又達す

九月廿九日

- 一 右衛門督様餌格子代り

御印石 三九〇三

右伊豆守殿にて御極 本取杵村出次第

御申付可被下候 御不用之分勇次郎え下る

- 一 一つ橋徳慎院様被為進台硯 手入出来

二階に有之

- 一 赤身杵板 壺枚

右孫四郎殿へ差出候

- 一 来月朔日紀州様五十三間

御菊御飴付

植木類 御鳥類

かな物類 瀬戸物類

一 田安御姫様小簪 御文庫入と

被仰付候段 信濃守殿被申聞候

御文庫与三郎え申付置候

朔日中出来

一 紀州様え被為進物見分濟

一 印石箱本取申付る 明日昼頃迄出来 出来申候

一 御用掛衆被下コツフ 当年は御用無之

下る

一 田安被進御箱上り 角牡丹え入

一 来月三日包管籠三つ 吹上掛衆へ御渡

申 役所へ廻候様甲斐殿 内膳正被申聞候

御鳥掛竹は吹上より出る

三日昼迄に出来候様

え渡達

*

は空白

九月晦日

一 唐銅小盤銅壺つ 甚左衛門殿にて蓋え穴明け

勇次へ達 后刻出来

一 銀御香合梅に鶯 入念御磨き 八右衛門御渡

勇次へ達 后刻出来

一 両様共出来次第御差出可被成候

一 五十三間御馬場御飭付地植之事

跡入念手入 敬助え達す

一 八時三丸菊花取箱釣替可被成候

一 明日五十三間植木屋之内え松造り人足

一 三人交出し候様孫三郎殿被申聞 半太郎へ達す

一 栄次郎明日五十三間御飭付御用人足之

内へ罷出 御飭付済 楓之間御用有之

候間 相済次第申聞候様甚左衛門殿被申聞

半太郎へ達す

一 水戸御引移之口 御箱三日上げ杵村へ達す

一 過日御用立せんへい台仕継 杵村へ達

一 明日紀州様え五十三間え御多葉粉盆出

候に付 御多葉粉入御極めに相成候

御手入致し

え出す

*

は空白

一 御両卿様御菊之節被為

進物御極め 御箱御手入申付候

但右衛門督様 七郎磨様御棚飴

吹上万年茸御下け 右にて出来

候様御砂鉢御極め 児じまえ申付候

内実は五本切 跡は致宜候

御登城之節

一 三河守様御養子 阿波守様

御子被遣御認め 御手入御箱申付候

一 田安御簾中様 御反物

筆姫様 帯地

純姫様

右本請取に致候 十月分御用と

達し置候

一 銀御香合御磨き 小盤銅穴明け出来 信濃守殿へ

差出候

一 小膳次殿より御預け之内壺分 萌き真田二尺七寸

孫七郎殿へ差出候

一 田安御立寄之節被為

進御品 不残御見分相済

角牡丹え入置候

帯地御反物も翌朝御詰方

致し置候

但御文庫箔二と三と引

替台共杵村え御達可被成候

一 藤の花不足に付 仕足三十本 紫計申付候

一 明日五十三間慈童御取建有之

候俣也

一 三の丸御菊切花御用 御花筒

西丸御二方様 二台

御三家方 三台

右与十郎殿へ差出候

一 上千代仕継御申付可被成候

一 明日五十三間御馬見所へ御風呂釜

出候に付

一 藤灰 二十袋

- 一 羽箒 壺本
- 一 青水縄 壺把

右請取度旨御手水方申聞 御賄御作事より
請取渡す

一 右に付

- 一 軍配形御屏風

右御庭方へ渡す

一 三日吹上え廻す 包管籠之事

一 御掛物出来 伊豆守殿申上候

候処 御役所え出置被申聞 出し候

一 明日被為進物不残御役所え

出す 翌朝御のし包も出す

御多葉粉入も出し置候

一 田安え御立寄品不残御役所え

出候様信濃守殿被申聞 出す

帯地吟味無之旨翌朝

権太夫殿え申上候

右のし包請取候

壺つゝ御扣付置

一 明日紀州様五十三間御用

一 御多葉古盆 一面 御三卿様御用之也

右翌朝御勝手へ相廻す

但御香爐炭二十切程 足打えのせ

右は御馬見所にては無之 御置台

御勝手にて御用立

十月朔日

乗出し口

一 紀州様五十三間御用場御裏紙御文鎮
出す 白足打に乗申候

盤銅出し 壺畳台居

薄■しき

御手拭掛 御手水方御渡し

同所え出る

一 軍配形御翠簾屏風一双

御馬見所え廻し置候

- 一 上之御草り二足つゝ白足打え
- 乗申候 御置台御勝手出し置候
- 一 三河守様 阿波守様之被為進品御箱不残上り
- 詰 角牡丹え入 淵氏御見分に入可申事
- 一 御詔七寸文庫三通上り 御詰方致す 一通り
- 南御戸棚え入置候
- 一 上千代 菊 二十ノ孔雀尾 三十
- 右小膳次殿之御断申 御細工所之達す
- 一 九月分御慰御入用突合 御細工所より受取
- 申送り候事

貞三様

- 一 七郎磨様被進御印籠御箱共出来 二階に
- 有之
- 一 百鶴百亀御掛物戻之義 伊豆守殿之御伺
- 可被成候
- 一 八半過御鳥 奥より出 新組にて御屋形之廻す
- 鉢植は不出

十月二日

- 一 紀州之被進御地植 今朝頭取衆御文通添
- 御館之廻る

四日御用

- 一 鞆付小刀 式丁
- 右上げ候様甲斐守殿被申聞 児嶋之達
- 一 御香合 桜木造ノ房桜蒔絵 壺
- 右合口之房桜蒔絵致候様 尚数馬殿より
- 可達旨小膳次殿被申聞事
- 一 四日大奥御掃除三日に相成 其節
- 於美津の方庭之橋来春迄之処養ひ
- 置候様小膳次殿被申聞 源次之達
- 一 三河様 阿波様被遣餌合子之根附四つ
- 不用に付 義左衛門之戻す
- 一 神田様御頼御舞扇代金 甲斐守殿御渡
- 被成候

貞三様

- 一 廿八日御用立書付 小膳次殿御渡 一所へ致置

四日御用吹上廻り

一 椀手桶 蓋無 壺

例より少し小振

一 柄杓 壺本

右廻候様甲斐守殿被申聞 御賄へ申付候

明朝四時上げ

一 金老歩 正円子製方諸失脚代

右甲斐守殿へ御渡申候

一 薄葉唐草小皿

三十

右見本之通上げ候様甲斐守殿断 栄五郎殿被

申聞 勇次え申付候

一 菊御花檀行燈六つ 吹上四つ御用

廻り候様権太夫殿御承知にて申来 役所え廻す

一 御置物 一 銀岩に籠

一 寿孝皮馬盥

一 唐銅水指

右手入 八右衛門殿御断 清寿申聞 児嶋へ達

一 大管籠二 越前屋より上り宗藏へ渡す

一 不用帯地反物 不残御納戸へ戻

一 三河守様 阿波守様御初被遣もの

御用掛衆御見分相済申候

十月三日

一 水晶玉摺直し壺 数馬殿にて勇次え

渡達す 拝見候所ギヤマンに付 御同人え申上置候

一 御簾中様何ぞ御鬮之御品 御台積

にて被為進候間 御品出候様伊豆守殿被申聞

積立御覽済 極る

一 神田橋より御頼御舞扇子代金請取 甲州へ出す

一 明日吹上御飭付鳥書付二帳 内膳正殿え

出す

一 同断御飭付小間物三 長持台三枚つゝ二通り

吹上え廻す 台は瀧見御勝手廻り

一 鞘付小刀式挺 椀小形手桶壺 杓添

包管籠三つ 甲斐守殿え出す 吹上え廻る

一 置物 松に鶴巢籠 岩に式疋龜極小

文鎮 岩に鷗 右御手入小膳次殿被申聞
児嶋え渡す

桜香合蒔絵 甲斐守殿にて児島え達す

十月四日

吹上え小間物為御飭付 御花段御中庭 六時宗賀罷越候

御手遊品三十程御飭付出候様甲斐守殿

被申聞 入一覽 四十八相廻申候

明日七郎磨様え被為進一件 昨日御見分濟

今朝御覽に出下り 御用人部屋え入置候

七郎磨様被為進文具硯と一所之御台に

致候様甲州申聞 杵村呼出し遣し置候

キヤ千鳥足直し方 熊太郎殿にて児島え達

御真木綿式反請取 御役所引出し

御仕継いたし候

玉摺直し日限 来る八日数馬殿え

申上候

霧降瀧御掛物出来 翌朝左門殿え

御残り切とも出す

十月五日

今日被為進物不残御のし添

御役所え出す

五十三間御菊 此方限之節絵図

無之候事

餌合子御不用式つ 庄五郎え

渡す

越前屋御入用帳 九月分取調

相下し置候

御細工所御入用帳取調 抜指

致し 達し置候

但御衝建御入用 別紙にて

出し候様 是又庄五郎え達置候

昨日御用立御鳥類調 越前屋より

差出 請取置候

八月分御作事御入用書請取

置候

一 桧にて 壹枚

くじらざし

巾 六寸五分

長 貳尺

厚 六七分

一 右数馬殿にて文蔵え申付候 出す

一 昨日御用

榼手桶 一 献之間二階に入

包管籠大二 御能部やえ

小刀 二 詰所たんす引出え

右仕舞申候

一 替山鳥 壹羽

右代金十五両甲斐守殿被申聞 御拵申送

可被下候

一 板附草履式足 高めを上げ候様甚左衛門殿断

一 卯之助殿被申聞 兎島より上げ出す

一 九月分小普請方御入用申出候

一 柚木御多門前枯木櫛にて御印籠根附緒

四つつゝ五通り出来 伴助差出 甲斐守殿え

出す

一 来る十一日御両卿様五十三間御花見

甲斐守殿被申聞候

十月六日

一 竹楼吸物膳一 月に梅蒔へ 手入出来

差出候

一 玉子から 十ヲ

右伊豆守殿にて大急ぎ相廻候様吹上より

申越 相廻す

一 御鳥籠類并大中小岡持居台

附け一通つゝ 角牡丹両網戸棚内え

入置候 包管籠も階子下え入置候

但籠家居台手入取調置候様

明後日相下け候

一 御両卿様御菊之節被為

進万年茸御置物 御好に出来
候間 明日甲斐守殿え入御一覽可被成候
但御手爐并御多葉粉入も上り候
御箱も出来候

十月七日

- 一 替小鳥之代金拾五両御拵
- 一 出来 申送候 甲斐守殿御差出可被成候
- 一 田安様より御頼餌合子之代 甲斐守殿御渡
- 一 夫々え相渡 請取書も御同人え上る
- 一 前条御金甲斐守殿え御渡申候
- 一 御両卿様御菊之節手爐不宜 手入下る
- 一 明日出来 上る
- 一 植木札松 五十枚
- 一 右八右衛門殿断 左内殿被申聞 万歳え申付候
- 一 霜除用御植木掛衆
- 一 箱根竹百四十本 鯉節繩七十把
- 一 布袋藁百五十把
- 一 右八右衛門殿断 栄之允殿被申聞 御作事
- 一 御賄へ達 明日上げ
- 一 桜香合蒔絵出来 甲斐守殿え出す

十月八日

- 一 精姫君様今日御灸に付 大黒煎餅被為
- 一 進 昨夜甲斐守殿被申聞 中形百七十
- 一 出来 今朝出す
- 一 万年茸饅棚 甲斐守殿え出す
- 一 牡丹蝶差込付御筭壺本 甲斐守殿▲
- 一 右大将様 来る十二日此御方え御入御花見 小膳次殿
- 一 被申聞候
- 一 ▲吹寄差込に拵直 御鬮に御用立候旨
- 一 被申聞 御細工頭與三郎え達す
- 一 木櫛印籠伺下絵 御絵師一統より為出候
- 一 様甲斐守殿被申聞 良久え達す

赤蜻蛉 露草

- 一 魚溜霜除御用

布袋わら 式十把
糸立 十枚
百目縄 壺把
太泉縄 同
七寸廻り竹 式本
染棕呂縄 壺把
右権太夫殿断 俊三郎殿被申聞
半太郎え渡す

新き

一 大和籠 式つ入 居台計
同 壺つ入 籠家

御手入

居台新き

中四つ輪 式つ入 居台計

新き

並四つ輪 式つ入 同断

右之通杵村え申付置候 明朝上げ
達す 上る

一 玉摺直し出来 児嶋より上り 数馬殿え出す

一 四十八卷之御軸之物 三次郎殿改被申候

に付 栄甫え渡 相濟戻り角牡丹え入る

一 御植木掛衆より御預

水船 一

右兵三郎殿へ差出候

十月九日

十一日御用

三枚つゝ

一 台 四通り

一 中岡持 台共 三つ

右明日昼頃迄に上げ

十二日御用

四枚つゝ

一 台 四通り

- 一 中岡持之台 七つ 壱つ余計
- 一 右十一日昼頃迄に上げ
- 一 右小膳次殿之御断申 御賄并杵村之申達候
- 一 十一日十二日御飭付御鳥伺帳出候様 越前屋へ申遣候

十月十日

- 一 朱塗蝶蒔絵硝子猪口五つ 児島より上り
- 一 甲斐守殿之出す
- 一 御印籠下絵窺 桂節より請取 御同人之出す
- 一 長閑様
- 一 置物二 鶴巢籠ノ式疋亀 文鎮鷗御手入出来 小膳二殿之出す
- 一 西丸様へ十二日被為進 十五日山里
- 一 御花見之節被為進品 甲斐守殿にて
- 一 極り御手入下る 本取済
- 一 白銅御花活 耳損繕 壱
- 一 薄ばた之足計 唐松損繕 壱
- 一 右左門殿断 田宮殿より受取 伴助之申付候
- 一 明日一位様 御両卿様御菊に付 御扣所御台子
- 一 取建之義 長甫之達置候
- 一 明日サクロ下御用場 昨年迄之通
- 一 取建置候 今日信濃守殿之申上置候
- 一 肴籠
- 一 白竹煤竹 壱
- 一 右甚左衛門殿御断 弥右衛門殿にて御用に相成候旨貞仁申聞候
- 一 鷹之間目高之水船并杵蓋竹簀
- 一 小坂 鉄之進殿より御預 宗蔵之達渡す
- 一 梅之間御錦魚船霜除 一学殿注文
- 一 之通宗蔵之申付 明日出来次第
- 一 御出可被成候
- 一 数寄屋縮一反乗御居台不用
- 一 之分外御台直し 台部屋之入置候
- 一 去る四日吹上奥締之御用立書

式通り 権太夫殿御渡有之候

一 硝子盃五つ御下け 朱塗蝶透之菊蒔へ

右盃台去月出来振合にて菊折枝

十二日西丸様御入之節出来候様

西丸様 花銀枝葉金メツキ

御 東 精様へ被為進之通り

西丸老女 式人 此御方老女被下之通

御東老女 壺人 同断

右之通甲斐守殿被申聞 児嶋へ達 十二日

五時迄に出来 御箱杵村へ達 御門明き上盃

二階に有之

一 御印籠下絵伺済 月の絵除き外見計

認め候様甲斐守殿被申聞 善意え達 御印

籠 根付 緒ゞ二十通り渡 摺漆出来之上

大川和作へ被仰付候由

一 十三日御用に付十二日迄に例之こま々々物

数多上げ置可申 毛植之鶴沢山

是非無之候ては不相成旨権太夫殿御申付

翌朝伴介え達 鶴仕足候旨同人

申聞候

一 明日御両卿様五十三間御花見に付

一 御手拭掛 御手水方へ渡す

一 半銅 御庭方へ渡す

十月十一日

一 御両卿様御用 五十三間え廻す

御多葉粉盆 三通り

御きせるとも

棕呂箒 壺本

一 五十三間御用植木屋人足 例之通

式十人残り達置候

一 九月份御細工所御入用調出 請取置候

一 梅之間錦魚舩霜除蓋出来 備後守殿え

出す

一 西丸様え明日被進御棚飴 御役所へ出す

一 八半時頃被為進御鳥 御次より下り御館え廻す

御鉢植不下 残人足二十人不用
来年は可伺事

一 西丸様明日御入に付 御鳥伺書二通越前や
差出候に付 小膳次殿え出す

一 銀簪之差込計り 九つ サ

一 御被布牡丹 ふくら雀 二通 コ

房み不及 牡丹

右十四日五時頃迄に出来候様小膳次殿被
申聞 左衛門 勇次え達

九時頃迄に実は出来にても宜敷

十月十二日

一 昨日之御用立帳植木屋より

出 請取置候 奥より帳■権太夫殿へ御渡候

一 御重詰之御用意 龜鼈甲

差込上げ置候様権太夫殿被申聞

上り 二階に有之候 御沙汰次第

御出可被成候

一 同断こま々物上り 二階に有之候

一 西丸え被為進御置物并御盃

台 備後守殿より御渡し 西丸え廻す

一 御鳥類も出 西丸え廻す

一 御植木類不出候

一 しるのみ出候様被仰付候処

上り合無之申上候処 大急ぎ

上げ候様権太夫殿被申聞 又々

上げ候ては不宜旨信濃守殿

被申聞 上り候処差出不申候

一 今日御飭付之内とくさに

玉兔奥にて損し候旨申出 玉は

損■無段権太夫殿被申聞候

一 鳴づく之事

一 昨日御飭付御鳥之内鴨一羽

御用立に相成候旨権太夫殿被申聞候

十月十三日

- 一 昨日被下御用立候御地植燈籠
- 一 式品 拈橋通相廻し可申候処
- 一 拈橋下り不申候間 表通り
- 一 廻し候様伊豆守殿被申聞 廻す
- 一 御鳥御用立書 越前屋より
- 一 差出 請取置候
- 一 楽寿御衝建 御翠簾屏風
- 一 御置台 御勝手に入置候様金兵衛え
- 一 達置 天氣次第御仕廻御取
- 一 扱可被成候
- 一 今朝雨天に付五十三間よひ
- 一 張竹楼慈どふ大張出し取り
- 一 片付 御置台内■物は天氣次第
- 一 片付候段 信濃守殿え申上置候
- 一 五十三間御幕取払 天氣相に付
- 一 見合度旨小普請方より申出
- 一 信濃守殿え申上候処 御馬にても
- 一 有之候は、早々取払候様被申聞
- 一 助次郎え達置候
- 一 一昨日御達之こま々々物 権太夫殿え出す
- 一 五十三間御手摺之竹御用に相成候に付
- 一 御植木掛衆付添にて取払候間 達置可
- 一 申様要人殿被申聞 金兵衛え達す
- 一 御鬪御用木品 信の守殿断 熊太郎殿
- 一 被申聞 宗蔵え達す
- 一 鋸耆挺 御同人御断 目立直し同人え申付る
- 一 勘次郎殿へ出す
- 一 金糸十五管 鍋太郎殿え出す
- 一 雨止無之に付五十三間御置台取壊兼
- 一 候旨宗蔵申出 小膳二殿え申上候
- 一 御東えこま々々物 杓御重に詰被為上候

十月十四日

- 一 銀差込九つ 被布牡丹式組 権太夫殿へ
- 一 差出候
- 一 葵形御蓋物 昼後西丸へ相廻し 同役へ

申出候様勇次へ達

一 置物 銀岩に龍

一 寿孝皮馬盥

一 唐銅水指

右 御手入出来 順嘉へ渡す

一 五十三間御花檀御手摺竹九本

油抜可出様鐸五郎殿談之通り権太夫殿

にて平右衛門え申付 出来日限申出候は、

鐸五郎殿え可申候

一 瀧村殿庭 明日より七郎兵衛人足

入出来可申様権太夫殿御達 金七郎え

達す 同人より御同人え直談有之候

一 元おさた之方庭 是迄達置候通り

序之度々掃除可致様猶又権太夫殿にて

金七郎え達す

一 左之通御修復出来 田宮殿え出す

御花活 三つ

一 鯉気吹薄ばた 一

一 内白銅 一

一 薄ばたの足計 一

一 明日西丸え被為進 御見分済 御役所え出す

但御重詰物は御見分無し

翌朝御絵形御用掛衆御達被成候

一 明日御成御跡にて楓之間并

風月亭之御霜除 七郎兵衛人足

十五人例刻呼出し 信濃守殿御申

付 七郎兵衛え申遣候 諸式用意

御賄御作事え心掛達置候

長左衛門をも呼出し 後刻申遣候

一 十二日御用立植木屋帳 権太夫殿

御渡し請取置候

一 十二日被為進御品 御棚飴 御盃台

出来方遅御沙汰有之 并御取扱も

○こまり候に付 以来無相違出来刻限を

申上候様甲斐守殿被申聞 伴助達し

十二日之恐入御同人え申上相済候

- 但御沙汰申趣 猶口達之事
- 一 五十三間御菊掛障子等明日取払
- 信濃守殿之申上置候 其外御取建
- 物不残今日取払相済候

十月十五日

- 一 今日被為進御のし包出す
- 一 去月十八日浜御成之節
- いよめ移方投網被下金
- 一 沓分拵置候 甲斐守殿之御差出可被成候
- 被布御かな物之義 小膳次殿被申聞
- 候事

- 一 左之通御表具廿六七日迄に出来可申様
- 甲斐守殿御申付 出雲之渡達す

唐子遊

絹地中立物

内記筆

上下

中

■一

- 右 御残り切裁切返上可申 御箱服紗とも
- 御用意致置 出来の節は扣置 御掛物計
- 可出様 御軸は何れ象牙に可相成旨甲斐守殿
- 被申聞候

外に難御用立御切れ沓切も御返上可
被下候

- 一 青竹之油拔方十七日出来 平右衛門申出
- 勘次郎殿之申上る
- 一 五十三間御花見御用

菊行燈

建行燈

てんかく棚

銅壺竈

謡寄

御幕

- 右 乾御多門之為仕舞候
- 一 御申送御金百疋 甲斐守殿之御渡申候
- 一 御表具切れ裁残入用丈添 甲斐守殿之
- 返上候 長せ川出次第象牙軸持出し
- 銀職金鈿にて宜旨可達事
- 一 於ふき殿西丸にて松頂戴 明日御同人庭之
- 植付 痛み之松は根包致し 其御場所之

差置候様甲斐守殿被申聞 翌朝源次郎え
達す

十月十六日

- 一 昨日御用に相成西丸より廻り候御鳥餌飼書為出候様内匠殿被申聞 西丸へ申遣 答参り申上候
- 一 五十三間御菊御べりの節 ザクロ下御用場 最初御取建に相成候は、其後は何之御べりにても御幕不附御取建致置候様被仰付候旨甲斐守殿被申聞候
- 一 滝村殿部や諸入用人足賃共不残御用に可致様甚左衛門殿被申聞 源次郎え達す
- 一 壱分巾真田 勘次郎殿え出置候
藤之花 壱箱
- 一 右乾御多門え仕舞申候
- 一 十二日五十三間御飭付御用立書
権太夫殿より請取候
- 一 瀧村殿庭色々注文有之
翌朝栄次郎達し置
相達申候
- 一 御鬮並之御道具角牡丹 別は
御用人部やえ入置 未少々不足也

十月十七日

貞三様

- 一 五月御誕生口被下鼈甲差込代銀之義に付與三郎申聞候事
- 一 此間山里御飭付に出候
替り尾長鴨 元二十五〇三ノ引て十九〇三
右之品 十九日五半時迄に差出候様豆州被申聞 越前屋え申遣候

十月十八日

壱間

- 一 桧壱寸角 六本
- 一 黒部板 二分 五枚

右小膳次殿断 熊太郎殿被申聞 平右衛門殿之達
上り次第可出候

油拔之竹

九本

右出来 平右衛門差出 熊太郎殿之出す

和ら木綿にて包置候間 御用濟下り候様

御達申候

角牡丹内之御居台戸棚出来

居置候

黒部板 桧角上り 鐸五郎殿之出す

御鬮御用之内 壹寸三分角八本／式寸／壹寸壹分角式本 御同人之出す

御入用取調十月分御定金共

信濃守殿之申上置候

前条板之口にて針三百本

請取 鐸五郎殿之出す

此御方限五十三間絵図 御作事に

有之 取戻し入置候

御入用請取帳之袋大破に付

新き拵直 差出し候

十月十九日

替尾長嶋 越前屋持参 豆州之

申上候処 御鳥方之預置候様被申聞

俊佐に預置候 丹後守殿之出候■

申候由

一 めつらしき鳥出候に付越前屋

持参 伊豆守殿之申上

御覧出候 是又御鳥方之預け置

候様被申聞 ■之預置候

持主申所は 拾六〇式

御用之義相成候は、猶吟味致

談候旨申上候処 吟味跡申談し

候様被申聞 太三郎に達す

持主は

岩ほし鳥と申

太三郎は

けんちよふと申

*
は空白

- 右に付餌飼書付取置候
 - 一 御鬮御反物類 請取置候
 - 一 御縫帶御絵形 請取置候
 - 一 小膳次殿にも可有之由 御差出し可被成候
 - 一 壺分巾萌黄真田 勘次郎殿御用立銀
 - 一 壺卷早々上げ 御細工所え達す 上り引出え入置
 - 一 御払金夫々配分相渡す
 - 一 御細工所之分 十月御定金より出払候事
吹上之分出来不致
 - 一 木櫛御印籠 根付共式十通御絵出来
 - 一 甲斐守殿御渡 摺漆為致候様被申聞 伴介え
達渡 根付之事
- 貞三様
- 一 大奥御衝建御入用御払之義 御細工所申出 甲斐守殿え
申上候処 御定金より御用立にて払置候様被申聞
与三郎え相渡申候 御絵料探原渡し候分
御戻申候
 - 一 右衛門督様え廿一日頃被進物有之候哉 西丸
同役より問合申越 無之段答遣候 若御極めに
相成候は、為御知可被遣候

十月廿日

- 一 沖けん鳥 元十六〇二ノ内二〇三引 全十三〇三
 - 右明日御用掛衆見分之上 御留に相成候間
夫迄御鳥部やえ御預 甲斐守殿也
 - 一 上千代 孔雀尾三十ノ籬きく二十 出来 御役所え出す
御縫帶御絵形 廿五枚
 - 一 右小膳次殿え出す 御たんす御引出しえ入
 - 一 十一日御釣道具 御針屋え払遣候
 - 一 鳴子式つ 鉄之進殿注文之通左門殿断
宗藏え申付候
 - 一 縫模様 四表
 - 一 上の帯地 五卷
 - 一 半縮緬 六反
- 右御納戸より相廻り 受取

横井様

- 一 御根付 虎之助え渡す
- 一 御鬮置床之外伺之通掛り
- 一 可申様 信濃守殿御達 平右衛門え達す
- 一 黒濡子沓切三尺九寸御用立 孫四郎殿
被申聞 御残り勇次郎え下る
- 一 檜四分板沓枚 孫四郎殿にて平右衛門え
達す 退出後に候は、明後日可出様被申聞候

十月廿一日

- 一 御鬮之置床式つは是非出来候間 取掛
可申様信濃守殿御達 平右衛門え達す
- 一 御鬮之置床式つは例之通にてよろしく
沓つは追て御注文出候積り心得候様甲州
被申聞候
- 一 沖けん鳥 甲斐守殿にて上え出る

十月廿二日

- 一 田安箱崎御屋敷え御立寄に付 被為進品
上げ候様甲斐守殿被申聞 五左衛門え達す 児嶋え達す
- 一 檜板上り 鐸五郎殿え出す

十月廿三日

- 一 九月份吹上奥締御入用
九拾六両三分五匁
吹上琥珀帯一筋之代
拾沓両式分式匁九分四り
右之通権太夫殿にて円佐え渡候
- 一 御立用にて御払置分
三十五両式分式朱式匁三分八り九毛
右御戻し申送り候
- 一 御新座敷錦魚船諸式 栄之丞殿にて御預け
平右衛門え渡す
- 一 一位様え被進は御茶器
右伺候様甲斐守殿被申聞 両所え明日上げ
達す

一 在郷家御庭に梅に日除有之候間 最早
取候て宜候はゞ明日取候様甲州被申聞 金兵衛え
達す
一 長左衛門明日御門明き罷出候様甲斐守殿被申聞
七郎兵衛え達す

十月廿四日

一 長左衛門召出 御錠番より届候
一 御鬮置床壺つ絵図にて注文 勘治郎殿
被申聞 明日迄調候様平右衛門え達す
一 田安様え被為進は御数寄屋御道具之内
円悟墨蹟
一 右廻候様甲斐守殿被申聞達す 茶器も今明日には
御覽有之候旨
一 右円悟御掛物廻り 甲斐守殿にて
御覽済 来る廿七日
一 田安一位様え被進に相成候間 御外箱
御服紗例被進通りに出来可申様内箱
紐取かへと御申付 杵村え達す 古外箱は
御数寄屋え御預け 蓋裏え被進之
年月日記置候様被申聞候
一 御手鑑出来形御かな物絵
形の砂粉御見本共 信濃守殿へ
出す 御細工所にて長谷川より出る
一 昨朝勘次郎殿注文御鬮置床 絵図に
致出し候処 宜旨木品取掛り被申聞 文蔵え
達す 御棚板は未極候

〔十一月廿五日は原文に無し〕

十月廿六日

一 御蓑盆かな物出来 甲斐守殿え入 一
一 覽候処 打方和作方え遣候様被申聞
為持遣す
一 御鬮に可御用立鼈甲御筭出来
一 甲斐守殿え入一覽候処 札付仕舞置候

- ― 様被申聞 御たんす引出え入置候
- ― かな物戸式枚損し鉄網にて張替候様
- ― 藤一郎殿 栄寿持参 今夕七時過出来
- ― 宗藏え達す 出来候は、御出し可被成候
- ― 円悟御掛物御箱共出来 甲斐守殿え出す
- ― 過勤金三両 甚左衛門殿御渡に付 御渡可被下候
 - ― 後刻金七郎え渡す
- ― 明日右衛門督様え被為進は
- ― 御途中之御品被為進候旨
- ― 右に付御のし包御居台 御先長持入れ廻す
- ― 明日御成後 蔦之真南天之網
- ― 繕可申様左門殿にて金七郎え達す
- ― 檜 壹寸角 五本／六分板 巾尺六寸 貳枚
- ― 右明後日上げ 伊織殿にて平右衛門え達す
- ― 田安一位様え被進円悟御掛物
- ― 御先え可廻様伊豆守殿御渡 林與え達
- ― 網代御長持と同時に箱崎え廻す
- ― 鉄網張戸式枚出来 友和へ渡す

十月廿七日

- ― 来月四日喬松丸袖留に付被為進上げ候様
- ― 小膳次殿被申聞 先つ児島より上り 御用人部やに有之
- ― 当月分御庭者御手当人足賃 餌拵御手当
- ― 金七郎 俊碩え渡す
- ― 捉飼舟賃 甲斐守殿え御渡申候
- ― 式幅対御掛物 唐子遊
- ― 右御表具出来 箱帛紗添 甲斐守殿え出す
- ― 唐銅半土可漏留 八右衛門殿被申聞 児嶋へ達す 明日出来申上候

十月廿八日

- ― 加州え被進品 鏡之間え寄る
- ― 右道具御細工所よりも上 御用人部やえ入
- ― 御釣道具 昨日箱崎にて御用立 明日利助呼出し申遣置候

十月廿九日

昨日西丸より相思鳥番相廻り候処
病鳥に付葉持参 今七時太三郎
罷出候様仲殿被申聞 申遣候 出候は、伝之助殿え
御申上可被成候
黒部板 壹枚

両面削立

厚四分 巾壹尺余

長六尺

さらし竹 貳本 差渡し一寸程上る
右信濃守殿御断 鐸五郎殿被申聞 宗藏へ
達 上り次第早々御細工掛衆御差出可被成候
御鬩御用赤松柱貳本 鐸五郎殿え出す
御釣道具 利助御拵致し仕舞申候
御植木掛衆雪除莖御預け■百式十枚程
用意致置候様栄之丞殿被申聞 平右衛門へ達す
昨日唐銅盤土漏留出来 八右衛門殿え出す
黒部板 熊太郎殿え出す

十月晦日

黒部板壹枚 熊太郎殿御渡 削り立早々
出来候様熊太郎殿被申聞 平右衛門え達す 出来
次第御差出可被成候
在郷屋御流し銅網蓋有之候間 此後御庭入之節
枠計取候様八右衛門殿被申聞 半太郎え達す 口達
来る四日 加州え被為進品極り 本取
済 手入下る 二日上げ 御用掛衆御見分済
甲斐守殿也

御召形

御刀掛

一コ

紫旦那鷹蒔へ 十四〇三

右御用に相成候旨甲斐守殿被申聞候
御手目録より御抔 手入下る 御箱申付候
御細工所御道具不残戻す
鐸五郎殿 伊助え直談にて御簞笥之かな物

伺候様 絵形にて御申付有之候

十一月朔日

- 一 雪除琉球用意御賄達 角部屋
- 一 調 万蔵へ申付候
- 一 来る四日西丸へ御成被為進品 早々
- 一 上け 信濃守殿被申聞 児嶋え達
- 一 御簾中様え大黒せんへい例之通被為
- 一 進 御同人被申聞候
- 一 御鬮品御覽有之候
- 一 別口御鬮品御沙汰有之候間 御品は
- 一 扣置候様信濃守殿被申聞候
- 一 明日御成済 大奥御新座敷錦魚救取
- 一 八右衛門殿被申聞 金兵衛え達す
- 一 御刀掛御入用増之義 甲斐守殿え申上候
- 一 鶴御成之節より御用に相成候由
- 一 活掛十日程懸候積り

十一月二日

- 一 壱分真田 勘次郎殿え出居候
- 一 加州被進品忒品 御細工所より上る
- 一 左之通数馬殿御預け 宗蔵え
- 一 渡達す

大奥

御対面所 御泉水

堺 仕切 忒

東御庭

- 一 唐子之間御錦魚 鯉鮒 数馬殿
- 一 にて三岡持吹上え廻る 員数は御同人え
- 一 認め上候 此方扣無之候
- 一 雪除琉球調帳出し置候 莛忒百
- 一 九十枚御作事へ預 宗蔵へ渡 御賄用意
- 一 六百枚有之旨申出候 平十郎也

十一月三日

- 一 大黒せんへい忒百三十 種物持せ申付候

明朝六時迄に出来之積り 代濟

一 壺両為持遣置 つり可參候

一 御鬮品可伺分 角牡丹へ不殘
有之候

十一月四日

一 加州え被進品 御熨斗添御役所え出す

一 西丸御式方様え被進品 同断

一 如意柄杓式本 明日上げ候様幸藏え達す

一 今日西丸え被為進御式品とも

一 為持相廻し候

一 唐茄子干方出来 伴助より貞仁え

一 渡候事

十一月五日

一 木櫛御印籠摺漆出来 甲斐守殿え出す

十一月六日

一 植木御茶屋御鳥籠え掛候雪除簀垂

一 六枚 寸法之通小膳次殿断 勘次郎殿被申聞

一 文藏え達す 仕様は見本御庭方より参り候はゞ

一 御作事え御見せ可被成候

一 罟 団扇印 出来 権太夫殿え出す

一 御縫帶 小膳次殿にて伺相濟

一 鎌次郎え達す

一 左之通上げ可申様信濃守殿

一 御達 両所え達す

別御鬮

一 大置物卓 式通り

一 たはこ盆 三通り

一 置物卓

一 帯地 黒地／赤地 之内

一 はさみ箱之事

一 御鬮御用檜板式枚 孫四郎殿注文

一 之通明後日正四時上 宗藏え達す

一 木櫛御印籠へ紫打紐付候様甲州

一 被申聞 児嶋より上付出す
一 植木御茶屋雪除 半太郎より宗蔵え
談有之候

十一月七日

一 御新座敷ほふり大寸切三杯
御断通し 九日より二日置麦粉大寸切
一 壺杯九時差出候様龍太郎殿被申聞 久俊へ達
御鬮御用鼈甲簪式本 信の守殿にて
與三郎え達す
一 御鬮之内惣模様黒地壺つ極り候 右模様
各々事 信濃守殿え御申上可被成候 謡の心
一 空色模様物 明日上り候積り
御鬮品極る 反物御用立之分角牡丹に
有之 不用不残葛籠え入置候
一 本取 鉄三郎え申付候
一 紀州様昨日御誕生有之候間 御手遊物九日被為
進 明朝御覽之旨甲斐守殿被申聞候 鯉節
のし明日上げ御賄え達す

十一月八日

一 紀州様御手遊もの御役所え寄る 台見計寄る
十五極る
一 別御鬮不残極る 本取鉄三郎え達
一 御東え来春御添帯極る 御縫帯之内
蝶を除き候様甲斐守殿被申聞 左内え達
一 御添帯 御役所御引出しえ入る
一 御鬮之内黒地惣模様右謡の心之旨信州え
申上候
一 上の口帯地十三筋下る

十一月九日

一 空色惣模様風織ちりめん上り 信州え
申上候 風織後刻迄に跡上げ達す
一 肥州御出生様御手遊品 御役所え出す
かつうをぶし御のし添

一 鋸目立直し 熊太郎殿之御出可被下候
一 紀州様御出生 来廿一日御七夜之由 被為進
一 品上け小膳次殿被申聞 伴助え達す
一 風織縞ちりめん 又々六疋上る
一 青砥鑿見本明日上り 鐸五郎殿 孫四郎殿
一 被申聞 惣蔵へ達す
一 伴助より明日日限申出候間 鐸五郎殿之御申上
一 可被成候
一 新調子方赤頭極め遣し候
一 溝鉞一挺劔付惣蔵へ渡す 明日出来御差出し
一 可被成候 孫四郎殿也

十一月十日

一 白中鏢半土六つ 左門殿断 九助殿
一 達にて御菊掛り又八郎え渡す
一 甲斐守殿にて御用相成候御刀掛 御手入
一 出来二階有之 明日御箱上り次第御同人え
一 差出可被下候
一 梅形御かな物出来日限 児嶋申出候
一 鐸五郎殿え申上る 十二日出来也
一 御鬮御用之棚紙類 御召方より
一 請取 宗蔵え渡す
一 同挾霞入丈 信濃守殿え出す
一 明日
一 精姫君様御灸に付 枕山入板ゞ疋
一 御極 信濃守殿に翌朝御のし
一 御台添 御役所え出す
一 御鬮内より出し候

十一月十一日

一 御鬮御反物類 員数違居候
一 に付 直し置候
一 但立切は先つ見合置候様
一 被申聞 口分致し角牡丹に
一 有之候
一 風織縮緬跡上り候哉と信濃守殿

被申聞 上り候旨申上置候

御極め可成は十五反程之由

模様振袖分は除 脇え差置候

一 別御鬮之分御箱は杵村え

申付置候

一 中蚯蚓 三百筋

一 糠玉 六十四之内 七つ

右御断返し之旨九助殿被申聞 割役御賄へ達

一 田安一位様 当春御年賀有之候由

先格儀同様えは 御台のもの

御台積百品

之由甲斐守殿被申聞候

一 溶姫君様え

御道具

呉服物疋物 之内

上之縫箱瀬こ

加賀守殿え

御能装束地

右伺候様甲斐守殿被申聞候

装束地は弥五郎より上げ候積り

一 風折縮緬何分不見当 明日迄日延

申出候

十一月十二日

一 装束地 弥五郎より上り

道具箱箱瀬こ疋物 御役所え寄る

一 御刀掛之御箱出来 明日甲斐守殿へ

差出可被下候

一 鐸五郎殿伴助え直談之梅形かな物

出来 出し候旨同人申聞候

一 装束地弥五郎拝見極め候様

甲斐守殿被申聞 同人厚板唐織

極差出 其通伺済

溶姫君様

非織取板 一反

御文庫入菊廻

加賀守

厚板唐織 一卷

罌り巻御箱出来

右信濃守殿へ差出 直御覽

奥へ相廻り候

御のし包添る

一 和作細工御多葉粉盆釣る

ふとふと御沙汰之由 御細工所へも

談 直し方仕様申聞候処 甲斐守殿

被申聞 木形取置候 寛藏也

但直し方和作と被仰付候得共

此節不快之由被申聞候

一 御鬩御用之内

四分一 百本

右勘次郎殿被申聞 文藏へ達す

一 御鬩反物極之分 角牡丹へ入置候

一 昨朝請取候縫取并模様物四表戻す

一 二丸御鬩料紙 文藏角牡丹に入置候

一 今朝御極め見本之分○印附添置候

一 老女衆暮被下大観硯形ち似寄三つ

有之 鏡板厚貝細工に仕直し児島へ

達す 外に三つ新規拵 児島へ達す 今朝

御極め 見本式階に有之

一 御菘盆之手真に鉄を入成丈け花車に

出来候様甲斐守殿にて伺済 與三郎達す

一 御刀掛 鷹研出し

右甲斐守殿へ差出申候 御手目録より御扨

出候旨被申聞候 右御代金書御同人へ出

一 御鬩御用

楯羽目 六枚

小襖 三組 杵桎縁

右熊太郎殿被申聞 翌朝文藏へ申付る

一 長左衛門明朝御門明き罷出候様 八右衛門殿被申聞

翌朝罷出 御鑑番より届候

「十一月十三日は原文に無し」

十一月十四日

- 一 大奥御掃除重てより例刻入之旨小膳次殿御達
新六え達す
- 一 黒部板杓枚為挽候様勘次郎殿にて文蔵へ達
植木御茶屋御鳥籠すたれ出来 昨日出候様
御すきや境御鳥籠すたれ七枚出来候様
- 一 勘次郎殿被申聞 文蔵え達す
- 一 御鬮御用扇絵 信濃守殿え伺
善意 桂節に下絵を出候様被申聞
善意え達す
- 一 同行燈絹張出来候に付 三次郎殿より
伺 善意え達す 沙汰次第兎じまより
上可渡事
- 一 御鬮挟箱羅紗請取 勇次え渡す
和作細工御多葉粉盆釣る
- 一 御申送り小之方にて甲斐守殿御極め
与三郎え達す 木の柀下け遣候
料紙文台上り 信濃守殿え
申上る
- 一 大観硯之義も御同人え申上る
御承知
- 一 加州被遣厚板唐織之代
金貳拾六両
- 一 右信濃守殿え申上 弥五郎え渡す

十一月十五日

- 一 桐箱杓を四つ直し方 外に紙形にて九枚
箱出来 甚左衛門殿注文之通杓村え達す
- 一 御好御鬮之棚台■柱 勘次郎え出す

十一月十六日

- 一 紀州御七夜被進伺品 御役所え出す
- 一 東御殿御縫帯御絵形 蝶を
除き貳枚認め差出候間 請取置候

明日甲斐守殿え御伺可被下候

但蝶を除候に付 少しつゝ御絵様替り候

一 紀州様御品御箱本取宜 御手入に

下ける 来る十九日上げ達す

一 御細工所不用道具下る

十一月十七日

一 南蛮鉄三挺 数馬殿断 鉄之進殿被

申聞 宗藏え早々上げ達す

一 御縫帯絵形 甲斐守殿え入一覽候処 宜旨

被申聞 牧野金助達渡す

一 前条南蛮鉄六挺上り 申送り候

一 金糸五管上げ 半右衛門殿被申聞 児嶋へ

申付候

十一月十八日

*月日のみ。記事無し。

十一月十九日

一 御鬮御用御絵出来候分之

御襖屏風絵不残出来居候

今日之御座御人御聞合被下 御下け

可被成候

都合毛氈十八枚 御召方より

請取置候

貞三様

一 御鬮御用屏風小襖類 頼之分夫々え

届る 志摩守殿 善意分式階に有之

但毛氈 桂節／良久／宗筑 二枚つゝ 酒樽一枚

七枚止る

一 紀州様え被進品御箱出来 二階に有之

一 寒中被進品上げ 甲斐守殿被申聞 両所へ達

一 反物帯地之事

一 寒中鳥伺書達

一 蓑盆釣 甲斐守殿え入一覽候処 宜敷旨

被申聞 御多葉粉盆相方に與三郎え渡

明日出来也 出来勘次郎え御渡申候

一 去る十五日 甚左衛門殿注文箱都合式十五
出来 御同人え出す

十一月廿日

一 寒中石台白削七つ 内三つ足し木
一 甲斐守殿御断申 杵邑え申付る
一 南蛮鉄三挺上り 田宮殿え出す
一 被進御用

御筭 式本

御差込 桜に冠絵形通り

雲鶴 桜に冠／大き通り

鶴以珊瑚珠に可致

右は御簾中様の大振之方之木形
通り上品に出来可申様信濃守殿
にて左左衛門え申付る

但凶抜と申大さにては無之 並の内にて

大之方に可致旨被申聞達す

一 右御筭之長さは御姫君様方御年始
之節之方に可致様被申聞 左左衛門より
木形を以信濃守殿え伺 宜旨被申聞候
来る廿八日出来に候

十一月廿一日

一 黒塗針箱上候様 信濃守殿被申聞候
事

一 上の縞縮緬上り御役所へ出す 末様
御召四丈物

一 寒中御反物類請取置候

一 此節口龜帯地 請取候

一 銀七つ道具 銀きせる二つ々

御注文御細工所え達し置候 信州也
尤早々

一 末姫君様え

一 御台つみ 一台

御文庫之内 箔巻

一 御召縞ちりめん 三疋

内老正御召地 御買上

右之通奥え相廻申候

御絵の具硯出来 御役所え出す

御絵清書箱

内箱 黒塗金粉銘書

外箱 春慶塗桐箱錠前付

居台 黒塗

紅純子式布帛紗 是は御召方にて

右小膳次殿にて被相渡 右之通りに老通り

出来候様被申聞 寛藏え渡 本とらせ

致返上候

銀させる 七つ道具来る 廿五日出来申出

甲斐守殿え申上候

出雲罷出 二幅対老通り 横物一幅

御表具 左門殿にて被仰付 御絵御切れ渡候

紙形明四つ伺可被成候

蠟石印 三つ揃

獅々彫

右末様え追々被進極る

為彫刻津軽玄意殿え下り候由

末姫君様え追々被為進に可相成

御机 寄木■にて

御たんす 白木にても

御哥書 寛藏へ達す

御重 御中清に可相成

右上げ候様甲斐守殿被申聞候

右四品之内老品つゝ追々被進 外に添物

寒中被為進 御細工所より上り 御扣所に有之

御鬮御用内張出来箱甚左衛門殿え出す

十一月廿二日

末様御附え被下候間 御鬮品増候に付

上げ候様甲斐守殿被申聞 伴助達す

銀させる今日中出来候様甲斐守殿被申

聞 寛藏え達 否申出次第申上候事

和作細工御多葉粉 勘治郎殿より請取 甲州え

- 出す「」不申候間 又々下り候様御同人え
申上置候 下り熊太郎殿え御渡申候
末様被進御台積 溜にて積立御覽濟
奥え御相談廻し中
御同人様え被進御多葉こ盆極候 明日正御門明き過に銀
打直 伴助へ達 本取濟 見分不濟
出雲紙形持参 左門殿一覽之上
立物は其俣にて宜 横物は巾左右
老分つゝ広く 長は其俣と御申付 来月
三日上納と相極り 御箱居台御服紗
とも同人え達す
梅松院え被遣御多葉こ盆御極め
相成 銀打替児嶋へ下る 明後朝出来
御箱本取濟 明日上げ杵村へ達 信濃守殿也
四尺五尺居台老枚つゝ仕継申付
末様へ今日被為進御絵具硯御台つみ
丹後守殿御見分濟 奥へ相廻る
又々御絵の具硯は明日に相成候
御鬮御用之箔 山椒之方は明後日より
追々に上げ候積り 其外皆納 三次郎殿え
御渡申候
御鬮之扇子 信濃守殿え出す
前条御台積之内 御重式つ之箱籠
末にて宜間 黒搔合に極大急き申付候様
権太夫殿被申聞 伊助え達す
御鬮御用 左之通り孫四郎殿え出す
西之内 五帖
中美濃 十帖
二寸釘 百本
壹寸釘 同
小板付釘 式百本
ごれん釘 七百本
御鳥餌入老損 御手入左門殿断 春佐
申聞 勇次郎え達渡
御台積式た通拵 角牡丹え入
置候 用意也

一 梅消院え反物被遣

*梅消院は梅梢院の誤記か

一 紫紋縮緬 一反

御文こ詰

一 白紋縮緬 一反

右白紋縮緬早々上達候処 間に合不申

奥より精姫君様御召地御立用にて出被遣

相済 右御召地吟味御納戸え達 信濃守殿也

一 銀させる式本 夜に入出来

信濃守殿え申上 翌朝御役所え出す

十一月廿三日

一 末姫君様え被為進御多葉粉ほん

御箱御服紗共出来 権太夫殿え

出す

一 御鼻紙台巻 富士にノ鶴 御引出し工合直し

左門殿御申付 勇次郎え申付候 御箱

一 居台二階に有之候

黒部板巻枚削り方 明日迄孫四郎殿にて

宗藏え申付置候

一 歌書上り 御扣所に有之候

一 末姫君様え今日御三度目節

被為進御たんす寄木一つ

御有物御下け御手入 御箱椀居台

出来候様権太夫殿被申聞 児じま 杵村

申付置候 御箱小細工にて出来積り

一 御たんす式つ 御有物下り御手入

御箱椀にて出来候様御仕廻置之御様子に付

急きには無之候 御扣所え有る

一 前条御絵具硯 明日被為進相成 水鉢

吟味児嶋申付候 盒二十の台つみ之内へ

入

一 不用白紋縮緬三反 御納戸え戻す

一 来春御鬮御添物

銀昏挟 四

銀喜瀬る 十一本

銀文鎮 七

銀香箱

五

銀七道具

五

右絵形 信の守殿え渡 与三郎え達す
来月六日出来

中鏝半土六つ乗台 壺

右明日上げ 杵村え申付候

七つ道具式つ出来 御細工所より上り候

緋紫絞り御切れ御下け 講尺式番御文こ

入 菊籬にて包被為進候 御文こ仕継申付候

水鉢極り 蓋亦板にて翌朝出来

殿え出す 出来に不及止候様／甲斐守殿被申聞 扣置

*

は空白

御扣所片付

哥書 角牡丹に入

御鬮品 同

寒中品 御用人部や入

十一月廿四日

梅消院え被遣多葉粉盆 御箱共出来

御役所え出す

七つ道具 信濃守殿え出す

水鉢式つ御極め 今日被為

進 蓋は御細工掛衆にて下地拵

奥之通春慶塗 御帰り迄に出来

候様権太夫殿被申聞候

御鼻台御手入出来 左門殿え出す

当四月浜織殿え御立用

金式十両

右甲斐守殿より御戻し之旨にて被相渡候

受取書有之候は、可戻様被申聞候 御金

申送候

御召地白紋縮緬五反上り 信濃守殿え

差出候 三百五十めつゝ

末様へ明日かな物組御小広蓋御台つみ

にて被為進候旨東條被申聞 上る

末姫君様え被為進御台積

拵候処 又々御好有之 夜に入上げ

申付候

十一月廿五日

桐木地御たんす 壺

御かな物仕足御手入

右権太夫殿被申聞 兎じま申付候

銀芥子物三 昏挾二 廿九日出来

末様え被為進に付信濃守殿にて與三郎え申付る
此間出来之七つ道具と一所に御台積に相成候由

末様え今日被為進かな物御台積極廻る

寒中被進品御極めに成 本取済 両所え

御手入下る 御女中向不極 不用品下る

末様え追て被進御台火鉢壺つ極る

上げ置之内御反物帯地高料之分有之

除け置候 呉服師え談置候

白紋縮緬五反不御用立 御納戸え戻

致消印御緋織に相成可然旨信州

御申聞に付 絵形にて伺并日積り書

出候様御納戸え達す

梅梢院え被下御多葉こ盆 上え出候節

は箱除き出候方可然旨信濃守殿

御咄被成候

寒中御鳥伺書 小膳次殿え出す

唐子遊屏風手入出来 御扣所に有之

銀鋌 中三十本程

右小膳次殿え出す 跡不足に付

大

中 三十本つゝ

小

右虎之助え申付候

末様え被進は服紗風呂敷可然旨小膳次殿

被申聞 右品上げ伴助え申達候

中形ちりめん 純子

之類

木綿帛紗 広棧留

末様え前条被進御火鉢

あみ蓋仕直し 惣躰御手入

右虎之助え達下る 廿九日中出来 火鉢は／明日上げ置／積り

御箱ざつと拵候様小膳次殿被申聞候

服紗台共尚又明日御達可被成候事

一 末様え廿日被進候御たはこ盆 御火入灰吹鏝

上銀小かな物 銀にて出来候様小膳次殿被

申聞 虎之助え達 本取済 廿八日昼頃出来／又五時頃迄に出来

一 御鬮御用御棚小襖式枚建 式通り縁共

注文之通熊太郎殿被申聞 宗藏え申達候

一 浜御立用金弍十両之受取書 甲斐守殿え
出す

一 寒中口菊千代様御出生様御品不極

十一月廿六日

一 末様え被進明日之御台積ふくさ風呂敷

類積立 小膳次殿え出置候

一 朱肉中蓋物に一杯 兎嶋より上

権太夫殿え出す 御蓋物は／上より御下け

一 末姫君様え被為進

廿七日 浜織之御品

廿八日 小御衝建 御箱御細工掛衆／白削／居台杵村

廿九日 御風呂敷

地

御服紗地

但嶋海黄の外御召方より出る

右之通之旨権太夫殿被申聞候

海黄一反御極め 御役所に有之候

一 御庭掛衆女中え被下御反物類

上げ候様権太夫殿被申聞 御鬮

残り品より取揃 角牡丹階子下に

三盆有之候

今西様

一 十一月十二月分御定金 信濃守殿

御渡し請取候 十二月分申送り候

十一月廿七日

一 小御衝建之御居台 権太夫殿え出す
一 西丸え明廿八日御成之由 被為進
品昨夕御覽

西丸御分極る

御箱本取済

東御殿 フルコール一 御見合

右蒔へ有之方吟味 両所へ達す

御箱御細工掛衆にて出来 御服紗

居台申付候

右御見合之方手入 児嶋へ下る 八時比迄に出来

権太夫殿へ申上置候事

一 鋸式挺立目 惣蔵へ渡す 外に鋸見本式三本

一 上げ候様鐸五郎殿被申聞達す 上り候はゞ御差出し可被下候

一 軍配形厚貝菊フルコル 御細工所より請取

一 小膳次殿え出す

十一月廿八日

一 御簾中様へ被為進フルコル代り

紫旦軍配形香箱 菊蝶象牙入

掛子に酒中花入

一 右箱御細工掛 台大急き申遣

一 御簾中様へ被為進台つみ極る

紫真田紐大急き上げ

一 末様え被進御たはこ盆下り 御かな物

一 銀に打替取懸居候 出来 信濃守殿出す

一 檜 三分板 壺枚

一 右鐸五郎え出す

一 目立鋸式挺

新鋸 見本 三 内壺挺極り柄付方宗蔵え達／外式丁同人え戻す後刻／柄出来出す

一 右鐸五郎殿え出す

一 鋸目立壺挺 鐸五郎殿にて宗蔵え申

一 付置候 後刻出来 御同人え出す

一 御庭方御手当金類 十一月分金七郎

渡候

一 餌拵新組御手当金 俊佐え渡候

一 一つ橋七郎磨様御元服御官位

有之候に付 田安右衛門督様之節
被為進物
如何有之候哉と権太夫殿被申聞
無之旨御答申置候
一 末姫君様被為進御絵水鉢
蓋式枚 御細工掛衆にて出来可申間
切り本たんす引出し下け置 沙汰
次第可申付事
一 御筭式本 桜冠／雲鶴
右出来上り 信濃守殿え出す
一 今日東御殿え被為進御台積之内
真田たとふ紙取替候間無之 其俣
被為進候

十一月廿九日

- 一 東御殿御誕生日御賑やかし
御延明日有之候由 御反物御役所え
寄せ置候 権太夫殿也
直札之下え○印付置候分 跡上け口
差下り候は、其俣御差置可被成候
一 末様え被進御香爐染付にて
差渡式寸より式寸五分位迄 高さ三寸より
三寸五分位迄上げ候様 左門殿 権太夫殿
御達 児嶋え申付候
一 西丸より末姫君様え被為進御道具
入候古明き箱式つ 御服紗御掛一つ、
西丸え伊豆守殿にて御戻しに相成候
一 末姫君様え被為進御屏風 明き箱
先つ作事え預置候
一 銀芥子物三 帑挟二
右出来請取候 明日信の守殿え御差出品也
池上様
一 手入居台出来 御扣所物置え入置候
一 明後二日末姫君様え寒中
御有物 梅鉢植 一
右居台明日上げ杓邑え申付る 梅は支配

部屋に有之

一 まりば砂壺斗四升明日上げ 彦兵衛へ達す

一 末様え被進御火鉢上る 二階に有之

一 大鯰百疋つゝ日々請取候処 扨底に付中鯰

取交相廻度御賄所より申出 半太郎糺候処

先つ宜旨申聞 其旨御賄所え達す

十二月朔日

一 並千代帟 十枚

玉にのし

一 右昨夜新き摺立 今朝小膳次殿え出す

一 末様え今日被進

御筭 二本

御文こ箔三巻つえ入

孔雀尾

一 御簾中様え

緋縫取 壱疋

桜に鞆 箔にきく

一 右御文庫入 御包方致す

一 元日被為進候極る

一 寒中御反物類極る

番松殿 かつらちやほ 番 二〇二

右極り 越前や申遣 沙汰次第新き鳥籠

餌入添上候様申遣候

菅籠台御申付置可被成候

一 元日口

精姫 書棚

辰の口一橋 台火鉢不極

定 釧姫様御反物疋にて候哉 不治定

一 染付香炉 大奥え御相談に相成 猶又

吟味両所え達す 信濃守殿也

一 御庭掛女中被下御反物類

御極め之所 未た不足 小模様

紅板べ吟味何分無之 白浅黄

空色紋縮緬少し上り

信濃守殿え出す

但帶地御極め有之候処 今少し
直ひく之方吟味上り出居候

帶地 二

風織 九

板 九

十二月二日

一 末姫君様え被為進御梅

御居合御のし添 銘札信濃守殿

御認め 御役所え出す

一 末姫君様え被為進銀物

御覽濟 信濃守殿也 御たんす

引出入置候

一 書棚

右御細工所職方え為見 御用人部やえ入置候

一 白紋ちりめん

右御納戸より上り 角牡丹に入

十二月三日

一 末様え今日被為進御台火鉢 御のし共出す

一 木糸之義 甲斐守殿被申聞候事

一 末姫君様え可被為進

御衝建

豎 五尺式寸

凡 位

巾 四尺八寸

右吟味 權太夫殿被申聞 兎じま

御細工所え達し置候

一 御火鉢え落網ふた計相下り

落え鉢を付 藤巻致し 明日昼迄に

出来可申様信濃守殿御達 伴助え

申付候 上り次第御出可被下候

一 末姫君様え可被進御掛物

横物 壱通

式幅対 壱通

右御仕立出来上り 左門殿え出す

御残り切とも

一 明四日

紀州様

本郷 梅持人五人達す

明後五日

小石川

神田橋

一つ橋

右之通寒中被為進候旨

信濃守殿被申聞 夫々え達す

一 寒中御反物入御文庫七通り

并仕遣三通り 杵村え申付置候

明朝上げ達す

一 末様へ被為進朗詠かるた上品三通

程上候様信濃守殿被申聞 両所へ達 上り次第

今日差出候様権太夫殿被申聞候

十二月四日

一 紀州様 本郷寒中被為

進品不残出す

梅御のし包御葉札奥え廻る

御梅計下り 御広敷え廻す

一 明日寒中梅松持人五人つゝ

四組御門明き出 熊蔵え達す

一 御掛物御表具御用 左門殿御断

御細工所え置候

古のり 一杯

新のり 一杯

上みの紙 四帖

御細工所え置

みす紙 二帖

右之通今日申上 吉十郎殿え

明朝御差出可被成候

一 明五日月末姫君様え被為

進銀物御台え積置 後刻

御差出可被成候

一 五拾三間棕栢養ひ

栗丸太 壺本

染棕栢繩 壺房

右権太夫殿御断 栄之丞殿

被申聞 平右衛門之達 御庭へ渡候

一 西丸之被為進御鬮品 明朝

相伺候様権太夫殿被申聞候

積立有之候

一 先日御見合御書棚直段之義 寛藏之

談候処 段々引方に相成 金三十両に可

相納旨申出候 右御金当暮御下け願

之事 廿二日頃納め

一 衝建御好通之寸法無之 先三脚

受取置候 御扣所に有之

一 朗詠かるた不見当旨寛藏申聞候

御火鉢落鉄付藤卷出来 小膳次殿之出す

一 箔絵三番 御文庫九つ 構尺壺番壺つ

居台共上り候

一 末様之被為進銀物出す

古糊 みす昏 明日迄日延申出候

十二月五日

一 西丸之被為進御鬮品伺一台 御役所之出す

一 小石川 神田橋 一橋

寒中被為進品 昨夜御鈴にて御覧 今朝

御役所之寄る 梅松御広敷之御文通添

廻す

御端札と御のしは御錠口廻り

一 上千代昏

籬さく 三十枚

鷹の羽 三十枚

此分十枚にても急ぎ内上げ

右仕継御細工所 へ達す

御駕籠入御烟艸盆 昨日損候付 御修復

之事

一 末姫君様之今日御掛物被為進候

*
は空白

- 一 末姫君様え被為進
- 一 廿一代集 五十六冊物
- 一 右御本冊式箱に出来 二冊付け
- 一 三段つゝ入 壺御居台に出来
- 一 候様信濃守殿被申聞候
- 一 右大将様今日御入有之候
- 一 例年被為進候御鬮品 俄に
- 一 今日被為進候
- 一 御鬮品出来候分 御箱え入
- 一 番付銘札付御長持一二三
- 一 箱持に入 御用人部やえ入置候
- 一 御書棚之義 信濃守殿 権太夫殿え
- 一 申上置候
- 一 御のし包大一中小二つゝ請取
- 一 御役所箱え入置候
- 一 御表具御用のり類紙類 亮助殿え
- 一 出す

十二月六日

- 一 末様え明日被為進京紙張五重組文庫
- 一 居台出来候様小膳次殿被申聞 杵村へ達
- 一 一橋え寒中被進之石台上り 平五郎え渡
- 一 台は札付 御用人部やえ入
- 一 末様え先日被為進候様之緋紫共紋下り
- 一 板べ上げ小膳次殿被申聞 角牡丹より出す 尚
- 一 紫之分上達 翌朝上り出す

十二月七日

- 一 紀州様近々御入可有之
- 一 餌合子 提重 蓑盆
- 一 右様之類上げ 甲斐守殿被申聞 両所え達

貞三

- 一 先日御見廻御内談に差出候書付 丹後守殿より
- 一 下り 御小道具役骨折候義は被致承知
- 一 候旨甲斐守殿御申聞候
- 一 廿一代集御箱 出来 上る

- 一 盃操形付下水板十枚 明日昼前に出来
- 一 直甚左衛門殿被申聞 杵邑呼出し候 八日出来出す
- 一 御鬮御用孫太夫殿 佐次右衛門殿申立之
- 一 繪の具明日上 御細工所之断
- 一 末様之追て被為進
 - 帶代
- 一 右御極め 御仕立奥へ廻る 甲斐守様
- 一 御紙入 例年之通出来候様
- 一 寛藏之達す 庄五郎也
 - 権太夫殿之申上置候 廿五日
 - 出来申出候
- 一 御縫帶寸法之義申出 壺丈
- 一 壺尺に出来候様達置候
- 一 中奥御能之節
- 一 一位御両卿様之被為進物
- 一 御極め 御箱申付 御手入に下る
- 一 九日上げ
- 一 二丸御鬮品御極め手入箱申付候
 - 但其外不残伺品は揃ひ候
- 一 御鬮衝建 角牡丹之入置候
- 一 御細工掛衆沙汰次第御渡申候
- 一 鐸五郎殿申上候
- 一 御庭掛女中被下御反物
- 一 類御極め 御伐切御反拵
- 一 御納戸之下る 上り 角牡丹入候
 - 本取済
- 一 例暮御用掛衆之被下品
- 一 御有物無之由 道具類上り
- 一 置候様被申聞 虎之助之達置候
- 一 廿一代集 信濃守殿之出す
- 一 御役所に有
- 一 女中頼用本 信濃守殿之出置候
 - 引方にて五両式分式朱
- 一 末姫君様之被為進帶御仕立
- 一 出来 出 権太夫殿にて御たんす

- 一め御引出え入置候 一筋乗台も
上り居候
- 一 御鬮炭入之品書 備中守殿え
差出候 信濃守殿也
- 一 餌格子上り 角牡丹に有之候

十二月八日

唐子之間

- 一 御書棚の中棚取候義 伊豆守殿にて
相済 廿三日迄に出来可申様
寛藏え談下る
- 一 御駕籠入御多葉こ盆 御手入出来 甲斐守殿え
出す
- 一 御縫帶之義絵図小膳次殿え差出し
奥御掛合之処 両端は縫無之処
壺寸有之宜敷旨に付 不残縫
足 九郎次郎え達す
但縫之所壺丈尺式寸に成る
- 一 末姫君様え明日被為進御反物式疋極
紅羽二重疋を一つに綴 御有物御台積に成候
翌朝御のし共出す
- 一 来春吹上奥入り有之候節
末姫君様え縫御しごき被為進候間
絵形并地合当暮之内極り候間 出候様
甲斐守殿被申聞 翌朝兎島え達す
御用掛り衆え暮被下硝子提燈籠
式つ 蘓鉄御火鉢壺つ 信州御渡御箱
拵候様被申聞 杵村え申付候 口達

十二月九日

- 一 明日末姫君様え被為進
御有物色毛檀三枚 御居台え
乗せ御役所有之候
- 一 明後十一日御能之節
末姫君様え

御帶 壺筋

御文庫入置 御包紙未極

御机 杓脚

今日御極め 御箱等申付御手入下け

明日四時上け

右之通被為進候旨権太夫殿
被申聞

一 御不用書棚机不残 夫々え戻す

一 今日末姫君様被為進御反物は

御文庫詰に相成 包福寿也

一 箔一三御文庫御居台仕遣
申付置候

一 小模様板ノ白紋縮緬之口

帯地共不用 御納戸戻す

一 末姫君様え被為進御衝建

色々吟味致候処 御寸法通り

御手輕之品無之 御注文にて出来

候ては如何に候哉と御入用日限

児嶋より取 信濃守殿之上置候

表絵粉色

真鍮銅物上下計

裏墨絵

桑色付 拾八両三分

しをじ 拾五両

日限十日

塗立蠟色 十六両

日限十二日

一 軸木八角 八分三本

長二尺五寸

一 八双木 三本

長同断

巾四分

厚三分

右亮助殿被申聞 宗蔵へ達 明日上り次第

吉十郎殿へ御差出可被成候

一 末姫君様へ被為進御有物箱瀬子三

対物二 御居台へ乗せ御役所に有之

一 鷹之間御用

御鳥台

一

本之通り

右御手大工にて出来候様勇五郎殿被申聞
万蔵へ申付候積り 御作事にて出来 翌朝
庄五郎殿え出す

十日

一 御鬩御床之砂子紙卷足

宗蔵え申付置候 今日上り次第

御細工掛衆え御出可被成候

十二月十日

一 尾州様寒中十五日へ相成候旨甲州被申聞候

一 菅谷筑後守え 瀬戸物板入たんす 一

一 津軽玄意え 茶筴形茶棚 一

右暮被下 甲斐守殿被申聞 手入児嶋之下る

箱白削 杵村え申付候 廿日頃出来

精姫君様

一 末姫君様え箱瀬こ被為進御極め 銀かな物
入と被仰付 児しまえ申付候

一 くけ針五本 半右衛門殿え出す 甚左衛門殿断

一 講尺ニ文庫計 講一之台計 一通上げ申付候

一 西丸中奥御能之節 御歳暮御成之節

正月初御成 右之節被進品上げ両所え達

先格書拔申送候

一 今朝御申付之霞か関品上り 御用人部やえ入

一 紀州様え浜之節被為進御時計も用意

一 上げ候様甲斐守殿被申聞 明日昼頃上げ御細工所

一 達 上り候は、伊豆守殿え御申上可被成候

一 孫太夫殿より式枚折絵出来上り 翌朝

一 文蔵え縁打方に下る

一 明後十二日上野寒中之旨甲州御達し

一 御箱明日昼頃迄に上げ 杵村え達す

一 末姫君様え表御取扱にて被為進御屏風

一 御箱共出来之旨 明日伊豆守殿え申上候様

甲州御達し

貞三様

- 一 箔巻三文こ台共上り 仕廻候
- 一 末様え被為進可相成箱瀬こ 対物御文こ入 雲鶴に包候

十二月十一日

- 一 中奥御能有之 御三卿様被為進物 昨日御役所え出す
- 一 暮被下并元日被下箱瀬古改上げ 置候様伴助え達す
- 一 染付餌入焼継出来 清三え渡
- 一 明日御門主様え寒中被為 進品 御役所え出す
- 一 根付時計 拾八
- 一 置 同断 十
- 一 右御細工所より上り請取 二階に有之候

但伊豆守殿今朝御場見分
申上落し候 宜しく

- 一 翁御掛物御残り切とも左門殿え 出す 翌朝十五日迄御預 角牡丹え差置候

十二月十二日

- 一 御鬮御用にて打合針式万本 本之通り 上げ宗蔵え達 上り次第御掛りえ御出可被下候
- 一 金十両也 吹上にて孔雀雌一羽／御買上代
- 一 右権太夫殿達 内膳正殿え御渡申候
- 一 尾州寒中御箱出来 御文庫詰取揃 角牡丹え入置候
- 一 西丸御式方様物 御細工所より上り 角牡丹え入 置時計三つ 根付壺つ 嶋村より直請取 致す 鎖り上候様達す
- 一 前条折合引上り 伊織殿え出す
- 一 紫旦御引出し付御刀掛操方直し方 甚左衛門殿にて兎嶋え下る

十二月十三日

- 一 岡林弥右衛門殿へ御鬮御襖請取遣し置候
- 一 根付時計一 鎖り八筋 嶋村持参請
取置候

- 一 四分五厘 三分五厘八双三本早々出来 平右衛門へ
達す 出来に付鍊三郎を以出す

末姫君様へ進し候

- 一 御机懸 文具飴 香道具

右上げ候様 小膳次殿被申聞 児嶋へ達す

- 一 御掛物鉞三組 昨夕直し今朝出来 吉十郎殿へ
出す

- 一 老女衆被下大観硯七つ

伺済 手入に下げ 十五日御門明き

上げ達す 御箱も同断

- 一 御庭掛女中被下御反物類

取揃 御役所へ出 権太夫殿へ

申上置候

- 一 御鬮反物類并別帯地共

角牡丹え入置候

- 一 朗詠かるた御余慶とも四百五十枚

信濃守殿にて十右衛門へ申付る

白鳥の子紙 弍十五枚

右相渡す 其外御注文之義は追々

伺候積り 御箱は桐白木にてよろしく旨

御申聞被成候 哥筆写も追て極り

候筈

右年内

末姫君様へ被進に付 御間に合可申様

被申聞候

- 一 辰之口寒中之旨権太夫殿御達被成候

来る

十五日

右半太郎 幸藏へ達す

- 一 丁子小寸切に三杯 児嶋より上 鐸五郎殿へ出す

- 一 末姫君様に被為進べく

御衝建 壺脚

一 豎 五尺式寸

巾 四尺七寸八分 足共

縁

一 塗立蠟色 真鍮かな物

唐草

繪

一 表彩色 裏墨絵之積

右出来候様信濃守殿被申聞

児嶋え申付候 御絵下絵にて

伺候積り

一 但御衝建 奥より御本出候

一 豎式寸のばし 高砂に竹

一 来る廿五日出来之積申上置候

一 御鬮御絵之分 仲ヶ間方不残

一 明朝上候様俊良を以申遣置候

一 御しこき地御納戸より上り 二階有之

一 今朝御覽濟之香道具三有

一 引方児嶋申出 東條へ申上る 外に

一 香道具 文具飭上り 御役所へ出す

一 例暮出来之御紙入被仰付候旨

一 東條被申聞候

十二月十四日

一 紀伊様え被進之御時計袋地用^意可致

一 様伊豆守殿にて勇次郎え達す

一 御誕生御用御手遊物 最早上け置改

一 可申様権太夫殿にて勇次郎え達す

一 末様え可被進御菓子盆 児嶋より上げ

一 権太夫にて御役所え寄る

一 煎黒目蕨手壺つ 上り次第御細工衆え

一 御出し可被下候 文蔵承知に候 出す

一 餌合子 御根付時計 伊豆守殿にて御役所へ

一 寄る 先頃御不用餌合子之袋 御根付出置

一 御同人へ申上置

一 三つ掛け硝子張御印籠掛 早々上候様

- 東條被申聞 両所へ達 蒔へ無之方宜
- 一 辰之口之寒中御箱上り 角牡丹之揃置候
- 一 紀州様之被為進

御餌合子 袋根付御有物

明十六日上げ 一二つ

袋は 御根付時計 一 十六日中に上げ達

奥にて出来 下る

同 鎖り 一

不用餌合子袋共并時計不残下る

- 一 佐次右衛門殿 土佐守殿 酒樽 宗筑
良久 甲太郎

右御鬮之品絵出来上り 宗藏へ渡

- 一 御印籠掛上る 御細工所より三つ

- 一 御重宝之品吟味 両所之申付候事

- 一 末様之被為進御香道具之事

- 一 御鬮御衝建式脚 勘次郎殿之出す

十二月十五日

- 一 神田橋 尾州之被進寒中品 昨日

御鈴にて御覧 今朝御役所之出す

梅計御広敷之廻す 植木や人足五人

御端札御のし 例之通御錠口廻り

- 一 印籠掛并印籠根附共 御役所之寄る

- 一 末様之被為進料帑 棚飴御見分 笹間之

- 一 出す 箱十畳に入相済 御役所へ出

- 一 文具飴 御細工所より上り 御役所之出す

- 一 大奥御鳥籠之日除幕老張御預

来年迄に奇麗に致置候様小膳次殿被申聞

先つ部やに差置候 御心得可被成候

- 一 御鬮御棚之掛り候袋御絵認めに相成候間 後刻迄に

出し候様勘治郎殿被申聞 惣藏之達す

- 一 末様之被進

銀御文具揃

御机掛 御かな物共

- 一 肥前守之被下

御印籠掛 一

御印籠 二通

右御極め 甲斐守殿

芸州梅消院被為進に相成候

白紋縮緬御替り

精姫君様御召地之通伺済

御納戸え達す

菅■葵之事

但精姫君様御召之通其向之呉服飾え申付候様

兼信濃守殿より御納戸御掛合済に付 其段左内え達す

文具飭 印籠 篋筒 哥書御不用

御細工所え下る

かるた仕様伺御入用積り 長谷川より

出 信濃守殿一覽之上 児嶋にも

為積候様被申聞 積り出来 御同人え出す

但伴助之方え被仰付候は、鳥の子昏

御寸法長谷川より取戻し 児嶋えと

御渡可被下候

吹上御毬 箱之俣権太夫より御預

角牡丹へ入置

十二月十六日

かるた取掛り并直段積り 長谷川

呼出し之事

一女被下大観硯箱

出来 角牡丹え入置候

御鬮御品不残上え出し候

御絵物も不残出ル

衝建絵伺済 善意明日下絵出候様達

信の守殿絵下地出来候は、早々出候様児島

達す 十八日上げ候旨虎之助申出候

唐銅半銅損し引替半銅上り居候 明日信

濃守殿え御申上可被成候事

御机懸空色地にて極り 日数詰日限廿五日

出来 児しま申出 小膳次殿え申上候

出雲罷出 かるた取掛申付る 明日四時迄に

裏見本持参候様達す

末様之被為進御香道具極る 十八日昼頃
出来 箱申付候
明後十八日田安様寒中被為進 小膳二殿
被申聞 御箱明日昼迄上げ杵邑之申付る 植木も
同刻上げ金兵衛之達す 植木持人十八日御門明き出候様
同人え出す

御鬘式枚折二 行燈一
右小膳次殿之差出申候

張箆に石二杯

御次硯式面 押糊大寸切二杯 御召方之渡す
銀文具揃御箱共出来 御役所之出
御役所御のし仕継置候
上千代 籬さく鷹の羽 三十枚つゝ上り 入置
紀州様被為進餌合子 御時計共上る
末様之明日被為進葉玉御下け たとふ包
にて居台乗候 甲州也

十二月十七日

紀州様之明日被為進

餌合子 箱入

根付時計 たとふ包

御三尺帯 二筋 御たとふ包

右三品一台に乗出候様甲斐守殿被申聞
出す 御時計今朝五時過卷候

有名盃組重 御役所之出す

末姫君様御衝建御絵下地
上り 善意之渡候

但御下絵同人より出 信濃守殿へ

出伺相済 達す

銀香箱 地紙形ノ鶴若松 壺 明日昼頃迄御磨

数馬殿にて勇次郎殿之申付 御詰合之御方之

御出可被下候

御鬘之余分二組程下り

角牡丹に入れ置候

末姫君様へ

御細工糸 五拾目位つゝ

一 繰に致し色々

一 続御細工切 色々

一 右上げ候様権太夫殿被申聞

一 勇次郎え達す

一 末様へ紋縮緬御細工切れ被為進

一 早々上げ 能登守殿被申聞 両所より上げ出す。

一 末様え被為進かるた 長谷川へ申付候

一 来廿一日出来 信濃守殿也 十〇

一 御印籠掛掛木附方違ひ

一 仕直し候事

一 田安様寒中品 御役所へ出し御覽済

十二月十八日

一 田安様御植木 六半時御広敷へ廻す

一 御印籠掛出来 御役所へ差出

一 右御印籠掛 又々御好有之 手入與三郎へ

一 下る 明日中に出来上り候はゞ御印籠紐掛り

一 候様詰可申事

一 翁御掛物 **左門** 殿え出す

一 御鬨御用にて切抜之卦紙本より一けたつゝ

一 増 杓枚 **明日** 四時出来 長門守殿にて宗藏え申付候

一 地紙形香合磨出来 甚左衛門殿え出す

一 末姫君様え **今日** 被為進

鯨三尺つゝ

一 紋縮緬御細工切れ

五通

明日に成る

一 平金糸

三把

一 右極り 御台積にて被為進候 小膳次殿也

一 御香道具銀打替出来 御箱え入 御同人え出

一 末姫君様え今日文具飭被為進候

一 不用紋縮緬御細工切れ 両所え戻す

一 緞御細工切れ 小膳次殿え出す 五色糸共

一 大観硯七つ出す 今日老女衆え被下に相成申候

十二月十九日

一 御印籠掛出来 信濃守殿へ出す

但御印籠包方之義口達有

御しこき絵形不宜 書直し能登守殿

達之旨伴助え達す 御地も不宜下る

山蚕太き方にて尚又吟味 両所え達す

善意渡箔金泥上り 同人え渡候

但外御絵粉類も有之 取調

信濃守殿へ申上 同人え被仰付候

絵の粉御細工所え断置候

紫紋縮緬 跡より上り候分下け

呉候様御納戸申込 下け遣候

色糸不宜 上げ直し達す

統萌黄不宜 上げ直し入置候

卦昏出来 長門守殿え出す

軸木八双壺本つゝ 左門殿注文之通

文蔵え明後日上達す

但鉄刀木軸と鉛渡す

十二月廿日

鐸五郎殿達之繻子上り 二階に有之候

沙汰次第御出可被下候

白鴛鴦掛札 本之通三十五枚 数馬殿

断 文蔵え申付候 庄右衛門殿也

御簾中様え昨年中浜吹上織之内帯地

被為進有之候哉 能登守殿被申聞 調候処

無之 小膳次殿え申上 明日能登守殿え申上候様

被申聞候

御しごき地 山蚕太き紋ちりめん壺反

御納戸より請取 式階上げ置候

かな物入縫筥瀬こ式つ出来 小膳次殿え

出す

五色御細工糸 小膳次殿え出す 紫無之

御手焙 壺 一 御多葉こ盆 一

鷹羽剛出

架鷹繫

おもと鶏砂鉢 壺 一 小棚飴 白さんこ石台

右御手入小膳次殿被申聞 伴助え下る

廿四日出来 御同人え出す

- 一 瀬戸物たんす 菅谷筑後守
- 一 茶棚 津軽玄意
- 一 右暮被下品手入出来 札付 角牡丹え入
- 一 暮并元日被下箱瀬こ伺并中通り
- 一 絵の具硯上り 御用人部やえ入
- 一 水戸宰相様 峯寿院様
- 一 松平讃岐守 外に御壺方
- 一 右公方様え献上物御頼に付 御品上げ候様
- 一 甲斐守殿被申聞候
- 一 御用掛衆え被下硝子釣燈籠 蘓鉄
- 一 火鉢箱出来 角牡丹え入置候 明日信州え
- 一 御申上可被成候 明き箱御同人え返上可被下候
- 一 御手焙一 置物一 鼻紙台一
- 一 右御手入甚左衛門殿御下け 翌朝児嶋え渡す

- 一 明日例刻入にて御庭方にて御小座敷魚溜泥浚候様 尤魚えさわり不申様歩板敷可致旨八右衛門殿御達 平内え達す

十二月廿一日

- 一 壺寸角五本 八右衛門殿断 勘■郎殿被申聞惣蔵へ達す 上り次第御差出し可被成候
- 一 極細縷すが糸壺丈六尺早々上げ 吉十郎殿被申聞 児嶋へ達す 上り候はゞ亮輔殿へ御差出し可被成候
- 一 先日御手入下り候紫且引出し付御刀掛出来 昨日鶉殿え出す
- 一 肥前守被下印籠掛 奥廻す
- 一 壺寸角五本出来 鐸五郎殿え出候
- 一 東御殿帯地之義 能登守殿へ上る
- 一 御用掛衆へ被下品御箱出来居候旨信濃守殿へ申上る

今西様

- 一 御作事御鬩御入用も調上り候由 口上之旨も有之 取調掛置候間 明後日比御入用申上候積り有之 左様御心得

可被成候

すが糸上り 亮輔殿え出す

御しごき絵形出来 能登守殿一覽

又直し 明後日可出様伴助え達す

四分一大小にて 本鐸五郎殿御預

平右衛門え預候

軸木八双出来上り 左門殿え出す

明日西丸へ被為進 御役所へ寄る

末様へ被為進かるた出来 信濃守殿え

差出候 御箱共

大岡持一 居台共上へ出す 仕継申付候

十二月廿二日

梅梢院へ被遣

一 手焙 一

右御極め相成 銀打替 八時迄に

出来 御箱本取 児嶋より杵村へ廻す

鞍形御手焙一御買置相成 銀打替置

候様能登守殿被申聞 児嶋へ達 廿五日出来

御鬪添物二徳対物之類少々 明日迄に

上置候様信濃守殿被申聞 児嶋へ達

西丸へ初御成之節被為進品 明後日

御覽有之候旨御同人被申聞候

御鈴番所脇吹井之泥浚 今日

可致様能登守殿にて源次郎え達す

梅梢院え被遣之御手焙出来

候はゞ 御小道具役耆人西丸え御注進に

相越可申様信濃守殿御達之事

蠟石兎式つ御磨 左門殿にて勇次郎え

申付候 明日出来之積り

琉球朱御衝建 信濃守殿にて手入児嶋へ

申付候

末姫君様え可被進御絵之具硯

上り候旨伊豆守殿え申上候

一橋外御地御飼付御用人足賃銀 甲斐守殿え

御渡申候

- 一 末様へ被進御清書箱出来 小膳次殿へ出す
- 一 梅梢院被下手焙 八半時過出来上り
- 一 即刻西丸へ長閑罷越 御品は御役所へ出す
- 一 水戸家御頼品之内吸物膳椀五十人前
- 一 先御極る 箱申付候
- 一 並御鬮増候間 反物類心掛候様小膳次殿被申聞候

十二月廿三日

- 一 末様へ明日は御清書箱被為進候由
- 一 明日大奥御掃除五半時入 小膳次殿被申聞 半太郎へ達
- 一 御清書管かるた中之間御戸棚へ入る
- 一 水戸家龍之口大置物十う 奥へ
- 一 小膳次殿御廻被成候
- 一 蠟石兎御磨出来 弐つ左門殿へ出す

十二月廿四日

- 一 御掛大小塗直し 左門殿御申付
- 一 勇次郎へ申付候
- 一 筑後殿と玄意え之御簞笥茶棚
- 一 能登守殿へ出す
- 一 御しごき絵形御地とも能登守殿へ出す
- 一 壱分萌き真田一卷 鐸五郎殿へ出す
- 一 御入用取調 信濃守殿へ差出置候
- 一 申年正二御定金并御鬮御細工方之分共申上置候
- 一 植木札大中小三通出来
- 一 清兵衛殿へ出す
- 一 御鬮増伺物 御添品共一所に
- 一 角牡丹に入置候

来申正月分之内

- 一 三十両 書棚代金
- 一 右左衛門へ相渡申達候

- 一 末様え奥御有物御たはこ盆被進候由 右之御火入灰吹 明朝迄に御磨き小膳次殿御渡児嶋え申付候
- 一 右之台も明朝上げ申付候
- 一 御同人様え追て被進紫旦彫御扇子掛下り右之御服紗新き出来候様小膳次殿被申聞 杵村え申付候 出来出す
- 一 右之台
- 一 六分真田一卷鷓目壺組出す
- 一 廿日御手入に下り候御たはこ盆初四品 手入出来 小膳次殿え出す
- 一 御鼻紙袋式つ出来 御細工所より本取置候
- 一 真鍮しかみ火鉢足付堅め 念入出来
- 一 候様甲斐守殿被申聞 翌朝児嶋え渡す末様え今日御清書管被為進候

十二月廿五日

- 一 御机懸け出来 小膳次殿え出す 御台え紙敷 御のし共出置候
- 一 吸物膳わん五十人前箱共上り 式階に有之 明日可出
- 一 玉 御継らう壺本昨日上り 散梅花蒔絵致候様小膳次殿被申聞 今朝出来 出候所 又々壺本下り 同様蒔絵被仰付 明御門明き出来児島え達す
- 一 廿七日西丸え被為進御印たんす上り 箱も出来 二階に有 ■■
- 一 肉之義信濃守殿申上置候 御沙汰次第之事
- 一 前条膳わん 私え出呉候様 甲斐守殿被申聞候
- 一 御しこき御地極り 絵形
- 一 御模様宜 猶又御好有之 認書 翌朝達す
- 一 御縫 藤立梓燕

- 一 御地 紅山入紋縮緬
- 一 御払金 貳千九百四拾兩
- 一 申正二御定金 百六十兩
- 一 同御鬮之内 百兩
- 一 右之通信濃守殿御渡 申年
- 一 二月分御定金申送り候
- 一 御紙入 例暮之通出来 能登守殿へ出す
- 一 唐銅半銅御買上極り 古之方
- 一 掛合之通りに下げ候様信濃守殿
- 一 御申聞被成候 翌朝勇次郎へ達す

十二月廿六日

- 一 鷹之間紅白の房式つ出来 能登守殿へ出す
- 一 末姫君様可被為進色糸
- 一 紫無之候ては御用■御成兼候間
- 一 紫早々五拾目染候様能登守殿
- 一 被申聞 虎之助へ達す 紫止め黒に成
- 一 御衝建之絵 善意方に取に
- 一 遣置候 上り候は、伴助へ御渡可被成候
- 一 十月分吹上御鳥植木之御代金
- 一 御毬之代金 例暮御花檀之始
- 一 被下金 宗佐へ渡す
- 一 統不宜 上げ直能登守殿被申聞
- 一 児じまへ達す
- 一 糸紫に染目方五十目上げ
- 一 前條統と一所に
- 一 末姫君様へ被為進候積り
- 一 能登守殿被申聞 伴助へ達す
- 一 五百疋 御鬮御絵認め候に付 酒樽
- 一 右明日出勤御糺 信濃守殿へ御申上可被成候
- 一 十二月分長谷川御入用相渡候
- 一 吸物膳椀五十人前 箱共甲州へ出す
- 一 末様へ五色糸 台乘にて今日被為進候
- 一 末様へ被為進御衝建御絵并杵共上り

打立取懸居候

居台明日上げ 杵村え申付候事

一 末様え

廿七日 御たはこ盆

廿八日 御衝建 御掛御箱無之

廿九日 御かるた

晦日 御箱瀬こ

一 右甲斐守殿御申聞候

一 御丁子風呂履輪直し方 葵御火鉢ひれ付

堅め 明日御成跡にて下り候旨甚左衛門殿

被申聞 職方呼出し達す

一 金三步 佃島白魚納

御鳥見渡

右甲斐守殿え御渡申候

十二月廿七日

一 元日被進品御見分之事

一 縫箱瀬古 御役所え寄る

一 上千代 鷹の羽 四十枚

右早々出来 御細工所え達

一 大奥御多葉粉盆并御手焙網蓋

御成跡にて下り候間 還御迄に御磨出来候様

小膳次殿被申聞 職方呼出し勇次へ達す

一 宝船御香箱御磨 甚左衛門殿御渡 勇次へ

渡す

末様進書

一 御扇子掛入箱之台 一

右明日上げ杵村え申付候 上り角牡丹へ札付

一 箔絵三番 文こ共 一通

右仕継申付候 上り候

一 御まり台 上り候 五つ

右明日上り申付候

一 御細工裂入箔老文こ台共 一通

右明日上げ申付候 上り候

一 溜塗福寿草蒔絵御手焙 網蓋共

御手入年内出来 八右衛門殿被申聞 勇次え渡す

一 銀

■蓋 壺

文鎮 式

御火入灰吹 壺通

右御磨 左門殿にて今日中

児しまに申付候 御手入■出来 御同人へ出す

酒造被下金 信濃守殿御通詞

相済渡候

一 末姫君様に可被為進御しこき

地立切請取 勇次へ渡置候

一 西丸初御成之節 御二方様被為

進御極め相成 御箱本取済 御手下る

廿九日上げ 同日西丸御中臈へ被下 縫箱

瀬子五つ極り 御役所へ出す 甲斐守殿也

一 晦日被下縫箱瀬子おみつの方分

下り候旨 拾式人分極 御中臈七人分

吟味申付候 御同人也

一 末姫君様被為進御日限不知 御絵具

硯極り 御箱本取済 手下る 明御門明上げ

甲斐守殿也

一 御細工所不用道具下る

一 末様御衝建御用掛衆御見分済

居台上る 外箱椽にて出来御跡廻し

杵村へ申付候 晦日出来 信濃守殿也

一 葵ほや紫旦御多葉古盆 一

一 紫旦梅に鳥彫同断 一

一 雲鶴象眼しうろ 一

一 亀玉付文鎮 一

右御磨き下り児嶋へ申付出来 勇三郎殿へ

差出候

一 真鍮小落し網蓋 一通

右左門殿にて御磨下り出来 御同人出す

十二月廿八日

一 御掛物箱一 左門殿断 鐸五郎殿被申聞

杵村へ申付候 明日出来

- 一 末姫君様へ被為進御衝建 御役所へ
出す 右御掛け用意出来候様信濃守殿
被申聞 九時迄に差出候様杵村へ達
- 一 御火鉢之取手直し方職人呼出し
候様能登守殿被申聞 勇次郎へ達 出次第
御申上可被成候
- 一 御用掛衆被下三箱とも信濃守殿へ出す
前条縫箱瀬子七つ極り 小膳次殿へ
出す
- 一 末様御絵具硯御手入御箱出来 御役所へ
差出候
- 一 明後晦日御門明き 大工壱人 手伝壱人大奥
御対面所■■淵橋手入 甚左衛門殿断 半太郎
申聞 御庭方渡し人 小普請方■■え達
- 一 通円 楽阿弥 二面 * ■■は空白
- 一 右出来 仁右衛門差出 甚左衛門殿見分済 仕舞
申候
- 一 元日被進御のし申付置候
- 一 末様え追て被進御扇子掛入箱之台出来
札付 角牡丹え入置 御役所へ出す
- 一 廿日御手入に下り候御品三つ 昨朝之御香箱共
甚左衛門殿へ出す
- 一 箱瀬こ三つ 御細工所へ戻す
- 一 銀御香合 梅鶯彫 壺
- 一 右明日中御磨き小膳次殿被申聞 勇次え渡
御台有之

来春御細工切入

- 一 箔絵壺番 御文庫台共 一通
- 一 右御細工所より受取 御細工切と一所に致置
- 一 十二月分杵村 嶋村え御入用払候

十二月廿九日

- 一 御まり之御のし小申付候
- 一 替り鶉めん
- 一 右鷹之間に有之落候に付 来春に相成
御買上に可相成間 白勝ち手軽之品番

― 用意致候様甲斐守殿被申聞 越前屋え
申遣候

― 来正月十五日田安一位様御年賀に付
被為進品上げ 甲斐守殿被申聞 上り候 疋物
も上り候

― 右衛門督様 御簾中様 筆姫様えも
有之へく由

― 如意柄杓 二本

― 右楓掛上げ申来新き五本 御細工所へ申付候

― 吹上御毬之箱 御居台とも能登守殿え出す

― 二丸御庭拵入用 甲斐守殿え

― 支配より出居候処 未御下け無之

― 内御芝之代 四郎左衛門人足賃

― 拾八両三分

― 右難渋申立候間 金七郎え渡し遣候

― 御掛大小出来 左門殿え出す

― 松平因幡守殿御頼用膳椀

― 代金 甲斐守殿御渡申送り候

― 請取書御差出し可被成候

― 御鬮炭俵 御舞台後え

― 寄せ置候

― 小置物入白札附置

― 統上り能登守殿え上 御役所え
出す

― 紫糸上り 右同断

― 御しこき御絵形伺済 児嶋え

― 達す

― 鞍形御手焙 銀打替出来 能登守殿へ

― 差出候

― 末姫君様へ被為進御衝建之御箱

― 明日出来上り候は、御差出可被下候 其節

― 御掛も添御廻し可被下候 信濃守殿殿え申上置候

― 被仰送之銀御香合御磨出来 相廻し候

― 御同人也

― 西丸へ初御成之節被為進品手入

― 出来 二階有之 御箱明日上り候は、御見分

御伺御差出可被下候
末様 精様之箱瀬子 一つは綴織
之旨能登守殿被申聞
御鬮箱大奥之分共 御代金
相払候

鷹之間掛り引替下り

水打柄杓 式本

もし罝 中小式本つゝ

■ ■ ■ ■ 壺本

檜三升柄杓 壺本

右夫々え申付置候 揃次第明日御差出
可被成候

御扇子掛之扇骨地紙上り

信濃守殿え出 地紙三次郎え御渡候

十二月晦日

大奥一の側二側庭今日

御掃除致候様能登守殿被申聞

金七郎え達す

末姫君様被為進御衝建

御絵認め候失脚 善意被下候

金壺両

右信濃守殿にて同人え渡す

なんばん缺九挺磨き 数馬殿被申聞

宗蔵申付候 今日中出来次第御差出可被成候

元日被為進御品不残

上え出候「」出来

御召方より 真鍮御燭台拾壺本

御磨き上り勇次郎申付候 火笠

経師え申付置 出来次第御差出可被成候

大奥御衝建御かな物 今日中に御磨

左門殿被申聞 勇次へ渡置候事

黒天鷲絨丸ぶとん御本之地 早々

上け左門殿被申聞 兎嶋へ達す 上り次第

早々御差出可被成候

御活花万年青上り 御次え出候

- 一 能登守殿之申上候「」
- 一 前条西丸初御成之節被為進品
- 一 西丸様御たんす御かな物不宜 手入下る
- 一 御召方燭台拾壺本出来 円清之渡
- 一 奥衝建かな物鏝ヶ成拭立出来
- 一 甚左衛門殿之出す

貞三様

- 一 金百両也御渡 二丸御休息御庭惣入用に可払
- 一 右之内六十八両六匁五分 七郎兵衛之払
- 一 四郎左衛門之分は戻可申哉
- 一 御縫帯四筋出来 甲斐守殿之申上
- 一 角牡丹之入置候
- 一 如意柄杓三本用意上げ置 二階
- 一 奥之間に有 御用之節は可出候
- 一 末様之被進御衝建之箱出来候処 御預け 角
- 一 牡丹之入 御掛は箱之内之入置
- 一 膳椀御代金 虎之助 理三郎之相渡申候
- 一 請取書甲斐守殿之出す
- 一 南蛮鉄九挺出来 八右衛門殿之出す
- 一 御手入に下け候しかみ火鉢 甲州之出す 福寿草
- 一 蒔絵御手焙 八右衛門殿之出す